Genie®
A TEREX BRAND

サービスマニュアル

GS™-1530/32
GS™-1930/32
GS™-2032
GS™-2632
GS™-3232
GS™-2046
GS™-2646
GS™-3246
GS™-4047

このマニュアルには以下の事項を記載しています。
修理の手順
故障コード
電気および
油圧システム回路図

保守手順の詳細に関しては、ご利用の機械に適切な保守点検説明書を参照してください。

Part No. 1272217JAGT
Rev B1
December 2017

はじめに

重要

あらゆる手順を行う前には、ご利用の機械の適切な操作説明書に記載されている安全規則と操作指示をよく読み、理解し、従ってください。

このマニュアルでは、認定を受けたサービス担当者のためのトラブルシューティングや修理の手順を説明しています。

ほとんどの手順の実行には、基本的な機械、油圧システムおよび電気技能に関する知識が必要です。さらに、特殊な技能、工具、リフト機材および適切な作業場が必要となる手順もあります。このような場合は、Genie 公認の販売サービスセンターにメンテナンスと修理を依頼するよう、強くお勧めします。

準拠

機械分類

ISO 16368 で定義されているグループ A/Type 3

機械の設計寿命

正しい操作、検査、定期メンテナンスを行うと寿命には制限がありません。

技術出版

Genie はできるだけ正確な情報をお届けするよう、努力しております。また一方で、Genie では製品の改良を重ねていくことも方針としています。そのため、製品の仕様は予告なく変更することがあります。

間違いや改良点など、お気づきの点がありましたら、Genie までお知らせください。連絡をいただいた事項は、本説明書の今後の改訂とその他のすべての説明書に反映するように、慎重に検討させていただきます。

お問合せ先:

インターネット : www.genielift.com
電子メール : awp.techpub@terex.com

このモデルのマニュアルを見つけるには、

Http : //www.genielift.com にアクセスしてください。

このリンクを使用して、サービスマニュアル、保守マニュアル、サービスおよび修理マニュアル、部品マニュアルおよび操作説明書を検索してください。

Copyright © 2016 Terex Corporation

1272215GT B 版、2017 年 4 月
初版、第 2 刷

「Genie」は米国およびその他の国における
Terex South Dakota, Inc. の登録商標です。

「GS」は Terex South Dakota, Inc. の商標です。

シリアル番号の範囲

以下の表を使用して、このマニュアルに含まれている
モデルの個別のシリアル番号を確認してください。

モデル	シリアル番号
GS-1530/GS-1532 GS-1930/GS-1932	SN GS3010A-110000 から SN GS3011C-10000 から GS3016C-23999 まで SN GS3014D-101 から GS3016D-607 まで SN GS3016P-151487 から GS3016P-160599 まで GS30C-24000 から GS30D-6080 から GS30P-160600 から
GS-2032/2632/3232	SN GS3211A-110000 から SN GS3212C-10000 から GS3216C-17299 まで SN GS3216P-142676 から GS3216P-148699 まで GS32C-17300 から GS32P-148700 から
GS-2046/2646/3246	SN GS4612A-110000 から SN GS4612C-10000 から GS4616C-18099 まで SN GS4614D-101 から GS4616D-5029 まで SN GS4616P-138362 から GS4616P-141799 まで GS46C-18100 から GS46D-5030 から GS46P-141800 から
GS-4047	SN GS4712C-101 から GS4716C-4499 まで SN GS4714D-101 から GS4716D-3959 まで GS4716P-101 から GS4716P-999 まで GS47C-4500 から GS47D-3960 から GS47P-1000 から

はじめに

改正履歴

改正	日付	セクション	手順/ページ/説明
A	2016 年 3 月		初期リリース
A1	2016 年 5 月	修理	手順 2-3、2-4、9-11
		診断	H067 故障
A2	2016 年 5 月	修理	手順 2-6
		診断	CXXX および UXXX タイプ故障コード
A3	2016 年 9 月	はじめに	シリアル番号凡例
		仕様	走行速度収納時パラメータを追加
B	2017 年 4 月	修理	手順 11-1
		診断	バッテリー充電器および故障コード
B1	2017 年 12 月	回路図	GS46、GS47 AS/CE

参照例:	**電子版** 青くハイライトされた手順またはページ番号をクリックすると、更新情報を閲覧できます。
セクション – 修理の手順、4-2	
セクション – 故障コード、すべての表	
セクション – 図表、凡例および略図	

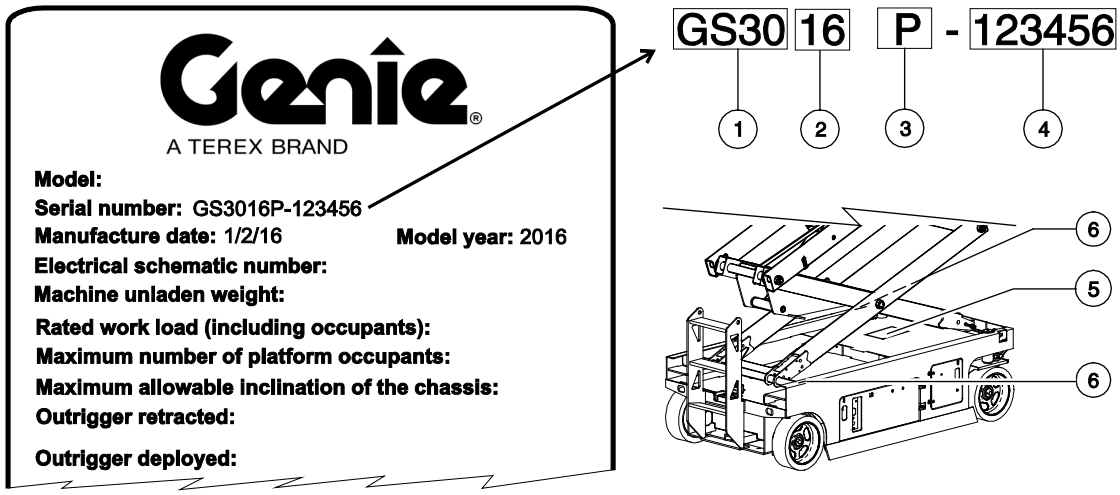
改正履歴（続き）

改正	日付	セクション	手順/ページ/説明
参照例:			**電子版** 青くハイライトされた手順またはページ番号をクリックすると、更新情報を閲覧できます。
セクション – 修理の手順、4-2			
セクション – 故障コード、すべての表			
セクション – 図表、凡例および略図			

はじめに

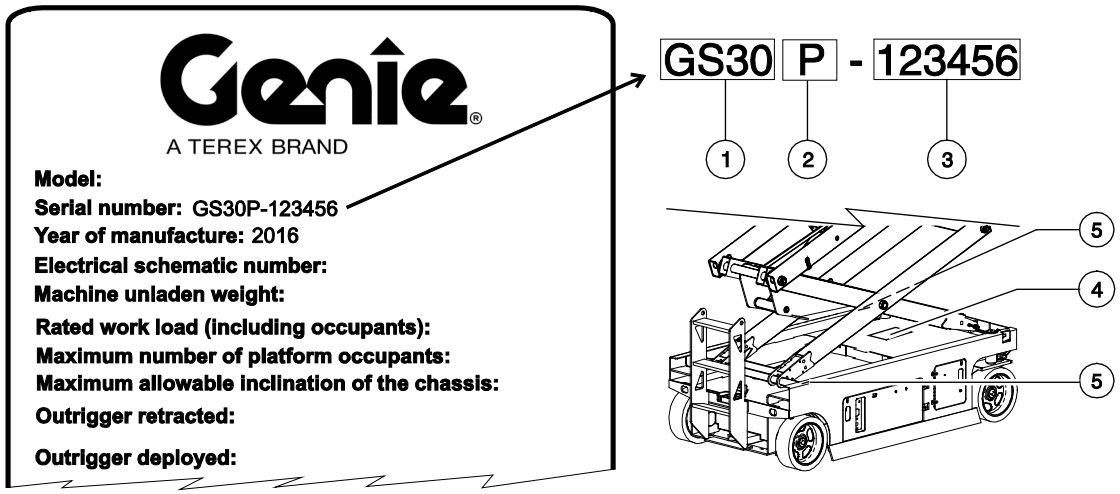
シリアル番号凡例

2016 年 8 月 31 日まで



1 モデル
2 モデル年度
3 施設コード（複数の施設で製造されているモデルの場合）
4 シーケンス番号
5 シリアルプレート（シャーシに配置）
6 シリアル番号（シャーシに記載）

2016 年 9 月 1 日以降



1 モデル
2 施設コード（複数の施設で製造されているモデルの場合）
3 シーケンス番号
4 シリアルプレート（シャーシに配置）
5 シリアル番号（シャーシに記載）

安全規則



危険

このマニュアルおよびご利用の機械の適切な操作説明書に記載の手順と安全規則に従わない場合は、重傷または死に至ることがあります。

操作説明書に示されている多くの危険は、メンテナンスや修理を行う上での危険でもあります。

メンテナンスを行う必須条件:

☑ 安全な機械操作のための適切なトレーニングを受けている。

☑ 下記をよく読み、理解し、その指示に従います。

- 製品使用説明書と安全規則
- 従業員の安全規則と作業場所の規制
- 適合する法規

☑ 適切な工具、リフト、適した作業場所を使用できる。

安全規則

作業員の安全

機械を操作している人、または機械の周りの作業員全員が、作業における危険性を理解している必要があります。作業員の安全と機械の安全操作の継続を最優先させてください。



各手順をよく読んでください。このマニュアルと機械についているステッカーは、次のような状況を表す信号となる用語を使用しています。



安全警報シンボル – 作業員にケガの危険があることを知らせます。ケガや死亡の危険を避けるために、このシンボルの安全警告に従ってください。

⚠ 危険 切迫した危険な状態を示します。この状況を回避しない場合は、重傷または死に至る危険があります。

⚠ 警告 危険な状態に至る可能性があることを示します。この状態を回避しない場合は重傷または死に至る可能性があります。

⚠ 要注意 危険な状態に至る可能性があることを示します。この状態を回避しない場合は、軽傷または中程度のケガに至る可能性があります。

注意 危険な状態に至る可能性があることを示します。この状態を回避しない場合は物的損害に至る場合があります。



状況に応じて必要な場合は、保護メガネや保護服を必ず着用してください。



荷物を吊り上げたり載せたりするときは、部品が動いたり、大きくゆれたり、しっかり固定されていないことが原因で、作業員にあたって負傷する危険があります。常に先端が鋼鉄製の認定安全靴を着用してください。

作業場の安全

機械を操作している人、または機械の周りの作業員全員が、作業における危険性を理解している必要があります。作業員の安全と機械の安全操作の継続を最優先させてください。



バッテリーのガスやエンジン燃料などの引火性・可燃性のものに、火花、炎、または火のついたタバコなどを近づけないでください。指定の消火器を手の届く範囲に常に設置して置いてください。



全ての工具と作業現場がきちんとメンテナンスされていて、使用できる状態にあることを確認してください。作業現場の床を常に清掃し、機械の部品に入って故障させるような破片などがないようにしてください。



フォークリフト、オーバーヘッドクレーン、その他のリフトやサポート機材が、吊り上げようとしている積載荷物の重量を安定して支えられるかを確認してください。十分な耐荷重をもつ、使用に適したチェーンやストラップのみを使用してください。



ファスナー（コッターピンと自動ロック式のナット）は、1 回限りの使用を徹底してください。これらの部品は 2 回使用すると、壊れることがあります。



古くなったオイルやその他の液体は適切に廃棄してください。廃棄には指定の容器を使用してください。環境汚染にならないように処分してください。



作業現場の換気が十分で、照明が十分であることを確認してください。

目次

はじめに	**はじめに**	**ii**
	重要情報	ii
	このモデルのマニュアルを見つけるには、	ii
	シリアル番号の範囲	iii
	改正履歴	iv
	シリアル番号凡例	vi
セクション 1	**安全規則**	**vii**
	一般安全規則	vii
セクション 2	**仕様**	**1**
	機械仕様	1
	性能仕様（比例リフト機能なしのモデル）	3
	性能仕様（比例リフトありのモデル）	5
	作動油の仕様	7
	マニホールド部品仕様	11
	油圧ホースとフィッティングトルクの仕様	12
	トルク手順	13

目次

セクション 3 **修理の手順 15**
はじめに 15

作業台操作 17
1-1 回路基板 19
1-2 ジョイスティック 20
1-3 作業台操作アラーム 20
1-4 作業台非常停止ボタン 21

地上操作 22
2-1 ソフトウェア改正レベル 23
2-2 機械設定 24
2-3 機械ソフトウェアのロードと更新 25
2-4 Wi-Fi ルーターを使用した SmartLink ウェブ サービスツールへの接続 30
2-5 サービス無効化モード 32
2-6 レベルセンサー 34
2-7 作業台手動下降ケーブル 49
2-8 アウトリガー調節 51

油圧タンク 52
3-1 油圧タンク 52

油圧ポンプ 53
4-1 油圧ポンプ 53
油圧ポンプの取り外し方法 54

目次

マニホールド 56
5-1 機能マニホールド部品 – GS-1530、GS-1532、GS-1930 および GS-1932 56
5-2 機能マニホールド部品 – GS-2032、GS-2632、GS-3232、GS-2046、GS-2646 および GS-3246 58
5-3 機能マニホールド部品 – GS-4047 60
5-4 チェックバルブマニホールド部品 – GS-1530、GS-1532、GS-1930 および GS-1932 62
5-5 リフト圧セレクターマニホールド部品 – GS-4047 63
5-6 アウトリガー機能マニホールド部品 – GS-3232 64
5-7 アウトリガーシリンダーマニホールド部品 – GS-3232 65
5-8 バルブ調整 – 機能マニホールド 66
5-9 バルブコイル 72
ステアリング軸の構成 74
6-1 ヨークおよび走行モーター 74
6-2 ステアリングシリンダー 75
6-3 ステアリングベルクランク 76
非ステアリング軸の構成 77
7-1 走行ブレーキ 77
ブレーキ解除携帯ポンプの構成 78
8-1 ブレーキ解除手動ポンプの構成 78
シザースの構成 79
9-1 シザース部品、GS-1530 および GS-1532 80
9-2 シザース部品、GS-1930 および GS-1932 86
9-3 シザース部品、GS-2032 および GS-2046 94
9-4 シザース部品、GS-2632 および GS-2646 101
9-5 シザース部品、GS-3232 および GS-3246 109
9-6 シザース部品、GS-4047 118
9-7 シザースアーム磨耗板 126
9-8 作業台高度センサー 128
9-9 リフトシリンダー 130
9-10 圧力変換器 141

目次

9-11 作業台過負荷システム 143
9-12 作業台過負荷の復元 148
作業台の構成 150
10-1 作業台 150
10-2 作業台延長部 151
バッテリー充電器 152
11-1 バッテリー充電器 152
充電プロフィールを選択中 153

セクション 4 **診断 155**
はじめに 155
負荷検出機能なしの GCON I/O 案内表（GS-3232 以外のすべてのモデル） 158
負荷検出機能付きの GCON I/O 案内表（GS-3232 以外のすべてのモデル） 159
負荷検出機能なしの GCON I/O 案内表（GS-3232 のみ） 160
負荷検出機能付きの GCON I/O 案内表（GS-3232 のみ） 162
操作表示コード（OIC） 164
診断故障コード（DTC） 164
「HXXX」 および 「PXXX」 故障コードのトラブルシューティング 165
故障点検手順 166
「HXXX」 タイプの故障 168
「PXXX」タイプの故障 172
「UXXX」タイプの故障 173
「FXXX」タイプの故障 176
「CXXX」タイプの故障 179
バッテリー充電器 181
充電器故障コード 182
充電器エラーコード 183

セクション 5 **回路図 187**
はじめに 187
電気部品と配線の色の説明 188

目次

配線図接地および作業台操作.....190

リミットスイッチの説明.....191

電気シンボルの説明.....192

油圧システムシンボルの説明.....192

油圧システム回路図.....193

油圧システム部品参照の説明.....194

油圧システム部品略語の説明.....195

油圧システム回路図、GS-1530、1532、1930、1932 （シリアル番号 GS3010A-110000 から、GS3011C-10000 から、GS3014D-101 から、GS3016P-142281 からの機種） 196

油圧システム回路図、GS-2032、2632、3232、2046、2646、3246 （シリアル番号 GS3211A-110000 ~ GS3214A-119070、GS3212C-10000 ~ GS3214C-11873、GS4612A-110000 ~ GS4614A-117177、GS4614C-10000 ~ GS4614C-12073 の機種） 197

油圧システム回路図、GS-2032、2632、3232、2046、2646、3246 （シリアル番号 GS3214A-119071 から、GS3214C-11874 から、GS4614A-117178 から、GS4614C-12074 から、GS4614D-101 からの機種） 198

油圧システム回路図、GS-3232（シリアル番号 GS3211A-110000 から、GS3212C-10000 から、GS3216P-142677 からの機種） 199

油圧システム回路図、GS-4047（シリアル番号 GS4712C-101 ~ GS4714C-1459 の機種） 200

油圧システム回路図、GS-4047（シリアル番号 GS4714C-1460 から、GS4714D-101 から、GS4716P-101 からの機種） 201

電気回路図 – ANSI/CSA モデル.....203

油圧システム回路図 GS-1530/GS-1930、ANS/CSA（シリアル番号 GS3010A-110000 ~ GS3011A-110827 の機種） 204

油圧システム回路図、GS-1530/GS-1930、ANS/CSA（シリアル番号 GS3011A-110828 ~ GS3014A-136972、GS3014D-101 ~ GS3015D-1113 の機種） 208

電気回路図、GS-1530/GS-1930（シリアル番号 GS3014A-136973 から、GS3015D-1114 ~ GS3016D-5426、GS3016P-142281 ~ GS3016P-158208 の機種） 212

電気回路図 GS-1530/GS-1930、ANS/CSA（シリアル番号 GS3016D-5427 から、GS3016P-158209 からの機種） 216

油圧システム回路図、GS-3232、ANS/CSA（シリアル番号 GS3211A-110000 ~ GS3214A-135714 の機種） 218

目次

油圧システム回路図、GS-3232、ANS/CSA（シリアル番号 GS3214A-135715 ~ GS3215A-141898 の機種） 222

電気回路図、GS-3232、ANS/CSA（シリアル番号 GS3215A-141899 から、GS3216P-142677 ~ GS3216P-146462 の機種） 226

電気回路図、GS-3232、ANS/CSA（シリアル番号 GS3216P-146463 からの機種） 230

電気回路図、GS-2032、2632、2046、2646、ANSI / CSA（シリアル番号 GS3211A-110000 ~ GS3214A-135714、GS4612A-110000 ~ GS4614A-135366、GS4613D-101 ~ GS4615D-1303 の機種） 234

電気回路図、GS-2032、2632、2046、2646、3246、ANSI/CSA （シリアル番号 GS3214A-1135715 ~ GS3215A-141898、GS4614A-135367 ~ GS4615A-137959、GS4615D-1304 からの機種） 238

電気回路、GS-2032、2632、2046、2646、3246、ANSI / CSA（シリアル番号 GS3215A-141899 から、GS3216P-142676 ~ GS3216P-146462、GS4615A-137960 から、GS4615D-1305 ~ GS4616D-4432、GS4616P-138362 ~ GS4616P-139710） 242

電気回路図、GS-2032、2632、2046、2646、3246、ANSI/CSA （シリアル番号 GS3216P-146463 から、GS4616D-4433 から、GS4616P-139711 からの機種） 246

電気回路図、GS-3246/GS-4047、ANS/CSA（シリアル番号 GS4612A-110000 ~ GS4614A-135366、GS4614D-101 ~ GS4615D-1303、GS4714D-101 ~ GS4715D-749 の機種） 248

電気回路図、GS-3246/GS-4047、ANS/CSA（シリアル番号 GS4614A-135367 ~ GS4615A-137959、GS4615D-1304 ~ GS4616D-4432、GS4616P-138362 ~ GS4616P-139710、GS4715D-750 ~ GS4716D-3101 の機種） 252

電気回路図、GS-3246/GS4047、ANS/CSA（シリアル番号 GS4616D-4433 から、GS4616P-139711 から、GS4716D-3102 から、GS4716P-101 からの機種） 256

電気回路図 – CE およびオーストラリアモデル 257

電気回路図 GS-1530、1532、1930、1932（シリアル番号 GS3010A-110000 ~ GS3011A-110827 の機種）AS/CE 258

電気回路図、GS-1530/32_GS-1930、ANS/CSA（シリアル番号 GS3011A-110828 ~ GS3014A-136972、GS3011C-10000 ~ GS3015C-18038、GS3014D-101 ~ GS3015D-1113 の機種） 262

電気回路図、GS-1530、1532、1930、1932、AS/CE （シリアル番号 GS3014A-136973 から、GS3015C-18039 から、GS3015D-1114 ~ GS3016D-5426、GS3016P-142281 ~ GS3016P-158208 の機種） 266

目次

電気回路図、GS-1530、1532、1930、1932、ANSI/CE（シリアル番号 GS3015D-5427 から、GS3016P-158209 からの機種）.....270

電気回路図、GS-3232、AS/CE（シリアル番号 GS3211A-110000 ~ GS3214A-135714、GS3212C-10000 ~ GS3215C-14503 の機種）.....272

電気回路図、GS-3232、AS/CE（シリアル番号 GS3214A-135715 ~ GS3215A-141898、GS3215C-14504 からの機種）.....276

電気回路図、GS-3232、AS/CE（シリアル番号 GS3215A-141899 から、GS3216P-142676 ~ GS3216P-146462 の機種）.....280

電気回路図、GS-3232、CE/AS（シリアル番号 GS3216P-146463 からの機種）.....284

電気回路、GS-2032、2632、2046、2646、3246、AS/CE（シリアル番号 GS3211A-110000 ~ GS3214A-135714、GS3212C-10000 ~ GS3215C-14377、GS4612A-110000 ~ GS4614A-135366、GS4612C-10000 ~ GS4615C-14503、GS4613D-101 ~ GS4615D-1303）.....288

目次

電気回路図、GS-2032、2632、2046、2646、AS/CE （シリアル番号 GS3214A-1135715 ~ GS3215A-141898、GS3215C-14378 から、GS4614A-135367 ~ GS4615A-137959、GS4615C-14504 から、GS4615D-1304 からの機種） 292

電気回路図、GS-2032、2632、2046、2646、AS/CE （シリアル番号 GS3215A-141899 から、GS3216P-142676 ~ GS3216P-146462、GS4615A-137960 から、GS4616P-138362 ~ GS4616P-139710 の機種） 296

電気回路図、GS-2032、2632、2046、2646、ANSI/CE （シリアル番号 GS3216P-146463 から、GS4616P-139711 からの機種） 300

電気回路図、GS-3246/GS-4047、AS/CE（シリアル番号 GS4612A-110000 ~ GS4614A-135366、GS4612C-10000 ~ GS4615C-14503、GS4614D-101 ~ GS4615D-1303 の機種） 302

電気回路図、GS-3246、AS/CE（シリアル番号 GS4614A-135367 ~ GS4615A-137959、GS4615C-14504 から、GS4615D-1304 からの機種） 306

電気回路図、GS-3246、AS/CE（シリアル番号 GS4615A-137960 から、GS4616P-138362 から、GS4616P ~ GS4616P-139710 の機種） 310

電気回路図、GS-3246、AS/CE（シリアル番号 GS4616D-4433 から、GS4616P-139711 からの機種） 314

電気回路図、GS-4047、AS/CE（シリアル番号 GS4712C-101 ~ GS4715C-2130、GS4714D-101 ~ GS4715D-749 の機種） 316

電気回路図、GS-4047、AS/CE（シリアル番号 GS4715C-2131、GS4715D-750 ~ GS4716D-3101 の機種） 320

電気回路図、GS-4047、AS/CE （シリアル番号 GS4716D-3102 からの機種） 324

電気回路図 – ペダルスイッチ（オプション）すべてのモデル 325

ペダルスイッチ（オプション）すべてのモデル 326

仕様

機械仕様

バッテリー、標準 次を除外したすべてのモデル GS-4047	
電圧	6V DC
グループ	GC2
タイプ	T-105
数量	4
バッテリー容量、最大	C20 = 225AH
25A での予備容量	447 分
各重量	62 lbs 28 kg

バッテリー、標準 GS-4047	
電圧	12V DC
グループ	GC2
タイプ	T-1275
数量	4
バッテリー容量、最大	C20 = 150AH
25A での予備容量	280 分
各重量	82 lbs 37 kg

バッテリー、メンテナンス不要（オプション） 次を除外したすべてのモデル GS-4047	
電圧	6V DC
グループ	GC2
タイプ	6V-AGM
数量	4
バッテリー容量、最大	200AH
25A での予備容量	380 分
各重量	62 lbs 28 kg

作業台過負荷圧力変換器 （搭載されている場合）次を除外したすべてのモデル GS-3232 および GS-4047	
入力電圧	8 ～ 30VDC
信号電圧	1 ～ 5V

作業台過負荷圧力変換器 （搭載されている場合）GS-3232 および GS-4047	
入力電圧	8 ～ 30VDC
信号電圧	0.25 ～ 6.25V

角度センサー（搭載されている場合）	
入力電圧	8 ～ 30VDC
信号電圧	3 ～ 4V、PMW 出力

アウトリガー圧力変換器、GS-3232 のみ	
入力電圧	8 ～ 30VDC
信号電圧	1 ～ 5V

操作上の仕様に関しては、操作説明書を参照してください。

仕様

作動油容量	
油圧タンク すべてのモデル GS-4047 以外	3.4 ガロン 12.9 リットル
油圧タンク GS-4047	5.9 ガロン 22.4 リットル
油圧システム（タンクを含む） GS-1530、GS-1532、GS-1930 および GS-1932	3.8 ガロン 14.2 リットル
油圧システム（タンクを含む） GS-2032、GS-2632、GS-2046 および GS-2646	4.5 ガロン 17 リットル
油圧システム（タンクを含む） GS-3232 および GS-3246	5.5 ガロン 20.8 リットル
油圧システム（タンクを含む） GS-4047	7.5 ガロン 28.4 リットル

タイヤとホイール	
GS-1530、GS-1532、GS-1930、GS-1932	
タイヤサイズ（ソリッドタイヤ）	12 x 4.5 in 30.5 x 11.4 cm
タイヤ接地面	9 sq in 58 cm^2
みぞ付きナットトルク、ドライ	300 ft-lbs 406.7 Nm
みぞ付きナットトルク、潤滑油付き	225 ft-lbs 305 Nm
GS-2032、GS-2632、GS-3232、GS-2046、GS-2646、GS-3246、GS-4047	
タイヤサイズ（ソリッドタイヤ）	15 x 5 in 38.1 x 12.7 cm
タイヤ接地面	15 sq in 96.7 cm^2
みぞ付きナットトルク、ドライ	300 ft-lbs 406.7 Nm
みぞ付きナットトルク、潤滑油付き	225 ft-lbs 305 Nm

性能仕様
（比例リフトなしのモデル）

走行速度、最高	
GS-1530、GS-1532、GS-1930、GS-1932	
操作台収納時、高速	2.5 mph 40 ft/10.9 秒 時速 4 km 12.2 m/10.9 秒
作業台を伸長した状態	0.5 mph 40 ft/55 秒 時速 0.8 km 12.2 m/55 秒
GS-2032、GS-2632、GS-3232、GS-2046、GS-2646、GS-3246	
操作台収納時、高速 **次のシリアル番号まで**: GS3216P-145830 GS4616P-139575	2.2 mph 40 ft/12.4 秒 時速 3.5 km 12.2 m/12.4 秒
操作台収納時、高速 **次のシリアル番号から**: GS3216P-145831 GS4616P-139576	2.0 mph 40 ft/12.4 秒 時速 3.2 km 12.2 m/12.4 秒
作業台を伸長した状態	0.5 mph 40 ft/55 秒 時速 0.8 km 12.2 m/55 秒

GS-4047	
操作台収納時、高速	2.0 mph 40 ft/13.6 秒 時速 3.2 km 12.2 m/13.6 秒
作業台を伸長した状態	0.5 mph 40 ft/55 秒 時速 0.8 km 12.2 m/55 秒
制動距離、最大	
舗装面での広範囲	1 - 3 ft 0.3 ～ 0.9 m
登坂能力	
GS-1930、GS-1932、GS-2632、GS-3232、GS-3246 および GS-4047	25%
GS-1530、GS-1532、GS-2032、GS-2046 および GS-2646	30%
機械による騒音	
地上作業場での音圧レベル	< 70 dBA
作業台での音圧レベル	< 70 dBA

仕様

機能速度、作業台操作時最大（作業台に 1 人いる場合）	
GS-1530 および GS-1532	
作業台上昇時（高速モード）	15 ～ 17 秒
作業台上昇時（低速モード）	30 ～ 32 秒
作業台下降	28 ～ 30 秒
GS-1930 および GS-1932	
作業台上昇時（高速モード）	15 ～ 17 秒
作業台上昇時（低速モード）	30 ～ 32 秒
作業台下降	28 ～ 30 秒
GS-2032 および GS-2632	
作業台上昇時（高速モード）	28 ～ 32 秒
作業台上昇時（低速モード）	58 ～ 62 秒
作業台下降	32 ～ 36 秒
GS-2046 および GS-2646	
作業台上昇時（高速モード）	28 ～ 32 秒
作業台上昇時（低速モード）	58 ～ 62 秒
作業台下降	32 ～ 36 秒
GS-3232 および GS-3246	
作業台上昇時（高速モード）	55 ～ 59 秒
作業台上昇時（低速モード）	108 ～ 112 秒
作業台下降	33 ～ 37 秒

GS-4047	
作業台上昇時（高速モード）	71 ～ 76 秒
作業台上昇時（低速モード）	83 ～ 87 秒
作業台下降	41 ～ 46 秒
完全上昇時の定格作業負荷、最大	
GS-1530 および GS-1532	600 lbs 272 kg
GS-1930、GS-1932、 GS-2632 および GS-3232	500 lbs 227 kg
GS-2032	800 lbs 363 kg
GS-2046	1200 lbs 544 kg
GS-2646	1000 lbs 454 kg
GS-3246	700 lbs 317 kg
GS-4047 （CE および AS モデル）	770 lbs 350 kg
GS-4047 （ANSI および CSA モデル）	550 lbs 250 kg
GS-3232 アウトリガー水平能力、最大	
片側からもう一方側	5°
前方から後方	3°

性能仕様
（比例リフトありのモデル）

走行速度、最高	
GS-1530、GS-1532、GS-1930 および GS-1932	
作業台収納時	2.5 mph 40 ft/10.9 秒 時速 4 km 12.2 m/10.9 秒
作業台を伸長した状態	0.5 mph 40 ft/55 秒 時速 0.8 km 12.2 m/55 秒
GS-2032、GS-2632、GS-3232、GS-2046、GS-2646、GS-3246	
作業台収納時 **以下のシリアル番号まで**: GS3216P-145830 GS4616P-139575	2.2 mph 40 ft/12.4 秒 時速 3.5 km 12.2 m/12.4 秒
作業台収納時 **次のシリアル番号から**: GS3216P-145831 GS4616P-139576	2.0 mph 40 ft/12.4 秒 時速 3.2 km 12.2 m/12.4 秒
作業台を伸長した状態	0.5 mph 40 ft/55 秒 時速 0.8 km 12.2 m/55 秒
GS-4047	
作業台収納時	2.0 mph 40 ft/13.6 秒 時速 3.2 km 12.2 m/13.6 秒
作業台を伸長した状態	0.5 mph 40 ft/55 秒 時速 0.8 km 12.2 m/55 秒
制動距離、最大	
舗装面での広範囲	1 - 3 ft 0.3 ～ 0.9 m
登坂能力	
GS-1930、GS-1932、GS-2632、GS-3232、GS-3246 および GS-4047	25%
GS-1530、GS-1532、GS-2032、GS-2046 および GS-2646	30%
機械による騒音	
地上作業場での音圧レベル	< 70 dBA
作業台での音圧レベル	< 70 dBA

仕様

機能速度、作業台操作時最大（作業台に 1 人いる場合）	
GS-1530 および GS-1532	
作業台上昇	15 ～ 17 秒
作業台下降	18 ～ 25 秒
GS-1930、1930PAR および GS-1932	
作業台上昇	15 ～ 17 秒
作業台下降	18 ～ 25 秒
GS-2032 および GS-2632	
作業台上昇	28 ～ 32 秒
作業台下降	24 ～ 28 秒
GS-2046 および GS-2646	
作業台上昇	28 ～ 32 秒
作業台下降	28 ～ 32 秒
GS-3232 および GS-3246	
作業台上昇	55 ～ 59 秒
作業台下降	28 ～ 32 秒
GS-4047	
作業台上昇	71 ～ 76 秒
作業台下降	41 ～ 46 秒

完全上昇時の定格作業負荷、最大	
GS-1530 および GS-1532	600 lbs 272 kg
GS-1930、GS-1932、 GS-2632 および GS-3232	500 lbs 227 kg
GS-1930PAR	400 lbs 181 kg
GS-2032	800 lbs 363 kg
GS-2046	1200 lbs 544 kg
GS-2646	1000 lbs 454 kg
GS-3246	700 lbs 317 kg
GS-4047 （CE および AS モデル）	770 lbs 350 kg
GS-4047 （ANSI および CSA モデル）	550lbs 250 kg

GS-3232 アウトリガー水平能力、最大	
片側からもう一方側	5°
前方から後方	3°

作動油の仕様

作動油仕様	
Genie の仕様では作動油が必要となります。これは油圧システムを最大限に保護するために考案されており、広範囲の室温で機械を作動することができます。粘度指数は 140 以上でなければなりません。作動油は耐摩耗、酸化防止、腐食抑制、密封状況、通気抑制、泡と空気混和を抑えるために非常に役立ちます。	
清浄度レベル、最低	ISO 15/13
含水量、最大	250 ppm
推奨される作動油	
作動油タイプ	Chevron Rando HD Premium
粘度等級	32
粘度指数	200
オプションの作動油	
鉱物主成分	Shell Tellus S2 V 32 Shell Tellus S2 V 46 Chevron 5606A
生分解性	Petro Canada Environ MV 46
耐火性	UCON Hydrolube HP-5046

注記：Genie 仕様では、認証されたオプションの作動油を使用する場合には、追加の装置および特殊な設置指示が必要となります。使用前に Genie 製品サポートにご相談ください。

注意

オプションの作動油は規定された作動油と同じ使用寿命ではなく、部品の損傷を引き起こす場合があります。

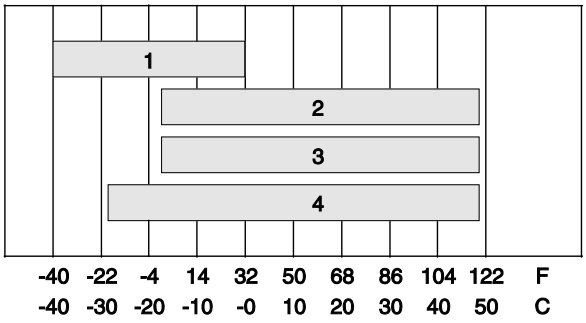
注記：機械の長時間の作動は、最大許容範囲を超えた作動油の温度上昇を引き起こします。作動油の温度が常に 200°F/90°C を超えると、オプションのオイル冷却器が必要になる場合があります。

注意

互換性のない作動油でタンクを満タンにしないでください。作動油は、基本の添加剤化学で異なるため互換性がない場合があります。互換性のない作動油が混合された場合、不溶性物質が油圧システム内で形成され、沈殿します。それにより、油圧管、フィルター、制御弁を詰まらせることなり、部品の損傷が発生する場合があります。

注記：周囲温度が常に 120°F/49°C 以上の場合には、機械を運転しないでください。

作動油温度範囲



周囲温度

1 Chevron 作動油 5606A
2 Petro Canada Environ MV46
3 UCON Hydrolube HP-5046D
4 Chevron Rando HD Premium オイル MV

仕様

Chevron Rando HD Premium オイル MV 作動油のプロパティ

ISO グレード	32
粘度指数	200
運動学的粘度 cSt:200°F/100°C の場合 cSt:104°F/40°C の場合	 7.5 33.5
ブルックフィールド粘度 cP -4°F/-20°C の場合 cP -22°F/-30°C の場合	 1040 3310
引火点	375°F/190°C
流動点	-58°F/-50°C
最大連続作動温度	171°F/77°C

注記:作動油加熱システムの利用は、周囲温度が常に 0°F/-18°C 以下のときに推奨されます。

注記:周囲温度が -20°F/-29°C 以下のときには Rando HD Premium MV を使用した機械を運転しないでください。

Chevron 5606A 作動油のプロパティ

ISO グレード	15
粘度指数	300
運動学的粘度 cSt:200°F/100°C の場合 cSt:104°F/40°C の場合 cSt:-40°F/-40°C の場合	 5.5 15.0 510
引火点	180°F/82°C
流動点	-81°F/-63°C
最大連続作動温度	124°F/51°C

注記:Chevron 5606A 作動油またはこれに相当するものを使用するときには、作動油加熱システムを作動している以外の場合には周辺温度が常に 0°F/-17°C 以下である必要があります。

注意

Chevron 5606A 作動油、またはこれに相当するものの使用を続けてください。周辺温度が常に 32°F/0°C 以上の場合には、部品の損傷を引き起こす場合があります。

Petro-Canada Environ MV 46 作動油のプロパティ

ISO グレード	46
粘度指数	154
運動学的粘度 cSt 200°F/100°C の場合 cSt 104°F/40°C の場合	 8.0 44.4
引火点	482°F/250°C
流動点	-49°F/-45°C
最大連続作動温度	180°F/82°C

Shell Tellus S4 VX 作動油のプロパティ

ISO グレード	32
粘度指数	300
運動学的粘度 cSt：200°F/100°C の場合 cSt：104°F/40°C の場合	 9 33.8
ブルックフィールド粘度 cSt：-4°F/-20°C の場合 cSt：-13°F/-25°C の場合 cSt：-40°F/-40°C の場合	 481 702.4 2624
引火点	>100
流動点	-76°F/-60°C
最大連続作動温度	103°F/75°C

UCON Hydrolube HP-5046 作動油のプロパティ

ISO グレード	46
粘度指数	192
運動学的粘度 cSt 149°F/65°C の場合 cSt 104°F/40°C の場合 cSt 0°F/-18°C の場合	 22 46 1300
引火点	なし
流動点	-81°F/-63°C
最大連続作動温度	189°F/87°C

仕様

油圧部品の仕様

機能ポンプ – GS-1530、GS1532、GS-1930 および GS-1932	
タイプ	歯車
置換速度/回転	0.244 cu in 4 cc
2500 psi/172 バールでの流動率	3 gpm 11.3 L/分
油圧タンクリターンフィルター	10 ミクロン 25 psi/1.7 バールの バイパス付き

機能ポンプ – GS-2032、GS-2632、GS-3232、GS-2046、GS-2646、GS-3246 および GS-4047	
タイプ	歯車
置換速度/回転	0.355 cu in 5.5 cc
2500 psi/172 バールでの流動率	4 gpm 15 L/分
油圧タンクリターンフィルター	10 ミクロン 25 psi/1.7 バールの バイパス付き

機能マニホールド – 次を除外したすべてのモデル GS-4047	
システム安全弁の圧力、最大	3700 psi 255 バール
リフト安全弁の圧力	1800 ～ 3700 psi 142 ～ 241 バール
ステアリング安全弁の圧力	1500 psi 103 バール

機能マニホールド – GS-4047	
システム安全弁の圧力、最大	3500 psi 241 バール
作業台安全弁の圧力	3000 psi 206 バール
ステアリング安全弁の圧力	1500 psi 103 バール

アウトリガーマニホールド	
安全弁圧力、最大	3500 psi 241 バール

チェックバルブマニホールド – GS-1530、GS-1532、GS-1930、GS-1932	
チェックバルブ圧力、最大	200 psi 13.8 バール

リフト圧力セレクターマニホールド – GS-4047	
作業台安全弁の圧力、最大	2000 psi 138 バール

マニホールド部品仕様

プラグトルク	
SAE No. 2	50 in-lbs/6 Nm
SAE No. 4	13 ft-lbs/18 Nm
SAE No. 6	18 ft-lbs/24 Nm
SAE No. 8	50 ft-lbs/68 Nm
SAE No. 10	55 ft-lbs/75 Nm
SAE No. 12	75 ft-lbs/102 Nm

バルブコイル抵抗

注記：以下のコイル抵抗仕様は周囲温度が 68°F/20°C の場合です。バルブコイル抵抗は周囲温度の変化に影響を受けるため、通常、周囲温度が 68°F/20°C から上昇または下降する場合に 18°F/-7.7°C の変化につきコイル抵抗には 4% の増減が起きます。

説明	仕様
電磁弁、3 ポジション 4 方向 20V DC ダイオード有（図中 F、AC または DC）	27.2Ω
電磁弁、3 ポジション 4 方向 20V DC ダイオード有（図中 E）	19Ω
電磁弁、2 ポジション 4 方向 20V DC ダイオード有（図中 H、AI または DI）	19Ω
電磁弁、2 ポジション 2 方向 N.C. 20V DC ダイオード有（図中 N）	25Ω
電磁弁、2 ポジション 4 方向 20V DC ダイオード有（図中 AE または DE）	19Ω
電磁弁、3 ポジション 5 方向 20V DC ダイオード有（図中 AG または DG）	19Ω
電磁弁、2 ポジション 2 方向 20V DC ダイオード有（図中 CA、CB、CC および CD）	27.2Ω
電磁弁、3 ポジション 4 方向 20V DC ダイオード有（図中 BA）	19Ω
電磁弁、2 ポジション 2 方向 20V DC ダイオード有（図中 DN）	23.9Ω

仕様

油圧ホースとフィッティングトルクの仕様

ご利用の機械には Parker Seal-Lok™ ORFS または 37°JIC フィッティングとホースの先が搭載されています。Genie の仕様では、フィッテングとホースの先の取り外し、取り付けのとき、または新しいホースやフィッティングを取り付けるときに、仕様通りのトルクで締めることを義務付けています。

Seal-Lok™ フィッティング

（ホースの先 – ORFS）

SAEダッシュサイズ	トルク
-4	10 ft-lbs/13.6 Nm
-6	30 ft-lbs/40.7 Nm
-8	40 ft-lbs/54.2 Nm
-10	60 ft-lbs/81.3 Nm
-12	85 ft-lbs/115 Nm
-16	110 ft-lbs/150 Nm
-20	140 ft-lbs/190 Nm
-24	180 ft-lbs/245 Nm

JIC 37° フィッティング

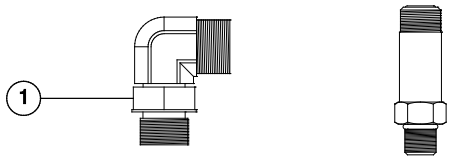
（旋回ナットまたはホース接続）

SAEダッシュサイズ	スレッドサイズ	フラット
-4	7/16-20	2
-6	9/16-18	1 ¼
-8	3/4-16	1
-10	7/8-14	1
-12	1 1/16-12	1
-16	1 5/16-12	1
-20	1 5/8-12	1
-24	1 7/8-12	1

SAE O リングボスポート

（チューブフィッティング – アルミニウムに取り付け）
（すべてのタイプ）

SAEダッシュサイズ	トルク
-4	14 ft-lbs/19 Nm
-6	23 ft-lbs/31.2 Nm
-8	36 ft-lbs/54.2 Nm
-10	62 ft-lbs/84 Nm
-12	84 ft-lbs/114 Nm
-16	125 ft-lbs/169.5 Nm
-20	151 ft-lbs/204.7 Nm
-24	184 ft-lbs/249.5 Nm



調節可能フィッティング　　無調節フィッティング

a ジャムナット

SAE O リングボスポート

（チューブフィッテイング – 鋼鉄に取り付け）

SAEダッシュサイズ		トルク
-4	ORFS/37°（調節可能） ORFS（無調節） 37°（無調節）	15 ft-lbs/20.3 Nm 26 ft-lbs/35.3 Nm 22 ft-lbs/30 Nm
-6	ORFS（調節可能/無調節） 37°（調節可能/無調節）	35 ft-lbs/47.5 Nm 29 ft-lbs/39.3 Nm
-8	ORFS（調節可能/無調節） 37°（調節可能/無調節）	60 ft-lbs/81.3 Nm 52 ft-lbs/70.5 Nm
-10	ORFS（調節可能/無調節） 37°（調節可能/無調節）	100 ft-lbs/135.6 Nm 85 ft-lbs/115.3 Nm
-12	（すべてのタイプ）	135 ft-lbs/183 Nm
-16	（すべてのタイプ）	200 ft-lbs/271.2 Nm
-20	（すべてのタイプ）	250 ft-lbs/339 Nm
-24	（すべてのタイプ）	305 ft-lbs/413.5 Nm

トルク手順

Seal-Lok™ フィッティング

1 O リングを交換します。漏れがあるときは直ちに O リングを交換します。フィッティングやホースの先が手で締める以上にきつく締められた場合、O リングを再使用することはできません。

注記：Parker 社の Seal-Lok™ フィッティングとホースの先の O リングは、特別サイズです。この O リングは、標準サイズではありません。この O リングは、O リングフィールドサービスキット（Genie 部品番号 49612）の中にあります。

2 O リングを装着する前に潤滑油をさします。

3 O リング端面シールが正しい位置にしっかりと装着されていることを確認します。

4 チューブとナットをフィッティングの端面シールの先に直角に配置し、ナットを手でしっかりと締めます。

5 ナットまたはフィッティングを適切なトルクで締めます。このセクションにある適切なトルク表を参照してください。

6 機械の全機能を操作し、ホース、フィッティング、関連部品を点検して、漏れがないことを確認します。

JIC 37° フィッティング

1 チューブの開口部分（六角ナット）をフィッティング本体の突出部（本体の六角フィッティング）に合わせ、六角ナットを本体の六角フィッテイングに 30 in-lbs/3.4 Nm の強度で手で取り付けます。

2 油性マーカーを使用して、六角ナットの 1 つの平ワッシャーに参照のための印を付けて、六角フィッティングの本体にも印を付けます。図 1 を参照してください。

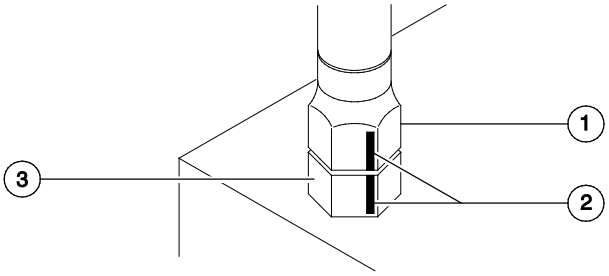


図 1

1 六角ナット
2 参照印
3 本体六角フィッティング

仕様

3 本体の六角フィッティングを時計回りに回し、適切な締め付け位置を示すために油性マーカーで 2 つ目の印を付けます。図 2 を参照してください。

注記:このセクションの JIC 37°フィッティング表を使用して、平ワッシャーの正確な数と適切な締め付け位置を決定します。

注記:その印は正しい締め付け位置が決められたことを示しています。本体の六角フィッティングの 2 つ目の印を使用すると、緩んでしまった後に接続部分を適切な位置まで締められるようになります。

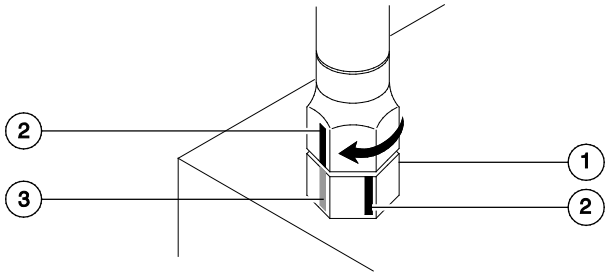


図 2

1 本体六角フィッティング
2 参照印
3 2番目の印

4 本体の六角フィッティングにある 2 つ目の印と合うまで、六角ナットを締めます。

5 機械の全機能を操作し、ホース、フィッティング、関連部品を点検して、漏れがないことを確認します。

修理の手順



必ず以下に従うこと。

☑ 修理は、本装置の保守トレーニングを受け認定された担当者によって行わなければなりません。

☑ 損傷もしくは故障している機械は、直ちに故障の貼り紙を付けて、作業を中止してください。

☑ 機械を操作する前に、損傷あるいは故障している個所を修理してください。

修理を始める前に:

☑ ご利用の機械の適切な操作説明書に記載されている安全規則と操作指示をよく読み、理解し、従ってください。

☑ 必要な工具と部品が全て使用できる状態にあることを確認してください。

☑ Genie 承認の交換部品のみを使用してください。

☑ 各手順をよく読み、指示に従ってください。手順を省略すると危険を招きます。

機械構成:

☑ 特別な指示がない限り、次の状態で機械の修理手順を行ってください。

- 機械を安定した水平な面に配置した状態
- スイッチが OFF(オフ)の位置にあり、キーが抜かれている状態
- 地上操作と作業台操作の両方で赤色非常停止ボタンが OFF (オフ) の位置にある
- タイヤをブロックで留めた状態
- すべての外部 AC 電源が機械から切断されている
- 作業台を収納した状態

修理の手順

このセクションについて

このセクションにあるほとんどの手順は、適切に設備が整った場所においてトレーニングを受けたサービス担当者によって行われなければなりません。問題のトラブルシューティングを行ったあと、問題にあった修理方法を選択してください。

修理ができる状態まで機械を解体してください。機械の再組み立ては、解体と逆の順序で行ってください。

シンボルの説明



安全警報シンボル – 作業員にケガの危険があることを知らせます。ケガや死亡の危険を避けるために、このシンボルの安全警告に従ってください。

⚠ 危険 切迫した危険な状態を示します。この状況を回避しない場合は、重傷または死に至る危険があります。

⚠ 警告 危険な状態に至る可能性があることを示します。この状態を回避しない場合は重傷または死に至る可能性があります。

⚠ 要注意 危険な状態に至る可能性があることを示します。この状態を回避しない場合は、軽傷または中程度のケガに至る可能性があります。

注意 危険な状態に至る可能性があることを示します。この状態を回避しない場合は物的損害に至る場合があります。

- ⊙ 一連の操作の後、予測される特定の結果を示します。
- ⊙ 一連のステップ実施の後、不適切な結果が発生したことを示します。

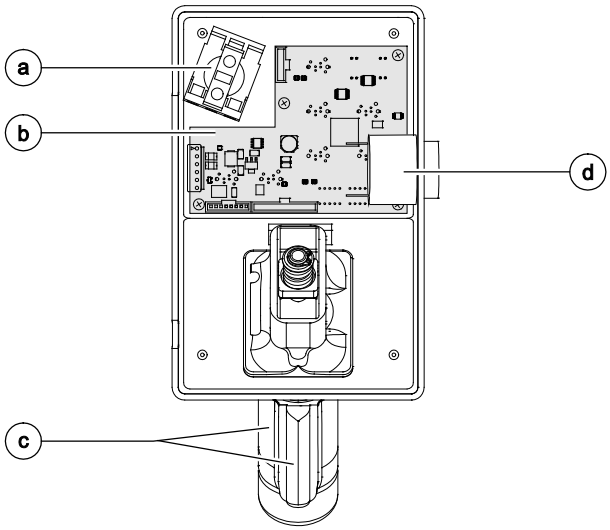
作業台操作

作業台から機械を操作するために作業台操作が使用されています。

機能ボタンを作動させると、電子コントロールモジュール（ECM）に信号を送ります。ECM が機能モードの場合には、作業台操作は機械の様々な機能を操作するために使用されます。

作業台操作には非常停止ボタン、電気回路基板、比例コントロールハンドル、走行/ステアリング作動スイッチ、アラーム、機能ボタンおよび LED 表示があります。

さらに詳しい情報やご質問に関しては、Genie 製品サポートまでご連絡ください。



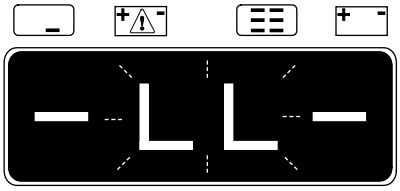
a 赤色非常停止ボタン P2
b 作業台操作回路基盤 U3
c 比例コントロールハンドルおよび走行/ステアリング作動スイッチ JC9
d アラーム H1

作業台操作

操作表示コード

これらのコードは電機システムによって生成され、機械の作動状態を表示します。通常運転中には、水平でない、過負荷カットアウト、シャーシモード操作またはポットホールガードの引っかかりなどが発生した場合には、コードが作業台操作 LED に表示されます。

作業台操作 LED に LL 等の操作表示コードが表示されている場合、機械操作を再開する前に故障状態を修理または解消する必要があります。赤色の緊急停止ボタンを押し込み、次に引き出して、システムをリセットします。



作業台操作 LED 計測値

コード	状態
LL	水平でない
OL	作業台過負荷（CE およびオーストラリア）
CH	シャーシモード運転
PHS	ポットホール ガードのひっかかり
nd	走行なし（オプション）
Ld	持ち上げ機能無効化（GS-3232 のみ）

注記：アウトリガーが完全に収納されていない、機械が自動で水平になっていない、アウトリガーが地面と接触していない、またはレベルセンサーが機械が水平でないと検出したときに、**Ld** 操作表示コードが表示されます。上記のいずれかの状況が発生した場合には、リフト機能は無効になります。

アウトリガーを伸長または収縮している間とアウトリガーが自動水平手順を実行している間は、リフト機能もまた無効になります。上記の操作を実行している間、**Ld** 操作表示コードが表示されます。

注記：コードとコードの説明については、地上操作 LCD 表示でも見ることができます。

1-1
回路基板

作業台操作回路基盤の取り外し方法

1 地上操作と作業台操作の赤色非常停止ボタンを押して OFF (オフ) の位置にします。

2 作業台のコントロールケーブルから作業台操作パネルを取り外します。

3 作業台コントロールボックスを作業台コントロールブラケットに固定しているファスナーを取り外します。

4 底部カバーを作業台の操作ボックスに固定しているファスナを取り外します。操作ボックスを開けます。

5 ワイヤーハーネスを固定している結び目を外します。

6 赤と黒のワイヤーをアラームから取り外します。

7 アラームを作業台操作ボックスから慎重に取り外します。

8 すべてのワイヤーハーネスコネクタを、作業台操作回路基板より慎重に取り外します。

⚠ 警告 感電/やけどの危険帯電している回路に触れると、重傷を負ったり死に至ることがあります。指輪、時計などの装身具をすべて外してください。

注意 部品の損傷の危険。静電気（ESD）により、プリント回路基盤の部品が損傷することがあります。プリント回路基盤を取り扱う際は、接地されている機械の金属部分に常にしっかりと接触するようにするか、あるいは接地されたリストストラップを使用してください。

9 作業台操作回路基板のファスナーを慎重に取り外します。

10 作業台操作回路基板を作業台操作ボックスより慎重に取り外します。

11 透過キャップを作業台操作回路基板から取り外し、保管します。

回路基板ファスナーのトルク仕様	
ネジが装着されるまでの手で締める回転力	< 5 in-lbs < 0.6 Nm

注記：回路基板を取り付ける前に、ステップ 11 で取り外した透過キャップを回路基板ボタンの上に取り付けます。

注記：回路基板を取り付けた後、適切なボタン操作ができるかを確認します。回路基板ファスナーの過度の回転によって、ボタンが動きにくくなります。回路基板ファスナーを緩く回転させると、ボタンが連動しにくくなります。

作業台操作

1-2 ジョイスティック

ジョイスティックの取り外し方法

1 地上操作と作業台操作の赤色非常停止ボタンを押して OFF (オフ) の位置にします。

2 作業台のコントロールケーブルから作業台操作パネルを取り外します。

3 作業台コントロールボックスを作業台コントロールブラケットに固定しているファスナーを取り外します。

4 底部カバーを作業台の操作ボックスに固定しているファスナを取り外します。操作ボックスを開けます。

5 ジョイスティック ワイヤーハーネスを固定ている結び目を外します。

6 ジョイスティック ワイヤーハーネスを作業台操作回路基板より慎重に取り外します。

⚠ 警告 感電/やけどの危険帯電している回路に触れると、重傷を負ったり死に至ることがあります。指輪、時計などの装身具をすべて外してください。

注意 部品の損傷の危険。静電気（ESD）により、プリント回路基盤の部品が損傷することがあります。プリント回路基盤を取り扱う際は、接地されている機械の金属部分に常にしっかりと接触するようにするか、あるいは接地されたリストストラップを使用してください。

7 ジョイスティックファスナーを慎重に取り外します。

8 ジョイスティックを作業台操作ボックスから慎重に取り外します。

トルク仕様	
ジョイスティックファスナー	9 in-lbs 1 Nm

1-3 作業台操作アラーム

作業台操作アラームの取り外し方法

1 地上操作と作業台操作の赤色非常停止ボタンを押して OFF (オフ) の位置にします。

2 作業台のコントロールケーブルから作業台操作パネルを取り外します。

3 作業台コントロールボックスを作業台コントロールブラケットに固定しているファスナーを取り外します。

4 底部カバーを作業台の操作ボックスに固定しているファスナを取り外します。操作ボックスを開けます。

5 赤と黒のワイヤーをアラームから取り外します。

⚠ 警告 感電/やけどの危険帯電している回路に触れると、重傷を負ったり死に至ることがあります。指輪、時計などの装身具をすべて外してください。

注意 部品の損傷の危険。静電気（ESD）により、プリント回路基盤の部品が損傷することがあります。プリント回路基盤を取り扱う際は、接地されている機械の金属部分に常にしっかりと接触するようにするか、あるいは接地されたリストストラップを使用してください。

6 アラームを作業台操作ボックスから慎重に取り外します。

1-4
作業台非常停止ボタン

作業台操作非常停止ボタンの取り外し方法

1 地上操作と作業台操作の赤色非常停止ボタンを押して OFF (オフ) の位置にします。

2 作業台のコントロールケーブルから作業台操作パネルを取り外します。

3 作業台コントロールボックスを作業台コントロールブラケットに固定しているファスナーを取り外します。

4 底部カバーを作業台の操作ボックスに固定しているファスナを取り外します。操作ボックスを開けます。

5 白いワイヤーを非常停止ボタンの基部から取り外します。

⚠ 警告 感電/やけどの危険帯電している回路に触れると、重傷を負ったり死に至ることがあります。指輪、時計などの装身具をすべて外してください。

注意 部品の損傷の危険。静電気（ESD）により、プリント回路基盤の部品が損傷することがあります。プリント回路基盤を取り扱う際は、接地されている機械の金属部分に常にしっかりと接触するようにするか、あるいは接地されたリストストラップを使用してください。

6 非常停止基部を非常停止ボタンから慎重に取り外します。

7 固定リングを非常停止ボタンから慎重に取り外します。

8 非常停止ボタンを作業台操作ボックスから慎重に取り外します。

地上操作

地上から機械を操作するために使用する地上操作は、機械の性能を調整するためにも使用することができます。

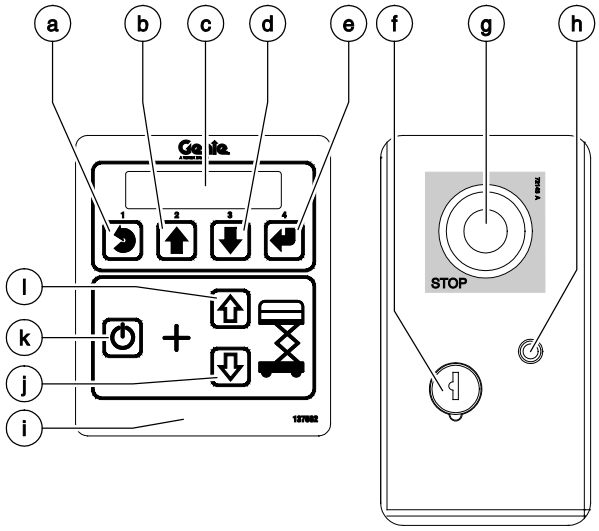
地上操作には、電子コントロールモジュール（ECM）、非常停止ボタン、キースイッチおよび回路ブレーカーがあります。

機能作動ボタンを有効にし、上昇または下降ボタンを同時に作動すると、ECM に信号を送ります。これにより、地上操作で作業台を上昇または下降させることができます。

注記：ステアリングおよび走行機能は地上操作から操作できません。

ECM がセットアップモードの場合には、作業台操作は機能速度パラメーター、機械モデルまたは機械のオプションを調整するために使用されます。

さらに詳しい情報やご質問に関しては、Genie 製品サポートまでご連絡ください。



a 機械設定中断ボタン
b 機械設定スクロールアップボタン
c LCD 計測値表示
d 機械設定スクロールダウンボタン
e 機械設定確定ボタン
f キースイッチ KS1
g 赤色非常停止 P1
h 回路ブレーカー CB2
i ECM U5
j 作業台下降ボタン
k リフト機能作動ボタン
l 作業台上昇ボタン

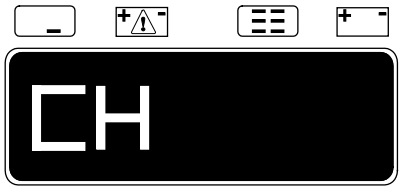
2-1
ソフトウェア改正レベル

改正レベルの確認方法

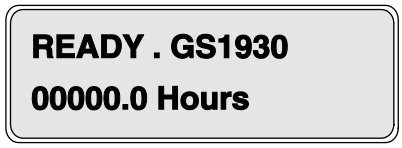
機械のソフトウェア改正レベルは、地上操作 LCD に表示されます。

1 キースイッチを回して地上操作もしくは作業台操作の位置に切り替えます。地上操作および作業台操作の両方で赤色非常停止ボタンを引いて ON(オン)の位置にします。

⊙ 結果：作業台操作では「CH」と表示されます。以下の例を参照してください。



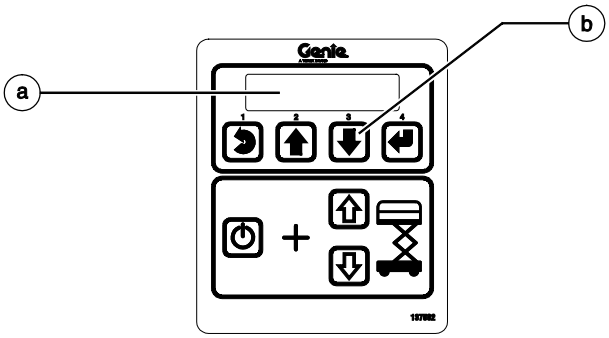
⊙ 結果：地上操作では機械モデルと時間計情報が表示されます。3 秒後には、機械モデルは画面表示されません。以下の例を参照してください。



2 地上操作スクロールダウンボタンを押してください。

⊙ 結果：地上操作 LCD にソフトウェア改正と時間計情報が表示されます。5 秒後に、地上操作 LCD 画面には機械モデルと時間計情報が再度表示されます。以下の例を参照してください。

3 地上操作と作業台操作の両方の赤色非常停止ボタンを押して OFF(オフ)の位置にし、キースイッチを回して OFF(オフ)の位置にします。



a 地上操作 LCD 表示
b 地上操作スクロールダウンボタン

地上操作

2-2
機械設定

地上操作からの機械設定方法

地上操作は地上から機械パラメータを設定するために使用することができます。地上操作から調整可能な機能には、機械モデル、オプションおよび速度設定が含まれます。このメニューは地上操作で、キースイッチが地上操作位置にある場合のみに入力することができます。

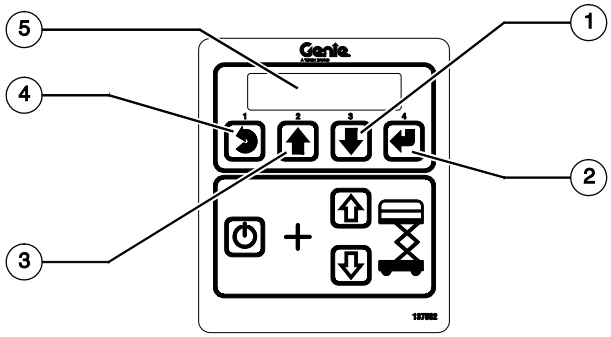
⚠ 危険 転倒の危険。この手順で定められた速度よりも機能速度を速く調節しないでください。機能スピードを仕様よりも速く設定すると、機械が転倒し、重傷を負ったり死に至ることがあります。

⚠ 危険 転倒の危険。この手順は、トレーニングを受けたサービス担当者によって行われなければなりません。必要な技能なしにこの手順を行うと、重傷を負ったり死に至る可能性があります。

注記：障害物がなく、平坦で安定している場所でテストを行ってください。

1 キースイッチを回して地上操作に切り替えます。

2 地上操作のスクロールアップおよびスクロールダウンボタンを押し続けます。

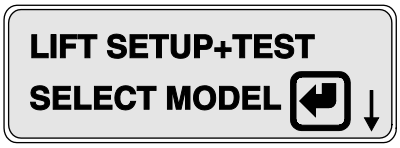


地上操作メニューボタン

1 スクロールダウンボタン
2 確定ボタン
3 スクロールアップボタン
4 中断ボタン
5 LCD 表示

3 地上操作で赤色非常停止ボタンを引いてオンの位置にします。

⊙ 結果：地上操作 LCD 画面には以下が表示されます。



4 地上操作メニューボタンを使用して、機械モデル、オプションおよび速度設定パラメーターを選択します。地上操作 LCD 画面で表示されるメニューに従ってください。

2-3
機械ソフトウェアのロードまたは更新

注記：機械のソフトウェアの更新前に、ウェブブラウザを開き、Genie 機械ソフトウェアダウンロードポータルサイトである http://firmware.genielift.com に移動します。適切な用語でフィルターをかけて検索し、機械のソフトウェアをダウンロードします。

注記：機械ソフトウェアの更新には 2 つの手順があります。**ブートローダーモード**と**機械アプリケーションモード**があります。

ブートローダーモードの場合： ブートローダーモードはキースイッチが GCON 位置にある場合にのみ利用できます。システムをブートローダーにすることによって、ユーザーは機械のソフトウェアを更新、再インストールすることができます。

GCON ECM が正しく操作していない場合に、このモードを選択します。

機械アプリケーションモードの場合： 機械アプリケーションモードはキースイッチが GCON または PCON 位置にある場合に利用できます。機械のこのモードでのソフトウェア更新は、ユーザーが機械サービスツールを確定している必要があります。

機械が正しく作動し、機械ソフトウェアを更新する場合にこのモードを選択します。

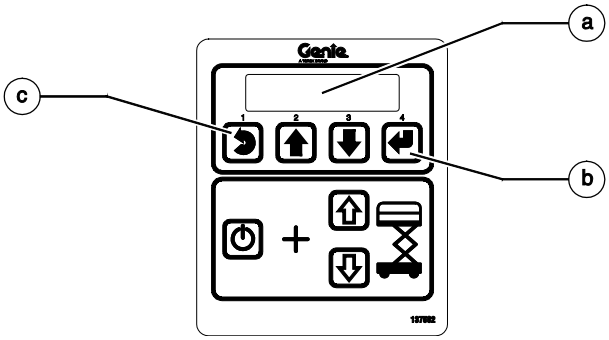
ブートローダーモード

1 GCON のコンパートメントを開きます。

注記：GCON を使用するために地上操作ボックスを開く必要があるモデルもあります。

2 キースイッチを回して作業台操作位置にし、作業台操作の赤色非常停止ボタンを引いて、ON(オン)の位置にします。

3 地上操作では、確定と中断ボタンを押し続けます。



a LCD 表示
b 確定ボタン
c 中断ボタン

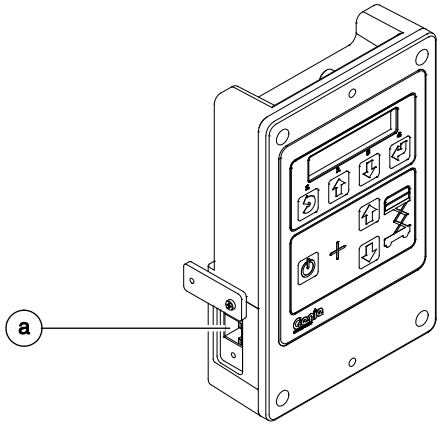
4 地上操作で赤色非常停止ボタンを引いてオンの位置にします。

⊙ 結果：地上操作 LCD 画面には以下が表示されます。

SOFTWARE UPDATE
CONNECT ETHERNET

地上操作

5 GCON の横側にある診断ポートを確認します。カバーを固定しているファスナーの 1 つを取り外し、保管します。もう一方のファスナーを緩めます。このときに外さないように注意してください。



a 診断ポート

6 CAT5 イーサネットケーブルの一方の端を診断ポートに接続します。もう一方の端をパソコンまたはラップトップに接続します。

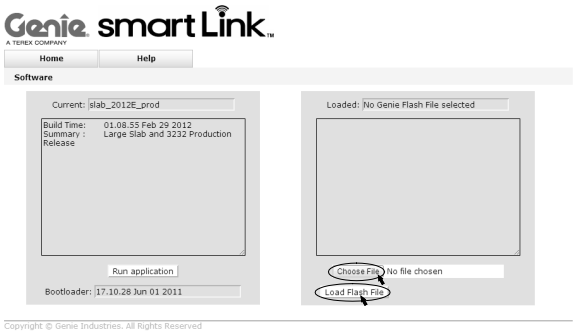
⊙ 結果：地上操作 LCD 画面には以下が表示されます。

OPEN WEB BROWSER
<IP ADDRESS>

7 IP アドレスを確認して記録します。

8 Internet Explorer ®、Chrome ® または Firefox ® などのウェブブラウザをご利用のパソコンまたはラップトップで起動します。ステップ 7 の IP アドレスをウェブブラウザのアドレスバーにタイプし、Enter を押します。

⊙ 結果：次の画面が表示されます。

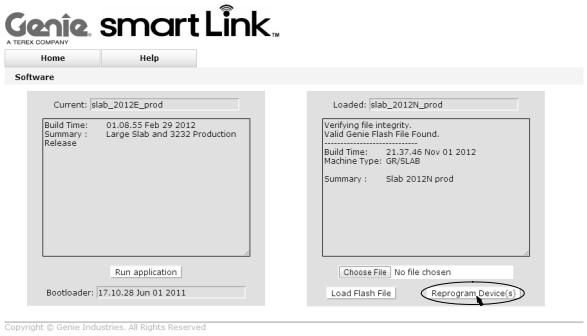


9 **Choose File（ファイルを選択する）**を選択し、ダウンロードされた Genie Flash ファイル（.gff）に移動します。

注記：正しい flash ファイルであることを確認してください。

10 **Load Flash File（Flash ファイルをロードする）**ボタンを選択してファイルが .gff であることを確認します。

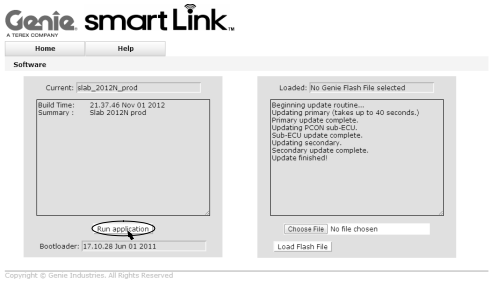
⊙ 結果：次の画面が表示されます。



11 **Reprogram Device（デバイスを再プログラムする）**ボタンを選択して、ECM ソフトウェア更新を開始します。

⊙ 結果：ソフトウェアの更新完了後、次の画面が表示されます。

注記：ECM が再プログラムされている間は、電源を切らないでください。



12 **Run Application（アプリケーションを起動する）**ボタンを選択して、ソフトウェア更新モードを終了します。

13 赤色非常停止ボタンを押し、CAT5 ケーブルを GCON から取り外します。

14 ステップ 5 で取り外した固定ファスナーを使用して診断ポートのカバーを固定します。このとき、締めすぎないでください。

注記：AGM バッテリー装備の機械は、GCON 設定パラメータ画面を使用して、AGM バッテリータイプを選択する必要があります。ご利用の機械に適切なサービスおよび修理マニュアルに記載されている「機械設定」手順を参照してください。

⚠ 警告

転倒の危険。SmartLink ソフトウェアの更新は機械の初期設定の走行速度に影響を及ぼす場合があります。機械の転倒は、重傷または死に至ることがあります。

走行速度テストを実施してください。ご利用の機械に適切な「保守マニュアル」を参照してください。

15 機能テストを実行します。ご利用の機械の操作説明書を参照してください。

16 機械の使用を再開します。

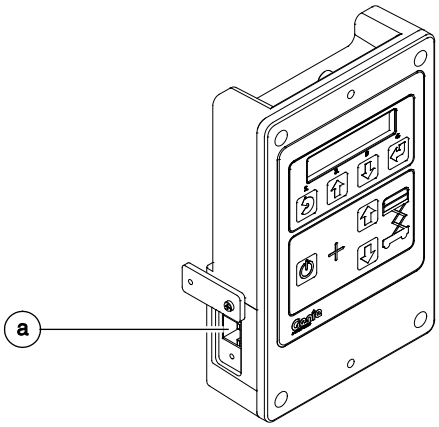
機械アプリケーションモード

1 GCON のコンパートメントを開きます。

注記：GCON を使用するために地上操作ボックスを開く必要があるモデルもあります。

2 キースイッチを回して地上操作にするか、地上操作と作業台操作の両方で赤色非常停止ボタンを引いて、ON(オン)の位置にします。

3 GCON の横側にある診断ポートを確認します。カバーを固定しているファスナーの 1 つを取り外し、保管します。もう一方のファスナーを緩めます。このときに外さないように注意してください。



a 診断ポート

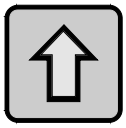
4 CAT5 イーサネットケーブルの一方の端を診断ポートに接続します。もう一方の端をパソコンまたはラップトップに接続します。

⊙ 結果：地上操作 LCD 画面には以下が表示されます。

OPEN WEB BROWSER
<IP ADDRESS>

地上操作

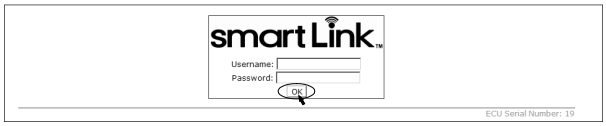
5 IP アドレスを確認して記録します。



注記：画面には IP アドレスが 3 秒間表示されるのみです。スクロールアップボタンを押すと、IP アドレスをさらに 3 秒間表示します。

6 Internet Explorer ®、Chrome ® または Firefox ® などのウェブブラウザをご利用のパソコンまたはラップトップで起動します。ステップ 5 の IP アドレスをウェブブラウザのアドレスバーにタイプし、Enter を押します。

⊙ 結果：次の画面が表示されます。



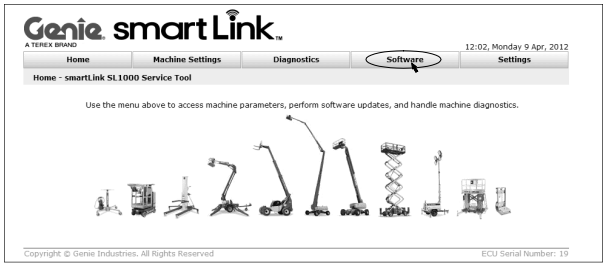
7 次のユーザー名とパスワードを入力して **OK** を選択します。

ユーザー名：smart.link

パスワード：SL1000

注記：ユーザー名とパスワードには大文字小文字の区別があります。

⊙ 結果：次の画面が表示されます。



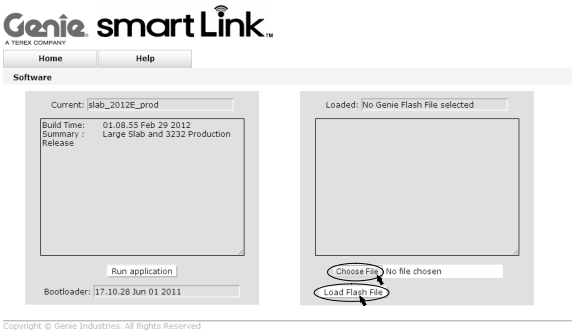
8 ヘッダーバーの**ソフトウェア**タブを選択します。

⊙ 結果：次の画面が表示されます。



9 **機械のソフトウェアを更新する**ボタンを選択します。

⊙ 結果：次の画面が表示されます。

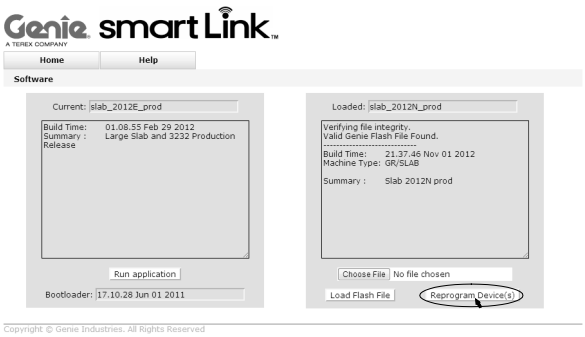


10 **Choose File（ファイルを選択する）**を選択し、ダウンロードされた Genie Flash ファイル（.gff）に移動します。

注記：正しい flash ファイルであることを確認してください。

11 **Load Flash File（Flash ファイルをロードする）**ボタンを選択してファイルが .gff であることを確認します。

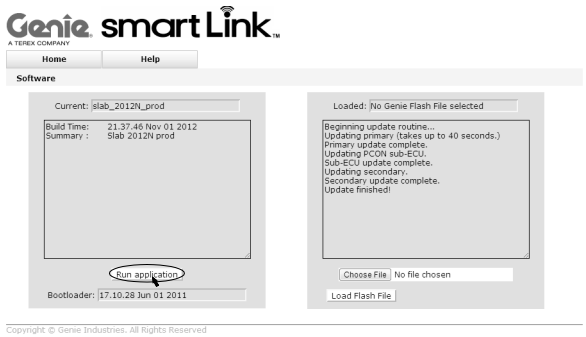
⊙ 結果：次の画面が表示されます。



12 **Reprogram Device（デバイスを再プログラムする）**ボタンを選択して、ECM ソフトウェア更新を開始します。

⊙ 結果：ソフトウェアの更新完了後、次の画面が表示されます。

注記：ECM が再プログラムされている間は、電源を切らないでください。



13 **Run Application（アプリケーションを起動する）**ボタンを選択して、ソフトウェア更新モードを終了します。

14 赤色非常停止ボタンを押し、CAT5 ケーブルを GCON から取り外します。

15 ステップ 5 で取り外した固定ファスナーを使用して診断ポートのカバーを固定します。このとき、締めすぎないでください。

注記：AGM バッテリー装備の機械は、GCON 設定パラメータ画面を使用して、AGM バッテリータイプを選択する必要があります。ご利用の機械に適切なサービスおよび修理マニュアルに記載されている「機械設定」手順を参照してください。

⚠ 警告

転倒の危険。SmartLink ソフトウェアの更新は機械の初期設定の走行速度に影響を及ぼす場合があります。機械の転倒は、重傷または死に至ることがあります。

走行速度テストを実施してください。ご利用の機械に適切な「保守マニュアル」を参照してください。

16 機能テストを実行します。ご利用の機械の操作説明書を参照してください。

17 機械の使用を再開します。

地上操作

2-4
Wi-Fi ルーターを使用した SmartLink ウェブ サービスツールへの接続

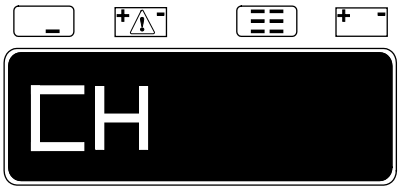
注記：ポータブルのワイヤレスルーターを使用してスマートリンクサービスツールのウェブサイトに接続する前に、希望する接続タイプにルーターが設定されている必要があります。設定と構成の手順は、ポータブルワイヤレスルーターユーザーの説明書を参照してください。

1 GCON のコンパートメントを開きます。

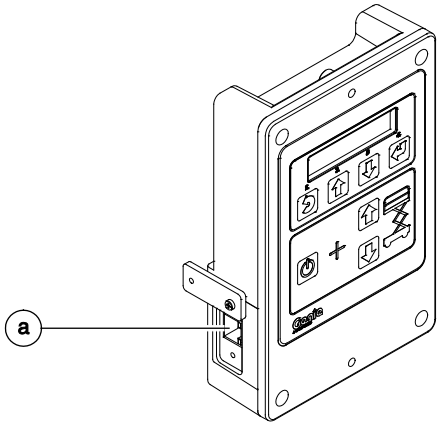
注記：GCON を使用するために地上操作ボックスを開く必要があるモデルもあります。

2 キースイッチを回して地上操作にするか、地上操作と作業台操作の両方で赤色非常停止ボタンを引いて、ON(オン)の位置にします。

⊙ 結果：作業台操作では「CH」と表示されます。以下の例を参照してください。



3 GCON の横側にある診断ポートを確認します。カバーを固定しているファスナーの 1 つを取り外し、保管します。もう一方のファスナーを緩めます。このときに外さないように注意してください。



a 診断ポート

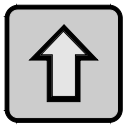
4 CAT5 イーサネットケーブルの一方の端を診断ポートに接続します。もう一方の端をポータブルのワイヤレスルーターのイーサネットポートに接続します。

⊙ 結果：地上操作 LCD 画面には以下が表示されます。



5 IP アドレスを確認して記録します。

注記：画面には IP アドレスが 3 秒間表示されるのみです。スクロールアップボタンを押すと、IP アドレスをさらに 3 秒間表示します。



6 パソコン、ラップトップ、モバイル機器では、ポータブルルーター用のワイヤレスネットワークを設定します。

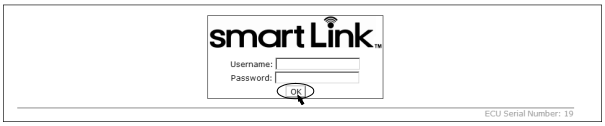
注記：ワイヤレスネットワークへの接続の操作システム手順を参照してください。

7 新規のワイヤレスネットワークを確立した後に、ご利用のポータブルワイヤレスルーターに適切なネットワークを選択します。

注記：ワイヤレスネットワークへの接続の操作システム手順を参照してください。

8 Internet Explorer ®、Chrome ® または Firefox ® などのウェブブラウザをご利用の PC、ラップトップまたはモバイル機器で起動します。ステップ 5 の IP アドレスをウェブブラウザのアドレスバーにタイプし、Enter を押します。

⊙ 結果：次の画面が表示されます。



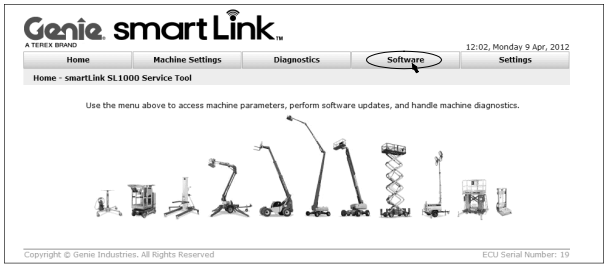
9 次のユーザー名とパスワードを入力して **OK** を選択します。

ユーザー名：smart.link

パスワード：SL1000

注記：ユーザー名とパスワードには大文字小文字の区別があります。

⊙ 結果：次の画面が表示されます。



10 スマートリンクサービスツールのウェブサイトを使用した後に、赤色非常停止ボタンを押し、GCON から CAT6 ケーブルを取り外します。

11 ステップ 3 で取り外した固定ファスナーを使用して診断ポートのカバーを固定します。このとき、締めすぎないでください。

注記：AGM バッテリー装備の機械は、GCON 設定パラメータ画面を使用して、AGM バッテリータイプを選択する必要があります。ご利用の機械に適切なサービスおよび修理マニュアルに記載されている「機械設定」手順を参照してください。

⚠ 警告

転倒の危険。SmartLink ソフトウェアの更新は機械の初期設定の走行速度に影響を及ぼす場合があります。機械の転倒は、重傷または死に至ることがあります。

走行速度テストを実施してください。ご利用の機械に適切な「保守マニュアル」を参照してください。

12 機能テストを実行します。ご利用の機械の操作説明書を参照してください。

地上操作

2-5
サービス無効化モード

電子コントロールモジュール（ECM）はサービス無効化モードでプログラムされています。サービス無効化モードは特定の状況のためにあり、機械操作の通常の一部ではありません。サービス無効化モードは、トレーニングを受けた人物が機械の故障や不備を修理する目的のみに利用されます。

注記：サービス無効化モードは地上操作でのみ確定でき、作業台を上昇または下降できることを目的としています。作業台が最大許容高度に到達すると、システムはサービス無効化モードを終了します。この手順を繰り返し、作業台を下げます。

注記：サービス無効化モードのときは、アラーム音が鳴ります。

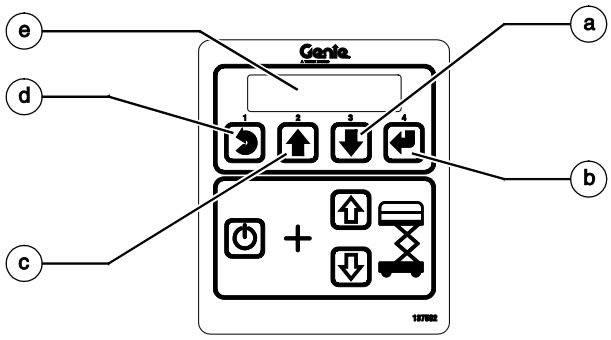
注記：サービス無効化モードを確定する前に、このモードが必須であることを確認するために、機械の操作に影響する故障コードや欠陥を完全に理解しなければなりません。

注記：搭載されている場合は、アウトリガーを自動で水平にするか、完全に収納した状態で安定した水平な面でこの操作を行ってください。

⚠ 危険 転倒の危険。水平でない面でサービス無効化モードを操作していると、重傷または死に至ることがあります。適切な操作手順と安全予防策に従ってください。トレーニングを受けず、機械の操作を熟知していない場合は、サービス無効化モードを使用しないでください。

1 キースイッチを回して作業台操作位置にし、作業台操作の赤色非常停止ボタンを引いて、ON(オン)の位置にします。

2 地上操作のスクロールアップおよびスクロールダウンボタンを押し続けます。

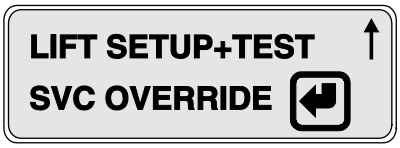


地上操作メニューボタン

a スクロールダウンボタン
b 確定ボタン
c スクロールアップボタン
d 中断ボタン
e LCD 表示

3 地上操作で赤色非常停止ボタンを引いてオンの位置にします。

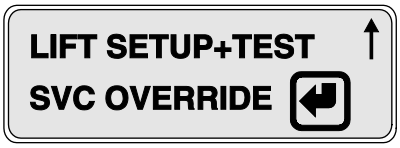
⊙ 結果：地上操作 LCD 画面には以下が表示されます。



4 地上コントローラの電源が入った後に、スクロールアップおよびスクロールダウンボタンを離します。

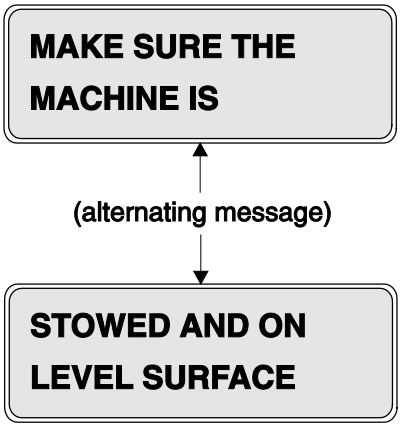
5 地上操作で、スクロールダウンボタンを使用して、**SVC 無効化**までスクロールします。

⊙ 結果：地上操作 LCD 画面には以下が表示されます。



6 確定ボタンを押します。

⊙ 結果：地上操作の LCD には 1.5 秒ごとに代替メッセージが表示されます。



7 確定ボタンを押します。

⊙ 結果：地上操作 LCD 画面には以下が表示されます。



8 確定ボタンを押します。

⊙ 結果：地上操作 LCD 画面には以下が表示されます。



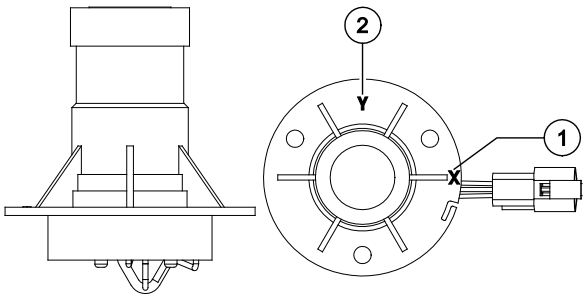
地上操作

2-6
レベルセンサー

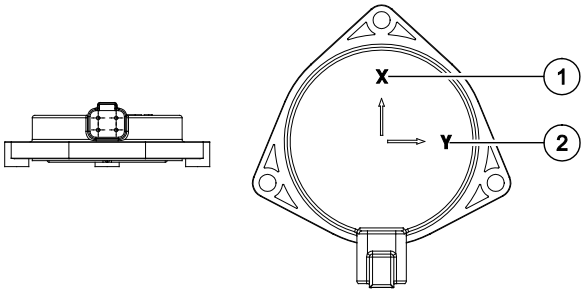
電子コントロールモジュール（ECM）は、レベルセンサーから信号を受信するとリフトおよび走行機能を無効にし、アラームが作動するようにプログラムされています。

傾斜アラームは、シャーシの傾斜が側面 1.5°および前方または後方が 3°を超えると鳴ります。

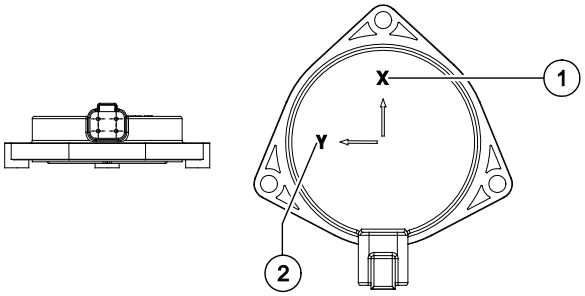
図を参照して、設置されているレベルセンサーのタイプを確認し、ご利用の機械に適切な手順を実施してください。



手順 1



手順 2



手順 3

1 X 軸
2 Y 軸

レベルセンサーの取り付けと調節方法 - 手順 1

⚠ 危険 転倒の危険。指示通りにレベルセンサーを設置して調整することを怠ると、機械が安定性を失い、転倒します。それにより重傷を負ったり死に至る場合があります。この手順で指示されている以外の方法でレベルセンサーの取り付け、または調整を実施しないでください。

1 機械を障害物のない安定した水平な場所に移動させます。

注記:地面の傾斜は 0° +/- 0.5°でなければなりません。

2 作業台より作業台操作を取り外します。

3 キースイッチを回して作業台操作にし、地上操作と作業台操作の両方で赤色非常停止ボタンを引いて、ON(オン)の位置にします。

4 作業台を 7 ～ 8 フィート/2.1 ～ 2.4 m 上げます。

5 安全アームを上げ、シザースアームの中央へ動かし、垂直位置へ回転させて下げます。

6 作業台を安全アームの上に下ろします。

⚠ 警告 手のケガの危険作業台が降下しているときは、安全アームに手を近づけないでください。

新しいレベルセンサーを取り付けない場合は、ステップ 15 に進みます。

7 キースイッチを回して OFF(オフ)の位置にし、地上操作の赤色非常停止ボタンを OFF(オフ)の位置に押します。

8 レベルセンサーワイヤーハーネスに印をつけ、シャーシのワイヤーハーネスから取り外します。

注記:ワイヤーハーネス接続は、機械のステアリング側のシャーシ上部にあるレベルセンサーの横にあります。

9 レベルセンサー固定ファスナーを取り外し、機械からレベルセンサーを取り外します。

10 レベルセンサーワイヤーに印をつけ、レベルセンサー接続プラグから取り外します。

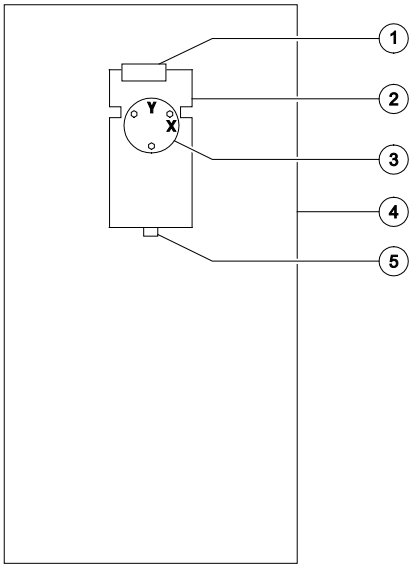
11 新しいレベルセンサーのワイヤーをレベルセンサー接続プラグにしっかりと取り付けます。

地上操作

12 新しいレベルセンサーをレベルセンサー固定ブラケットに置きます。その時、レベルセンサー基台の「X」をレベルセンサー取り付けの長い側面の近く、レベルセンサーの基台の「Y」をレベルセンサー取り付けの短い側面の近くに置きます。

⚠ 危険 転倒の危険。レベルセンサーは、傾斜レベルセンサーボックスの長い面に近いレベルセンサー基部にある「X」と傾斜レベルセンサーボックスの短い面に近いレベルセンサー基部にある「Y」に取り付けられなければなりません。指示通りにレベルセンサーを取り付けない場合には、機械が転倒し、重傷を負ったり死に至る可能性があります。

操舵側



非操舵側

1 リミットスイッチ
2 レベルセンサー固定ブラケット
3 レベルセンサー S7
4 シザースシャーシ
5 アラーム H5

13 レベルセンサー固定ファスナーをレベルセンサーとスプリングを通して、固定ブラケットに取り付けます。ファスナーを締め、レベルセンサーとレベルセンサー固定ブラケットの距離を測ります。

⊙ 結果：距離は約 0.375 インチ/10 mm でなければなりません。

14 シャーシのワイヤーハーネスをレベルセンサーワイヤーハーネスに接続します。

15 キースイッチを回して地上操作にし、地上操作の赤色非常停止ボタンを引いて、ON(オン)の位置にします。

16 レベルセンサーの上にある水準器が中央になるまでレベルセンサー固定ファスナーを調節します。

⊙ 結果：傾斜センサーアラームは鳴りません。

17 作業台を少し上昇させます。

18 安全アームを収納位置に戻します。

19 作業台を下ろし収納します。

20 リフトジャッキを機械の地上操作側にある走行シャーシの下の中央に置きます。

21 機械を約 2 インチ/5 cm 上げます。シャーシの下にブロックを置いて支えます。

地上操作

22 **GS-1530 および GS-1930**: 厚さ 0.64 x 6 x 6 インチ/16.2 mm x 15 cm x 15 cm のスチール製ブロックを機械の地上操作側にある両方のホイールの下に置きます。

GS-1532 および GS-1932: 厚さ 0.68 x 6 x 6 インチ/17.2 mm x 15 cm x 15 cm のスチール製ブロックを機械の地上操作側にある両方のホイールの下に置きます。

GS-2032、GS-2632 および GS-3232: 厚さ 0.66 x 6 x 6 インチ/16.8 mm x 15 cm x 15 cm のスチール製ブロックを機械の地上操作側にある両方のホイールの下に置きます。

GS-2046、GS-2646、GS-3246 および GS-4047:厚さ 1 x 6 x 6 インチ/25.4 mm x 15 cm x 15 cm のスチール製ブロックを機械の地上操作側にある両方のホイールの下に置きます。

23 機械をブロックの上に下ろします。

24 作業台を 7 ～ 8 フィート/2.1 ～ 2.4 m 上げます。

⊙ 結果:レベルセンサーアラームは鳴りません。

⊠ 結果:レベルセンサーアラームは鳴り、診断画面に故障コード LL が表示されます。レベルセンサーアラームが鳴らなくなるまで、レベルセンサーの固定ファスナーを調節します。

25 作業台を下ろし収納します。

26 機械を約 2 インチ/5 cm 上げます。シャーシの下にブロックを置いて支えます。

27 両方のホイールの下からブロックを取り外します。

28 機械を下げ、ジャッキを片づけます。

29 リフトジャッキを機械のバッテリーパック側にある走行シャーシの下の中央に置きます。

30 機械を約 2 インチ/5 cm 上げます。シャーシの下にブロックを置いて支えます。

31 **GS-1530 および GS-1930**: 厚さ 0.77 x 6 x 6 インチ/19.6 mm x 15 cm x 15 cm のスチール製ブロックを機械のバッテリーパック側にある両方のホイールの下に置きます。

GS-1532 および GS-1932: 厚さ 0.83 x 6 x 6 インチ/21.1 mm x 15 cm x 15 cm のスチール製ブロックを機械のバッテリーパック側にある両方のホイールの下に置きます。

GS-2032、GS-2632 および GS-3232:厚さ 0.8 x 6 x 6 インチ/20.3 mm x 15 cm x 15 cm のスチール製ブロックを機械のバッテリーパック側にある両方のホイールの下に置きます。

GS-2046、GS-2646、GS-3246 および GS-4047:厚さ 1.22 x 6 x 6 インチ/31 mm x 15 cm x 15 cm のスチール製ブロックを機械のバッテリーパック側にある両方のホイールの下に置きます。

32 機械をブロックの上に下ろします。

33 作業台を 7 ～ 8 フィート/2.1 ～ 2.4 m 上げます。

⊙ 結果:作業台は停止し、アラームが鳴らなければなりません。診断画面に故障コード LL が表示されます。

⊠ 結果:作業台は停止しない、またはレベルセンサーアラームは鳴りません。アラームが鳴り始めるまで、レベルセンサーを調節する、または下降リミットスイッチの調節が必要となる場合があります。

34 作業台を下ろし収納します。

35 機械を約 5 cm 上げます。

36 両方のホイールの下からブロックを取り外します。

37 機械を下げ、ジャッキを片づけます。

地上操作

レベルセンサーの取り付けと調節方法 - 手順 2

⚠ 危険 転倒の危険。指示通りにアウトリガーレベルセンサーを取り付けることを怠ると、機械が安定性を失い、転倒します。それにより重傷を負ったり死に至る場合があります。この手順で指示されている以外の方法でアウトリガーレベルセンサーを取り付けないでください。

注記:新しいレベルセンサーを取り付け**ない**場合は、ステップ 14 に進みます。

1 機械を障害物のない安定した水平な場所に移動させます。

注記:デジタルレベルセンサーを使用して機械が水平かを確認します。

2 キースイッチを回して地上操作にし、地上操作と作業台操作の両方で赤色非常停止ボタンを引いて、ON(オン)の位置にします。

3 作業台を 7 ～ 8 フィート/2.1 ～ 2.4 m 上げます。

4 安全アームを上げ、シザースアームの中央へ動かし、垂直位置へ回転させて下げます。

5 作業台を安全アームの上に下ろします。

⚠ 警告 手のケガの危険作業台が降下しているときは、安全アームに手を近づけないでください。

6 キースイッチを回して OFF(オフ)の位置にし、地上操作の赤色非常停止ボタンを OFF(オフ)の位置に押します。

7 レベルセンサーワイヤーハーネスに印をつけ、シャーシのワイヤーハーネスから取り外します。

注記:ワイヤーハーネス接続は、機械の操舵側シャーシ上部のレベルセンサーにあります。

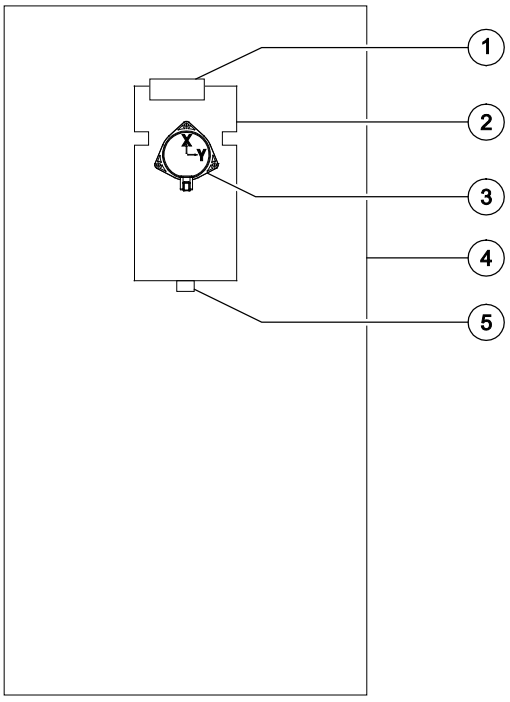
8 レベルセンサー固定ファスナーを取り外し、機械からレベルセンサーを取り外します。

9 新しいレベルセンサーのワイヤーをレベルセンサー接続プラグにしっかりと取り付けます。

10 新しいレベルセンサーをレベルセンサーブラケットに置きます。その時、レベルセンサーの「Y」を機械の地上操作パネルの方向に、そうしてレベルセンサーの「X」を機械の操舵側の方向に置きます。

⚠ 危険 転倒の危険。指示通りにレベルセンサーを取り付けない場合には、機械が転倒し、重傷を負ったり死に至る可能性があります。

操舵側



非操舵側

1 リミットスイッチ
2 レベルセンサー固定ブラケット
3 レベルセンサー S7
4 シザースシャーシ
5 アラーム H5

11 レベルセンサー固定ファスナーをレベルセンサーに通して、固定ブラケットに取り付けます。

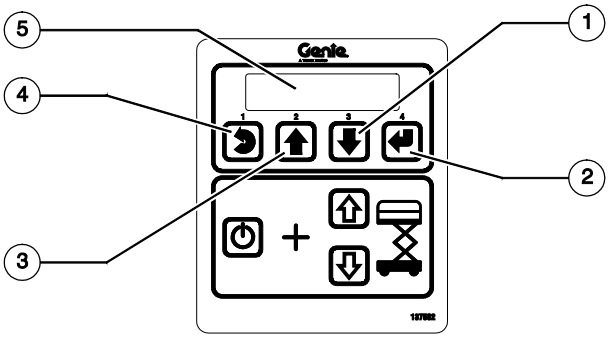
12 シャーシのワイヤーハーネスをレベルセンサーに接続します。

13 キースイッチを回して地上操作にし、地上操作と作業台操作の両方で赤色非常停止ボタンを引いて、ON(オン)の位置にします。

⊙ 結果：GCON には「C051：SYSTEMFAULT, TILT：NoCal fault.」と表示されます。

14 地上操作で非常停止ボタンを押してオフの位置にします。

15 地上操作のスクロールアップおよびスクロールダウンボタンを押し続けます。



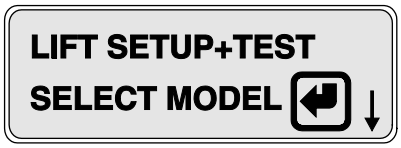
地上操作メニューボタン

1 スクロールダウンボタン
2 確定ボタン
3 スクロールアップボタン
4 中断ボタン
5 LCD 表示

地上操作

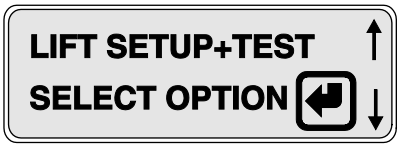
16 地上操作で赤色非常停止ボタンを引いてオンの位置にします。

⊙ 結果:地上操作 LCD 画面には以下が表示されます。



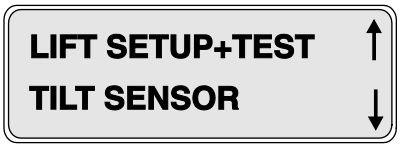
17 地上コントローラの電源が入った後に、スクロールアップおよびスクロールダウンボタンを離します。

18 スクロールアップまたはスクロールダウンボタンを使用して、**オプションの選択**までスクロールします。



19 確定ボタンを押します。

20 スクロールアップまたはスクロールダウンボタンを使用して、傾斜センサーまでスクロールします。



21 確定ボタンを押します。

22 確定ボタンを押し続け、調節を開始します。

⊙ 結果:調節が完了すると、アラーム音が鳴ります。

注記:機械は1度以上の傾斜面に配置されていると調整を行いません。

注記:レベルセンサーが交換された場合、ステップ 24 に進みます。レベルセンサーが交換されていない場合、ステップ 27 に進みます。





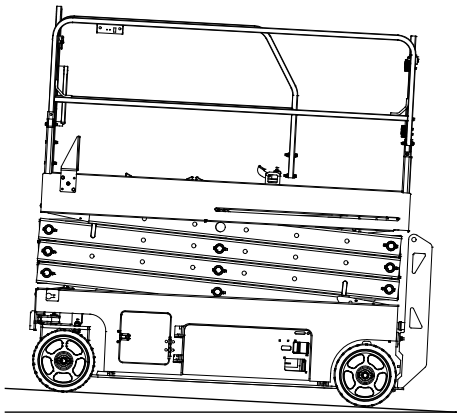
23 作業台を 7 ～ 8 フィート/2.1 ～ 2.4 m 上げます。

24 安全アームを収納位置に戻します。

25 作業台を下ろし収納します。

26 走行シャーシの地上操作側にデジタルのレベルセンサーを配置します。デジタルレベルセンサーのゼロ設定を行います。

27 機械の操舵側を段差に乗り上げるように走行し、3°以下の傾斜になるようにします。



地上操作

28 作業台を 7 ～ 8 フィート/2.1 ～ 2.4 m 上げます。

⊙ 結果:アラーム音は聞こえません。

⊠ 結果:作業台は停止し、アラーム音が聞こえ、故障コード LL が表示されます。ステップ 15 から始まるこの手順は安定した平坦な地面で行ってください。

29 作業台を下ろし収納します。

30 機械を段差に乗り上げるように走行し、3°以上の傾斜になるようにします。

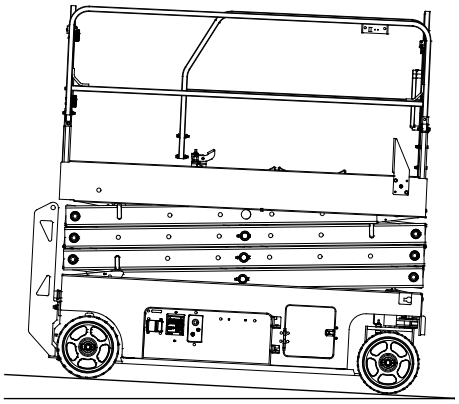
31 作業台を 7 ～ 8 フィート/2.1 ～ 2.4 m 上げます。

⊙ 結果:作業台は停止し、アラームが鳴らなければなりません。診断画面に故障コード LL が表示されます。

⊠ 結果:作業台は停止しない、またはレベルセンサーアラームは鳴りません。ステップ 15 から始まるこの手順は安定した平坦な地面で行ってください。

32 作業台を下ろし収納します。

33 機械の非操舵側を段差に乗り上げるように走行し、3°以下の傾斜になるようにします。



34 作業台を 7 ～ 8 フィート/2.1 ～ 2.4 m 上げます。

⊙ 結果:アラーム音は聞こえません。

⊠ 結果:作業台は停止し、アラーム音が聞こえ、故障コード LL が表示されます。ステップ 15 から始まるこの手順は安定した平坦な地面で行ってください。

35 作業台を下ろし収納します。

36 機械を段差に乗り上げるように走行し、3°以上の傾斜になるようにします。

37 作業台を 7 ～ 8 フィート/2.1 ～ 2.4 m 上げます。

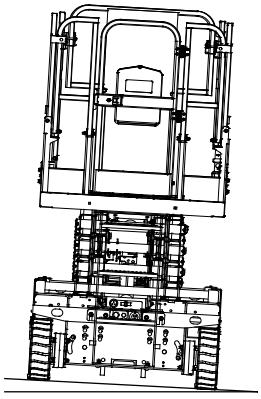
⊙ 結果:作業台は停止し、アラームが鳴らなければなりません。診断画面に故障コード LL が表示されます。

⊠ 結果:作業台は停止しない、またはレベルセンサーアラームは鳴りません。ステップ 15 から始まるこの手順は安定した平坦な地面で行ってください。

38 作業台を下ろし収納します。

39 走行シャーシの操舵側にデジタルのレベルセンサーを配置します。デジタルレベルセンサーのゼロ設定を行います。

40 機械の地上操作側を段差に乗り上げるように走行し、1.5°以下の傾斜になるようにします。



地上操作

41 作業台を 7 ～ 8 フィート/2.1 ～ 2.4 m 上げます。

⊙ 結果:アラーム音は聞こえません。

⊠ 結果:作業台は停止し、アラーム音が聞こえ、故障コード LL が表示されます。ステップ 15 から始まるこの手順は安定した平坦な地面で行ってください。

42 作業台を下ろし収納します。

43 機械を段差に乗り上げるように走行し、1.5°以上の傾斜になるようにします。

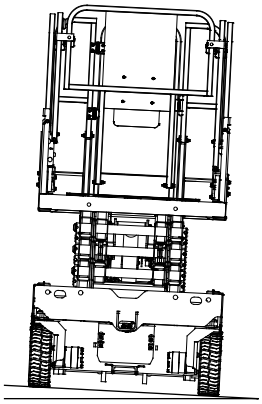
44 作業台を 7 ～ 8 フィート/2.1 ～ 2.4 m 上げます。

⊙ 結果:作業台は停止し、アラームが鳴らなければなりません。診断画面に故障コード LL が表示されます。

⊠ 結果:作業台は停止しない、またはレベルセンサーアラームは鳴りません。ステップ 15 から始まるこの手順は安定した平坦な地面で行ってください。

45 作業台を下ろし収納します。

46 機械のバッテリーコンパートメント側を段差に乗り上げるように走行し、1.5°以下の傾斜になるようにします。



47 作業台を 7 ～ 8 フィート/2.1 ～ 2.4 m 上げます。

⊙ 結果:アラーム音は聞こえません。

⊠ 結果:作業台は停止し、アラーム音が聞こえ、故障コード LL が表示されます。ステップ 15 から始まるこの手順は安定した平坦な地面で行ってください。

48 作業台を下ろし収納します。

49 機械を段差に乗り上げるように走行し、1.5°以上の傾斜になるようにします。

50 作業台を 7 ～ 8 フィート/2.1 ～ 2.4 m 上げます。

⊙ 結果:作業台は停止し、アラームが鳴らなければなりません。診断画面に故障コード LL が表示されます。

⊠ 結果:作業台は停止しない、またはレベルセンサーアラームは鳴りません。ステップ 15 から始まるこの手順は安定した平坦な地面で行ってください。

51 作業台を下ろし収納します。

レベルセンサーの取り付けと調節方法 - 手順 3

⚠ 危険 転倒の危険。指示通りにアウトリガーレベルセンサーを取り付けることを怠ると、機械が安定性を失い、転倒します。それにより重傷を負ったり死に至る場合があります。この手順で指示されている以外の方法でアウトリガーレベルセンサーを取り付けないでください。

注記:新しいレベルセンサーを取り付け**ない**場合は、ステップ 14 に進みます。

1 機械を障害物のない安定した水平な場所に移動させます。

注記:デジタルレベルセンサーを使用して機械が水平かを確認します。

2 キースイッチを回して地上操作にし、地上操作と作業台操作の両方で赤色非常停止ボタンを引いて、ON(オン)の位置にします。

3 作業台を 7 ～ 8 フィート/2.1 ～ 2.4 m 上げます。

4 安全アームを上げ、シザースアームの中央へ動かし、垂直位置へ回転させて下げます。

5 作業台を安全アームの上に下ろします。

⚠ 警告 手のケガの危険作業台が降下しているときは、安全アームに手を近づけないでください。

6 キースイッチを回して OFF(オフ)の位置にし、地上操作の赤色非常停止ボタンを OFF(オフ)の位置に押します。

7 レベルセンサーワイヤーハーネスに印をつけ、シャーシのワイヤーハーネスから取り外します。

注記:ワイヤーハーネス接続は、機械の操舵側シャーシ上部のレベルセンサーにあります。

8 レベルセンサー固定ファスナーを取り外し、機械からレベルセンサーを取り外します。

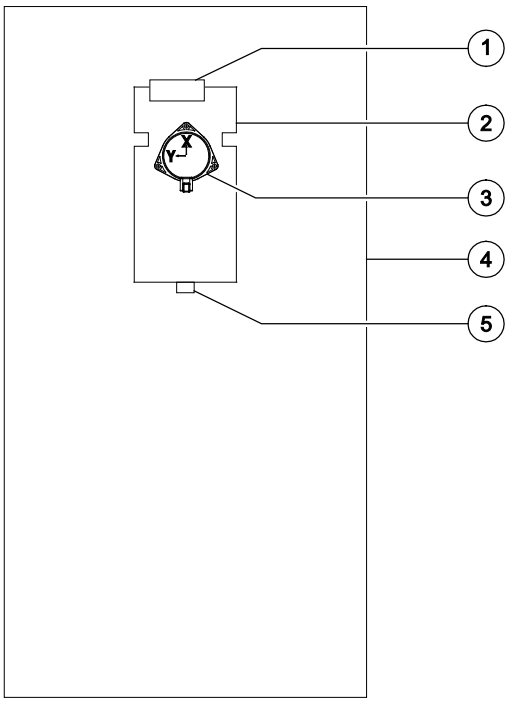
9 新しいレベルセンサーのワイヤーをレベルセンサー接続プラグにしっかりと取り付けます。

地上操作

10 新しいレベルセンサーをレベルセンサーブラケットに置きます。その時、レベルセンサーの「Y」を機械の地上操作パネルから離れた方向に、そうしてレベルセンサーの「X」を機械の操舵側の方向に置きます。

⚠ 危険 転倒の危険。指示通りにレベルセンサーを取り付けない場合には、機械が転倒し、重傷を負ったり死に至る可能性があります。

操舵側



非操舵側

1 リミットスイッチ
2 レベルセンサー固定ブラケット
3 レベルセンサー S7
4 シザースシャーシ
5 アラーム H5

11 レベルセンサー固定ファスナーをレベルセンサーに通して、固定ブラケットに取り付けます。

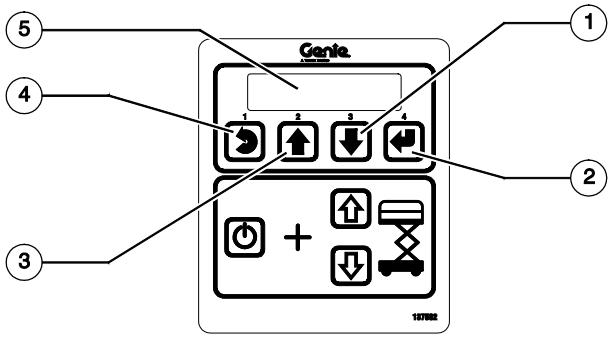
12 シャーシのワイヤーハーネスをレベルセンサーに接続します。

13 キースイッチを回して地上操作にし、地上操作と作業台操作の両方で赤色非常停止ボタンを引いて、ON(オン)の位置にします。

⊙ 結果：GCON には「C051：SYSTEMFAULT, TILT：NoCal fault.」と表示されます。

14 地上操作で非常停止ボタンを押してオフの位置にします。

15 地上操作のスクロールアップおよびスクロールダウンボタンを押し続けます。

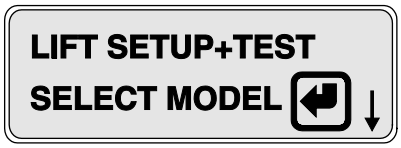


地上操作メニューボタン

1 スクロールダウンボタン
2 確定ボタン
3 スクロールアップボタン
4 中断ボタン
5 LCD 表示

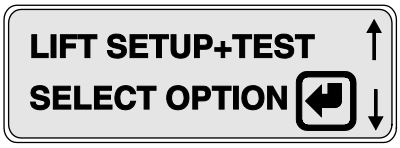
16 地上操作で赤色非常停止ボタンを引いてオンの位置にします。

⊙ 結果:地上操作 LCD 画面には以下が表示されます。



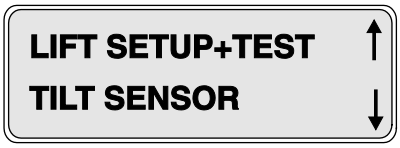
17 地上コントローラの電源が入った後に、スクロールアップおよびスクロールダウンボタンを離します。

18 スクロールアップまたはスクロールダウンボタンを使用して、**オプションの選択**までスクロールします。



19 確定ボタンを押します。

20 スクロールアップまたはスクロールダウンボタンを使用して、傾斜センサーまでスクロールします。



21 確定ボタンを押します。

22 確定ボタンを押し続け、調節を開始します。

⊙ 結果:調節が完了すると、アラーム音が鳴ります。

注記:機械は1度以上の傾斜面に配置されていると調整を行いません。

注記:レベルセンサーが交換された場合、ステップ 24 に進みます。レベルセンサーが交換されていない場合、ステップ 27 に進みます。





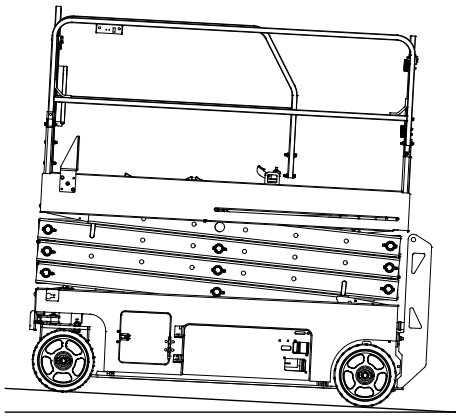
23 作業台を 7 ～ 8 フィート/2.1 ～ 2.4 m 上げます。

24 安全アームを収納位置に戻します。

25 作業台を下ろし収納します。

26 走行シャーシの地上操作側にデジタルのレベルセンサーを配置します。デジタルレベルセンサーのゼロ設定を行います。

27 機械の操舵側を段差に乗り上げるように走行し、3°以下の傾斜になるようにします。



地上操作

28 作業台を 7 ～ 8 フィート/2.1 ～ 2.4 m 上げます。

⊙ 結果:アラーム音は聞こえません。

⊠ 結果:作業台は停止し、アラーム音が聞こえ、故障コード LL が表示されます。ステップ 15 から始まるこの手順は安定した平坦な地面で行ってください。

29 作業台を下ろし収納します。

30 機械を段差に乗り上げるように走行し、3°以上の傾斜になるようにします。

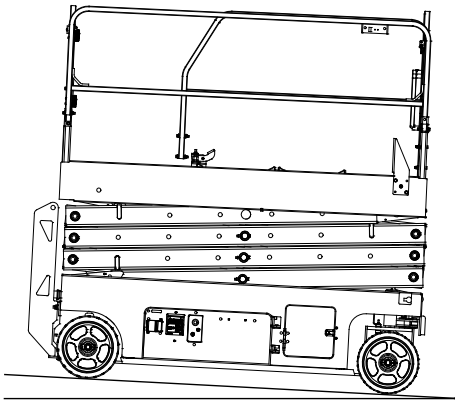
31 作業台を 7 ～ 8 フィート/2.1 ～ 2.4 m 上げます。

⊙ 結果:作業台は停止し、アラームが鳴らなければなりません。診断画面に故障コード LL が表示されます。

⊠ 結果:作業台は停止しない、またはレベルセンサーアラームは鳴りません。ステップ 15 から始まるこの手順は安定した平坦な地面で行ってください。

32 作業台を下ろし収納します。

33 機械の非操舵側を段差に乗り上げるように走行し、3°以下の傾斜になるようにします。



34 作業台を 7 ～ 8 フィート/2.1 ～ 2.4 m 上げます。

⊙ 結果:アラーム音は聞こえません。

⊠ 結果:作業台は停止し、アラーム音が聞こえ、故障コード LL が表示されます。ステップ 15 から始まるこの手順は安定した平坦な地面で行ってください。

35 作業台を下ろし収納します。

36 機械を段差に乗り上げるように走行し、3°以上の傾斜になるようにします。

37 作業台を 7 ～ 8 フィート/2.1 ～ 2.4 m 上げます。

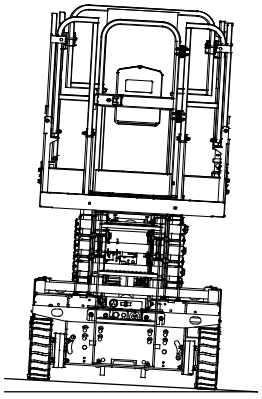
⊙ 結果:作業台は停止し、アラームが鳴らなければなりません。診断画面に故障コード LL が表示されます。

⊠ 結果:作業台は停止しない、またはレベルセンサーアラームは鳴りません。ステップ 15 から始まるこの手順は安定した平坦な地面で行ってください。

38 作業台を下ろし収納します。

39 走行シャーシの操舵側にデジタルのレベルセンサーを配置します。デジタルレベルセンサーのゼロ設定を行います。

40 機械の地上操作側を段差に乗り上げるように走行し、1.5°以下の傾斜になるようにします。



地上操作

41 作業台を 7 ～ 8 フィート/2.1 ～ 2.4 m 上げます。

⊙ 結果:アラーム音は聞こえません。

⊠ 結果:作業台は停止し、アラーム音が聞こえ、故障コード LL が表示されます。ステップ 15 から始まるこの手順は安定した平坦な地面で行ってください。

42 作業台を下ろし収納します。

43 機械を段差に乗り上げるように走行し、1.5°以上の傾斜になるようにします。

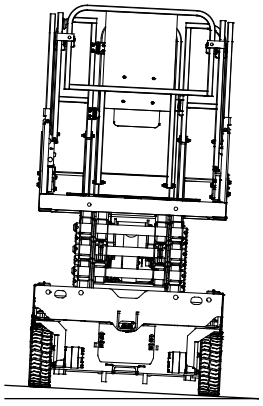
44 作業台を 7 ～ 8 フィート/2.1 ～ 2.4 m 上げます。

⊙ 結果:作業台は停止し、アラームが鳴らなければなりません。診断画面に故障コード LL が表示されます。

⊠ 結果:作業台は停止しない、またはレベルセンサーアラームは鳴りません。ステップ 15 から始まるこの手順は安定した平坦な地面で行ってください。

45 作業台を下ろし収納します。

46 機械のバッテリーコンパートメント側を段差に乗り上げるように走行し、1.5°以下の傾斜になるようにします。



47 作業台を 7 ～ 8 フィート/2.1 ～ 2.4 m 上げます。

⊙ 結果:アラーム音は聞こえません。

⊠ 結果:作業台は停止し、アラーム音が聞こえ、故障コード LL が表示されます。ステップ 15 から始まるこの手順は安定した平坦な地面で行ってください。

48 作業台を下ろし収納します。

49 機械を段差に乗り上げるように走行し、1.5°以上の傾斜になるようにします。

50 作業台を 7 ～ 8 フィート/2.1 ～ 2.4 m 上げます。

⊙ 結果:作業台は停止し、アラームが鳴らなければなりません。診断画面に故障コード LL が表示されます。

⊠ 結果:作業台は停止しない、またはレベルセンサーアラームは鳴りません。ステップ 15 から始まるこの手順は安定した平坦な地面で行ってください。

51 作業台を下ろし収納します。

地上操作

アウトリガーレベルセンサー - GS-3232 モデル

（シリアル番号 GS3211A ～ GS3215A-141898 の機種）
（シリアル番号 GS3212C ～ 10000 からの機種）

⚠ 危険 転倒の危険。指示通りにアウトリガーレベルセンサーを取り付けることを怠ると、機械が安定性を失い、転倒します。それにより重傷を負ったり死に至る場合があります。この手順で指示されている以外の方法でアウトリガーレベルセンサーを取り付けないでください。

1 機械を障害物のない安定した水平な場所に移動させます。

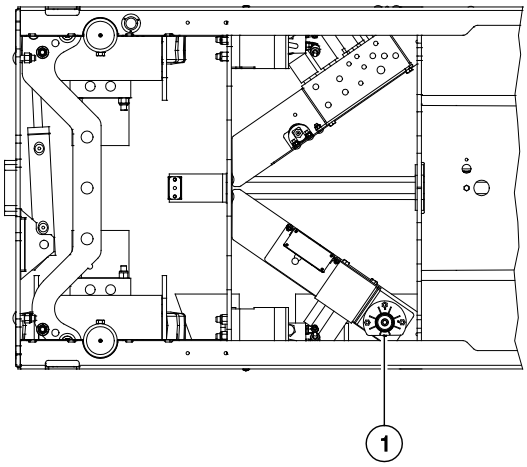
2 キースイッチを回して OFF(オフ)の位置にし、地上操作と作業台操作の両方で赤色非常停止ボタンを OFF(オフ)の位置に押します。

3 機械のバッテリー側にある点検口を開きます。

4 アウトリガーレベルセンサーワイヤーハーネスに印をつけ、アウトリガーレベルセンサーから取り外します。

5 アウトリガーレベルセンサー固定ファスナーを取り外し、機械からアウトリガーレベルセンサーを取り外します。

6 新しいアウトリガーレベル センサーをアウトリガーレベルセンサー基台に取り付けます。その時、アウトリガーレベルセンサー基台の平らな面をバッテリー側の点検口に一番近い場所に位置付けします。下記の図を参照してください。



1 アウトリガーレベルセンサー（GS-3232）

7 ステップ 5 で取り外した固定ファスナーでアウトリガーレベルセンサーを基台に取り付けます。

8 レベルセンサーの上部にある水準器が中央になるまでアウトリガーレベル センサー固定ファスナーを調節します。

9 アウトリガーレベルセンサーのワイヤーハーネスを新しいアウトリガーレベル センサーに接続します。

10 機械のバッテリー側にある点検口を閉めます。

11 新しいアウトリガーレベルセンサーを調節します。セクション 2-8 の「アウトリガーシステムの調節方法」を参照してください。

2-7
作業台手動下降ケーブル

作業台手動下降ケーブルは主電源に電源障害があった場合、作業台を降下します。作業台手動下降ケーブルはリフトシリンダーのドラム側に接続し、地上操作の次に作動します。

作業台手動下降ケーブルの調節方法

1 作業台を 7 ～ 8 フィート/2.1 ～ 2.4 m 上げます。

2 安全アームを上げ、シザースアームの中央へ動かし、垂直位置へ回転させて下げます。

3 作業台を安全アームの上に下ろします。

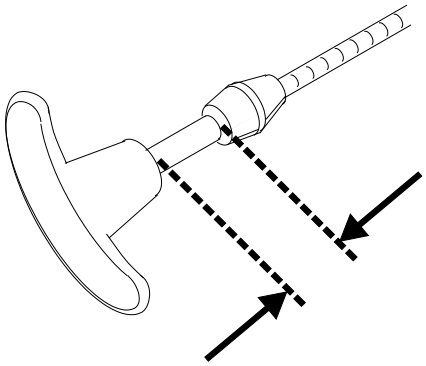
⚠ 警告 手のケガの危険作業台が降下しているときは、安全アームに手を近づけないでください。

4 手動の作業台下降ケーブルのハンドルをかなりの抵抗力を感じるまで引き出します。コントロールハンドルを離します。

5 ハンドルの基部とケーブル固定ナットの間の距離を測ります。

⊙ 結果：その距離は 0.125 インチ/3 mm 以内でなければなりません。

注記：測定値が正しい場合にはステップ 8 に進みます。

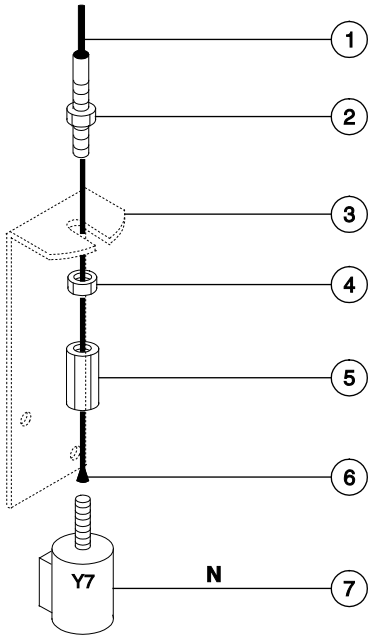


作業台手動下降ケーブルの仕様	
間隔、下降ハンドルと取り付けナットまでの間	0 ～ 0.125 インチ 0 ～ 3 mm

地上操作

測定値が正しい場合にはステップ 8 に進みます。

6 調節するには、シリンダーのケーブル固定ブラケット上の上方ロックナットを緩めます。短くするには下方ロックナットを時計回りに、長くするには反時計回りに回します。上方ロックナットを締めます。



1 手動下降ケーブルシース
2 上方ロックナット
3 ケーブル固定ブラケット
4 下方ロックナット
5 ケーブル固定ナット
6 下降ケーブルの端
7 手動下降バルブ（油圧システム図中 N）

7 ステップ 4 からこの手順を繰り返します。

8 作業台を上げ、安全アームを収納位置へ回転させます。

9 地上操作の手動下降ハンドルを 2、3 回引いて、正確に機能することを確認します。

2-8
アウトリガー調節

電子コントロールモジュール（ECM）は、アウトリガーが配置されているときに、走行およびステアリング機能を無効にし、そしてアウトリガーが配置されていないこと、または機械が水平でないことを示す信号をアウトリガーレベルセンサーから受信したときに、アラームを鳴らすというようにプログラムされています。

アウトリガーが配置されているときには、前方から後方、および片側からもう一方の水平度が 0°+/- 0.5°になるように、ECM はアウトリガーレベルセンサーを調節するためにも使用されます。

さらに詳しい情報やご質問に関しては、Genie 製品サポートまでご連絡ください。

アウトリガーシステムの調節方法

（GS-3232 - 施設コード C）

（GS-3232 - 施設コード A、GS3215A ～ 141898 まで）

1 機械を障害物のない安定した水平な場所に移動させます。デジタルレベルセンサーを使用して、確認します。

2 キースイッチを回して地上操作に切り替えます。

3 地上操作では、メニュー上昇およびメニュー下降ボタンを押し続けます。

4 両方のボタンを押している間、赤色非常停止ボタンを引き出します。

5 地上コントローラの電源が入った後に、メニュー上昇およびメニュー下降ボタンを離します。

6 メニュー上昇またはメニュー下降ボタンを使用して機械オプションをスクロールします。

7 確定ボタンを押して、機械オプションを選択します。

8 メニュー上昇またはメニュー下降ボタンを使用してアウトリガーまでスクロールします。

9 確定ボタンを押して、アウトリガーを選択します。

10 メニュー上昇またはメニュー下降ボタンを使用してアウトリガー調節までスクロールします。

11 確定ボタンを押して、アウトリガー調節を選択します。

12 システムがデータを収集し、アウトリガーレベルセンサーを調節している間、確定ボタンを押し続けます。

⚠ 警告 手のケガの危険アウトリガーの移動中にはアウトリガーに近づいてはいけません。

13 アウトリガーレベルセンサーが調節されている後、確定ボタンを押し続けます。アウトリガーシステムがデータを収集し、保存している間、アウトリガーは収縮します。

14 アウトリガーが収縮した後、確定ボタンを押し続けます。次に、アウトリガーは伸長し、システムはアウトリガーを調節するためにデータを収集し、保存します。

15 アウトリガーが伸長した後、確定ボタンを押し続けます。アウトリガーシステムがデータを収集し、保存している間、アウトリガーは収縮します。

⊙ 結果：地上操作および作業台操作でアラームが 1 秒間鳴ります。アウトリガーシステムは調節されました。

注記：新しいアウトリガーレベル センサーが取り付けられた後、この手順に従って調節されなければなりません。

油圧タンク

3-1
油圧タンク

油圧タンクの主要機能は、作業中に作動油を冷却し、脱気することです。ポンプ供給管のための内部吸引ろ過器を利用し、外部リターンラインフィルターがあります。

油圧タンクの取り外し方法

注意 部品の損傷の危険。この手順を行う作業場とその床の表面は、清掃され油圧システムに入り込む破片などがないようにしなければなりません。

注記：ホース部品またはフィッティングを取り外す場合、フィッティングおよび（または）ホースの先の O リング（取り付けられている場合）を交換する必要があります。全ての接続は仕様に記載されているトルクで取り付ける必要があります。「仕様」の「油圧ホースおよびフィッティングのトルク仕様」を参照してください。

作業台を収納した状態でこの作業を行ってください。

1 バッテリーパックを機械から外します。

⚠ 警告 感電/やけどの危険帯電している回路に触れると、重傷を負ったり死に至ることがあります。指輪、時計などの装身具をすべて外してください。

2 油圧タンクのリターン強硬ラインに印をつけ、フィルターから取り外します。強硬ラインを機械から外します。フィルターヘッドのフィッテイングにキャップを付けます。

3 油圧タンクの強硬ラインに印をつけ、ポンプから取り外します。強硬ラインを機械から外します。ポンプのフィッティングにキャップを付けます。

4 油圧タンク固定ファスナーを取り外し、機械から油圧タンクを取り外します。

⚠ 警告 人体への傷害の危険。作動油が飛び散ると、皮膚に火傷を負うことがあります。油圧接続をゆっくりと緩めていき、オイルの圧力が徐々に下がるようにします。オイルが吹き出たり、散らないように注意してください。

5 油圧タンクのキャップを取り外し、タンクの中身を適切な容器に排出します。

トルク仕様	
油圧タンク固定ファスナー、ドライ	35 in-lbs 4 Nm
油圧タンク固定ファスナー、潤滑油付き	26 in-lbs 2.9 Nm

4-1
機能ポンプ

油圧ポンプは油圧電力ユニットを構成するモーター装着されています。

油圧ポンプのテスト方法

注記：ホース部品またはフィッティングを取り外す場合、フィッティングおよび（または）ホースの先の O リング（取り付けられている場合）を交換する必要があります。全ての接続は仕様に記載されているトルクで取り付ける必要があります。「仕様」の「油圧ホースおよびフィッティングのトルク仕様」を参照してください。

注意 部品の損傷の危険。この手順を行う作業場とその床の表面は、清掃され油圧システムに入り込む破片などがないようにしなければなりません。

1 高圧油圧ホースに印を付け、油圧ポンプから外して栓をします。

2 0 ～ 5000 psi/0 ～ 350 バールの圧力計をポンプの高圧ポートに接続します。

3 キースイッチを回して地上操作にし、地上操作と作業台操作の両方で赤色非常停止ボタンを引いて、ON(オン)の位置にします。

4 地上操作から作業台上昇機能を作動します。

⊙ 結果：圧力計が 3200 psi/221 バールを示している場合は、ただちにテストを停止してください。ポンプは正常な状態にあります。

⊠ 結果：圧力計が 3200 psi/221 バールに到達しない場合は、ポンプが正しく機能していないので、修理または交換が必要です。

注意 部品の損傷の危険。油圧ポンプには安全弁がないため、圧力が 3200 psi/221 バールを超えた場合、ポンプが損傷する場合があります。
ポンプをテストするとき、3200 psi/221 バールの圧力が確認されるまで1秒間隔でポンプを作動してください。そのときポンプに圧力をかけすぎないようにしてください。

5 圧力計を外し、油圧ホースを接続します。仕様で定められたトルクで回転します。

油圧ポンプ

油圧ポンプの取り外し方法

注記：ホース部品またはフィッティングを取り外す場合、フィッティングおよび（または）ホースの先の O リング（取り付けられている場合）を交換する必要があります。全ての接続は仕様に記載されているトルクで取り付ける必要があります。「仕様」の「油圧ホースおよびフィッティングのトルク仕様」を参照してください。

1 バッテリーパックを機械から外します。

⚠ 警告 感電/やけどの危険帯電している回路に触れると、重傷を負ったり死に至ることがあります。指輪、時計などの装身具をすべて外してください。

2 モーターコントローラの油圧電源ユニットケーブルに印を付け、取り外します。

3 フィルターヘッドの固定ブラケットからフィルターヘッドを取り外します。フィルターを油圧電源ユニットから回しながら取り外します。

4 油圧電源ユニットの固定ファスナーを取り外します。

5 油圧タンクの強硬ラインに印をつけ、ポンプから取り外して栓をします。ポンプのフィッティングにキャップを付けます。

6 高圧ホースに印を付け、ポンプから外して栓をします。ポンプのフィッティングにキャップを付けます。

⚠ 警告 人体への傷害の危険。作動油が飛び散ると、皮膚に火傷を負うことがあります。油圧接続をゆっくりと緩めていき、オイルの圧力が徐々に下がるようにします。オイルが吹き出たり、散らないように注意してください。

7 油圧電源ユニットを機械から取り外します。

8 ポンプ固定ボルトを外します。ポンプを慎重に取り外します。

⚠ 危険 転倒の危険。油圧ポンプを取り換えた後、機能速度設定を元の工場出荷時の仕様に戻すことは非常に重要です。機械を元の工場出荷時の仕様に戻すことを怠ると、機械が転倒し、重傷または死に至る可能性があります。

このページは、あえて空白にしてあります。

マニホールド

5-1
機能マニホールド部品 –
GS-1530、GS-1532、GS-1930 および GS-1932

機能マニホールドは機械底部のモジュールトレイの間に取り付けられています。

インデックス番号	説明	図中	機能	トルク
—	コイルナット（図中 F）	—	—	4-5 ft-lbs/5-7 Nm
—	コイルナット（図中 E および H）	—	—	5-7 ft-lbs/7-9 Nm
1	診断ポート	A	テストポート	—
2	確認ディスク	B	操舵回路	18 ft-lbs/24 Nm
3	安全弁、1800 ～ 3700 psi/124 ～ 255 バール	C	リフトリリーフ	20 ft-lbs/27 Nm
4	チェックバルブ、10 psi/0.7 バール	D	駆動回路	20 ft-lbs/27 Nm
5	電磁弁、3 ポジション 4 方向	E	走行前進/逆進	25 ft-lbs/34 Nm
6	電磁弁、3 ポジション 4 方向	F	操舵左/右	25 ft-lbs/34 Nm
7	流量レギュレータおよび安全弁、0.75 gpm/2.8 L/分 1500 psi/130 バール	G	操舵回路	26 ft-lbs/35 Nm
8	電磁弁、2 ポジション 4 方向	H	作業台上昇	25 ft-lbs/34 Nm
9	安全弁、3700 psi/255 バール最大	I	システム安全	20 ft-lbs/27 Nm

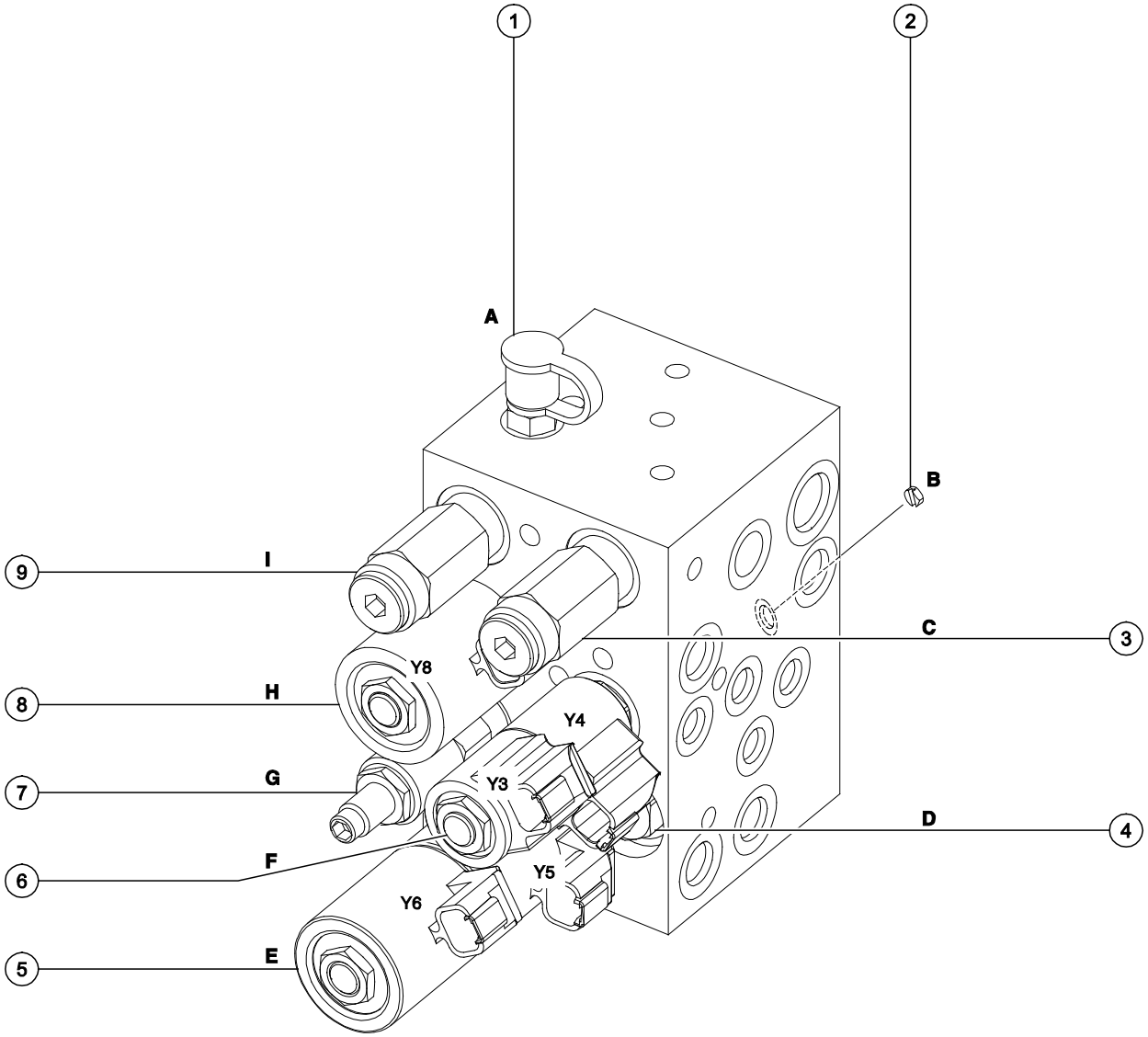
バルブカートリッジの取り付け方法

1 汚れのないきれいなオイルの中にカートリッジを沈めて、O リングに油を差します。

2 上部の O リングが合わさるまで、手でカートリッジを回してはめ込み、仕様で定められたトルクで回転します。

3 必要な場合は、バルブコイルをバルブ軸に取り付けます。コイルナットをバルブ軸に取り付け、仕様で定められたトルクで回転します。

マニホールド



注記:「英字」の付記は、油圧システムの図面にある注記に該当しています。

注記:「英数字」の付記は、電気回路の図面にある注記に該当しています。

マニホールド

5-2
機能マニホールド部品 –
GS-2032、GS-2632、GS-3232、GS-2046、GS-2646 および GS-3246

機能マニホールドは機械の地上操作側の点検口の裏側に設置されています。

インデックス番号	説明	図中	機能	トルク
—	コイルナット（図中 AC）	—	—	4-5 ft-lbs/5-7 Nm
—	コイルナット（図中 AE、AG および AI）	—	—	5-7 ft-lbs/7-9 Nm
1	診断ポート	AA	テストポート	—
2	安全弁、3700 psi/255 バール最大	AB	システム安全	20 ft-lbs/27 Nm
3	電磁弁、3 ポジション 4 方向	AC	操舵左/右	25 ft-lbs/34 Nm
4	チェックバルブ、（GS-3232 および GS-3246 負荷検出機能取り付け済）	AK	リフト回路	23 ft-lbs/31 Nm
5	確認ディスク	AD	操舵回路	18 ft-lbs/24 Nm
6	電磁弁、2 ポジション 4 方向	AE	走行速度セレクト回路	25 ft-lbs/34 Nm
7	安全弁、50 psi/3.4 バール	AF	ブレーキ解除	20 ft-lbs/27 Nm
8	電磁弁、3 ポジション 5 方向	AG	走行前進/逆進	25 ft-lbs/34 Nm
9	流量レギュレータおよび安全弁、0.75 gpm/2.8 L/分、1500 psi/103 バール	AH	操舵回路	26 ft-lbs/35 Nm
10	電磁弁、2 ポジション 4 方向	AI	作業台上昇	25 ft-lbs/34 Nm
11	安全弁、1800 ～ 3700 psi/124 ～ 255 バール	AJ	リフトリリーフ	20 ft-lbs/27 Nm

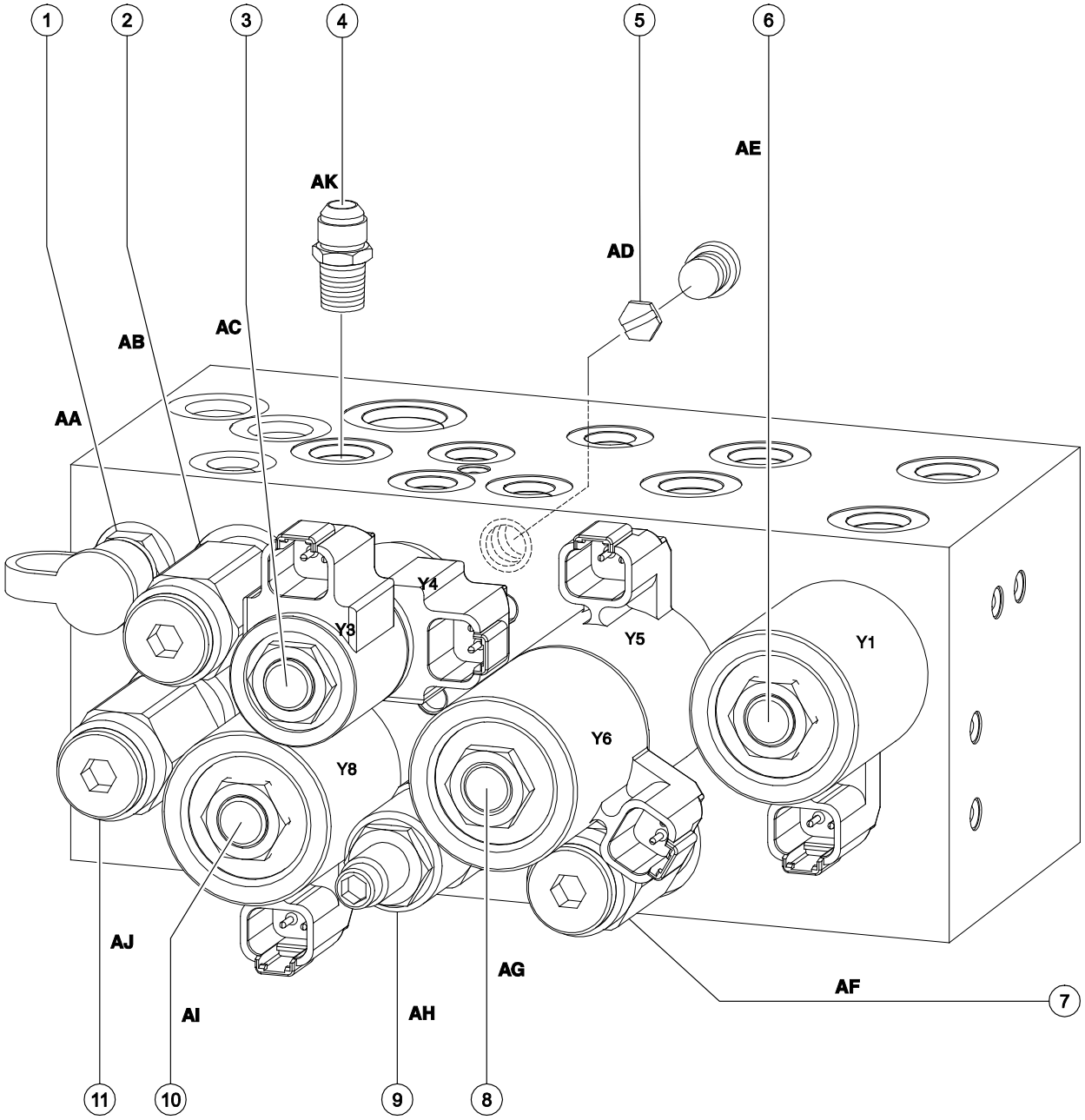
バルブカートリッジの取り付け方法

1 汚れのないきれいなオイルの中にカートリッジを沈めて、O リングに油を差します。

2 上部の O リングが合わさるまで、手でカートリッジを回してはめ込み、仕様で定められたトルクで回転します。

3 必要な場合は、バルブコイルをバルブ軸に取り付けます。コイルナットをバルブ軸に取り付け、仕様で定められたトルクで回転します。

マニホールド



注記:「英字」の付記は、油圧システムの図面にある注記に該当しています。

注記:「英数字」の付記は、電気回路の図面にある注記に該当しています。

マニホールド

5-3
機能マニホールド部品 – GS-4047

機能マニホールドは機械の地上操作側の点検口の裏側に設置されています。

インデックス番号	説明	図中	機能	トルク
—	コイルナット（図中 DC）	—	—	4-5 ft-lbs/5-7 Nm
—	コイルナット（図中 DE、DG および DI）	—	—	5-7 ft-lbs/7-9 Nm
1	診断ポート	DA	テストポート	—
2	安全弁、3500 psi/241 バール最大	DB	システム安全	20 ft-lbs/27 Nm
3	電磁弁、3 ポジション 4 方向	DC	操舵左/右	25 ft-lbs/34 Nm
4	確認ディスク	DD	操舵回路	18 ft-lbs/24 Nm
5	電磁弁、2 ポジション 4 方向	DE	走行速度セレクト回路	25 ft-lbs/34 Nm
6	安全弁、50 psi/3.4 バール	DF	ブレーキ解除	20 ft-lbs/27 Nm
7	電磁弁、3 ポジション 5 方向	DG	走行前進/逆進	25 ft-lbs/34 Nm
8	流量レギュレータおよび安全弁、 0.75 gpm/2.8 L/分 1500 psi/103 バール	DH	操舵回路	26 ft-lbs/35 Nm
9	電磁弁、2 ポジション 4 方向	DI	作業台上昇	25 ft-lbs/34 Nm
10	安全弁、3000 psi/207 バール	DJ	リフトリリーフ	20 ft-lbs/27 Nm

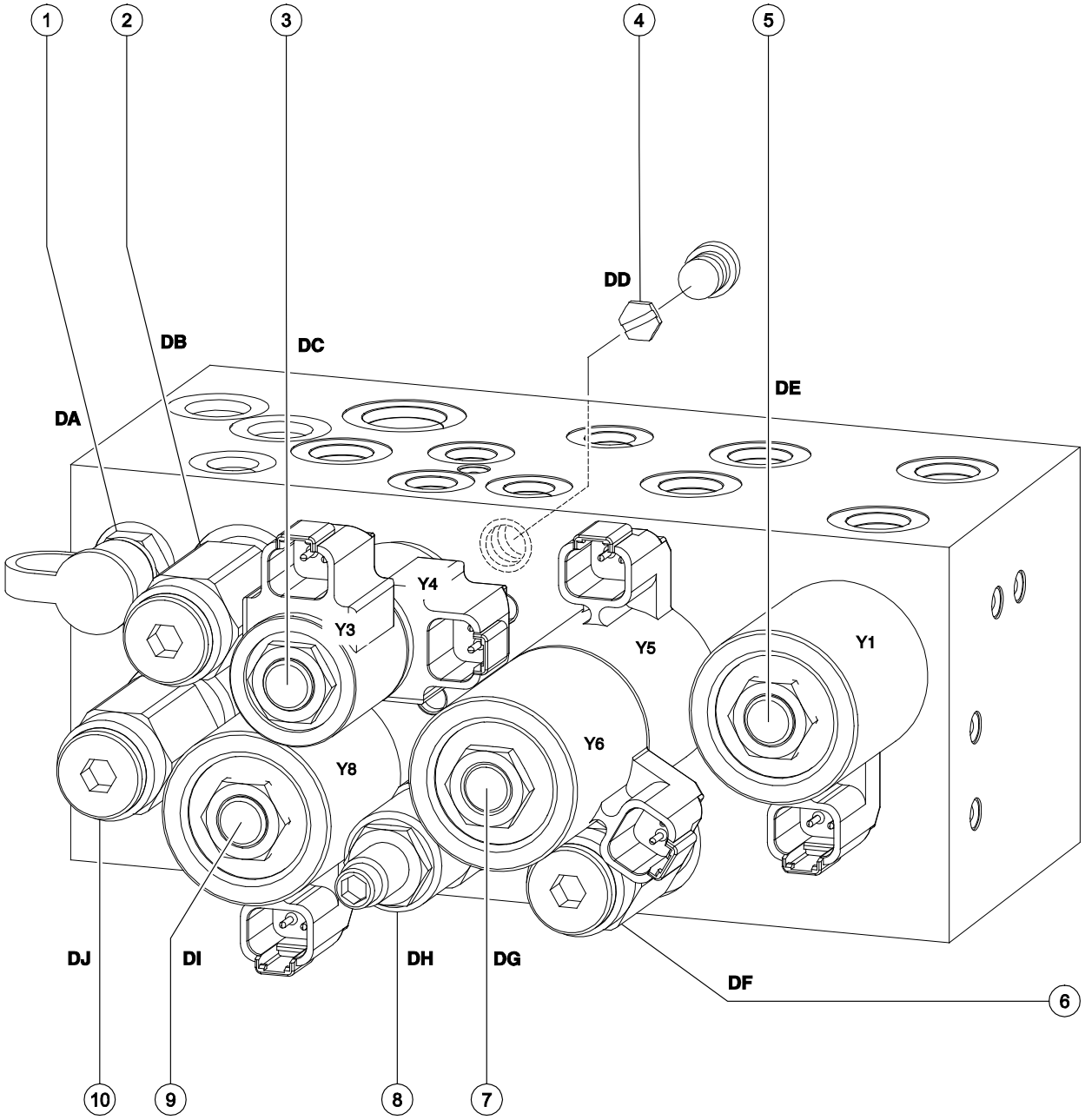
バルブカートリッジの取り付け方法

1 汚れのないきれいなオイルの中にカートリッジを沈めて、O リングに油を差します。

2 上部の O リングが合わさるまで、手でカートリッジを回してはめ込み、仕様で定められたトルクで回転します。

3 必要な場合は、バルブコイルをバルブ軸に取り付けます。コイルナットをバルブ軸に取り付け、仕様で定められたトルクで回転します。

マニホールド



注記:「英字」の付記は、油圧システムの図面にある注記に該当しています。

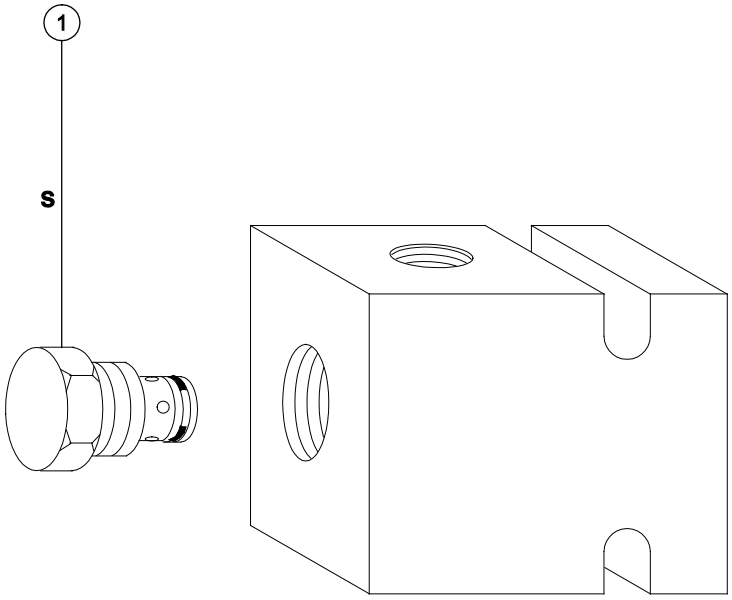
注記:「英数字」の付記は、電気回路の図面にある注記に該当しています。

マニホールド

5-4
チェックバルブマニホールド部品 – GS-1530、GS-1532、GS-1930 および GS-1932

チェックバルブマニホールドは機能マニホールドに設置されています。

インデックス番号	説明	図中	機能	トルク
1	チェックバルブ、200 psi/13.8 バール	S	駆動回路	20 ft-lbs/27 Nm



注記:「英字」の付記は、油圧システムの図面にある注記に該当しています。

バルブカートリッジの取り付け方法

1 汚れのないきれいなオイルの中にカートリッジを沈めて、O リングに油を差します。

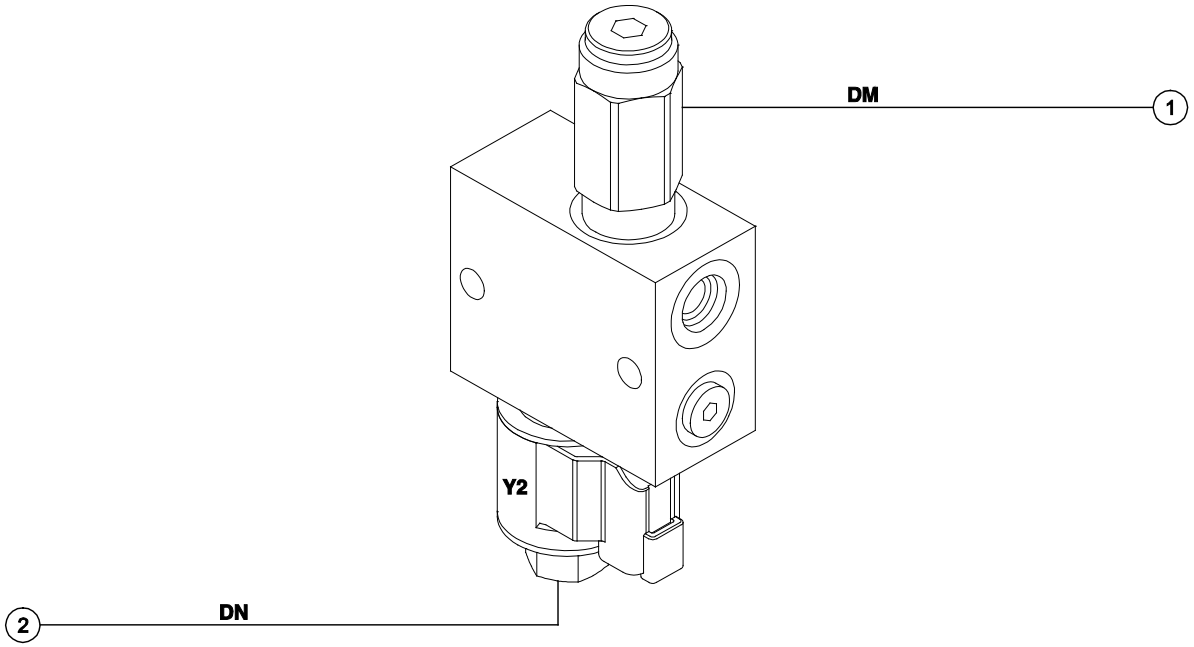
2 上部の O リングが合わさるまで、手でカートリッジを回してはめ込み、仕様で定められたトルクで回転します。

3 必要な場合は、バルブコイルをバルブ軸に取り付けます。コイルナットをバルブ軸に取り付け、仕様で定められたトルクで回転します。

5-5
リフト圧セレクターマニホールド部品 – GS-4047

リフト圧セレクターマニホールドは機械の地上操作側の点検口の裏側に設置されています。

インデックス番号	説明	図中	機能	トルク
—	コイルナット（図中 DN）	—	—	4-5 ft-lbs/5-7 Nm
—	プラグ	—	—	13 ft-lbs/18 Nm
1	リフト圧セレクター弁、200 psi/138 バール	DM	リフトリリーフ	20 ft-lbs/27 Nm
2	電磁弁、2 ポジション 2 方向	DN	リフト回路	20 ft-lbs/27 Nm



注記:「英字」の付記は、油圧システムの図面にある注記に該当しています。

注記:「英数字」の付記は、電気回路の図面にある注記に該当しています。

バルブカートリッジの取り付け方法

1 汚れのないきれいなオイルの中にカートリッジを沈めて、O リングに油を差します。

2 上部の O リングが合わさるまで、手でカートリッジを回してはめ込み、仕様で定められたトルクで回転します。

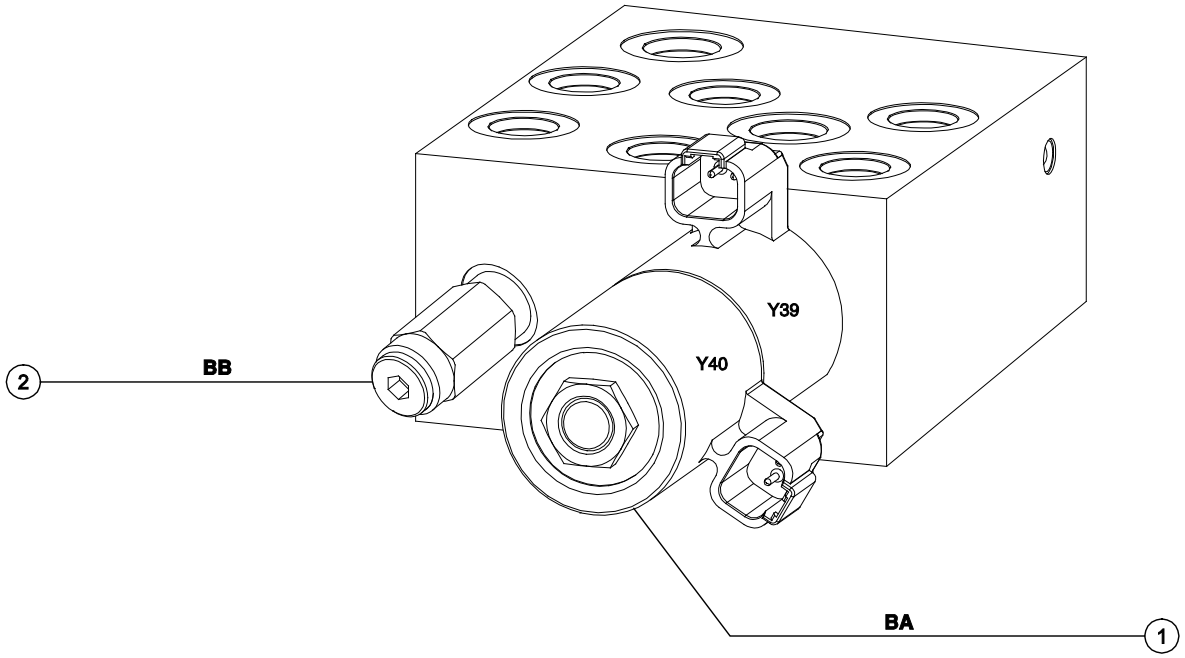
3 必要な場合は、バルブコイルをバルブ軸に取り付けます。コイルナットをバルブ軸に取り付け、仕様で定められたトルクで回転します。

マニホールド

5-6
アウトリガー機能マニホールド部品 – GS-3232

アウトリガー機能マニホールドは機械のバッテリー側の点検口の裏側に設置されています。

インデックス番号	説明	図中	機能	トルク
—	コイルナット（図中 BA）	—	—	4-5 ft-lbs/5-7 Nm
1	電磁弁、3 ポジション 4 方向	BA	アウトリガー延長/収縮	25 ft-lbs/34 Nm
2	安全弁、3500 psi/241 バール最大	BB	アウトリガー回路	20 ft-lbs/27 Nm



注記:「英字」の付記は、油圧システムの図面にある注記に該当しています。

注記:「英数字」の付記は、電気回路の図面にある注記に該当しています。

バルブカートリッジの取り付け方法

1 汚れのないきれいなオイルの中にカートリッジを沈めて、O リングに油を差します。

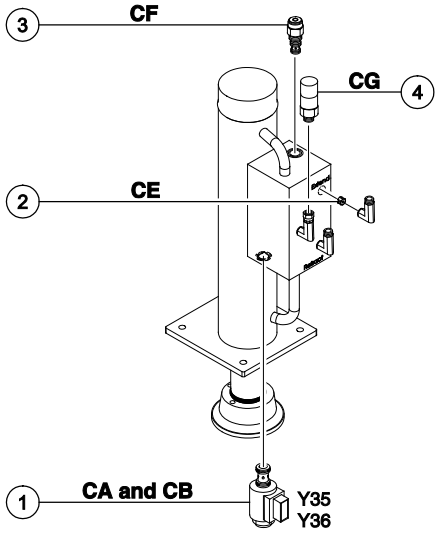
2 上部の O リングが合わさるまで、手でカートリッジを回してはめ込み、仕様で定められたトルクで回転します。

3 必要な場合は、バルブコイルをバルブ軸に取り付けます。コイルナットをバルブ軸に取り付け、仕様で定められたトルクで回転します。

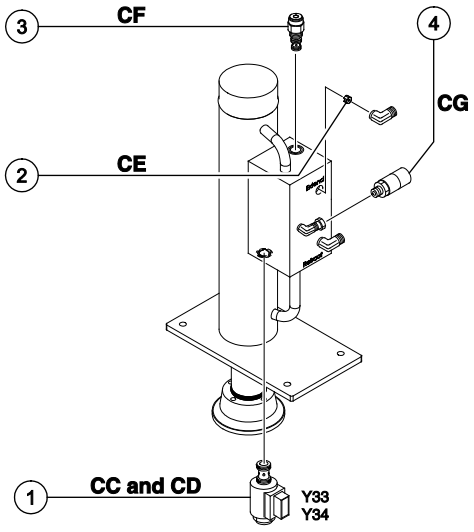
5-7
アウトリガーシリンダーマニホールド部品 – GS-3232

アウトリガー機能マニホールドは機械のバッテリー側の点検口の裏側に設置されています。

インデックス番号	説明	図中	機能	トルク
—	コイルナット（図中 CA、CB、CC、CD）	—	—	4-5 ft-lbs/5-7 Nm
1	電磁弁、2 ポジション 2 方向	CA、CB、CC、CD	アウトリガー延長/収縮	25 ft-lbs/34 Nm
2	オリフィスプラグ、0.037 インチ/0.94 mm	CE	アウトリガー収縮	—
3	チェックバルブ、パイロット操作	CF	収縮フロー制御	20 ft-lbs/27.1 Nm
4	圧力変換器	CG	アウトリガー自動レベル	16 ft-lbs/21.7 Nm



前方アウトリガー



後方アウトリガー

注記:「英字」の付記は、油圧システムの図面にある注記に該当しています。

注記:「英数字」の付記は、電気回路の図面にある注記に該当しています。

バルブカートリッジの取り付け方法

1 汚れのないきれいなオイルの中にカートリッジを沈めて、O リングに油を差します。

2 上部の O リングが合わさるまで、手でカートリッジを回してはめ込み、仕様で定められたトルクで回転します。

3 必要な場合は、バルブコイルをバルブ軸に取り付けます。コイルナットをバルブ軸に取り付け、仕様で定められたトルクで回転します。

マニホールド

5-8 弁調整 - 機能マニホールド

このテストは地上から作業台操作で行ってください。作業台には立たないでください。

作動油の量は油圧タンクで FULL（満タン）になっているように確認してください。

システム安全弁の調節方法

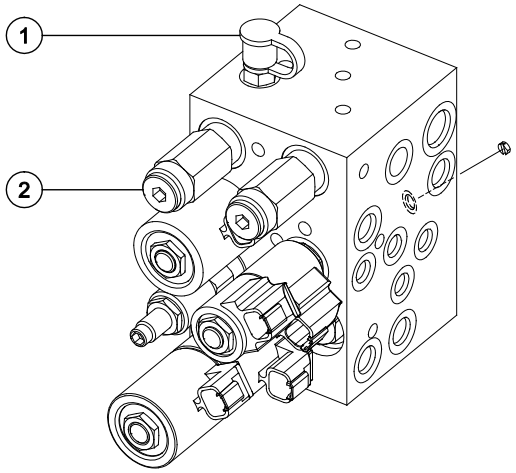
1 機能マニホールド（図中 I、AB または DB）のシステム安全弁を確認します。

2 0 ～ 5000 psi/0 ～ 350 バールの圧力計を機能マニホールドのテストポートに接続します。（図中 A、AA または DA）

3 機械のステアリング側の両方のホイールをブロックで留めます。

4 作業台より作業台操作を取り外します。

5 キースイッチを回して作業台操作にし、地上操作と作業台操作の両方で赤色非常停止ボタンを引いて、ON(オン)の位置にします。



GS-1530/32 および GS-1930/32

1 テストポート
2 システム安全弁

6 ジョイスティックをどちらかの方向にいっぱいに動かしたまま、圧力計に示される圧力を確認します。圧力を記録します。セクション 2 の「仕様」を参照してください。

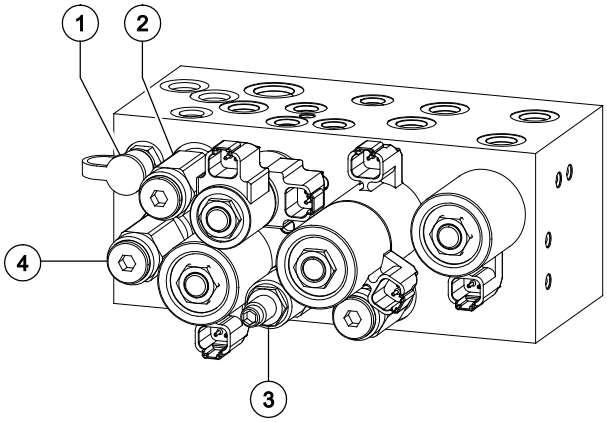
7 機械の電源を切ります。システム安全弁をレンチで押さえ、キャップを取り外します。（図中 I、AB または DB）

8 内側六角ソケットを調節します。圧力を上げるには時計回りに、下げる場合は反時計回りに回します。

⚠ 危険 転倒の危険。仕様に従って安全弁を調節しない場合には、機械が転倒し、重傷を負ったり死に至る可能性があります。安全弁の圧力を仕様の指定よりも高く調節しないでください。

9 安全弁キャップを付けます。

10 安全弁の圧力を確認するため、ステップ 5 からステップ 6 までを繰り返します。



GS-32、GS-46 および GS-47

1 テストポート
2 システム安全弁
3 ステアリング安全弁
4 リフト安全弁

作業台リフト安全弁の調節方法

注記：このテストは地上から作業台操作で行ってください。作業台には立たないでください。

注記：作動油の量は油圧タンクで FULL（満タン）になっているように確認してください。

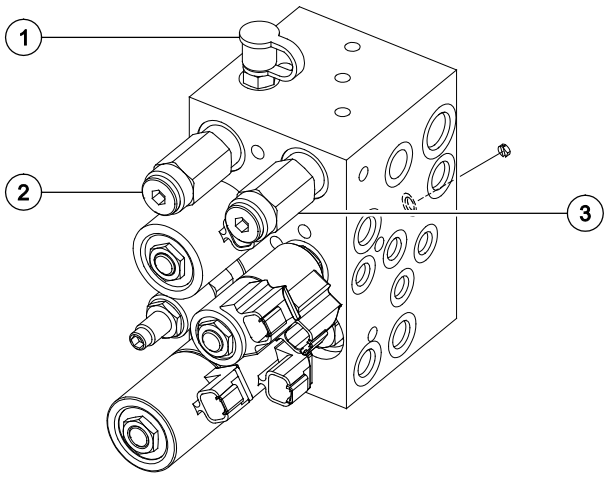
1 機能マニホールド（図中 I、AB または DB）のシステム安全弁を確認します。

2 0 ～ 5000 psi/0 ～ 350 バールの圧力計を機能マニホールドのテストポートに接続します。（図中 A、AA または DA）

3 機械のステアリング側の両方のホイールをブロックで留めます。

4 作業台より作業台操作を取り外します。

5 キースイッチを回して作業台操作にし、地上操作と作業台操作の両方で赤色非常停止ボタンを引いて、ON(オン)の位置にします。



GS-1530/32 および GS-1930/32

1 テストポート
2 システム安全弁
3 リフト安全弁

マニホールド

6 ジョイスティックをどちらかの方向にいっぱいに動かしたまま、圧力計に示される圧力を確認します。圧力を記録します。セクション 2 の「仕様」を参照してください。

7 機械の電源を切ります。システム安全弁をレンチで押さえ、キャップを取り外します。（図中 I、AB または DB）

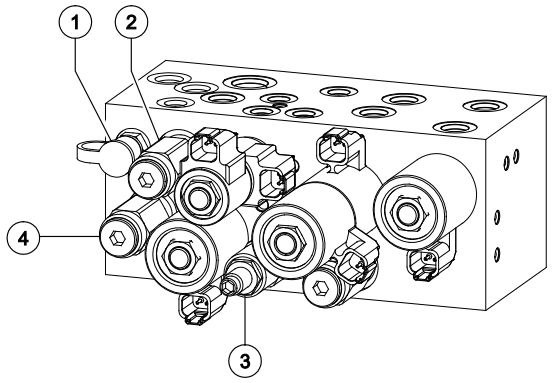
8 内側六角ソケットを調節します。圧力を上げるには時計回りに、下げる場合は反時計回りに回します。

⚠ 危険 転倒の危険。仕様に従って安全弁を調節しない場合には、機械が転倒し、重傷を負ったり死に至る可能性があります。安全弁の圧力を仕様の指定よりも高く調節しないでください。

9 安全弁キャップを付けます。

10 安全弁の圧力を確認するため、ステップ 5 からステップ 6 までを繰り返します。

11 作業台に最大積載重量の負荷をかけます。積荷を作業台に固定してください。セクション 2 の「仕様」を参照してください。



GS-32、GS-46 および GS-47

1 テストポート
2 システム安全弁
3 ステアリング安全弁
4 リフト安全弁

12 キースイッチを回して地上操作にし、地上操作と作業台操作の両方で赤色非常停止ボタンを引いて、ON(オン)の位置にします。

13 リフト安全弁をレンチで押さえ、キャップを取り外します。（図中 C、AJ または DJ）

14 作業台上昇機能を作動させるときは、内側六角ソケットを時計回りに回し、作業台が完全に上昇するまで調節します。

15 作業台を収納位置まで完全に下げます。

16 作業台にさらに 50 パウンド/22.7 kg の負荷を追加します。追加した負荷を固定します。

17 作業台を上昇させようとしてください。

⊙ 結果：電力ユニットは、作業台を上昇**できない**はずです。

⊠ 結果：作業台が上昇してしまう場合は、作業台が上がらなくなるまで内側六角ソケットを反時計回りに回して調節します。

18 安全弁キャップを付けます。

19 重量を作業台から外します。

20 作業台を完全に上まであげて、油圧システムから作動油を抜きます。ポンプにキャビテーションが発生したり、作業台が完全に上まで上昇しない場合は、ポンプが正常に機能するまで作動油を加えます。油圧タンクから作動油があふれないように注意してください。

リフト圧セレクター の調節方法 （GS-4047 のみ）

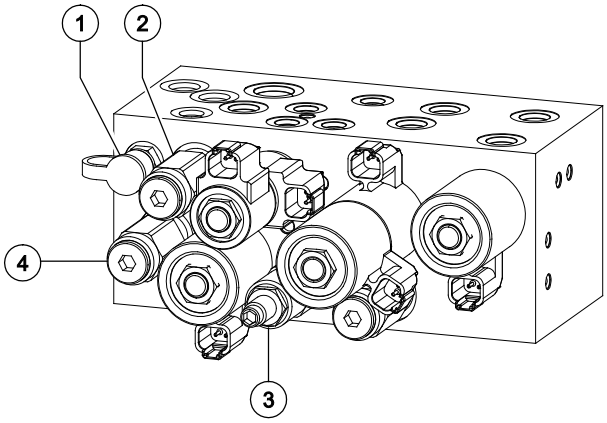
注記:リフト圧セレクター弁を調節する前に、システム安全弁と作業台リフト安全弁を調節する必要があります。このセクションの「システム安全弁の調節方法」および「作業台リフト安全弁の調節方法」を参照してください。

注記:このテストは地上から作業台操作で行ってください。作業台には立たないでください。

作動油の量は油圧タンクで FULL（満タン）になっているように確認してください。

1 圧力セレクターマニホールド（図中 DM）の圧力セレクター安全弁を確認します。

2 0 ～ 5000 psi/0 ～ 350 バールの圧力計を機能マニホールドのテストポートに接続します。（図中 DA）



GS-32、GS-46 および GS-47

1 テストポート
2 システム安全弁
3 ステアリング安全弁
4 リフト安全弁

3 適切なリフト機材を使用して、作業台デッキの中心に最大積載重量の負荷を設置し、固定します。

最大負荷、GS-4047	
GS-4047 （CE および AS モデル）	770 lbs 350 kg
GS-4047 （ANSI および CSA モデル）	550 lbs 250 kg

4 作業台より作業台操作を取り外します。

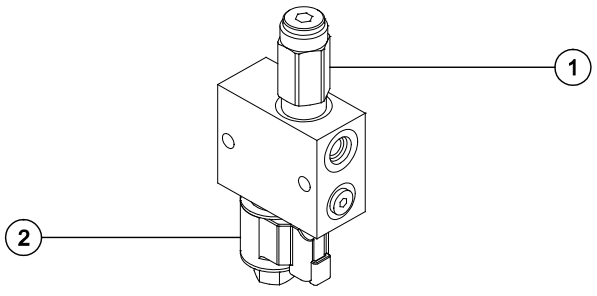
5 キースイッチを回して作業台操作にし、地上操作と作業台操作の両方で赤色非常停止ボタンを引いて、ON(オン)の位置にします。

6 リフト機能作動ボタンを押し続け、作業台上昇ボタンを押して作業台を収納位置よりも上になる 4 フィート/1.2 m まで上昇させます。

⊙ 結果:作業台は上昇しません。ステップ 7 から 10 までを実施し、作業台が上昇するまで、少しずつ圧力を上げてゆきます。その後、ステップ 12 に進みます。

⊙ 結果:作業台は上昇します。ステップ 7 から 10 までを実施し、作業台が上昇しなくなるまで、少しずつ圧力を下げてゆきます。ステップ 7 から 10 までを実施し、作業台が上昇可能になるまで、少しずつ圧力を上げてゆきます。

7 機械の電源を切ります。リフト圧セレクター弁をレンチで押さえ、キャップ（図中 DM）を取り外します。



GS-4047

1 リフト圧セレクター弁
2 電磁弁

マニホールド

8 内側六角ソケットを調節します。圧力を上げるには時計回りに、下げる場合は反時計回りに回します。

⚠ 危険 転倒の危険。仕様に従って安全弁を調節しない場合には、機械が転倒し、重傷を負ったり死に至る可能性があります。安全弁の圧力を仕様の指定よりも高く調節しないでください。

9 安全弁キャップを付けます。

10 作業台を収納位置まで完全に下げます。

11 適切なリフト機材を使用し、さらに 150 lbs/68 kg の負荷を作業台デッキに追加し、固定します。

12 作業台を上昇させます。

⊙ 結果:作業台は上昇しません。手順 13 に進みます。

⊙ 結果:作業台は上昇します。ステップ 7 から 10 までを実施し、作業台が上昇しなくなるまで、少しずつ圧力を下げてゆきます。

13 作業台を収納位置まで完全に下げます。

14 適切なリフト機材を使用して、作業台から負荷を取り外します。

ステアリング安全弁の調節方法

注記:このテストは地上から作業台操作で行ってください。作業台には立たないでください。

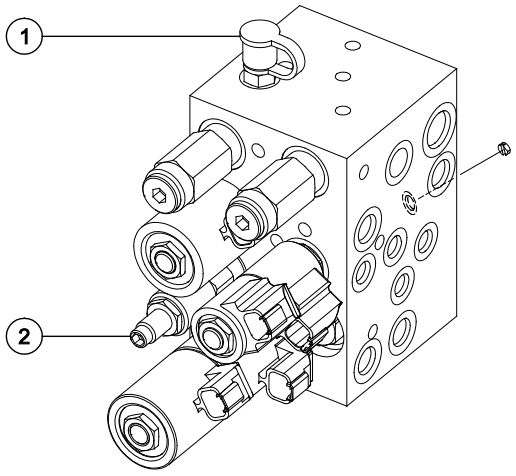
注記:作動油の量は油圧タンクで FULL(満タン)になっているように確認してください。

1 機能マニホールド(図中 G、AH または DH)のステアリング安全弁を確認します。

2 0 ～ 5000 psi/0 ～ 350 バールの圧力計を機能マニホールドのテストポートに接続します。(図中 A、AA または DA)

3 作業台より作業台操作を取り外します。

4 キースイッチを回して作業台操作にし、地上操作と作業台操作の両方で赤色非常停止ボタンを引いて、ON(オン)の位置にします。



GS-1530/32 および GS-1930/32

1 テストポート
2 ステアリング安全弁

マニホールド

5 機能作動スイッチを起動し、ステアリングサムロッカースイッチを右に押し続けます。ホイールを完全に右に向けます。圧力計の圧力表示を確認している間、スイッチを押し続けます。圧力を記録します。セクション 2 の「仕様」を参照してください。

6 ステアリングサムロッカースイッチを押したままの状態にします。ホイールを完全に左に向けます。圧力計の圧力表示を確認している間、スイッチを押し続けます。

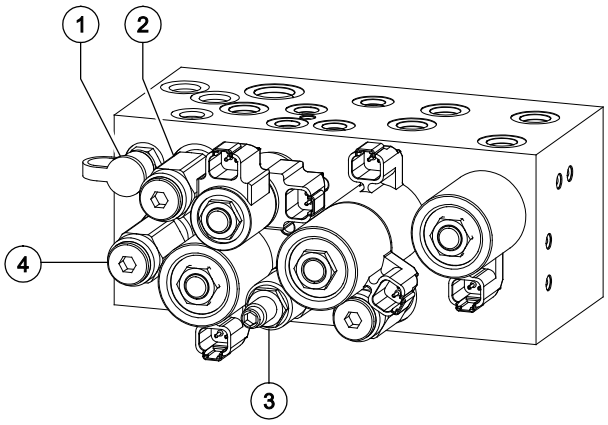
7 機械の電源を切ります。ステアリング安全弁をレンチで押さえ、キャップを取り外します。（図中 G、AH または DH）

8 内側六角ソケットを調節します。圧力を上げるには時計回りに、下げる場合は反時計回りに回します。

注意 部品の損傷の危険。安全弁の圧力を仕様の指定よりも高く調節しないでください。

9 安全弁キャップを付けます。

10 安全弁の圧力を確認するため、ステップ 5 からステップ 6 までを繰り返します。



GS-32、GS-46 および GS-47

1 テストポート
2 システム安全弁
3 ステアリング安全弁
4 リフト安全弁

マニホールド

5-9
弁コイル

コイルのテスト方法

正確に作動するコイルは電磁力を与えて電磁弁を作動させます。コイル内の電気的導通は通常の操作に不可欠です。ゼロ抵抗または無限抵抗は、コイルが機能していないことを示します。

コイル抵抗は温度に影響を受けるため、仕様以外の抵抗値は不安定な動作になります。コイル抵抗が仕様よりも低くなると、アンペア数が上がります。抵抗値が仕様よりも上になると、電圧が上がります。

コイル抵抗が仕様範囲外でもバルブが作動することがありますが、仕様範囲内にコイルを維持するようにすることは、広範囲の運転温度であっても正確なバルブ機能を確実にするために役立ちます。

⚠ 警告 感電/やけどの危険帯電している回路に触れると、重傷を負ったり死に至ることがあります。指輪、時計などの装身具をすべて外してください。

注記：機械がすでに運転中の場合には、このテストを実施する前にコイルを最低 3 時間クールダウンしてください。

1 テストするコイルの配線に印をつけてから、外します。

2 抵抗用のマルチメーターセット（W）を使用してコイル抵抗をテストします。バルブコイル抵抗の仕様表を参照します。

⊙ 結果：抵抗が調節された仕様内でない場合、10% を加減し、コイルを交換します。

バルブコイル抵抗の仕様

注記：以下のコイル抵抗仕様は周囲温度が 68°F/20°C の場合です。バルブコイル抵抗は周囲温度の変化に影響を受けるため、通常、周囲温度が 68°F/20°C から上昇または下降する場合に 18°F/-7.7°C の変化につきコイル抵抗には 4% の増減が起きます。

説明	仕様
電磁弁、3 ポジション 4 方向、20V DC ダイオード有（図中 F、AC または DC）	27.2Ω
電磁弁、3 ポジション 4 方向、20V DC ダイオード有（図中 E）	19Ω
電磁弁、2 ポジション 4 方向、20V DC ダイオード有（図中 H、AI または DI）	19Ω
電磁弁、2 ポジション 2 方向、N.C. 20V DC ダイオード有（図中 N）	25Ω
電磁弁、2 ポジション 4 方向、20V DC ダイオード有（図中 AE または DE）	19Ω
電磁弁、3 ポジション 5 方向、20V DC ダイオード有（図中 AG または DG）	19Ω
電磁弁、2 ポジション 2 方向、20V DC ダイオード有（図中 CA、CB、CC および CD）	27.2Ω
電磁弁、3 ポジション 4 方向、20V DC ダイオード有（図中 BA）	19Ω
比例電磁弁、2 ポジション 2 方向、20V DC ダイオード有（図中 DN）	23.9Ω

コイルダイオードのテスト方法

Genie 製品はコイルすべてにスパイク抑制ダイオードを組み込んでいます。適切に機能しているコイルダイオードは電圧スパイクの抑制によって、電気回路を保護します。電圧スパイクはコイルへの電流障害により作動中の回路内で自然に発生します。不適切なダイオードは電気システムの保護ができず、回路ブレーカーが妨害を受けたり、部品の損傷を引き起こします。

⚠ 警告 感電/やけどの危険帯電している回路に触れると、重傷を負ったり死に至ることがあります。指輪、時計などの装身具をすべて外してください。

1 コイル抵抗をテストしてください。このセクションのにある「コイルのテスト方法」を参照してください。

2 10Ω の抵抗器を 9V DC バッテリーの負端末に接続します。抵抗器のもう一方の端をコイルに接続します。

注記：端末全体を測定したときに、バッテリーは 9V DC またはそれ以上を示さなければなりません。

抵抗器、10Ω

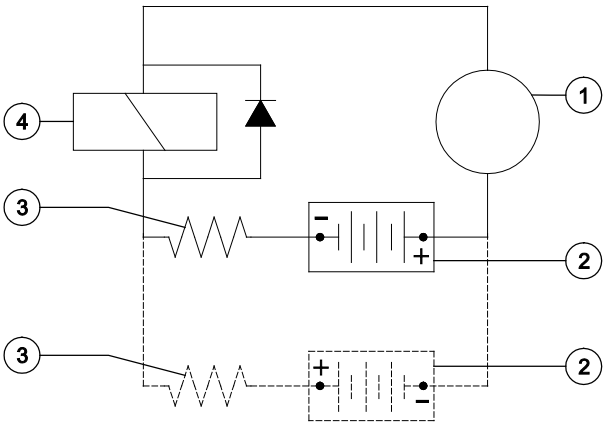
Genie 部品番号	27287

3 マルチメーターを設置し、DC アンペア数を読み取ります。

注記：DC アンペア数を読み取るようにマルチメーターを設定するときには、800 mA まで読み取れるようにしなければなりません。

4 負極側のリード線をコイルのもう一方の端に接続します。

注記：単一端末コイルをテストする場合には、負極側のリード線をコイル端末のいずれか一方の内側の金属製リングに接続します。



1 マルチメーター
2 9V DC バッテリー
3 10Ω 抵抗器
4 コイル

注記：図の点つきの線はステップ 6 で指示されている逆の接続を示しています。

5 すぐにマルチメーターの正極リード線を 9V バッテリーの正極端末に接続します。数値を確認して記録します。

6 バッテリーまたはコイル端末で、逆に接続します。電流値を確認して記録します。

⊙ 結果：両方の電流値は 0 mA 以上で、最低で 20% の違いがあります。コイルは正常な状態です。

⊠ 結果：1 つまたは両方の電流値が 0 mA 以上である、または両方の電流値が最低 20% の違いがない場合には、コイルおよびその内部ダイオードには欠陥があり、交換の必要があります。

ステアリング軸の構成

6-1
ヨークおよび走行モーター

ヨークとモーターの取り外し方法

注記：ホース部品またはフィッティングを取り外す場合、フィッティングおよび（または）ホースの先の O リング（取り付けられている場合）を交換する必要があります。全ての接続は仕様に記載されているトルクで取り付ける必要があります。「仕様」の「油圧ホースおよびフィッティングのトルク仕様」を参照してください。

1 非ステアリングタイヤをブロックで留めます。

2 コッターピンをみぞ付きナットから外します。

注記：みぞ付きナットを外すときは、必ずコッターピンを新しいものに取り替えてください。

3 みぞ付きナットを緩めます。このときに外さないように注意してください。

4 リフトジャッキをステアリング側の走行シャーシの下の中央に置きます。

5 機械を約 6 インチ/15 cm 上げます。シャーシの下にブロックを置いて支えます。

⚠ 警告 手のケガの危険シャーシが適切に支えられていないと落下することがあります。

6 みぞ付きナットを外します。ホイールを取り外します。

7 走行モータの油圧ホースに印をつけ、取り外して栓をします。走行モーターのフィッティングにキャップを付けます。

⚠ 警告 人体への傷害の危険。作動油が飛び散ると、皮膚に火傷を負うことがあります。油圧接続をゆっくりと緩めていき、オイルの圧力が徐々に下がるようにします。オイルが吹き出たり、散らないように注意してください。

注意 部品の損傷の危険。ホースがよじれたり挟まれたりすると損傷することがあります。

8 ヨークを適切なリフト機材へ支えて固定させます。

9 固定ファスナーをヨークのステアリングリンクから外します。

注記：固定ファスナーを取り外している間、ヨークからステアリングリンクを取り外すときには、スペーサーの数と位置を記録しておきます。

10 固定ファスナーをヨークピボットシャフトの上から外します。

注記：ピボットシャフト固定ファスナーはメイン デッキの上にあります。

11 シャーシからヨークを下げます。

⚠ 要注意 人体への傷害の危険。ヨークあるいはモータが適切に支えられていないと、シャーシから外すときに落下することがあります。

走行モーターの取り外し方法

1 非ステアリングタイヤをブロックで留めます。

2 取り外すモーターのみぞ付きナットからコッターピンを外します。

3 注記:みぞ付きナットを外すときは、必ずコッターピンを新しいものに取り替えてください。

4 みぞ付きナットを緩めます。このときに外さないように注意してください。

5 機械を約 2 インチ/5 cm 上げます。シャーシの下にブロックを置いて支えます。

⚠ 警告 手のケガの危険シャーシが適切に支えられていないと落下することがあります。

6 みぞ付きナットを外します。ホイールを取り外します。

7 走行モータの油圧ホースに印をつけ、取り外して栓をします。走行モーターのフィッティングにキャップを付けます。

⚠ 警告 人体への傷害の危険。作動油が飛び散ると、皮膚に火傷を負うことがあります。油圧接続をゆっくりと緩めていき、オイルの圧力が徐々に下がるようにします。オイルが吹き出たり、散らないように注意してください。

注意 部品の損傷の危険。ホースがよじれたり挟まれたりすると損傷することがあります。

8 走行モーター取り付けファスナーを外します。モーターを取り外します。

トルク仕様	
走行モーター固定ファスナー、ドライ	75 ft-lbs 101.7 Nm
走行モーター固定ファスナー、潤滑油付き	56 ft-lbs 76.3 Nm

6-2 ステアリングシリンダー

ステアリングシリンダーの取り外し方法

注記:ホース部品またはフィッティングを取り外す場合、フィッティングおよび(または)ホースの先の O リング(取り付けられている場合)を交換する必要があります。全ての接続は仕様に記載されているトルクで取り付ける必要があります。「仕様」の「油圧ホースおよびフィッティングのトルク仕様」を参照してください。

1 非ステアリングタイヤをブロックで留めます。

2 ピン固定ファスナーをロッド側のピボットピンから外します。ピボットピンを外します。

注記:ピン固定ファスナーを取り外している間、ピボットピンを取り外すときには、スペーサーの数と位置を記録しておきます。

3 ピン固定ファスナーをドラム側のピボットピンから外します。ピンを外します。

注記:ピン固定ファスナーを取り外している間、ピボットピンを取り外すときには、スペーサーの数と位置を記録しておきます。

4 ステアリングシリンダーを機械から外します。

5 油圧ホースに印をつけ、ステアリングシリンダーから取り外して栓をします。シリンダーのフィッティングにキャップを付けます。

⚠ 警告 人体への傷害の危険。作動油が飛び散ると、皮膚に火傷を負うことがあります。油圧接続をゆっくりと緩めていき、オイルの圧力が徐々に下がるようにします。オイルが吹き出たり、散らないように注意してください。

注意 部品の損傷の危険。ホースがよじれたり挟まれたりすると損傷することがあります。

ステアリング軸の構成

6-3
ステアリングベルクランク

ステアリングベルクランクの取り外し方法

1 ステアリングシリンダーを取り外します。の「ステアリングシリンダーの取り外し方法」を参照してください。

2 ベルクランクの両端のステアリング リンクから固定ファスナーを外します。

注記：固定ファスナーを取り外している間、ベルクランクとステアリングリンクの間のスペーサーの数と位置を記録しておきます。

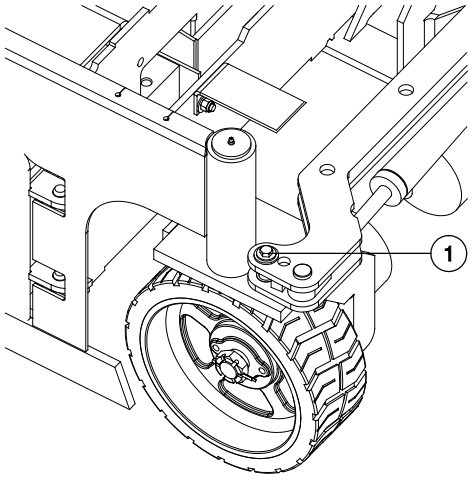
3 リフトジャッキをステアリング側の走行シャーシの下の中央に置きます。

4 機械を約 14 インチ/36 cm 上げます。シャーシの下にブロックを置いて支えます。

⚠ 警告 手のケガの危険シャーシが適切に支えられていないと落下することがあります。

5 ベルクランクが取り外せるよう、ヨークを横に回します。

6 ベルクランクを機械から外します。



1 取り外し可能なスレッドロックをファスナースレッドに合わせます。

注記：機械からベルクランクを取り外している間、ベルクランクとステアリングリンクの間のスペーサーの数と位置を記録しておきます。

注記：再度ステアリングベルクランクを機械に取り付ける前に、少量のロックタイトをファスナーのねじ山に塗ってください。ファスナーを 31 ft-lbs/42 Nm のトルクで締めます。

7-1
走行ブレーキ

走行ブレーキの取り外し方法

注記：ホース部品またはフィッティングを取り外す場合、フィッティングおよび（または）ホースの先の O リング（取り付けられている場合）を交換する必要があります。全ての接続は仕様に記載されているトルクで取り付ける必要があります。「仕様」の「油圧ホースおよびフィッティングのトルク仕様」を参照してください。

1 出入口用はしごを適切なリフト機材へ支えて固定させます。

2 出入口用はしご固定ファスナーを取り外します。出入口用はしごを機械から外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険出入口用はしごがリフト機材に適切に固定されていないと、落下します。

3 ステアリングホイールをブロックで留めます。

4 コッターピンをみぞ付きナットから外します。

注記：みぞ付きナットを外すときは、必ずコッターピンを新しいものに取り替えてください。

5 みぞ付きナットを緩めます。このときに外さないように注意してください。

6 リフトジャッキを非ステアリング側の走行シャーシの下の中央に置きます。

7 機械を約 2 インチ/5 cm 上げます。シャーシの下にブロックを置いて支えます。

⚠ 警告 手のケガの危険シャーシが適切に支えられていないと落下することがあります。

8 みぞ付きナットを外します。ホイールを取り外します。

9 油圧ホースに印を付け、ブレーキから外して栓をします。ブレーキ上のフィッティングにキャップを付けます。

⚠ 警告 人体への傷害の危険。作動油が飛び散ると、皮膚に火傷を負うことがあります。油圧接続をゆっくりと緩めていき、オイルの圧力が徐々に下がるようにします。オイルが吹き出たり、散らないように注意してください。

10 ブレーキの下にリフトジャッキを置いて支えます。

11 ブレーキを走行シャーシに接続しているファスナーを外します。ブレーキを外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険ブレーキを適切に支えていないと、取り付けファスナーを外すときに、落下することがあります。

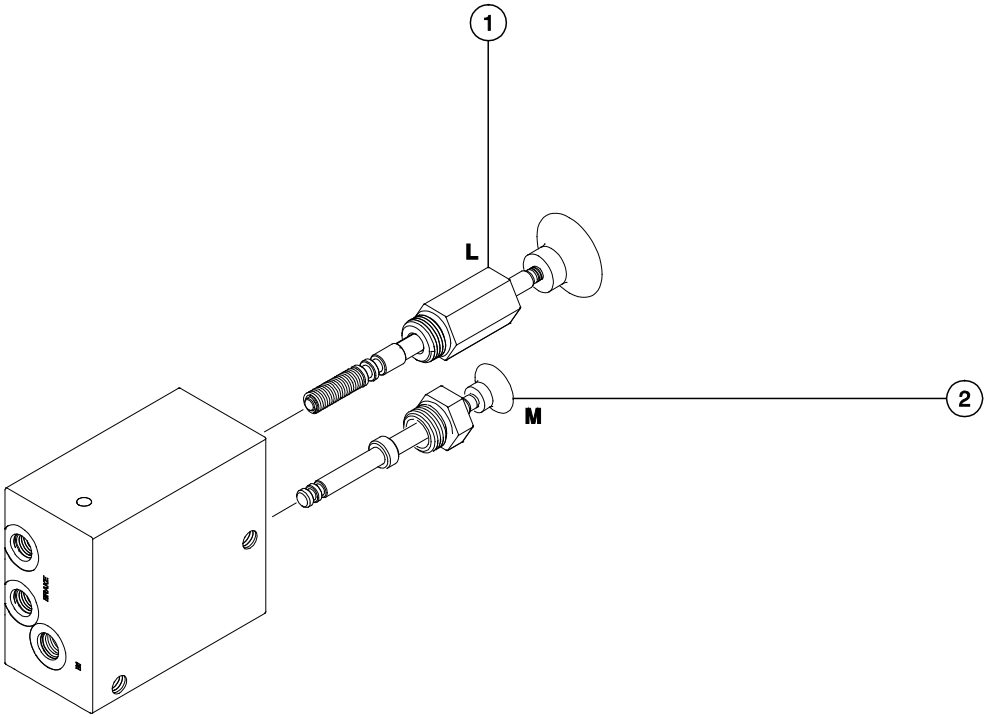
トルク仕様	
ブレーキ固定ファスナー、ドライ	75 ft-lbs 102 Nm
ブレーキ固定ファスナー、潤滑油付き	56 ft-lbs 76 Nm

ブレーキ解除携帯ポンプの構成

8-1
ブレーキ解除携帯ポンプの構成

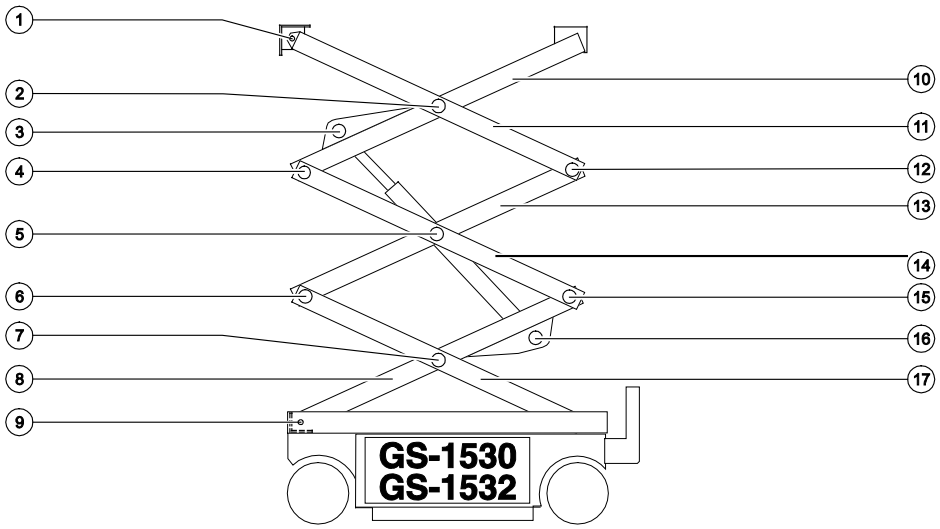
ブレーキ解除ハンドポンプマニホールドは、出入口用はしごの裏側に設置されています。

インデックス番号	説明	図中	機能	トルク
1	携帯ポンプ	L	手動ブレーキ解除	30 ft-lbs/41 Nm
2	ニードル弁	M	手動ブレーキ解除の作動	45-50 in-lbs/5 Nm



注記:「英字」の付記は、油圧システムの図面にある注記に該当しています。

シザースの構成



ステアリング側	非ステアリング側
1 – 第 4 ピボットピン	10 – 第 3 内側アーム
2 – 第 3 中央ピボットピン（2 ピン）	11 – 第 3 外側アーム
3 – リフトシリンダーロッド側ピボットピン	12 – 第 3 ピボットピン（非ステアリング側）
4 – 第 3 ピボットピン（ステアリング側）	13 – 第 2 内側アーム
5 – 第 2 中央ピボットピン（2 ピン）	14 – 第 2 外側アーム
6 – 第 2 ピボットピン（ステアリング側）	15 – 第 2 ピボットピン（非ステアリング側）
7 – 第 1 中央ピボットピン（2 ピン）	16 – リフトシリンダードラム側ピボットピン
8 – 第 1 内側アーム	17 – 第 1 外側アーム
9 – 第 1 ピボットピン	

シザースの構成

9-1
シザース部品、
GS-1530 および GS-1532

シザースの解体方法

⚠ 警告 人体への傷害の危険。この手順を行うには、特定のリフト、作業場所、および修理技術が必要です。修理技能がない作業員がこの手順を行ったり、適切な工具なしにこれらの手順を行うと、重傷を負ったり死に至る場合があります。また、機械に重大な損傷をあたえる場合があります。この作業には、ディーラーによるサービスが必要です。

注記：ホース部品またはフィッティングを取り外す場合、フィッティングおよび（または）ホースの先の O リング（取り付けられている場合）を交換する必要があります。全ての接続は仕様に記載されているトルクで取り付ける必要があります。「仕様」の「油圧ホースおよびフィッティングのトルク仕様」を参照してください。

注記：作業台高度センサーを搭載した機械は、シザー解体手順をステップ 1 から開始します。作業台高度センサーを搭載していない機械は、シザー解体作業をステップ 24 から開始します。

1 キースイッチを回して地上操作にし、地上操作と作業台操作の両方で赤色非常停止ボタンを引いて、ON(オン)の位置にします。

2 作業台を 7 ～ 8 フィート/2.1 ～ 2.4 m 上げます。

3 安全アームを上げ、シザースアームの中央へ動かし、垂直位置へ回転させて下げます。

4 作業台を安全アームの上に下ろします。

⚠ 警告 手のケガの危険作業台が降下しているときは、安全アームに手を近づけないでください。

5 地上操作で、キースイッチを OFF（オフ）の位置に回し、赤色非常停止ボタンを OFF（オフ）の位置に押します。

6 バッテリーパックを機械から外します。

⚠ 警告 感電/やけどの危険帯電している回路に触れると、重傷を負ったり死に至ることがあります。指輪、時計などの装身具をすべて外してください。

7 作業台高度センサーの大きなカバーを作業台高度センサーの大きなブラケットに固定しているファスナーを取り外します。

8 作業台高度センサーのカバーを取り外します。

9 作業台高度センサーに印を付け、作業台高度センサーのハーネスから取り外します。

10 作業台高度センサーを第 1 内側アームに固定しているファスナーを取り外します。

11 第 1 ピボットピンから作業台高度センサーの部品を取り外します。

12 スクイーズコネクターを作業台高度センサーの大きなブラケットに固定しているプラスチック製ナットを取り外します。

13 作業台高度センサーの大きなブラケットからスクイーズコネクターを取り外します。

14 作業台高度センサーの大きなブラケットを第 1 内側アームピボットブラケットに固定しているファスナーを取り外します。

15 第 1 の内側アームピボットブラケットから作業台高度センサーの大きなブラケットを取り外します。

16 ステップ 14 で取り外したファスナーを第 1 内側アームピボットブラケットとシャーシに取り付けます。

17 バッテリーパックを機械に接続します。

18 キースイッチを回して地上操作に切り替えます。

19 地上操作のスクロールアップおよびスクロールダウンボタンを押し続けます。

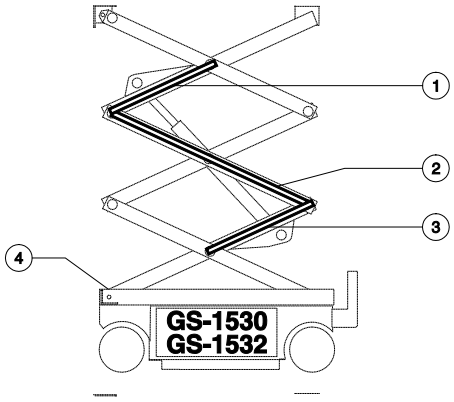
20 地上操作で赤色非常停止ボタンを引いてオンの位置にします。

21 地上操作メニューボタンを使用して、サービス無効化モードに移動します。サービス無効化モードを選択します。

注記:機械は作業台を上昇させるためにはサービス無効化モードである必要があります。サービス無効化モードの間、GCON のみが制限された機能の中で作動します。作業台は既定の時間上昇し、停止します。

22 作業台を上げ、安全アームを収納位置へ回転させます。

23 作業台を収納位置まで完全に下げます。



ケーブル橋と作業台高度センサー

1 ケーブル橋 3
2 ケーブル橋 2
3 ケーブル橋 1
4 作業台高度センサー

24 作業台を取り外します。10-1 の「作業台の取り外し方法」を参照してください。

25 地上操作側にある第 3 外側アーム(インデックス番号 11)からケーブルを取り外します。

注意 部品の損傷の危険。ケーブルがよじれたり挟まれたりすると損傷することがあります。

26 第 3 ケーブル橋からケーブルを取り外し、横に置きます。

注意 部品の損傷の危険。ケーブルがよじれたり挟まれたりすると損傷することがあります。

27 オーバーヘッドクレーンから第 3 外側アーム(インデックス番号 11)にリフトストラップを取り付けます。

28 外側スナップリングと固定ファスナーを第 3 中央ピボットピン(インデックス番号 2)から外します。

29 第 3 中央ピボットピン(インデックス番号 2)を軟質金属ドリフトを使って外します。

30 機械の非操舵側の第 3 ピボットピン(インデックス番号 12)から固定ファスナーを外します。

31 機械の非操舵側から軟質金属ドリフトを使って、第 3 ピボットピン(インデックス番号 12)を外します。第 3 外側アーム(インデックス番号 11)を機械から取り外します。

⚠ 警告 手のケガの危険第 3 外側アームが適切に支えられていないと、機械から取り外すときにバランスを崩し落下することがあります。

32 第 3 ケーブル橋の固定ファスナーを取り外し、機械からケーブル橋を取り外します。

33 リフトストラップをオーバーヘッドクレーンからリフトシリンダーのロッドの端のラグに支えとして取り付けます。リフト圧をかけないでください。

シザースの構成

34 ピン固定ファスナーをリフトシリンダーロッド端ピボットピン（インデックス番号 3）から外します。軟質金属ドリフトを使ってピンを外します。

⚠ 要注意 人体への傷害の危険。ロッド端のピボットピンを外すときにシリンダーが適切に支えられていないと、落ちる場合があります。

35 シリンダーを第 1 内側アーム（インデックス番号 8）の上に下ろします。

注意 部品の損傷の危険。ケーブルがよじれたり挟まれたりすると損傷することがあります。

36 オーバーヘッドクレーンから第 3 内側アーム（インデックス番号 10）にリフトストラップを取り付けます。

37 操舵側の第 3 ピボットピン（インデックス番号 4）から固定ファスナーを外します。

38 第 3 ピボットピン（インデックス番号 4）を軟質金属ドリフトを使って外します。第 3 内側アーム（インデックス番号 10）を機械から取り外します。

⚠ 要注意 人体への傷害の危険。第 3 内側アームが適切に支えられていないと、機械から取り外すときにバランスを崩し落下することがあります。

39 第 2 ケーブル橋からケーブルを取り外し、横に置きます。

注意 部品の損傷の危険。ケーブルがよじれたり挟まれたりすると損傷することがあります。

40 外側スナップリングと固定ファスナーを地上操作側の第 2 中央ピボットピン（インデックス番号 5）から外します。

41 第 2 ケーブル橋の固定ファスナーを取り外し、機械からケーブル橋を取り外します。

42 オーバーヘッドクレーンから地上操作側にある第 2 外側アーム（インデックス番号 14）にリフトストラップを取り付けます。

43 軟質金属ドリフトを使って、地上操作側の第 2 ピボットピン（インデックス番号 5）を外します。

44 機械の非操舵側の第 2 ピボットピン（インデックス番号 15）から固定ファスナーを外します。

45 軟質金属ドリフトを使って、機械の非操舵側の第 2 ピボットピン（インデックス番号 15）を軽く叩き、半分出します。機械の地上操作側から第 2 外側アーム（インデックス番号 14）を取り外します。

⚠ 要注意 人体への傷害の危険。地上操作側にある第 2 外側アームが適切に支えられていないと、機械から取り外すときに、バランスを崩し落下することがあります。

46 リフトストラップをオーバーヘッドクレーンからバッテリーパックにある第 2 外側アーム（インデックス番号 14）に取り付けます。

47 外側スナップリングと固定ファスナーをバッテリーパック側の第 2 中央ピボットピン（インデックス番号 5）から外します。

48 バッテリーパック側の第 2 ピボットピン（インデックス番号 5）を、軟質金属ドリフトを使って外します。

⚠ 要注意 人体への傷害の危険。バッテリーパック側にある第 2 外側アームが適切に支えられていないと、機械から取り外すときに、バランスを崩し落下することがあります。

49 軟質金属ドリフトを使って、第 2 ピボットピン（インデックス番号 15）を非操舵側の逆方向に軽く叩きます。機械のバッテリーパック側から第 2 外側アーム（インデックス番号 14）を取り外します。

⚠ 要注意 人体への傷害の危険。バッテリーパック側にある第 2 外側アームが適切に支えられていないと、機械から取り外すときに、バランスを崩し落下することがあります。

50 オーバーヘッドクレーンから第 2 内側アーム（インデックス番号 13）にリフトストラップを取り付けます。

51 機械の操舵側の第 2 ピボットピン（インデックス番号 6）から固定ファスナーを外します。

52 第 2 ピボットピン（インデックス番号 6）を軟質金属ドリフトを使って外します。第 2 内側アーム（インデックス番号 13）を機械から取り外します。

⚠ 要注意 人体への傷害の危険。第 2 内側アームが適切に支えられていないと、機械から取り外すときにバランスを崩し落下することがあります。

53 先ほど外した第 2 内側アーム（インデックス番号 13）から安全アームを取り外します。

54 オーバーヘッドクレーンから第 1 内側アーム（インデックス番号 8）にリフトストラップを取り付けます。

55 第 1 内側アーム（インデックス番号 8）を約 2 フィート/60 cm 上げ、安全アームを第 1 内側アーム（インデックス番号 8）と第 1 外側アーム（インデックス番号 17）の間に挿入します。シザースアームを安全アームの上に下ろします。

⚠ 要注意 人体への傷害の危険。シザースアームを安全アームの上に下ろしているときは、動いている部品に手を近づけないでください。

56 オーバーヘッドクレーンからリフトシリンダー（インデックス番号 3）のロッド側のラグにリフトストラップを取り付けます。リフトシリンダーを約 3 フィート/1 m 上昇させます。

57 リフトシリンダーの油圧ホースに印をつけ、取り外して栓をします。シリンダーのフィッティングにキャップを付けます。

⚠ 警告 人体への傷害の危険。作動油が飛び散ると、皮膚に火傷を負うことがあります。油圧接続をゆっくりと緩めていき、オイルの圧力が徐々に下がるようにします。オイルが吹き出たり、散らないように注意してください。

58 ワイヤーと手動下降ケーブルに印をつけ、シリンダーの電磁弁から取り外します。

59 **作業台過負荷オプション付きのモデル**：ワイヤーハーネスに印を付け、作業台過負荷圧力変換器から取り外します。

注記：シザー部品の交換後、作業台過負荷システムは調節されなければなりません。に記載の修理の手順「作業台過負荷システムの調節方法（搭載されている場合）」を参照してください。

60 リフトシリンダーを垂直位置へ上げます。

61 ピン固定ファスナーをリフトシリンダードラム端ピボットピン（インデックス番号 16）から外します。軟質金属ドリフトを使ってピンを外します。リフトシリンダーを機械から外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険。リフトシリンダーがリフト機材に適切に固定されていないと、バランスを崩し、落下します。

注意 部品の損傷の危険。機械から取り外すときに、シリンダーのバルブやフィッティングを損傷しないよう注意してください。

シザースの構成

62 第 1 中央ピボットピン（インデックス番号 7）の下、シャーシの両側に渡して、10 cm x 10 x 1.2 m の長いブロックを置きます。

63 リフトストラップをオーバーヘッドクレーンから非操舵側にある第 1 内側アーム（インデックス番号 8）に取り付けます。第 1 内側アームを下げ、安全アームを取り外します。第 1 内側アーム（インデックス番号 8）をブロックへ下げ、シャーシに渡して置きます。

⚠ 要注意 人体への傷害の危険。シザースアームを下げているときは、動いている部分に手を近づけないでください。

64 第 1 ケーブル橋からケーブルを取り外し、横に置きます。

注意 部品の損傷の危険。ケーブルがよじれたり挟まれたりすると損傷することがあります。

65 出入口用はしごを適切なリフト機材へ支えて固定させます。

66 出入口はしごからファスナーを取り外して、はしごを機械から取り外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険出入口用はしごがリフト機材に適切に固定されていないと、落下します。

67 オーバーヘッドクレーンから第 1 外側アーム（インデックス番号 17）にリフトストラップを取り付けます。リフト圧をかけないでください。

68 外側スナップリングと固定ファスナーを第 1 中央ピボットピン（インデックス番号 7）から外します。

69 機械から第 1 ケーブル橋を取り外します。

70 第 1 中央ピボットピン（インデックス番号 7）を軟質金属ドリフトを使って外します。

⚠ 要注意 人体への傷害の危険。第 1 外側アームが適切に支えられていないと、ピンを取り外すときにバランスを崩し落下することがあります。

71 第 1 外側アーム（インデックス番号 17）を非ステアリン側にスライドさせ、機械から取り外します。

⚠ 要注意 人体への傷害の危険。第 1 外側アームが適切に支えられていないと、機械から取り外すときにバランスを崩し落下することがあります。

72 オーバーヘッドクレーンから第 1 内側アーム（インデックス番号 8）へストラップを取り付けます。このときに持ち上げないようにしてください。

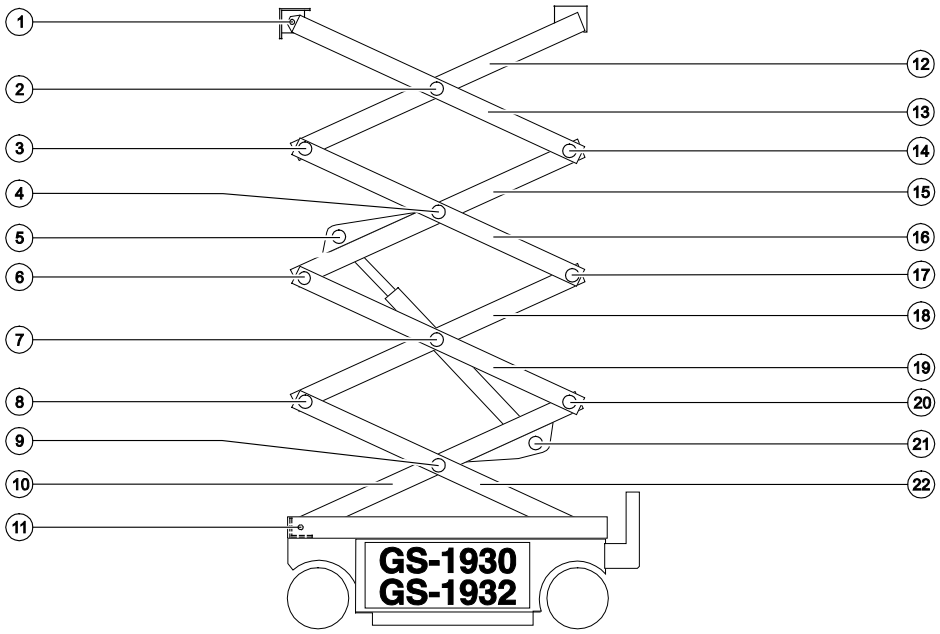
73 第 1 内側アームピボットブラケットをシャーシ側に固定している上部ファスナーを取り外します。下部ファスナーを緩めます。

74 第 1 内側アーム（インデックス番号 8）を機械から取り外します。

⚠ 要注意 人体への傷害の危険。第 1 内側アームが適切に支えられていないと、機械から取り外すときにバランスを崩し落下することがあります。

注意 部品の損傷の危険。第 1 内側アームを機械から取り外すとき、リミットスイッチもしくはレベルセンサーの部品を損傷しないよう注意してください。

シザースの構成



ステアリング側	非ステアリング側
1 – 第 5 ピボットピン	12 – 第 4 内側アーム
2 – 第 4 中央ピボットピン（2 ピン）	13 – 第 4 外側アーム
3 – 第 4 ピボットピン（ステアリング側）	14 – 第 4 ピボットピン（非ステアリング側）
4 – 第 3 中央ピボットピン（2 ピン）	15 – 第 3 内側アーム
5 – リフトシリンダーロッド側ピボットピン	16 – 第 3 外側アーム
6 – 第 3 ピボットピン（ステアリング側）	17 – 第 3 ピボットピン（非ステアリング側）
7 – 第 2 中央ピボットピン（2 ピン）	18 – 第 2 内側アーム
8 – 第 2 ピボットピン（ステアリング側）	19 – 第 2 外側アーム
9 – 第 1 中央ピボットピン（2 ピン）	20 – 第 2 ピボットピン（非ステアリング側）
10 – 第 1 内側アーム	21 – リフトシリンダードラム側ピボットピン
11 – 第 1 ピボットピン	22 – 第 1 外側アーム

シザースの構成

9-2
シザース部品、
GS-1930 および GS-1932

シザースの解体方法

⚠ 警告 人体への傷害の危険。この手順を行うには、特定のリフト、作業場所、および修理技術が必要です。修理技能がない作業員がこの手順を行ったり、適切な工具なしにこれらの手順を行うと、重傷を負ったり死に至る場合があります。また、機械に重大な損傷をあたえる場合があります。この作業には、ディーラーによるサービスが必要です。

注記：ホース部品またはフィッティングを取り外す場合、フィッティングおよび（または）ホースの先の O リング（取り付けられている場合）を交換する必要があります。全ての接続は仕様に記載されているトルクで取り付ける必要があります。「仕様」の「油圧ホースおよびフィッティングのトルク仕様」を参照してください。

注記：作業台高度センサーを搭載した機械は、シザー解体手順をステップ 1 から開始します。作業台高度センサーを搭載していない機械は、シザー解体作業をステップ 24 から開始します。

1 キースイッチを回して地上操作にし、地上操作と作業台操作の両方で赤色非常停止ボタンを引いて、ON(オン)の位置にします。

2 作業台を 7 ～ 8 フィート/2.1 ～ 2.4 m 上げます。

3 安全アームを上げ、シザースアームの中央へ動かし、垂直位置へ回転させて下げます。

4 作業台を安全アームの上に下ろします。

⚠ 警告 手のケガの危険作業台が降下しているときは、安全アームに手を近づけないでください。

5 地上操作で、キースイッチを OFF（オフ）の位置に回し、赤色非常停止ボタンを OFF（オフ）の位置に押します。

6 バッテリーパックを機械から外します。

⚠ 警告 感電/やけどの危険帯電している回路に触れると、重傷を負ったり死に至ることがあります。指輪、時計などの装身具をすべて外してください。

7 作業台高度センサーの大きなカバーを作業台高度センサーの大きなブラケットに固定しているファスナーを取り外します。

8 作業台高度センサーのカバーを取り外します。

9 作業台高度センサーに印を付け、作業台高度センサーのハーネスから取り外します。

10 作業台高度センサーを第 1 内側アームに固定しているファスナーを取り外します。

11 第 1 ピボットピンから作業台高度センサーの部品を取り外します。

12 スクイーズコネクターを作業台高度センサーの大きなブラケットに固定しているプラスチック製ナットを取り外します。

13 作業台高度センサーの大きなブラケットからスクイーズコネクターを取り外します。

14 作業台高度センサーの大きなブラケットを第 1 内側アームピボットブラケットに固定しているファスナーを取り外します。

15 第 1 の内側アームピボットブラケットから作業台高度センサーの大きなブラケットを取り外します。

16 ステップ 14 で取り外したファスナーを第 1 内側アームピボットブラケットとシャーシに取り付けます。

⚠ 危険 転倒の危険。第 1 内側アームピボットブラケットをシャーシに固定しているファスナーの取り付けを怠ると、機械が転倒し、重傷を負ったり死に至る可能性があります。

17 バッテリーパックを機械に接続します。

18 キースイッチを回して地上操作に切り替えます。

19 地上操作のスクロールアップおよびスクロールダウンボタンを押し続けます。

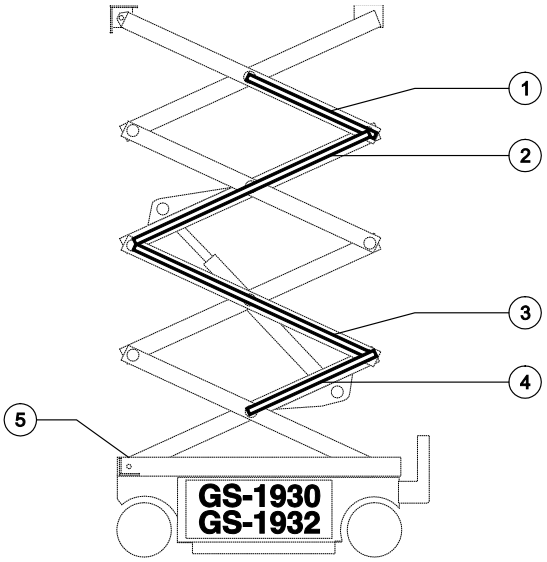
20 地上操作で赤色非常停止ボタンを引いてオンの位置にします。

21 地上操作メニューボタンを使用して、サービス無効化モードに移動します。サービス無効化モードを選択します。

注記:機械は作業台を上昇させるためにはサービス無効化モードである必要があります。サービス無効化モードの間、GCON のみが制限された機能の中で作動します。作業台は既定の時間上昇し、停止します。

22 作業台を上げ、安全アームを収納位置へ回転させます。

23 作業台を収納位置まで完全に下げます。



ケーブル橋と作業台高度センサー

1 ケーブル橋 4
2 ケーブル橋 3
3 ケーブル橋 2
4 ケーブル橋 1
5 作業台高度センサー

24 作業台を取り外します。の「作業台の取り外し方法」を参照してください。

25 地上操作側にある第 4 外側アーム(インデックス番号 13)からケーブルを取り外します。

注意 部品の損傷の危険。ケーブルがよじれたり挟まれたりすると損傷することがあります。

26 第 4 ケーブル橋からケーブルを取り外し、横に置きます。

注意 部品の損傷の危険。ケーブルがよじれたり挟まれたりすると損傷することがあります。

27 オーバーヘッドクレーンから第 4 外側アーム(インデックス番号 13)にリフトストラップを取り付けます。

シザースの構成

28 外側スナップリングと固定ファスナーを第 4 中央ピボットピン（インデックス番号 2）から外します。

29 第 4 中央ピボットピン（インデックス番号 2）を軟質金属ドリフトを使って外します。

30 機械の非操舵側の第 4 ピボットピン（インデックス番号 14）から固定ファスナーを外します。

31 機械の非操舵側から軟質金属ドリフトを使って、第 4 ピボットピン（インデックス番号 14）を外します。第 4 外側アーム（インデックス番号 13）を機械から取り外します。

⚠ 警告 手のケガの危険第 4 外側アームが適切に支えられていないと、機械から取り外すときにバランスを崩し落下することがあります。

32 第 4 ケーブル橋の固定ファスナーを取り外し、機械からケーブル橋を取り外します。

33 オーバーヘッドクレーンから第 4 内側アーム（インデックス番号 12）にリフトストラップを取り付けます。

34 第 4 ピボットピン（インデックス番号 3）から固定ファスナーを外します。

35 操舵側の第 4 ピボットピン（インデックス番号 3）を軟質金属ドリフトを使って外します。第 4 内側アーム（インデックス番号 12）を機械から取り外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険。第 4 内側アームが適切に支えられていないと、機械から取り外すときにバランスを崩し落下することがあります。

36 第 3 ケーブル橋からケーブルを取り外し、横に置きます。

注意 部品の損傷の危険。ケーブルがよじれたり挟まれたりすると損傷することがあります。

37 第 3 ケーブル橋の固定ファスナーを取り外し、機械からケーブル橋を取り外します。

38 オーバーヘッドクレーンから地上操作側にある第 3 外側アーム（インデックス番号 4）にリフトストラップを取り付けます。

39 外側スナップリングと固定ファスナーを第 3 中央ピボットピン（インデックス番号 4）から外します。

40 軟質金属ドリフトを使って、地上操作側の第 3 中央ピボットピン（インデックス番号 4）を外します。

41 機械の非操舵側の第 3 ピボットピン（インデックス番号 17）から固定ファスナーを外します。

42 軟質金属ドリフトを使って、機械の非操舵側の第 3 ピボットピン（インデックス番号 17）を軽く叩き、半分出します。地上操作側にある第 3 外側アーム（インデックス番号 16）を取り外します。

⚠ 要注意 人体への傷害の危険。地上操作側にある第 3 外側アームが適切に支えられていないと、機械から取り外すときに、バランスを崩し落下することがあります。

43 リフトストラップをオーバーヘッドクレーンからバッテリーパックにある第 3 外側アーム（インデックス番号 16）に取り付けます。

44 機械のバッテリーパック側の第 3 ピボットピン（インデックス番号 4）を、軟質金属ドリフトを使って外します。

45 第 3 ピボットピン（インデックス番号 17）を軟質金属ドリフトを使って軽く叩き、逆方向に出します。機械のバッテリーパック側から第 3 外側アーム（インデックス番号 16）を取り外します。

⚠ 要注意 人体への傷害の危険。バッテリーパック側にある第 3 外側アームが適切に支えられていないと、機械から取り外すときに、バランスを崩し落下することがあります。

46 機械の非操舵側から第 3 ピボットピン（インデックス番号 17）を外します。

47 リフトストラップをオーバーヘッドクレーンからリフトシリンダーのロッドの端のラグに支えとして取り付けます。リフト圧をかけないでください。

48 ピン固定ファスナーをリフトシリンダーロッド端ピボットピン（インデックス番号 5）から外します。軟質金属ドリフトを使ってピンを外します。

⚠ 要注意 人体への傷害の危険。ロッド端のピボットピンを外すときにシリンダーが適切に支えられていないと、落ちる場合があります。

49 シリンダーを第 1 内側アーム（インデックス番号 9）の上に下ろします。

注意 部品の損傷の危険。ケーブルがよじれたり挟まれたりすると損傷することがあります。

50 オーバーヘッドクレーンから第 3 内側アーム（インデックス番号 15）にリフトストラップを取り付けます。

51 操舵側の第 3 ピボットピン（インデックス番号 6）から固定ファスナーを外します。

52 第 3 ピボットピン（インデックス番号 6）を軟質金属ドリフトを使って外します。第 3 内側アーム（インデックス番号 15）を機械から取り外します。

⚠ 要注意 人体への傷害の危険。第 3 内側アームが適切に支えられていないと、機械から取り外すときにバランスを崩し落下することがあります。

53 第 2 ケーブル橋からケーブルを取り外し、横に置きます。

注意 部品の損傷の危険。ケーブルがよじれたり挟まれたりすると損傷することがあります。

54 外側スナップリングと固定ファスナーを地上操作側の第 2 中央ピボットピン（インデックス番号 7）から外します。

シザースの構成

55 第 2 ケーブル橋の固定ファスナーを取り外し、機械からケーブル橋を取り外します。

56 オーバーヘッドクレーンから地上操作側にある第 2 外側アーム（インデックス番号 19）にリフトストラップを取り付けます。

57 軟質金属ドリフトを使って、地上操作側の第 2 ピボットピン（インデックス番号 7）を外します。

58 機械の非操舵側の第 2 ピボットピン（インデックス番号 20）から固定ファスナーを外します。

59 軟質金属ドリフトを使って、機械の非操舵側の第 2 ピボットピン（インデックス番号 20）を軽く叩き、半分出します。機械の地上操作側から第 2 外側アーム（インデックス番号 19）を取り外します。

⚠ 要注意 人体への傷害の危険。地上操作側にある第 2 外側アームが適切に支えられていないと、機械から取り外すときに、バランスを崩し落下することがあります。

60 リフトストラップをオーバーヘッドクレーンからバッテリーパックにある第 2 外側アーム（インデックス番号 19）に取り付けます。

61 外側スナップリングと固定ファスナーをバッテリーパック側の第 2 中央ピボットピン（インデックス番号 7）から外します。

62 バッテリーパック側の第 2 ピボットピン（インデックス番号 7）を、軟質金属ドリフトを使って外します。

⚠ 要注意 人体への傷害の危険。バッテリーパック側にある第 2 外側アームが適切に支えられていないと、機械から取り外すときに、バランスを崩し落下することがあります。

63 軟質金属ドリフトを使って、第 2 ピボットピン（インデックス番号 20）を非操舵側で逆方向に軽く叩きます。機械のバッテリーパック側から第 2 外側アーム（インデックス番号 19）を取り外します。

⚠ 要注意 人体への傷害の危険。バッテリーパック側にある第 2 外側アームが適切に支えられていないと、機械から取り外すときに、バランスを崩し落下することがあります。

64 機械の非操舵側から第 3 ピボットピン（インデックス番号 17）を外します。

65 オーバーヘッドクレーンから第 2 内側アーム（インデックス番号 18）にリフトストラップを取り付けます。

66 機械の操舵側の第 2 ピボットピン（インデックス番号 8）から固定ファスナーを外します。

67 第 2 ピボットピン（インデックス番号 8）を軟質金属ドリフトを使って外します。第 2 内側アーム（インデックス番号 18）を機械から取り外します。

⚠ 要注意 人体への傷害の危険。第 2 内側アームが適切に支えられていないと、機械から取り外すときにバランスを崩し落下することがあります。

68 先ほど外した第 2 内側アーム（インデックス番号 18）から安全アームを取り外します。

69 オーバーヘッドクレーンから第 1 内側アーム（インデックス番号 10）にリフトストラップを取り付けます。

シザースの構成

70 第 1 内側アーム（インデックス番号 10）を約 2 フィート/60 cm 上げ、機械の非操舵側で安全アームを第 1 内側アーム（インデックス番号 10）と第 1 外側アーム（インデックス番号 22）の間に挿入します。シザースアームを安全アームの上に下ろします。

⚠ 要注意 人体への傷害の危険。シザースアームを安全アームの上に下ろしているときは、動いている部品に手を近づけないでください。

71 オーバーヘッドクレーンからリフトシリンダー（インデックス番号 5）のロッド側のラグにリフトストラップを取り付けます。リフトシリンダーを約 3 フィート/1 m 上昇させます。

72 リフトシリンダーの油圧ホースに印をつけ、取り外して栓をします。シリンダーのフィッティングにキャップを付けます。

⚠ 警告 人体への傷害の危険。作動油が飛び散ると、皮膚に火傷を負うことがあります。油圧接続をゆっくりと緩めていき、オイルの圧力が徐々に下がるようにします。オイルが吹き出たり、散らないように注意してください。

73 ワイヤーと手動下降ケーブルに印をつけ、シリンダーの電磁弁から取り外します。

74 **作業台過負荷オプション付きのモデル**：ワイヤーハーネスに印を付け、作業台過負荷圧力変換器から取り外します。

注記：シザー部品の交換後、作業台過負荷システムは調節されなければなりません。に記載の修理の手順「作業台過負荷システムの調節方法（搭載されている場合）」を参照してください。

75 リフトシリンダーを垂直位置へ上げます。

76 ピン固定ファスナーをリフトシリンダードラム端ピボットピン（インデックス番号 21）から外します。軟質金属ドリフトを使ってピンを外します。リフトシリンダーを機械から外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険リフトシリンダーがリフト機材に適切に固定されていないと、バランスを崩し、落下します。

注意 部品の損傷の危険。機械から取り外すときに、シリンダーのバルブやフィッティングを損傷しないよう注意してください。

77 第 1 中央ピボットピン（インデックス番号 11）の下、シャーシの両側に渡して、10 cm x 10 cm x 1.2 m の長いブロックを置きます。

78 リフトストラップをオーバーヘッドクレーンから非操舵側にある第 1 内側アーム（インデックス番号 10）に取り付けます。第 1 内側アームを下げ、安全アームを取り外します。第 1 内側アーム（インデックス番号 10）をブロックへ下げ、シャーシに渡して置きます。

⚠ 要注意 人体への傷害の危険。シザースアームを下げているときは、動いている部分に手を近づけないでください。

79 第 1 ケーブル橋からケーブルを取り外し、横に置きます。

注意 部品の損傷の危険。ケーブルがよじれたり挟まれたりすると損傷することがあります。

80 出入口用はしごを適切なリフト機材へ支えて固定させます。

シザースの構成

81 出入口はしごからファスナーを取り外して、はしごを機械から取り外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険出入口用はしごがリフト機材に適切に固定されていないと、落下します。

82 オーバーヘッドクレーンから第 1 外側アーム（インデックス番号 22）にリフトストラップを取り付けます。リフト圧をかけないでください。

83 外側スナップリングと固定ファスナーを第 1 中央ピボットピン（インデックス番号 11）から外します。

84 機械から第 1 ケーブル橋を取り外します。

85 第 1 中央ピボットピン（インデックス番号 9）を軟質金属ドリフトを使って外します。

⚠ 要注意 人体への傷害の危険。第 1 外側アームが適切に支えられていないと、ピンを取り外すときにバランスを崩し落下することがあります。

86 第 1 外側アーム（インデックス番号 22）を非操舵側にスライドさせ、機械から取り外します。

⚠ 要注意 人体への傷害の危険。第 1 外側アームが適切に支えられていないと、機械から取り外すときにバランスを崩し落下することがあります。

87 オーバーヘッドクレーンから第 1 内側アーム（インデックス番号 10）へストラップを取り付けます。このときに持ち上げないようにしてください。

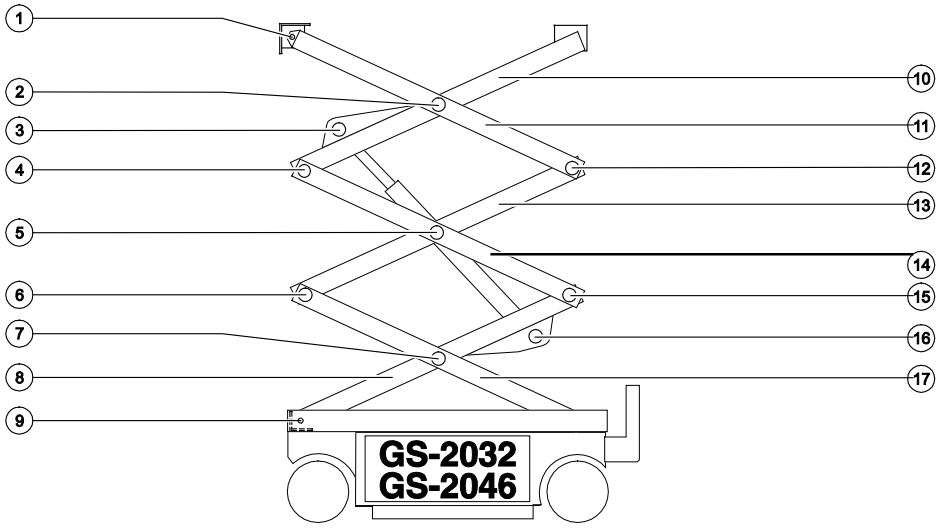
88 第 1 内側アームピボットブラケットをシャーシ側に固定している上部ファスナーを取り外します。下部ファスナーを緩めます。

89 第 1 内側アーム（インデックス番号 10）を機械から取り外します。

⚠ 要注意 人体への傷害の危険。第 1 内側アームが適切に支えられていないと、機械から取り外すときにバランスを崩し落下することがあります。

注意 部品の損傷の危険。第 1 内側アームを機械から取り外すとき、リミットスイッチもしくはレベルセンサーの部品を損傷しないよう注意してください。

シザースの構成



ステアリング側	非ステアリング側
1 – 第 4 ピボットピン	10 – 第 3 内側アーム
2 – 第 3 中央ピボットピン（2 ピン）	11 – 第 3 外側アーム
3 – リフトシリンダーロッド側ピボットピン	12 – 第 3 ピボットピン（非ステアリング側）
4 – 第 3 ピボットピン（ステアリング側）	13 – 第 2 内側アーム
5 – 第 2 中央ピボットピン（2 ピン）	14 – 第 2 外側アーム
6 – 第 2 ピボットピン（ステアリング側）	15 – 第 2 ピボットピン（非ステアリング側）
7 – 第 1 中央ピボットピン（2 ピン）	16 – リフトシリンダードラム側ピボットピン
8 – 第 1 内側アーム	17 – 第 1 外側アーム
9 – 第 1 ピボットピン	

シザースの構成

9-3
シザース部品、
GS-2032 および GS-2046

シザースの解体方法、
GS-2032 および GS-2046

⚠ 警告 人体への傷害の危険。この手順を行うには、特定のリフト、作業場所、および修理技術が必要です。修理技能がない作業員がこの手順を行ったり、適切な工具なしにこれらの手順を行うと、重傷を負ったり死に至る場合があります。また、機械に重大な損傷をあたえる場合があります。この作業には、ディーラーによるサービスが必要です。

注記：ホース部品またはフィッティングを取り外す場合、フィッティングおよび（または）ホースの先の O リング（取り付けられている場合）を交換する必要があります。全ての接続は仕様に記載されているトルクで取り付ける必要があります。「仕様」の「油圧ホースおよびフィッティングのトルク仕様」を参照してください。

注記：作業台高度センサーを搭載した機械は、シザー解体手順をステップ 1 から開始します。作業台高度センサーを搭載していない機械は、シザー解体作業をステップ 24 から開始します。

1 キースイッチを回して地上操作にし、地上操作と作業台操作の両方で赤色非常停止ボタンを引いて、ON(オン)の位置にします。

2 作業台を 7 ～ 8 フィート/2.1 ～ 2.4 m 上げます。

3 安全アームを上げ、シザースアームの中央へ動かし、垂直位置へ回転させて下げます。

4 作業台を安全アームの上に下ろします。

⚠ 警告 手のケガの危険作業台が降下しているときは、安全アームに手を近づけないでください。

5 地上操作で、キースイッチを OFF（オフ）の位置に回し、赤色非常停止ボタンを OFF（オフ）の位置に押します。

6 バッテリーパックを機械から外します。

⚠ 警告 感電/やけどの危険帯電している回路に触れると、重傷を負ったり死に至ることがあります。指輪、時計などの装身具をすべて外してください。

7 作業台高度センサーの大きなカバーを作業台高度センサーの大きなブラケットに固定しているファスナーを取り外します。

8 作業台高度センサーのカバーを取り外します。

9 作業台高度センサーに印を付け、作業台高度センサーのハーネスから取り外します。

10 作業台高度センサーを第 1 内側アームに固定しているファスナーを取り外します。

11 第 1 ピボットピンから作業台高度センサーの部品を取り外します。

12 スクイーズコネクターを作業台高度センサーの大きなブラケットに固定しているプラスチック製ナットを取り外します。

13 作業台高度センサーの大きなブラケットからスクイーズコネクターを取り外します。

14 作業台高度センサーの大きなブラケットを第 1 内側アームピボットブラケットに固定しているファスナーを取り外します。

15 第 1 の内側アームピボットブラケットから作業台高度センサーの大きなブラケットを取り外します。

16 ステップ 14 で取り外したファスナーを第 1 内側アームピボットブラケットとシャーシに取り付けます。

⚠ 危険 転倒の危険。第 1 内側アームピボットブラケットをシャーシに固定しているファスナーの取り付けを怠ると、機械が転倒し、重傷を負ったり死に至る可能性があります。

17 バッテリーパックを機械に接続します。

18 キースイッチを回して地上操作に切り替えます。

19 地上操作のスクロールアップおよびスクロールダウンボタンを押し続けます。

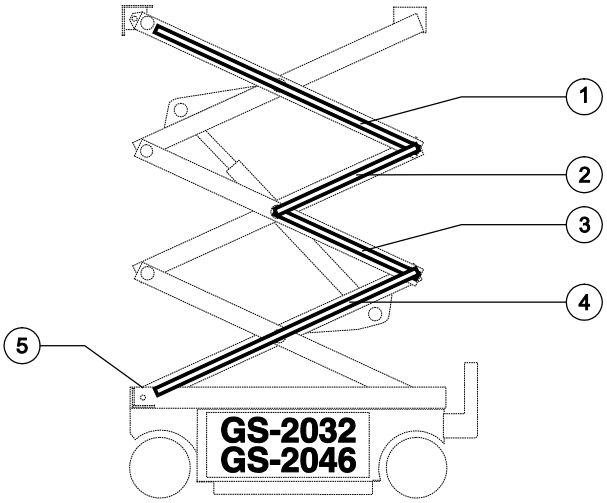
20 地上操作で赤色非常停止ボタンを引いてオンの位置にします。

21 地上操作メニューボタンを使用して、サービス無効化モードに移動します。サービス無効化モードを選択します。

注記:機械は作業台を上昇させるためにはサービス無効化モードである必要があります。サービス無効化モードの間、GCON のみが制限された機能の中で作動します。作業台は既定の時間上昇し、停止します。

22 作業台を上げ、安全アームを収納位置へ回転させます。

23 作業台を収納位置まで完全に下げます。



ケーブル橋と作業台高度センサー

1 ケーブル橋 3
2 ケーブル橋 2A
3 ケーブル橋 2B
4 ケーブル橋 1
5 作業台高度センサー

24 作業台を取り外します。10-1 の「作業台の取り外し方法」を参照してください。

25 出入口用はしごを適切なリフト機材へ支えて固定させます。

26 出入口はしごからファスナーを取り外して、はしごを機械から取り外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険出入口用はしごがリフト機材に適切に固定されていないと、落下します。

シザースの構成

27 第 3 ケーブル橋からケーブルを取り外し、横に置きます。

注意 部品の損傷の危険。ケーブルがよじれたり挟まれたりすると損傷することがあります。

28 第 3 外側アーム（インデックス番号 11）から第 3 ケーブル橋を取り外し、機械からケーブル橋を外します。

29 第 4 ピボットピン（インデックス番号 1）から固定ファスナーを外します。

30 第 4 ピボットピン（インデックス番号 1）を軟質金属ドリフトを使って外します。機械から作業台固定ブラケットを取り外します。

31 オーバーヘッドクレーンから地上操作側にある第 3 外側アーム（インデックス番号 11）にリフトストラップを取り付けます。

32 地上操作側の第 3 中央ピボットピン（インデックス番号 2）から固定ファスナーを外します。

33 地上操作側の第 3 中央ピボットピン（インデックス番号 2）にロッドを通し、ピンを取り外すためにひねります。

34 非操舵側の第 3 ピボットピン（インデックス番号 12）から固定ファスナーを外します。

35 機械の非操舵側から軟質金属ドリフトを使って、第 3 ピボットピン（インデックス番号 12）を外します。地上操作側にある第 3 外側アーム（インデックス番号 11）を取り外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険地上操作側にある第 3 外側アーム（インデックス番号 11）が適切に支えられていないと、機械から取り外すときに、バランスを崩し落下することがあります。

36 オーバーヘッドクレーンからバッテリー側にある第 3 外側アーム（インデックス番号 11）にリフトストラップを取り付けます。

37 バッテリー側の第 3 中央ピボットピン（インデックス番号 2）から固定ファスナーを外します。

38 バッテリー側の第 3 中央ピボットピン（インデックス番号 2）にロッドを通し、ピンを取り外すためにひねります。

39 第 3 外側アーム（インデックス番号 11）を機械から取り外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険第 3 外側アーム（インデックス番号 11）が適切に支えられていないと、機械から取り外すときにバランスを崩し落下することがあります。

40 オーバーヘッドクレーンからリフトシリンダーのロッド側のラグにリフトストラップを取り付けます。

41 リフトシリンダーロッド側のピボットピン（インデックス番号 3）から固定ファスナーを外します。

42 軟質金属ドリフトを使用して、機械からリフトシリンダーロッド側のピボットピン（インデックス番号 3）を外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険リフトシリンダーが適切に支えられていないと、ピボットピンを外すときに、落下することがあります。

43 4 x 4 x 10 インチ/10 x 10 x 25 cm のブロックを第 1 内側アームシリンダープレート（インデックス番号 8）に置きます。

44 シリンダーをブロックの上に下ろします。

⚠ 要注意 人体への傷害の危険。シリンダーを下げているときは、動いている部品に手を近づけないでください。

45 オーバーヘッドクレーンから第 3 内側アーム（インデックス番号 10）にリフトストラップを取り付けます。アームを垂直位置へ上げます。

46 機械の操舵側の第 3 ピボットピン（インデックス番号 4）から固定ファスナーを外します。

47 軟質金属ドリフトを使用して、機械の操舵側から第 3 ピボットピン（インデックス番号 4）を外します。第 3 内側アーム（インデックス番号 10）を機械から取り外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険第 3 内側アーム（インデックス番号 10）が適切に支えられていないと、ピボットピンを外すときにバランスを崩し落下することがあります。

48 第 2A および 2B ケーブル橋からケーブルを取り外し、横に置きます。

注意 部品の損傷の危険。ケーブルがよじれたり挟まれたりすると損傷することがあります。

49 第 2A および 2B ケーブル橋をシザースリンクセットから取り外し、両方のケーブル橋を機械から外します。

50 オーバーヘッドクレーンから地上操作側にある第 2 外側アーム（インデックス番号 14）にリフトストラップを取り付けます。

51 地上操作側の第 2 中央ピボットピン（インデックス番号 5）から固定ファスナーを外します。

52 地上操作側の第 2 中央ピボットピン（インデックス番号 5）にロッドを通し、ピンを取り外すためにひねります。

53 非操舵側の第 2 ピボットピン（インデックス番号 15）から固定ファスナーを外します。

54 機械の非操舵側から軟質金属ドリフトを使って、第 2 ピボットピン（インデックス番号 15）を外します。地上操作側にある第 2 外側アーム（インデックス番号 14）を取り外します。

⚠ 要注意 地上操作側にある第 2 外側アーム（インデックス番号 14）が適切に支えられていないと、ピボットピンを取り外すときに、バランスを崩し落下することがあります。

55 オーバーヘッドクレーンからバッテリー側にある第 2 外側アーム（インデックス番号 14）にリフトストラップを取り付けます。

56 バッテリー側の第 2 中央ピボットピン（インデックス番号 5）から固定ファスナーを外します。

57 バッテリー側の第 2 中央ピボットピン（インデックス番号 5）にロッドを通し、ピンを取り外すためにひねります。

⚠ 要注意 手のケガの危険第 2 外側アーム（インデックス番号 14）が適切に支えられていないと、ピボットピンを外すときにバランスを崩し落下することがあります。

58 第 2 外側アーム（インデックス番号 14）を機械から取り外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険第 2 外側アーム（インデックス番号 14）が適切に支えられていないと、機械から取り外すときにバランスを崩し落下することがあります。

59 オーバーヘッドクレーンから第 2 内側アーム（インデックス番号 13）にリフトストラップを取り付けます。アームを垂直位置へ上げます。

シザースの構成

60 機械の操舵側の第 2 ピボットピン（インデックス番号 6）から固定ファスナーを外します。

61 軟質金属ドリフトを使用して、機械の操舵側から第 2 ピボットピン（インデックス番号 6）を外します。第 2 内側アーム（インデックス番号 13）を機械から取り外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険第 2 内側アーム（インデックス番号 13）が適切に支えられていないと、ピボットピンを外すときにバランスを崩し落下することがあります。

62 オーバーヘッドクレーンから第 1 内側アーム（インデックス番号 8）にリフトストラップを取り付けます。

63 第 1 内側アーム（インデックス番号 8）を約 2 フィート/60 cm 上昇させます。

64 第 1 中央ピボットピン（インデックス番号 7）の下のシャーシの両側にまたがるように、4 x 4 x 48 インチ/10 cm x 10 x 1.2 m の長さのブロックを置きます。

65 シャーシに置かれているブロックに向かってシザースアームを下げます。

⚠ 要注意 人体への傷害の危険。シザースアームを下げているときは、動いている部分に手を近づけないでください。

66 オーバーヘッドクレーンから下部リフトシリンダーのロッド側のラグにリフトストラップを取り付けます。

67 下部リフトシリンダーの油圧ホースに印を付け、取り外して栓をします。シリンダーのフィッティングにキャップを付けます。

⚠ 警告 人体への傷害の危険。作動油が飛び散ると、皮膚に火傷を負うことがあります。油圧接続をゆっくりと緩めていき、オイルの圧力が徐々に下がるようにします。オイルが吹き出たり、散らないように注意してください。

68 ワイヤーハーネスに印を付け、シリンダーの電磁弁から取り外します。

69 ワイヤーと手動下降ケーブルに印をつけ、シリンダーの電磁弁から取り外します。

70 **作業台過負荷オプション付きのモデル**：ワイヤーハーネスに印を付け、作業台過負荷圧力変換器から取り外します。

注記：シザー部品の交換後、作業台過負荷システムは調節されなければなりません。に記載の修理の手順「作業台過負荷システムの調節方法（搭載されている場合）」を参照してください。

71 リフトシリンダーを垂直位置へ上げます。

72 ピン固定ファスナーをリフトシリンダードラム端ピボットピン（インデックス番号 16）から外します。軟質金属ドリフトを使ってピンを外します。リフトシリンダーを機械から外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険リフトシリンダーが適切に支えられていないと、ピボットピンを外すときに、落下することがあります。

注意 部品の損傷の危険。機械から取り外すときに、シリンダーのバルブやフィッティングを損傷しないよう注意してください。

73 第 1 ケーブル橋からケーブルを取り外し、横に置きます。

注意 部品の損傷の危険。ケーブルがよじれたり挟まれたりすると損傷することがあります。

74 第 1 外側アーム（インデックス番号 17）から第 1 ケーブル橋を取り外し、機械からケーブル橋を外します。

75 オーバーヘッドクレーンから第 1 内側アーム（インデックス番号 8）にリフトストラップを取り付けます。

76 アームを少し上昇させ、ブロックを外します。

77 アームを収納位置に下げます。

⚠ 要注意 人体への傷害の危険。シザースアームを下げているときは、動いている部分に手を近づけないでください。

78 機械の操舵側のシザースアームの端をまとめて、荷締めストラップ、または他の適切な機材で縛ります。

79 機械の非操舵側のシザースアームの端をまとめて、荷締めストラップ、または他の適切な器具で縛ります。

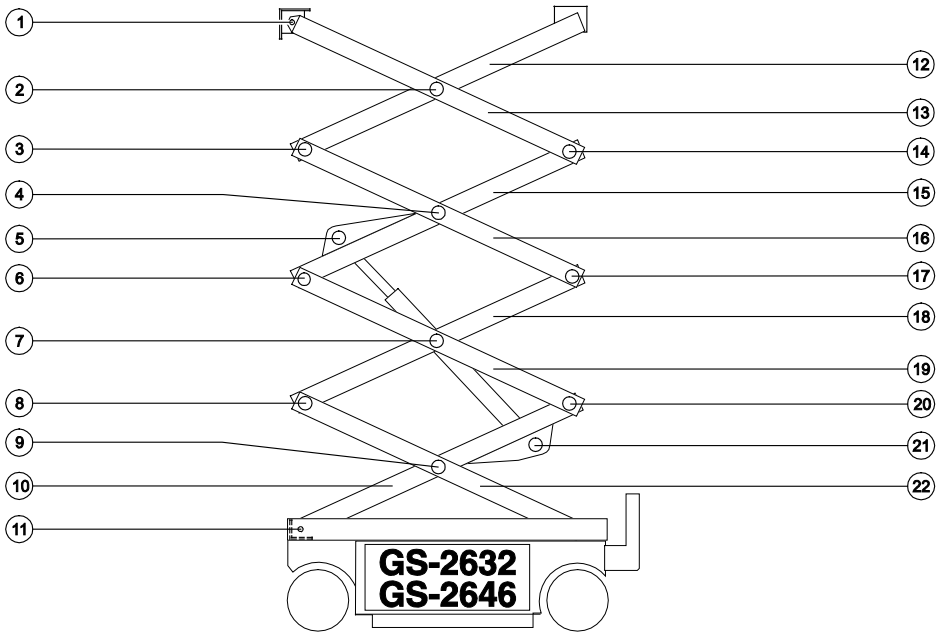
80 シャーシ固定ブラケットをシャーシに設置している固定ファスナーを取り外します。

81 リンクセットを機械から外します。

⚠ 要注意 人体への傷害の危険。第 1 内側アームと外側アーム（インデックス番号 8 および 17）が適切に支えられていないと、機械から取り外すときにバランスを崩し落下することがあります。

注意 部品の損傷の危険。第 1 内側アームと外側アーム（インデックス番号 8 と 17）を機械から取り外すとき、リミットスイッチもしくはレベルセンサーの部品を損傷しないよう注意してください。

シザースの構成



ステアリング側	非ステアリング側
1 – 第 5 ピボットピン	12 – 第 4 内側アーム
2 – 第 4 中央ピボットピン（2 ピン）	13 – 第 4 外側アーム
3 – 第 4 ピボットピン（ステアリング側）	14 – 第 4 ピボットピン（非ステアリング側）
4 – 第 3 中央ピボットピン（2 ピン）	15 – 第 3 内側アーム
5 – リフトシリンダーロッド側ピボットピン	16 – 第 3 外側アーム
6 – 第 3 ピボットピン（ステアリング側）	17 – 第 3 ピボットピン（非ステアリング側）
7 – 第 2 中央ピボットピン（2 ピン）	18 – 第 2 内側アーム
8 – 第 2 ピボットピン（ステアリング側）	19 – 第 2 外側アーム
9 – 第 1 中央ピボットピン（2 ピン）	20 – 第 2 ピボットピン（非ステアリング側）
10 – 第 1 内側アーム	21 – リフトシリンダードラム側ピボットピン
11 – 第 1 ピボットピン	22 – 第 1 外側アーム

9-4
シザース部品、
GS-2632 および GS-2646

シザースの解体方法

⚠ 警告 人体への傷害の危険。この手順を行うには、特定のリフト、作業場所、および修理技術が必要です。修理技能がない作業員がこの手順を行ったり、適切な工具なしにこれらの手順を行うと、重傷を負ったり死に至る場合があります。また、機械に重大な損傷をあたえる場合があります。この作業には、ディーラーによるサービスが必要です。

注記：ホース部品またはフィッティングを取り外す場合、フィッティングおよび（または）ホースの先の O リング（取り付けられている場合）を交換する必要があります。全ての接続は仕様に記載されているトルクで取り付ける必要があります。「仕様」の「油圧ホースおよびフィッティングのトルク仕様」を参照してください。

注記：作業台高度センサーを搭載した機械は、シザー解体手順をステップ 1 から開始します。作業台高度センサーを搭載していない機械は、シザー解体作業をステップ 24 から開始します。

1 キースイッチを回して地上操作にし、地上操作と作業台操作の両方で赤色非常停止ボタンを引いて、ON(オン)の位置にします。

2 作業台を 7 ～ 8 フィート/2.1 ～ 2.4 m 上げます。

3 安全アームを上げ、シザースアームの中央へ動かし、垂直位置へ回転させて下げます。

4 作業台を安全アームの上に下ろします。

⚠ 警告 手のケガの危険作業台が降下しているときは、安全アームに手を近づけないでください。

5 地上操作で、キースイッチを OFF（オフ）の位置に回し、赤色非常停止ボタンを OFF（オフ）の位置に押します。

6 バッテリーパックを機械から外します。

⚠ 警告 感電/やけどの危険帯電している回路に触れると、重傷を負ったり死に至ることがあります。指輪、時計などの装身具をすべて外してください。

7 作業台高度センサーの大きなカバーを作業台高度センサーの大きなブラケットに固定しているファスナーを取り外します。

8 作業台高度センサーのカバーを取り外します。

9 作業台高度センサーに印を付け、作業台高度センサーのハーネスから取り外します。

10 作業台高度センサーを第 1 内側アームに固定しているファスナーを取り外します。

11 第 1 ピボットピンから作業台高度センサーの部品を取り外します。

12 スクイーズコネクターを作業台高度センサーの大きなブラケットに固定しているプラスチック製ナットを取り外します。

13 作業台高度センサーの大きなブラケットからスクイーズコネクターを取り外します。

14 作業台高度センサーの大きなブラケットを第 1 内側アームピボットブラケットに固定しているファスナーを取り外します。

15 第 1 の内側アームピボットブラケットから作業台高度センサーの大きなブラケットを取り外します。

シザースの構成

16 ステップ 14 で取り外したファスナーを第 1 内側アームピボットブラケットとシャーシに取り付けます。

⚠ 危険 転倒の危険。第 1 内側アームピボットブラケットをシャーシに固定しているファスナーの取り付けを怠ると、機械が転倒し、重傷を負ったり死に至る可能性があります。

17 バッテリーパックを機械に接続します。

18 キースイッチを回して地上操作に切り替えます。

19 地上操作のスクロールアップおよびスクロールダウンボタンを押し続けます。

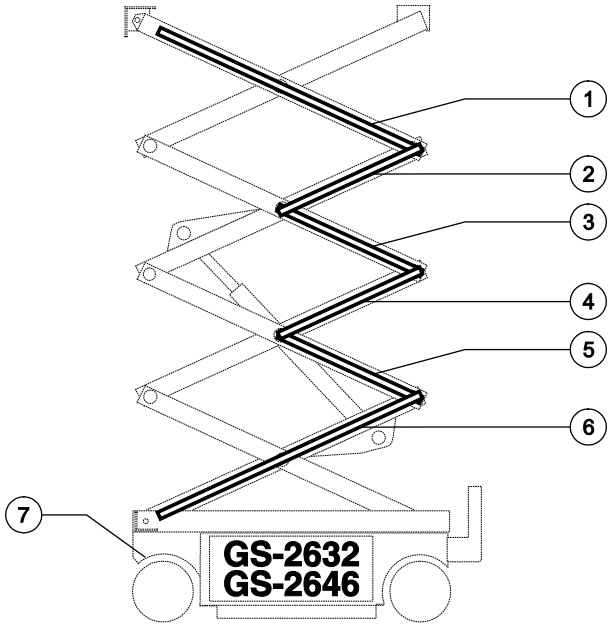
20 地上操作で赤色非常停止ボタンを引いてオンの位置にします。

21 地上操作メニューボタンを使用して、サービス無効化モードに移動します。サービス無効化モードを選択します。

注記：機械は作業台を上昇させるためにはサービス無効化モードである必要があります。サービス無効化モードの間、GCON のみが制限された機能の中で作動します。作業台は既定の時間上昇し、停止します。

22 作業台を上げ、安全アームを収納位置へ回転させます。

23 作業台を収納位置まで完全に下げます。



ケーブル橋と作業台高度センサー

1 ケーブル橋 4
2 ケーブル橋 3A
3 ケーブル橋 3B
4 ケーブル橋 2A
5 ケーブル橋 2B
6 ケーブル橋 1
7 作業台高度センサー

24 作業台を取り外します。の「作業台の取り外し方法」を参照してください。

25 出入口用はしごを適切なリフト機材へ支えて固定させます。

26 出入口はしごからファスナーを取り外して、はしごを機械から取り外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険出入口用はしごがリフト機材に適切に固定されていないと、落下します。

27 第 4 ケーブル橋からケーブルを取り外し、横に置きます。

注意 部品の損傷の危険。ケーブルがよじれたり挟まれたりすると損傷することがあります。

28 第 4 外側アーム（インデックス番号 13）から第 4 ケーブル橋を取り外し、機械からケーブル橋を外します。

29 第 5 ピボットピン（インデックス番号 1）から固定ファスナーを外します。

30 第 5 ピボットピン（インデックス番号 1）を軟質金属ドリフトを使って外します。機械から作業台固定ブラケットを取り外します。

31 オーバーヘッドクレーンから地上操作側にある第 4 外側アーム（インデックス番号 13）にリフトストラップを取り付けます。

32 地上操作側の第 4 中央ピボットピン（インデックス番号 2）から固定ファスナーを外します。

33 地上操作側の第 4 中央ピボットピン（インデックス番号 2）にロッドを通し、ピンを取り外すためにひねります。

34 非操舵側の第 4 ピボットピン（インデックス番号 15）から固定ファスナーを外します。

35 機械の非操舵側から軟質金属ドリフトを使って、第 4 ピボットピン（インデックス番号 14）を外します。地上操作側にある第 4 外側アーム（インデックス番号 13）を取り外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険地上操作側にある第 4 外側アーム（インデックス番号 13）が適切に支えられていないと、機械から取り外すときに、バランスを崩し落下することがあります。

36 オーバーヘッドクレーンからバッテリー側にある第 4 外側アーム（インデックス番号 13）にリフトストラップを取り付けます。

37 バッテリー側の第 4 中央ピボットピン（インデックス番号 2）から固定ファスナーを外します。

38 バッテリー側の第 4 中央ピボットピン（インデックス番号 2）にロッドを通し、ピンを取り外すためにひねります。

39 第 4 外側アーム（インデックス番号 13）を機械から取り外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険第 4 外側アーム（インデックス番号 13）が適切に支えられていないと、機械から取り外すときにバランスを崩し落下することがあります。

40 オーバーヘッドクレーンから第 4 内側アーム（インデックス番号 12）にリフトストラップを取り付けます。アームを垂直位置へ上げます。

シザースの構成

41 機械の操舵側の第 4 ピボットピン（インデックス番号 3）から固定ファスナーを外します。

42 軟質金属ドリフトを使用して、機械の操舵側から第 4 ピボットピン（インデックス番号 3）を外します。第 4 内側アーム（インデックス番号 12）を機械から取り外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険第 4 内側アーム（インデックス番号 12）が適切に支えられていないと、機械から取り外すときにバランスを崩し落下することがあります。

43 第 3A および 3B ケーブル橋からケーブルを取り外し、横に置きます。

注意 部品の損傷の危険。ケーブルがよじれたり挟まれたりすると損傷することがあります。

44 第 3A および 3B ケーブル橋をシザースリンクセットから取り外し、両方のケーブル橋を機械から外します。

45 オーバーヘッドクレーンから地上操作側にある第 3 外側アーム（インデックス番号 16）にリフトストラップを取り付けます。

46 地上操作側の第 3 中央ピボットピン（インデックス番号 4）から固定ファスナーを外します。

47 地上操作側の第 3 中央ピボットピン（インデックス番号 4）にロッドを通し、ピンを取り外すためにひねります。

48 非操舵側の第 3 ピボットピン（インデックス番号 17）から固定ファスナーを外します。

49 機械の非操舵側から軟質金属ドリフトを使って、第 3 ピボットピン（インデックス番号 17）を外します。地上操作側にある第 3 外側アーム（インデックス番号 16）を取り外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険地上操作側にある第 3 外側アーム（インデックス番号 16）が適切に支えられていないと、機械から取り外すときに、バランスを崩し落下することがあります。

50 オーバーヘッドクレーンからバッテリー側にある第 3 外側アーム（インデックス番号 16）にリフトストラップを取り付けます。

51 バッテリー側の第 3 中央ピボットピン（インデックス番号 4）から固定ファスナーを外します。

52 バッテリー側の第 3 中央ピボットピン（インデックス番号 4）にロッドを通し、ピンを取り外すためにひねります。

53 第 3 外側アーム（インデックス番号 16）を機械から取り外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険第 3 外側アーム（インデックス番号 16）が適切に支えられていないと、機械から取り外すときにバランスを崩し落下することがあります。

54 オーバーヘッドクレーンからリフトシリンダーのロッド側のラグにリフトストラップを取り付けます。

55 リフトシリンダーロッド側のピボットピン（インデックス番号 5）から固定ファスナーを外します。

56 軟質金属ドリフトを使用して、機械からリフトシリンダーロッド側のピボットピン（インデックス番号 5）を外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険リフトシリンダーが適切に支えられていないと、ピボットピンを外すときに、落下することがあります。

57 4 x 4 x 10 インチ/10 x 10 x 25 cm のブロックを第 1 内側アームシリンダープレート（インデックス番号 10）に置きます。

58 シリンダーをブロックの上に下ろします。

⚠ 要注意 人体への傷害の危険。シリンダーを下げているときは、動いている部品に手を近づけないでください。

59 オーバーヘッドクレーンから第 3 内側アーム（インデックス番号 15）にリフトストラップを取り付けます。アームを垂直位置へ上げます。

60 機械の操舵側の第 3 ピボットピン（インデックス番号 6）から固定ファスナーを外します。

61 61 軟質金属ドリフトを使用して、機械の操舵側から第 3 ピボットピン（インデックス番号 6）を外します。第 3 内側アーム（インデックス番号 15）を機械から取り外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険第 3 内側アーム（インデックス番号 15）が適切に支えられていないと、ピボットピンを外すときにバランスを崩し落下することがあります。

62 第 2A および 2B ケーブル橋からケーブルを取り外し、横に置きます。

注意 部品の損傷の危険。ケーブルがよじれたり挟まれたりすると損傷することがあります。

63 第 2A および 2B ケーブル橋をシザースリンクセットから取り外し、両方のケーブル橋を機械から外します。

64 オーバーヘッドクレーンから地上操作側にある第 2 外側アーム（インデックス番号 19）にリフトストラップを取り付けます。

65 地上操作側の第 2 中央ピボットピン（インデックス番号 7）から固定ファスナーを外します。

66 地上操作側の第 2 中央ピボットピン（インデックス番号 7）にロッドを通し、ピンを取り外すためにひねります。

67 非操舵側の第 2 ピボットピン（インデックス番号 20）から固定ファスナーを外します。

68 機械の非操舵側から軟質金属ドリフトを使って、第 2 ピボットピン（インデックス番号 20）を外します。地上操作側にある第 2 外側アーム（インデックス番号 19）を取り外します。

⚠ 要注意 地上操作側にある第 2 外側アーム（インデックス番号 19）が適切に支えられていないと、ピボットピンを取り外すときに、バランスを崩し落下することがあります。

69 オーバーヘッドクレーンからバッテリー側にある第 2 外側アーム（インデックス番号 19）にリフトストラップを取り付けます。

70 バッテリー側の第 2 中央ピボットピン（インデックス番号 7）から固定ファスナーを外します。

シザースの構成

71 バッテリー側の第 2 中央ピボットピン（インデックス番号 7）にロッドを通し、ピンを取り外すためにひねります。

⚠ 要注意 手のケガの危険第 2 外側アーム（インデックス番号 19）が適切に支えられていないと、ピボットピンを外すときにバランスを崩し落下することがあります。

72 第 2 外側アーム（インデックス番号 19）を機械から取り外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険第 2 外側アーム（インデックス番号 19）が適切に支えられていないと、機械から取り外すときにバランスを崩し落下することがあります。

73 オーバーヘッドクレーンから第 2 内側アーム（インデックス番号 18）にリフトストラップを取り付けます。アームを垂直位置へ上げます。

74 機械の操舵側の第 2 ピボットピン（インデックス番号 8）から固定ファスナーを外します。

75 軟質金属ドリフトを使用して、機械の操舵側から第 2 ピボットピン（インデックス番号 8）を外します。第 2 内側アーム（インデックス番号 18）を機械から取り外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険第 2 内側アーム（インデックス番号 18）が適切に支えられていないと、ピボットピンを外すときにバランスを崩し落下することがあります。

76 オーバーヘッドクレーンから第 1 内側アーム（インデックス番号 10）にリフトストラップを取り付けます。

77 第 1 内側アーム（インデックス番号 10）を約 2 フィート/60 cm 上昇させます。

78 第 1 中央ピボットピン（インデックス番号 9）の下、シャーシの両側に渡して、10 cm x 10 cm x 1.2 m の長いブロックを置きます。

79 シャーシに置かれているブロックに向かってシザースアームを下げます。

⚠ 要注意 人体への傷害の危険。シザースアームを下げているときは、動いている部分に手を近づけないでください。

80 オーバーヘッドクレーンから下部リフトシリンダーのロッド側のラグにリフトストラップを取り付けます。

81 下部リフトシリンダーの油圧ホースに印を付け、取り外して栓をします。シリンダーのフィッティングにキャップを付けます。

⚠ 警告 人体への傷害の危険。作動油が飛び散ると、皮膚に火傷を負うことがあります。油圧接続をゆっくりと緩めていき、オイルの圧力が徐々に下がるようにします。オイルが吹き出たり、散らないように注意してください。

82 ワイヤーハーネスに印を付け、シリンダーの電磁弁から取り外します。

83 ワイヤーと手動下降ケーブルに印をつけ、シリンダーの電磁弁から取り外します。

84 **作業台過負荷オプション付きのモデル**：ワイヤーハーネスに印を付け、作業台過負荷圧力変換器から取り外します。

注記：シザー部品の交換後、作業台過負荷システムは調節されなければなりません。に記載の修理の手順「作業台過負荷システムの調節方法（搭載されている場合）」を参照してください。

85 リフトシリンダーを垂直位置へ上げます。

86 ピン固定ファスナーをリフトシリンダードラム端ピボットピン（インデックス番号 21）から外します。軟質金属ドリフトを使ってピンを外します。リフトシリンダーを機械から外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険リフトシリンダーが適切に支えられていないと、ピボットピンを外すときに、落下することがあります。

注意 部品の損傷の危険。機械から取り外すときに、シリンダーのバルブやフィッティングを損傷しないよう注意してください。

87 第 1 ケーブル橋からケーブルを取り外し、横に置きます。

注意 部品の損傷の危険。ケーブルがよじれたり挟まれたりすると損傷することがあります。

88 第 1 外側アーム（インデックス番号 22）から第 1 ケーブル橋を取り外し、機械からケーブル橋を外します。

89 オーバーヘッドクレーンから第 1 内側アーム（インデックス番号 10）にリフトストラップを取り付けます。

90 アームを少し上昇させ、ブロックを外します。

91 アームを収納位置に下げます。

⚠ 要注意 人体への傷害の危険。シザースアームを下げているときは、動いている部分に手を近づけないでください。

92 機械の操舵側のシザースアームの端をまとめて、荷締めストラップ、または他の適切な機材で縛ります。

93 機械の非操舵側のシザースアームの端をまとめて、荷締めストラップ、または他の適切な器具で縛ります。

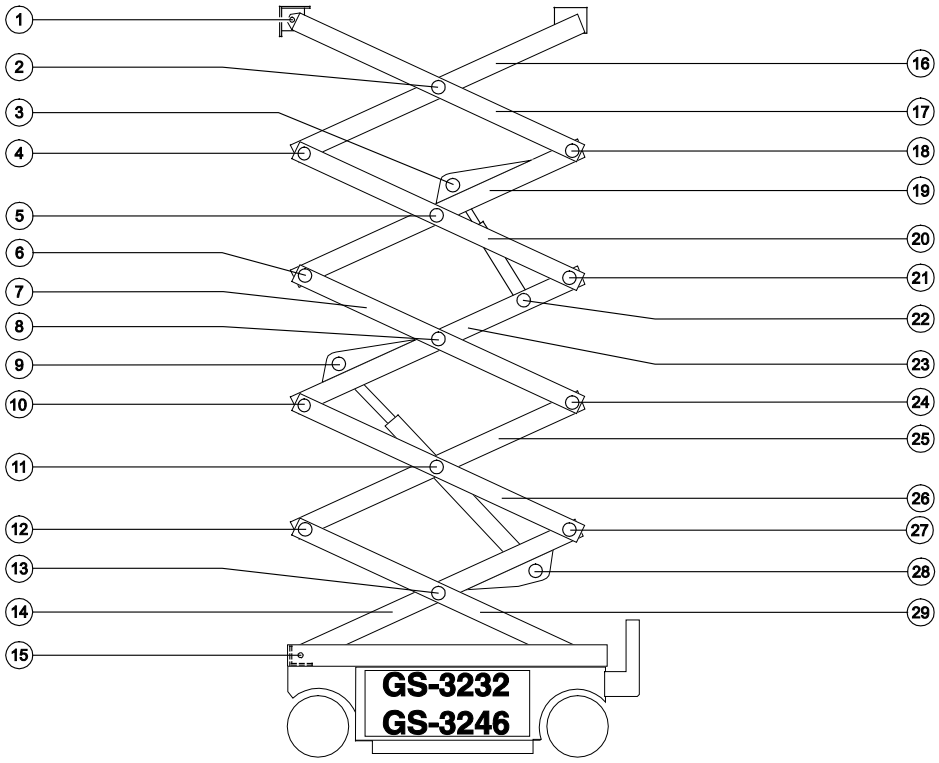
94 シャーシ固定ブラケットをシャーシに設置している固定ファスナーを取り外します。

95 リンクセットを機械から外します。

⚠ 要注意 人体への傷害の危険。第 1 内側アームと外側アーム（インデックス番号 10 および 22）が適切に支えられていないと、機械から取り外すときにバランスを崩し落下することがあります。

注意 部品の損傷の危険。第 1 側アームと外側アーム（インデックス番号 10 と 22）を機械から取り外すとき、リミットスイッチもしくはレベルセンサーの部品を損傷しないよう注意してください。

シザースの構成



ステアリング側

1 – 第 6 ピボットピン
2 – 第 5 中央ピボットピン（2 ピン）
3 – 上部リフトシリンダーロッド側ピボットピン
4 – 第 5 ピボットピン（ステアリング側）
5 – 第 4 中央ピボットピン（2 ピン）
6 – 第 4 ピボットピン（ステアリング側）
7 – 第 3 外側アーム
8 – 第 3 中央ピボットピン（2 ピン）
9 – 下部リフトシリンダーロッド側ピボットピン
10 – 第 3 ピボットピン（ステアリング側）
11 – 第 2 中央ピボットピン（2 ピン）
12 – 第 2 ピボットピン（ステアリング側）
13 – 第 1 中央ピボットピン（2 ピン）
14 – 第 1 内側アーム
15 – 第 1 ピボットピン（ステアリング側）（2 ピン）

非ステアリング側

16 – 第 5 内側アーム
17 – 第 5 外側アーム
18 – 第 5 ピボットピン（非ステアリング側）
19 – 第 4 内側アーム
20 – 第 4 外側アーム
21 – 第 4 ピボットピン（非ステアリング側）
22 – 上部リフトシリンダードラム側ピボットピン
23 – 第 3 内側アーム
24 – 第 3 ピボットピン（非ステアリング側）
25 – 第 2 内側アーム
26 – 第 2 外側アーム
27 – 第 2 ピボットピン（非ステアリング側）
28 – 下部リフトシリンダードラム側ピボットピン
29 – 第 1 外側アーム

9-5
シザース部品、
GS-3232 および GS-3246

シザースの解体方法

⚠ 警告 人体への傷害の危険。この手順を行うには、特定のリフト、作業場所、および修理技術が必要です。修理技能がない作業員がこの手順を行ったり、適切な工具なしにこれらの手順を行うと、重傷を負ったり死に至る場合があります。また、機械に重大な損傷をあたえる場合があります。この作業には、ディーラーによるサービスが必要です。

注記：ホース部品またはフィッティングを取り外す場合、フィッティングおよび（または）ホースの先の O リング（取り付けられている場合）を交換する必要があります。全ての接続は仕様に記載されているトルクで取り付ける必要があります。「仕様」の「油圧ホースおよびフィッティングのトルク仕様」を参照してください。

注記：作業台高度センサーを搭載した機械は、シザー解体手順をステップ 1 から開始します。作業台高度センサーを搭載していない機械は、シザー解体作業をステップ 24 から開始します。

1 キースイッチを回して地上操作にし、地上操作と作業台操作の両方で赤色非常停止ボタンを引いて、ON(オン)の位置にします。

2 作業台を 7 ～ 8 フィート/2.1 ～ 2.4 m 上げます。

3 安全アームを上げ、シザースアームの中央へ動かし、垂直位置へ回転させて下げます。

4 作業台を安全アームの上に下ろします。

⚠ 警告 手のケガの危険作業台が降下しているときは、安全アームに手を近づけないでください。

5 地上操作で、キースイッチを OFF（オフ）の位置に回し、赤色非常停止ボタンを OFF（オフ）の位置に押します。

6 バッテリーパックを機械から外します。

⚠ 警告 感電/やけどの危険帯電している回路に触れると、重傷を負ったり死に至ることがあります。指輪、時計などの装身具をすべて外してください。

7 作業台高度センサーの大きなカバーを作業台高度センサーの大きなブラケットに固定しているファスナーを取り外します。

8 作業台高度センサーのカバーを取り外します。

9 作業台高度センサーに印を付け、作業台高度センサーのハーネスから取り外します。

10 作業台高度センサーを第 1 内側アームに固定しているファスナーを取り外します。

11 第 1 ピボットピンから作業台高度センサーの部品を取り外します。

12 スクイーズコネクターを作業台高度センサーの大きなブラケットに固定しているプラスチック製ナットを取り外します。

シザースの構成

13 作業台高度センサーの大きなブラケットからスクイーズコネクターを取り外します。

14 作業台高度センサーの大きなブラケットを第 1 内側アームピボットブラケットに固定しているファスナーを取り外します。

15 第 1 の内側アームピボットブラケットから作業台高度センサーの大きなブラケットを取り外します。

16 ステップ 14 で取り外したファスナーを第 1 内側アームピボットブラケットとシャーシに取り付けます。

⚠ 危険 転倒の危険。第 1 内側アームピボットブラケットをシャーシに固定しているファスナーの取り付けを怠ると、機械が転倒し、重傷を負ったり死に至る可能性があります。

17 バッテリーパックを機械に接続します。

18 キースイッチを回して地上操作に切り替えます。

19 地上操作のスクロールアップおよびスクロールダウンボタンを押し続けます。

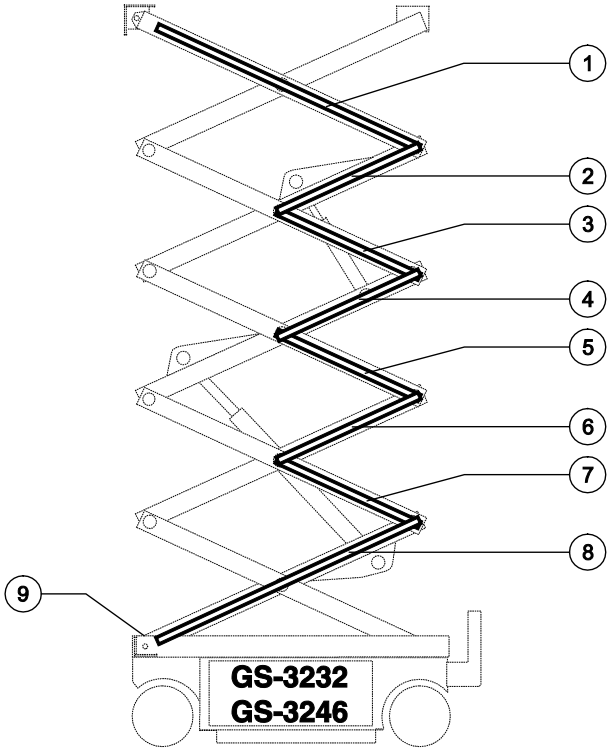
20 地上操作で赤色非常停止ボタンを引いてオンの位置にします。

21 地上操作メニューボタンを使用して、サービス無効化モードに移動します。サービス無効化モードを選択します。

注記：機械は作業台を上昇させるためにはサービス無効化モードである必要があります。サービス無効化モードの間、GCON のみが制限された機能の中で作動します。作業台は既定の時間上昇し、停止します。

22 作業台を上げ、安全アームを収納位置へ回転させます。

23 作業台を収納位置まで完全に下げます。



ケーブル橋と作業台高度センサー

1 ケーブル橋 5
2 ケーブル橋 4A
3 ケーブル橋 4B
4 ケーブル橋 3A
5 ケーブル橋 3B
6 ケーブル橋 2A
7 ケーブル橋 2B
8 ケーブル橋 1
9 作業台高度センサー

24 作業台を取り外します。の「作業台の取り外し方法」を参照してください。

25 出入口用はしごを適切なリフト機材へ支えて固定させます。

26 出入口はしごからファスナーを取り外して、はしごを機械から取り外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険出入口用はしごがリフト機材に適切に固定されていないと、落下します。

27 第 5 ケーブル橋からケーブルを取り外し、横に置きます。

28 第 5 外側アーム（インデックス番号 17）から第 4 ケーブル橋を取り外し、機械からケーブル橋を外します。

29 第 6 ピボットピン（インデックス番号 1）から固定ファスナーを外します。

30 第 6 ピボットピン（インデックス番号 1）を軟質金属ドリフトを使って外します。機械から作業台固定ブラケットを取り外します。

31 オーバーヘッドクレーンから地上操作側にある第 5 外側アーム（インデックス番号 17）にリフトストラップを取り付けます。

32 地上操作側の第 5 中央ピボットピン（インデックス番号 2）から固定ファスナーを外します。

33 地上操作側の第 5 中央ピボットピン（インデックス番号 2）にロッドを通し、ピンを取り外すためにひねります。

34 非操舵側の第 5 ピボットピン（インデックス番号 18）から固定ファスナーを外します。

35 機械の非操舵側から軟質金属ドリフトを使って、第 5 ピボットピン（インデックス番号 18）を外します。地上操作側にある第 5 外側アーム（インデックス番号 17）を取り外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険地上操作側にある第 5 外側アーム（インデックス番号 17）が適切に支えられていないと、機械から取り外すときに、バランスを崩し落下することがあります。

36 オーバーヘッドクレーンからバッテリー側にある第 5 外側アーム（インデックス番号 17）にリフトストラップを取り付けます。

37 バッテリー側の第 5 中央ピボットピン（インデックス番号 2）から固定ファスナーを外します。

38 バッテリー側の第 5 中央ピボットピン（インデックス番号 2）にロッドを通し、ピンを取り外すためにひねります。

39 第 5 外側アーム（インデックス番号 17）を機械から取り外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険第 5 外側アーム（インデックス番号 17）が適切に支えられていないと、機械から取り外すときにバランスを崩し落下することがあります。

40 オーバーヘッドクレーンから第 5 内側アーム（インデックス番号 16）にリフトストラップを取り付けます。アームを垂直位置へ上げます。

41 機械の操舵側の第 5 ピボットピン（インデックス番号 4）から固定ファスナーを外します。

シザースの構成

42 軟質金属ドリフトを使用して、機械の操舵側から第 5 ピボットピン（インデックス番号 18）を外します。第 5 内側アーム（インデックス番号 16）を機械から取り外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険第 5 内側アーム（インデックス番号 16）が適切に支えられていないと、機械から取り外すときにバランスを崩し落下することがあります。

43 上部リフトシリンダーの油圧ホースに印をつけ、取り外して栓をします。シリンダーのフィッティングにキャップを付けます。

⚠ 警告 人体への傷害の危険。作動油が飛び散ると、皮膚に火傷を負うことがあります。油圧接続をゆっくりと緩めていき、オイルの圧力が徐々に下がるようにします。オイルが吹き出たり、散らないように注意してください。

44 ワイヤーハーネスに印を付け、シリンダーの電磁弁から取り外します。

45 第 4A および 4B ケーブル橋からケーブルを取り外し、横に置きます。

注意 部品の損傷の危険。ケーブルがよじれたり挟まれたりすると損傷することがあります。

46 第 4A および 4B ケーブル橋をシザースリンクセットから取り外し、機械から両方のケーブル橋を外します。

47 オーバーヘッドクレーンから上部リフトシリンダーのロッド側ラグにリフトストラップを取り付けます。

48 上部リフトシリンダーのロッド側ピボットピン（インデックス番号 3）から固定ファスナーを外します。

49 軟質金属ドリフトを使用して、上部リフトシリンダーのロッド側ピボットピン（インデックス番号 3）を機械から外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険リフトシリンダーが適切に支えられていないと、ピボットピンを外すときに、落下することがあります。

50 シリンダーをリンクセットの上に下げます。

51 オーバーヘッドクレーンから地上操作側にある第 4 外側アーム（インデックス番号 20）にリフトストラップを取り付けます。

52 地上操作側の第 4 中央ピボットピン（インデックス番号 5）から固定ファスナーを外します。

53 地上操作側の第 4 中央ピボットピン（インデックス番号 5）にロッドを通し、ピンを取り外すためにひねります。

54 非操舵側の第 4 ピボットピン（インデックス番号 21）から固定ファスナーを外します。

55 機械の非操舵側から軟質金属ドリフトを使って、第 4 ピボットピン（インデックス番号 21）を外します。地上操作側にある第 4 外側アーム（インデックス番号 20）を取り外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険地上操作側にある第 4 外側アーム（インデックス番号 20）が適切に支えられていないと、機械から取り外すときに、バランスを崩し落下することがあります。

56 オーバーヘッドクレーンからバッテリー側にある第 4 外側アーム（インデックス番号 20）にリフトストラップを取り付けます。

57 バッテリー側の第 4 中央ピボットピン（インデックス番号 5）から固定ファスナーを外します。

58 バッテリー側の第 4 中央ピボットピン（インデックス番号 5）にロッドを通し、ピンを取り外すためにひねります。

59 第 4 外側アーム（インデックス番号 20）を機械から取り外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険第 4 外側アーム（インデックス番号 20）が適切に支えられていないと、機械から取り外すときにバランスを崩し落下することがあります。

60 オーバーヘッドクレーンから第 4 内側アーム（インデックス番号 19）にリフトストラップを取り付けます。アームを垂直位置へ上げます。

61 機械の操舵側の第 4 ピボットピン（インデックス番号 6）から固定ファスナーを外します。

62 軟質金属ドリフトを使用して、機械の操舵側から第 4 ピボットピン（インデックス番号 6）を外します。第 4 内側アーム（インデックス番号 19）を機械から取り外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険第 4 内側アーム（インデックス番号 19）が適切に支えられていないと、機械から取り外すときにバランスを崩し落下することがあります。

63 第 3A および 3B ケーブル橋からケーブルを取り外し、横に置きます。

注意 部品の損傷の危険。ケーブルがよじれたり挟まれたりすると損傷することがあります。

64 第 3A および 3B ケーブル橋をシザースリンクセットから取り外し、両方のケーブル橋を機械から外します。

65 オーバーヘッドクレーンから地上操作側にある第 3 外側アーム（インデックス番号 7）にリフトストラップを取り付けます。

66 地上操作側の第 3 中央ピボットピン（インデックス番号 8）から固定ファスナーを外します。

67 地上操作側の第 3 中央ピボットピン（インデックス番号 8）にロッドを通し、ピンを取り外すためにひねります。

68 非操舵側の第 3 ピボットピン（インデックス番号 24）から固定ファスナーを外します。

69 機械の非操舵側から軟質金属ドリフトを使って、第 3 ピボットピン（インデックス番号 24）を外します。地上操作側にある第 3 外側アーム（インデックス番号 7）を取り外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険地上操作側にある第 3 外側アーム（インデックス番号 7）が適切に支えられていないと、機械から取り外すときに、バランスを崩し落下することがあります。

70 オーバーヘッドクレーンからバッテリー側にある第 3 外側アーム（インデックス番号 7）にリフトストラップを取り付けます。

71 バッテリー側の第 3 中央ピボットピン（インデックス番号 8）から固定ファスナーを外します。

72 バッテリー側の第 3 中央ピボットピン（インデックス番号 8）にロッドを通し、ピンを取り外すためにひねります。

73 第 3 外側アーム（インデックス番号 7）を機械から取り外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険第 3 外側アーム（インデックス番号 7）が適切に支えられていないと、機械から取り外すときにバランスを崩し落下することがあります。

シザースの構成

74 オーバーヘッドクレーンから上部リフトシリンダーのロッド側ラグにリフトストラップを取り付けます。

75 リフトシリンダーを垂直位置へ上げます。

76 ピン固定ファスナーをリフトシリンダードラム端ピボットピン（インデックス番号 22）から外します。リフトシリンダーを機械から外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険リフトシリンダーが適切に支えられていないと、ピボットピンを外すときに、落下することがあります。

注意 部品の損傷の危険。機械から取り外すときに、シリンダーのバルブやフィッティングを損傷しないよう注意してください。

77 オーバーヘッドクレーンから下部リフトシリンダーのロッド側のラグにリフトストラップを取り付けます。

78 下部リフトシリンダーのロッド側のピボットピン（インデックス番号 9）から固定ファスナーを外します。

79 軟質金属ドリフトを使用して、下部リフトシリンダーのロッド側ピボットピン（インデックス番号 9）を機械から外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険リフトシリンダーが適切に支えられていないと、ピボットピンを外すときに、落下することがあります。

80 4 x 4 x 10 インチ/10 x 10 x 25 cm のブロックを第 1 内側アームシリンダープレート（インデックス番号 14）に置きます。

81 シリンダーをブロックの上に下ろします。

⚠ 要注意 人体への傷害の危険。シリンダーを下げているときは、動いている部品に手を近づけないでください。

82 オーバーヘッドクレーンから第 3 内側アーム（インデックス番号 23）にリフトストラップを取り付けます。アームを垂直位置へ上げます。

83 機械の操舵側の第 3 ピボットピン（インデックス番号 10）から固定ファスナーを外します。

84 軟質金属ドリフトを使用して、機械の操舵側から第 3 ピボットピン（インデックス番号 10）を外します。第 3 内側アーム（インデックス番号 23）を機械から取り外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険第 3 内側アーム（インデックス番号 23）が適切に支えられていないと、ピボットピンを外すときにバランスを崩し落下することがあります。

85 第 2A および 2B ケーブル橋からケーブルを取り外し、横に置きます。

注意 部品の損傷の危険。ケーブルがよじれたり挟まれたりすると損傷することがあります。

86 第 2A および 2B ケーブル橋をシザースリンクセットから取り外し、両方のケーブル橋を機械から外します。

87 オーバーヘッドクレーンから地上操作側にある第 2 外側アーム（インデックス番号 26）にリフトストラップを取り付けます。

88 地上操作側の第 2 中央ピボットピン（インデックス番号 11）から固定ファスナーを外します。

89 地上操作側の第 2 中央ピボットピン（インデックス番号 11）にロッドを通し、ピンを取り外すためにひねります。

90 非操舵側の第 2 ピボットピン（インデックス番号 27）から固定ファスナーを外します。

91 機械の非操舵側から軟質金属ドリフトを使って、第 2 ピボットピン（インデックス番号 27）を外します。地上操作側にある第 2 外側アーム（インデックス番号 26）を取り外します。

⚠ 要注意 地上操作側にある第 2 外側アーム（インデックス番号 26）が適切に支えられていないと、ピボットピンを取り外すときに、バランスを崩し落下することがあります。

92 オーバーヘッドクレーンからバッテリー側にある第 2 外側アーム（インデックス番号 26）にリフトストラップを取り付けます。

93 バッテリー側の第 2 中央ピボットピン（インデックス番号 11）から固定ファスナーを外します。

94 バッテリー側の第 2 中央ピボットピン（インデックス番号 11）にロッドを通し、ピンを取り外すためにひねります。

⚠ 要注意 手のケガの危険第 2 外側アーム（インデックス番号 26）が適切に支えられていないと、ピボットピンを外すときにバランスを崩し落下することがあります。

95 第 2 外側アーム（インデックス番号 26）を機械から取り外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険第 2 外側アーム（インデックス番号 26）が適切に支えられていないと、機械から取り外すときにバランスを崩し落下することがあります。

96 オーバーヘッドクレーンから第 2 内側アーム（インデックス番号 25）にリフトストラップを取り付けます。アームを垂直位置へ上げます。

97 機械の操舵側の第 2 ピボットピン（インデックス番号 12）から固定ファスナーを外します。

98 軟質金属ドリフトを使用して、機械の操舵側から第 2 ピボットピン（インデックス番号 12）を外します。第 2 内側アーム（インデックス番号 25）を機械から取り外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険第 2 内側アーム（インデックス番号 25）が適切に支えられていないと、ピボットピンを外すときにバランスを崩し落下することがあります。

99 オーバーヘッドクレーンから第 1 内側アーム（インデックス番号 14）にリフトストラップを取り付けます。

100 第 1 内側アーム（インデックス番号 14）を約 2 フィート/60 cm 上昇させます。

101 第 1 中央ピボットピン（インデックス番号 13）の下のシャーシの両側にまたがるように、4 x 4 x 48 インチ/10 cm x 10 x 1.2 m の長さのブロックを置きます。

102 シャーシに置かれているブロックに向かってシザースアームを下げます。

⚠ 要注意 人体への傷害の危険。シザースアームを下げているときは、動いている部分に手を近づけないでください。

103 オーバーヘッドクレーンから下部リフトシリンダーのロッド側のラグにリフトストラップを取り付けます。

104 下部リフトシリンダーの油圧ホースに印を付け、取り外して栓をします。シリンダーのフィッティングにキャップを付けます。

⚠ 警告 人体への傷害の危険。作動油が飛び散ると、皮膚に火傷を負うことがあります。油圧接続をゆっくりと緩めていき、オイルの圧力が徐々に下がるようにします。オイルが吹き出たり、散らないように注意してください。

105 ワイヤーハーネスに印を付け、シリンダーの電磁弁から取り外します。

シザースの構成

106 **作業台過負荷オプション付きのモデル**：ワイヤーハーネスに印を付け、作業台過負荷圧力変換器から取り外します。

注記：シザー部品の交換後、作業台過負荷システムは調節されなければなりません。9-10 に記載の修理の手順「作業台過負荷システムの調節方法（搭載されている場合）」を参照してください。

107 リフトシリンダーを垂直位置へ上げます。

108 ピン固定ファスナーをリフトシリンダードラム端ピボットピン（インデックス番号 28）から外します。軟質金属ドリフトを使ってピンを外します。リフトシリンダーを機械から外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険リフトシリンダーが適切に支えられていないと、ピボットピンを外すときに、落下することがあります。

注意 部品の損傷の危険。機械から取り外すときに、シリンダーのバルブやフィッティングを損傷しないよう注意してください。

109 第 1 ケーブル橋からケーブルを取り外し、横に置きます。

注意 部品の損傷の危険。ケーブルがよじれたり挟まれたりすると損傷することがあります。

110 第 1 外側アーム（インデックス番号 29）から第 1 ケーブル橋を取り外し、機械からケーブル橋を外します。

111 オーバーヘッドクレーンから第 1 内側アーム（インデックス番号 14）にリフトストラップを取り付けます。

112 アームを少し上昇させ、ブロックを外します。

113 アームを収納位置に下げます。

⚠ 要注意 人体への傷害の危険。シザースアームを下げているときは、動いている部分に手を近づけないでください。

114 機械の操舵側のシザースアームの端をまとめて、荷締めストラップ、または他の適切な機材で縛ります。

115 機械の非操舵側のシザースアームの端をまとめて、荷締めストラップ、または他の適切な器具で縛ります。

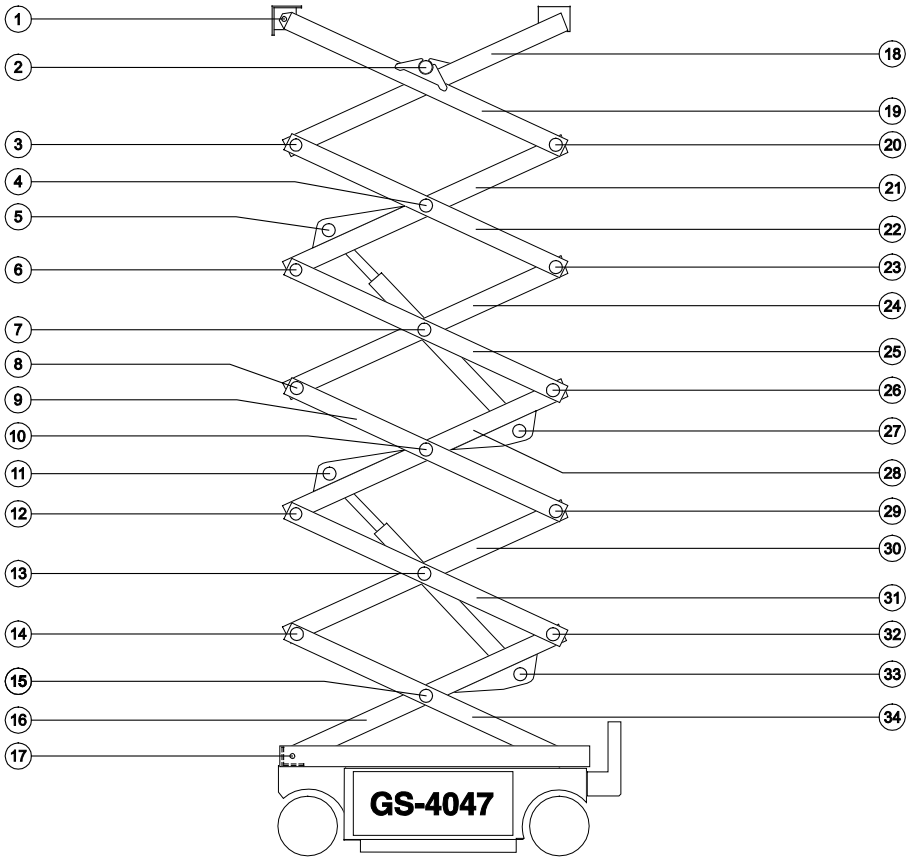
116 シャーシ固定ブラケットをシャーシに設置している固定ファスナーを取り外します。

117 リンクセットを機械から外します。

⚠ 要注意 人体への傷害の危険。第 1 内側アームと外側アーム（インデックス番号 14 および 29）が適切に支えられていないと、機械から取り外すときにバランスを崩し落下することがあります。

注意 部品の損傷の危険。第 1 内側アームと外側アーム（インデックス番号 14 と 29）を機械から取り外すとき、リミットスイッチもしくはレベルセンサーの部品を損傷しないよう注意してください。

シザースの構成



ステアリング側		非ステアリング側
1 – 第 7 ピボットピン	13 – 第 2 中央ピボットピン（2 ピン）	25 – 第 4 外側アーム
2 – 第 6 中央ピボットピン（2 ピン）	14 – 第 2 ピボットピン（ステアリング側）	26 – 第 4 ピボットピン（非ステアリング側）
3 – 第 6 ピボットピン（ステアリング側）	15 – 第 1 中央ピボットピン（2 ピン）	27 – 上部リフトシリンダードラム側ピボットピン
4 – 第 5 中央ピボットピン	16 – 第 1 内側アーム	28 – 第 3 内側アーム
5 – 上部リフトシリンダーロッド側ピボットピン	17 – 第 1 ピボットピン（ステアリング側）（2 ピン）	29 – 第 3 ピボットピン（非ステアリング側）
6 – 第 5 ピボットピン（ステアリング側）	18 – 第 6 内側アーム	30 – 第 2 内側アーム
7 – 第 4 中央ピボットピン（2 ピン）	19 – 第 6 外側アーム	31 – 第 2 外側アーム
8 – 第 4 ピボットピン（ステアリング側）	20 – 第 6 ピボットピン（非ステアリング側）	32 – 第 2 ピボットピン（非ステアリング側）
9 – 第 3 外側アーム	21 – 第 5 内側アーム	33 – 下部リフトシリンダードラム側ピボットピン
10 – 第 3 中央ピボットピン（2 ピン）	22 – 第 5 外側アーム	34 – 第 1 外側アーム
11 – 下部リフトシリンダーロッド側ピボットピン	23 – 第 5 ピボットピン（非ステアリング側）	
12 – 第 3 ピボットピン（ステアリング側）	24 – 第 4 内側アーム	

シザースの構成

9-6
シザース部品、
GS-4047

シザースの解体方法

⚠ 警告 人体への傷害の危険。この手順を行うには、特定の修理技術、リフト機材、適切な作業場所が必要です。技能がない作業員がこの手順を行ったり、適切な工具なしにこれらの手順を行うと、重傷を負ったり死に至る場合があります。また、機械に重大な損傷を与える場合があります。この作業には、販売業者によるサービスを強くお勧めします。

注記：ホース部品またはフィッティングを取り外す場合、フィッティングおよび（または）ホースの先の O リング（取り付けられている場合）を交換する必要があります。全ての接続は仕様に記載されているトルクで取り付ける必要があります。「仕様」の「油圧ホースおよびフィッティングのトルク仕様」を参照してください。

注記：作業台高度センサーを搭載した機械は、シザー解体手順をステップ 1 から開始します。作業台高度センサーを搭載していない機械は、シザー解体作業をステップ 24 から開始します。

1 キースイッチを回して地上操作にし、地上操作と作業台操作の両方で赤色非常停止ボタンを引いて、ON(オン)の位置にします。

2 作業台を 7 ～ 8 フィート/2.1 ～ 2.4 m 上げます。

3 安全アームを上げ、シザースアームの中央へ動かし、垂直位置へ回転させて下げます。

4 作業台を安全アームの上に下ろします。

⚠ 警告 手のケガの危険作業台が降下しているときは、安全アームに手を近づけないでください。

5 地上操作で、キースイッチを OFF（オフ）の位置に回し、赤色非常停止ボタンを OFF（オフ）の位置に押します。

6 バッテリーパックを機械から外します。

⚠ 警告 感電/やけどの危険帯電している回路に触れると、重傷を負ったり死に至ることがあります。指輪、時計などの装身具をすべて外してください。

7 作業台高度センサーの大きなカバーを作業台高度センサーの大きなブラケットに固定しているファスナーを取り外します。

8 作業台高度センサーのカバーを取り外します。

9 作業台高度センサーに印を付け、作業台高度センサーのハーネスから取り外します。

10 作業台高度センサーを第 1 内側アームに固定しているファスナーを取り外します。

11 第 1 ピボットピンから作業台高度センサーの部品を取り外します。

12 スクイーズコネクターを作業台高度センサーの大きなブラケットに固定しているプラスチック製ナットを取り外します。

13 作業台高度センサーの大きなブラケットからスクイーズコネクターを取り外します。

14 作業台高度センサーの大きなブラケットを第 1 内側アームピボットブラケットに固定しているファスナーを取り外します。

15 第 1 の内側アームピボットブラケットから作業台高度センサーの大きなブラケットを取り外します。

16 ステップ 14 で取り外したファスナーを第 1 内側アームピボットブラケットとシャーシに取り付けます。

⚠ 危険 転倒の危険。第 1 内側アームピボットブラケットをシャーシに固定しているファスナーの取り付けを怠ると、機械が転倒し、重傷を負ったり死に至る可能性があります。

17 バッテリーパックを機械に接続します。

18 キースイッチを回して地上操作に切り替えます。

19 地上操作のスクロールアップおよびスクロールダウンボタンを押し続けます。

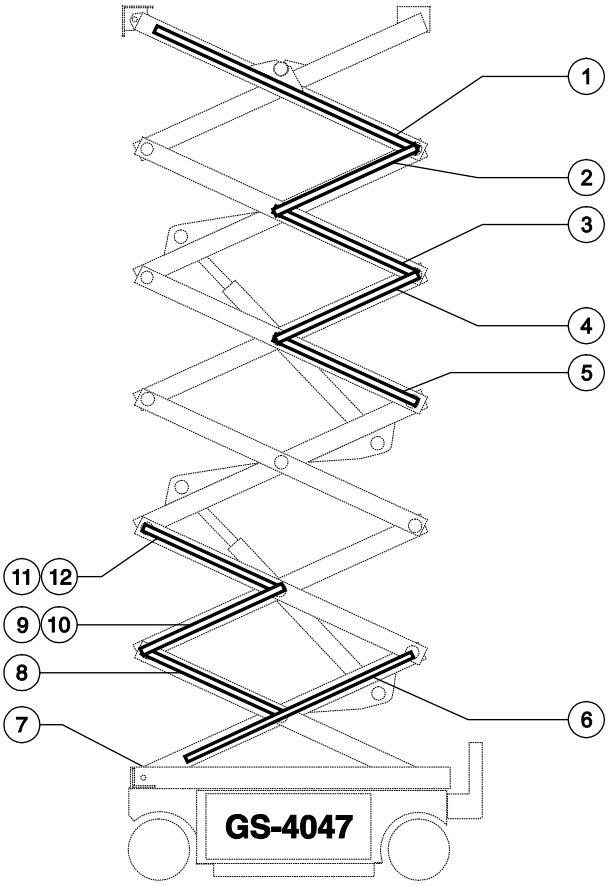
20 地上操作で赤色非常停止ボタンを引いてオンの位置にします。

21 地上操作メニューボタンを使用して、サービス無効化モードに移動します。サービス無効化モードを選択します。

注記：機械は作業台を上昇させるためにはサービス無効化モードである必要があります。サービス無効化モードの間、GCON のみが制限された機能の中で作動します。作業台は既定の時間上昇し、停止します。

22 作業台を上げ、安全アームを収納位置へ回転させます。

23 作業台を収納位置まで完全に下げます。



ケーブル橋と作業台高度センサー

1 ケーブル橋 6
2 ケーブル橋 5B
3 ケーブル橋 5A
4 ケーブル橋 4B
5 ケーブル橋 4A
6 ケーブル橋 1A
7 作業台高度センサー
8 ケーブル橋 1B
9 ケーブル橋 2A
10 ケーブル橋 2B
11 ケーブル橋 2C
12 ケーブル橋 2D

シザースの構成

24 作業台を取り外します。の「作業台の取り外し方法」を参照してください。

25 ケーブル橋 a、b、c、d および e からケーブルを取り外します。

26 第 7 ピボットピン（インデックス番号 1）から固定ファスナーを外します。

27 第 7 ピボットピン（インデックス番号 1）を軟質金属ドリフトを使って外します。機械から作業台固定ブラケットを取り外します。

28 オーバーヘッドクレーンから地上操作側にある第 6 外側アーム（インデックス番号 19）にリフトストラップを取り付けます。

29 地上操作側の第 6 中央ピボットピン（インデックス番号 2）から固定ファスナーを外します。

30 地上操作側の第 6 中央ピボットピン（インデックス番号 2）にロッドを通し、ピンを取り外すためにひねります。

31 非操舵側の第 6 ピボットピン（インデックス番号 20）から固定ファスナーを外します。

32 機械の非操舵側から軟質金属ドリフトを使って、第 6 ピボットピン（インデックス番号 20）を外します。地上操作側にある第 6 外側アーム（インデックス番号 19）を取り外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険地上操作側にある第 6 外側アーム（インデックス番号 19）が適切に支えられていないと、機械から取り外すときに、バランスを崩し落下することがあります。

33 オーバーヘッドクレーンからバッテリー側にある第 6 外側アーム（インデックス番号 19）にリフトストラップを取り付けます。

34 バッテリー側の第 6 中央ピボットピン（インデックス番号 2）から固定ファスナーを外します。

35 バッテリー側の第 6 中央ピボットピン（インデックス番号 2）にロッドを通し、ピンを取り外すためにひねります。

36 第 6 外側アーム（インデックス番号 19）を機械から取り外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険第 6 外側アーム（インデックス番号 19）が適切に支えられていないと、機械から取り外すときにバランスを崩し落下することがあります。

37 オーバーヘッドクレーンから第 6 内側アーム（インデックス番号 18）にリフトストラップを取り付けます。アームを垂直位置へ上げます。

38 機械の操舵側の第 6 ピボットピン（インデックス番号 3）から固定ファスナーを外します。

39 軟質金属ドリフトを使用して、機械の操舵側から第 6 ピボットピン（インデックス番号 3）を外します。第 6 内側アーム（インデックス番号 18）を機械から取り外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険第 5 内側アーム（インデックス番号 16）が適切に支えられていないと、機械から取り外すときにバランスを崩し落下することがあります。

40 上部リフトシリンダーの油圧ホースに印をつけ、取り外して栓をします。シリンダーのフィッティングにキャップを付けます。

⚠ 警告 人体への傷害の危険。作動油が飛び散ると、皮膚に火傷を負うことがあります。油圧接続をゆっくりと緩めていき、オイルの圧力が徐々に下がるようにします。オイルが吹き出たり、散らないように注意してください。

41 オーバーヘッドクレーンから地上操作側面にある第 5 外側アーム（インデックス番号 22）にリフトストラップを取り付けます。

42 地上操作側の第 5 中央ピボットピン（インデックス番号 4）から固定ファスナーを外します。

43 地上操作側の第 5 中央ピボットピン（インデックス番号 4）にロッドを通し、ピンを取り外すためにひねります。

44 非操舵側の第 5 ピボットピン（インデックス番号 23）から固定ファスナーを外します。

45 機械の非操舵側から軟質金属ドリフトを使って、第 5 ピボットピン（インデックス番号 23）を外します。地上操作側にある第 5 外側アーム（インデックス番号 22）を取り外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険地上操作側にある第 5 外側アーム（インデックス番号 22）が適切に支えられていないと、機械から取り外すときに、バランスを崩し落下することがあります。

46 オーバーヘッドクレーンからバッテリー側にある第 5 外側アーム（インデックス番号 22）にリフトストラップを取り付けます。

47 第 5 外側アーム（インデックス番号 22）を機械から取り外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険バッテリー側にある第 5 外側アーム（インデックス番号 22）が適切に支えられていないと、機械から取り外すときに、バランスを崩し落下することがあります。

48 ワイヤーハーネスに印を付け、シリンダーの電磁弁から取り外します。

注意 部品の損傷の危険。ケーブルがよじれたり挟まれたりすると損傷することがあります。

49 オーバーヘッドクレーンから上部リフトシリンダーのロッド側ラグにリフトストラップを取り付けます。

50 上部リフトシリンダーのロッド側ピボットピン（インデックス番号 5）から固定ファスナーを外します。

51 軟質金属ドリフトを使用して、上部リフトシリンダーのロッド側ピボットピン（インデックス番号 5）を機械から外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険リフトシリンダーが適切に支えられていないと、ピボットピンを外すときに、落下することがあります。

52 シリンダーをリンクセットの上に下げます。

53 オーバーヘッドクレーンから地上操作側にある第 4 外側アーム（インデックス番号 25）にリフトストラップを取り付けます。

54 地上操作側の第 4 中央ピボットピン（インデックス番号 7）から固定ファスナーを外します。

55 地上操作側の第 4 中央ピボットピン（インデックス番号 7）にロッドを通し、ピンを取り外すためにひねります。

56 非操舵側の第 4 ピボットピン（インデックス番号 26）から固定ファスナーを外します。

57 機械の非操舵側から軟質金属ドリフトを使って、第 4 ピボットピン（インデックス番号 26）を外します。地上操作側にある第 4 外側アーム（インデックス番号 25）を取り外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険地上操作側にある第 4 外側アーム（インデックス番号 25）が適切に支えられていないと、機械から取り外すときに、バランスを崩し落下することがあります。

シザースの構成

58 オーバーヘッドクレーンからバッテリー側にある第 4 外側アーム（インデックス番号 25）にリフトストラップを取り付けます。

59 バッテリー側の第 4 中央ピボットピン（インデックス番号 7）から固定ファスナーを外します。

60 バッテリー側の第 4 中央ピボットピン（インデックス番号 7）にロッドを通し、ピンを取り外すためにひねります。

61 第 4 外側アーム（インデックス番号 25）を機械から取り外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険第 4 外側アーム（インデックス番号 25）が適切に支えられていないと、機械から取り外すときにバランスを崩し落下することがあります。

62 オーバーヘッドクレーンから第 4 内側アーム（インデックス番号 24）にリフトストラップを取り付けます。アームを垂直位置へ上げます。

63 機械の操舵側の第 4 ピボットピン（インデックス番号 8）から固定ファスナーを外します。

64 軟質金属ドリフトを使用して、機械の操舵側から第 4 ピボットピン（インデックス番号 8）を外します。第 4 内側アーム（インデックス番号 24）を機械から取り外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険第 4 内側アーム（インデックス番号 24）が適切に支えられていないと、機械から取り外すときにバランスを崩し落下することがあります。

65 ケーブル橋 f、h、i、j、k および l からケーブルを取り外します。

注意 部品の損傷の危険。ケーブルがよじれたり挟まれたりすると損傷することがあります。

66 オーバーヘッドクレーンから地上操作側にある第 3 外側アーム（インデックス番号 9）にリフトストラップを取り付けます。

67 地上操作側の第 3 中央ピボットピン（インデックス番号 10）から固定ファスナーを外します。

68 地上操作側の第 3 中央ピボットピン（インデックス番号 10）にロッドを通し、ピンを取り外すためにひねります。

69 非操舵側の第 3 ピボットピン（インデックス番号 29）から固定ファスナーを外します。

70 機械の非操舵側から軟質金属ドリフトを使って、第 3 ピボットピン（インデックス番号 29）を外します。地上操作側にある第 3 外側アーム（インデックス番号 9）を取り外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険地上操作側にある第 3 外側アーム（インデックス番号 9）が適切に支えられていないと、機械から取り外すときに、バランスを崩し落下することがあります。

71 オーバーヘッドクレーンからバッテリー側にある第 3 外側アーム（インデックス番号 9）にリフトストラップを取り付けます。

72 第 3 外側アーム（インデックス番号 9）を機械から取り外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険第 3 外側アーム（インデックス番号 9）が適切に支えられていないと、機械から取り外すときにバランスを崩し落下することがあります。

73 オーバーヘッドクレーンから第 3 内側アーム（インデックス番号 28）にリフトストラップを取り付けます。第 3 内側アームを上昇させ、ドラム側のピボットピン（インデックス番号 27）へアクセスするために 4 x 4 x 48 インチ/10 cm x 10 cm x 1.2 m のブロックをリンクスタックに置きます。

74 オーバーヘッドクレーンから上部リフトシリンダーのロッド側ラグにリフトストラップを取り付けます。

75 リフトシリンダーを垂直位置へ上げます。

⚠ 要注意 手のケガの危険。リフトシリンダーが適切に支えられていないと、ピボットピンを外すときに、落下することがあります。

注意 部品の損傷の危険。機械から取り外すときに、シリンダーのバルブやフィッティングを損傷しないよう注意してください。

76 軟質金属ドリフトを使用して、上部リフトシリンダーのドラム側ピボットピン（インデックス番号 27）を機械から外します。

77 オーバーヘッドクレーンから第 3 内側アーム（インデックス番号 28）にリフトストラップを取り付けます。第 3 内側アームを上昇させ、リンクスタックから 4 x 4 x 48 インチ/10 cm x 10 cm x 1.2 m のブロックを外します。

78 第 3 内側アーム（インデックス番号 28）を下げ、リフトストラップを取り外します。

79 オーバーヘッドクレーンから下部リフトシリンダーのロッド側のラグにリフトストラップを取り付けます。

80 下部リフトシリンダーのロッド側ピボットピン（インデックス番号 11）から固定ファスナーを外します。

81 軟質金属ドリフトを使用して、下部リフトシリンダーのロッド側ピボットピン（インデックス番号 11）を機械から外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険リフトシリンダーが適切に支えられていないと、ピボットピンを外すときに、落下することがあります。

82 4 x 4 x 10 インチ/10 x 10 x 25 cm のブロックを第 1 内側アームシリンダープレート（インデックス番号 16）に置きます。

83 シリンダーをブロックの上に下ろします。

⚠ 要注意 人体への傷害の危険。シリンダーを下げているときは、動いている部品に手を近づけないでください。

84 オーバーヘッドクレーンから第 3 内側アーム（インデックス番号 28）にリフトストラップを取り付けます。アームを垂直位置へ上げます。

85 機械の操舵側の第 3 ピボットピン（インデックス番号 12）から固定ファスナーを外します。

86 軟質金属ドリフトを使用して、機械の操舵側から第 3 ピボットピン（インデックス番号 12）を外します。第 3 内側アーム（インデックス番号 28）を機械から取り外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険第 3 内側アーム（インデックス番号 28）が適切に支えられていないと、ピボットピンを外すときにバランスを崩し落下することがあります。

87 オーバーヘッドクレーンから地上操作側にある第 2 外側アーム（インデックス番号 31）にリフトストラップを取り付けます。

88 地上操作側の第 2 中央ピボットピン（インデックス番号 13）から固定ファスナーを外します。

89 地上操作側の第 2 中央ピボットピン（インデックス番号 13）にロッドを通し、ピンを取り外すためにひねります。

90 非操舵側の第 2 ピボットピン（インデックス番号 32）から固定ファスナーを外します。

シザースの構成

91 機械の非操舵側から軟質金属ドリフトを使って、第 2 ピボットピン（インデックス番号 32）を外します。地上操作側にある第 2 外側アーム（インデックス番号 31）を取り外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険地上操作側にある第 2 外側アーム（インデックス番号 31）が適切に支えられていないと、ピボットピンを取り外すときに、バランスを崩し落下することがあります。

92 オーバーヘッドクレーンからバッテリー側にある第 2 外側アーム（インデックス番号 31）にリフトストラップを取り付けます。

93 バッテリー側の第 2 中央ピボットピン（インデックス番号 13）から固定ファスナーを外します。

94 バッテリー側の第 2 中央ピボットピン（インデックス番号 13）にロッドを通し、ピンを取り外すためにひねります。

⚠ 要注意 手のケガの危険第 2 外側アーム（インデックス番号 31）が適切に支えられていないと、ピボットピンを外すときにバランスを崩し落下することがあります。

95 第 2 外側アーム（インデックス番号 31）を機械から取り外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険第 2 外側アーム（インデックス番号 31）が適切に支えられていないと、機械から取り外すときにバランスを崩し落下することがあります。

96 オーバーヘッドクレーンから第 2 内側アーム（インデックス番号 30）にリフトストラップを取り付けます。アームを垂直位置へ上げます。

97 機械の操舵側の第 2 ピボットピン（インデックス番号 14）から固定ファスナーを外します。

98 軟質金属ドリフトを使用して、機械の操舵側から第 2 ピボットピン（インデックス番号 14）を外します。第 2 内側アーム（インデックス番号 30）を機械から取り外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険第 2 内側アーム（インデックス番号 30）が適切に支えられていないと、ピボットピンを外すときにバランスを崩し落下することがあります。

99 オーバーヘッドクレーンから第 1 内側アーム（インデックス番号 16）にリフトストラップを取り付けます。

100 第 1 内側アーム（インデックス番号 16）を約 2 フィート/60 cm 上昇させます。

101 第 1 中央ピボットピン（インデックス番号 15）の下のシャーシの両側にまたがるように、4 x 4 x 48 インチ/10 cm x 10 x 1.2 m の長さのブロックを置きます。

102 シャーシに置かれているブロックに向かってシザースアームを下げます。

⚠ 要注意 人体への傷害の危険。シザースアームを下げているときは、動いている部分に手を近づけないでください。

103 オーバーヘッドクレーンから下部リフトシリンダーのロッド側のラグにリフトストラップを取り付けます。

104 下部リフトシリンダーの油圧ホースに印を付け、取り外して栓をします。シリンダーのフィッティングにキャップを付けます。

⚠ 警告 人体への傷害の危険。作動油が飛び散ると、皮膚に火傷を負うことがあります。油圧接続をゆっくりと緩めていき、オイルの圧力が徐々に下がるようにします。オイルが吹き出たり、散らないように注意してください。

105 ワイヤーハーネスに印を付け、シリンダーの電磁弁から取り外します。

106 ワイヤーと手動下降ケーブルに印をつけ、シリンダーの電磁弁から取り外します。

107 **作業台過負荷オプション付きのモデル**:ワイヤーハーネスに印を付け、作業台過負荷圧力変換器から取り外します。

注記:シザー部品の交換後、作業台過負荷システムは調節されなければなりません。修理の手順 9-10 に記載の「作業台過負荷システムの調節方法(搭載されている場合)」を参照してください。

108 リフトシリンダーを垂直位置へ上げます。

109 ピン固定ファスナーをリフトシリンダードラム端ピボットピン(インデックス番号 28)から外します。軟質金属ドリフトを使ってピンを外します。リフトシリンダーを機械から外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険リフトシリンダーが適切に支えられていないと、ピボットピンを外すときに、落下することがあります。

注意 部品の損傷の危険。機械から取り外すときに、シリンダーのバルブやフィッティングを損傷しないよう注意してください。

110 第 1 ケーブル橋からケーブルを取り外し、横に置きます。

注意 部品の損傷の危険。ケーブルがよじれたり挟まれたりすると損傷することがあります。

111 第 1 ケーブル橋からケーブルを取り外し、横に置きます。

112 第 1 外側アーム(インデックス番号 34)から第 1 ケーブル橋を取り外し、機械からケーブル橋を外します。

113 オーバーヘッドクレーンから第 1 内側アーム(インデックス番号 16)にリフトストラップを取り付けます。

114 アームを少し上昇させ、ブロックを外します。

115 アームを収納位置に下げます。

⚠ 要注意 人体への傷害の危険。シザースアームを下げているときは、動いている部分に手を近づけないでください。

116 機械の操舵側のシザースアームの端をまとめて、荷締めストラップ、または他の適切な機材で縛ります。

117 機械の非操舵側のシザースアームの端をまとめて、荷締めストラップ、または他の適切な器具で縛ります。

118 シャーシ固定ブラケットをシャーシに設置している固定ファスナーを取り外します。

119 リンクセットを機械から外します。

⚠ 要注意 人体への傷害の危険。第 1 内側アームと外側アーム(インデックス番号 16 および 34)が適切に支えられていないと、機械から取り外すときにバランスを崩し落下することがあります。

注意 部品の損傷の危険。第 1 側アームと外側アーム(インデックス番号 16 と 34)を機械から取り外すとき、リミットスイッチもしくはレベルセンサーの部品を損傷しないよう注意してください。

シザースの構成

9-7
シザースアーム磨耗板

シザースアーム磨耗板の交換方法

注記：作業台高度センサーを搭載している機械はテップ 1 から開始し、作業台高度センサーを搭載していない機械はステップ 24 から開始します。

1 キースイッチを回して地上操作にし、地上操作と作業台操作の両方で赤色非常停止ボタンを引いて、ON(オン)の位置にします。

2 作業台を 7 ～ 8 フィート/2.1 ～ 2.4 m 上げます。

3 安全アームを上げ、シザースアームの中央へ動かし、垂直位置へ回転させて下げます。

4 作業台を安全アームの上に下ろします。

⚠ 警告 手のケガの危険作業台が降下しているときは、安全アームに手を近づけないでください。

5 地上操作で、キースイッチを回して OFF（オフ）の位置にし、赤色非常停止ボタンを OFF（オフ）の位置に押します。

6 バッテリーパックを機械から外します。

⚠ 警告 感電/やけどの危険帯電している回路に触れると、重傷を負ったり死に至ることがあります。指輪、時計などの装身具をすべて外してください。

7 作業台高度センサーカバーを作業台高度センサーの大きなブラケットに固定しているファスナーを取り外します。

8 作業台高度センサーのカバーを取り外します。

9 作業台高度センサーに印を付け、作業台高度センサーのハーネスから取り外します。

10 作業台高度センサーを第 1 内側アームに固定しているファスナーを取り外します。

11 第 1 ピボットピンから作業台高度センサーの部品を取り外します。

12 スクイーズコネクターを作業台高度センサーの大きなブラケットに固定しているプラスチック製ナットを取り外します。

13 作業台高度センサーの大きなブラケットからスクイーズコネクターを取り外します。

14 作業台高度センサーの大きなブラケットを第 1 内側アームピボットブラケットに固定しているファスナーを取り外します。

15 第 1 の内側アームピボットブラケットから作業台高度センサーの大きなブラケットを取り外します。

16 ステップ 14 で取り外したファスナーを第 1 内側アームピボットブラケットとシャーシに取り付けます。

⚠ 危険 転倒の危険。第 1 内側アームピボットブラケットをシャーシに固定しているファスナーの取り付けを怠ると、機械が転倒し、重傷を負ったり死に至る可能性があります。

17 バッテリーパックを機械に接続します。

18 キースイッチを回して地上操作の位置にします。

19 地上操作のスクロールアップおよびスクロールダウンボタンを押し続けます。

20 地上操作で赤色非常停止ボタンを引いてオンの位置にします。

21 地上操作メニューボタンを使用して、サービス無効化モードに移動します。サービス無効化モードを選択します。

注記:機械は作業台を上昇させるためにはサービス無効化モードである必要があります。サービス無効化モードの間、GCON のみが制限された機能の中で作動します。作業台は既定の時間上昇し、停止します。

22 作業台を上げ、安全アームを閉じた状態にします。

23 作業台を収納位置まで完全に下げます。

24 作業台を取り外します。10-1 の「作業台の取り外し方法」を参照してください。

25 出入口用はしごを適切なリフト機材へ支えて固定させます。

26 出入口はしごからファスナーを取り外して、はしごを機械から取り外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険出入口用はしごがリフト機材に適切に固定されていないと、落下します。

27 機械のステアリング側のシザースアームの端をまとめて、荷締めストラップ、または他の適切な器具で縛ります。

28 機械の非ステアリング側のシザースアームの端をまとめて、荷締めストラップ、または他の適切な器具で縛ります。

29 シャーシ固定ブラケットを機械のステアリング側のシャーシに固定している固定ファスナーを取り外します。

30 リフトストラップをオーバーヘッドクレーンからシザースアームに取り付けます。

31 シャーシ固定ブラケットがレベルセンサーから離れるまで、オーバーヘッドクレーンでシザースアームをステアリング側まで上げます。

32 両方の摩耗板が十分利用できるように、シザー部品を機械から離します。

⚠ 危険 手のケガの危険シザースが適切に支えられていないと、走行シャーシから取り外すときに落下します。

注意 部品の損傷の危険。シザー部品を動かすときに、レベルセンサー、リミットスイッチを損傷しないよう注意してください。

33 両側の古い磨耗板を取り外します。

34 新しい磨耗板を両側に取り付けます。

35 シザースを走行シャーシに戻します。

36 シザース部品を位置まで下げ、シャーシ固定ブラケットをシャーシに取り付けます。ファスナーをしっかりと取り付け、締めます。締めすぎないよう注意してください。

注意 部品の損傷の危険。シザー部品を動かすときに、レベルセンサー、リミットスイッチを損傷しないよう注意してください。

シザースの構成

9-8
作業台高度センサー

作業台高度センサー部品の解体方法（搭載されている場合）（搭載されている場合）

注記：作業台高度センサーの取り外し、交換を行うときには、作業台過負荷システムが調節されていなければなりません。「修理の手順」セクションの「作業台過負荷システムの調節方法（搭載されている場合）」を参照し、無負荷の調節手順に従います。

1 作業台を 7 ～ 8 フィート/2.1 ～ 2.4 m 上げます。

2 安全アームを上げ、シザースアームの中央へ動かし、垂直位置へ回転させて下げます。

3 作業台を安全アームの上に下ろします。

⚠ 警告 手のケガの危険作業台が降下しているときは、安全アームに手を近づけないでください。

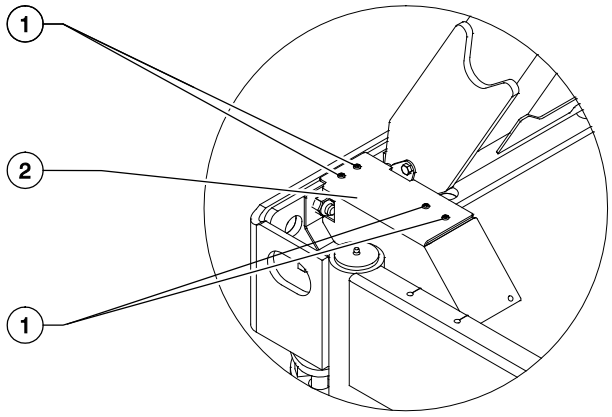
4 キースイッチを回して OFF (オフ) にします。

5 バッテリーパックを機械から外します。

⚠ 警告 感電/やけどの危険帯電している回路に触れると、重傷を負ったり死に至ることがあります。指輪、時計などの装身具をすべて外してください。

6 作業台高度センサーの大きなカバーを作業台高度センサーの大きなブラケットに固定しているファスナーを取り外します。

7 作業台高度センサーのカバーを取り外します。



操舵側

1 ファスナー（作業台高度センサーカバー）
2 作業台高度センサーカバー

8 作業台高度センサーに印を付け、作業台高度センサーのハーネスから取り外します。

9 作業台高度センサーを第 1 内側アームに固定しているファスナーを取り外します。

10 第 1 ピボットピンから作業台高度センサーの部品を取り外します。

11 レバーアームを作業台高度センサーに固定しているセットネジを取り外します。

12 作業台高度センサー部品からレバーアームを取り外します。

13 作業台高度センサーで、プラスチック製クリップから Deustch コネクターを取り外します。

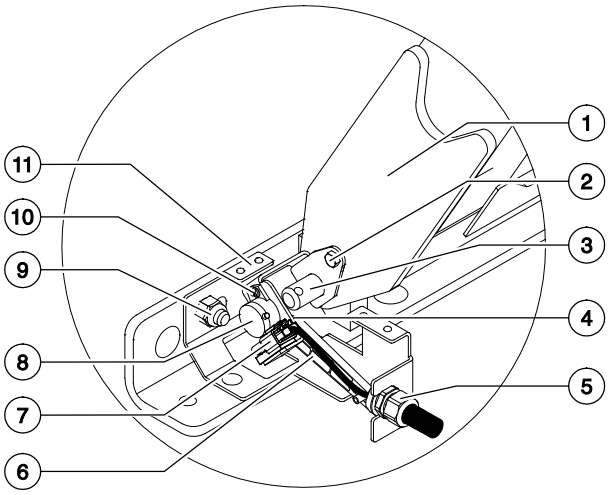
14 作業台高度センサーを作業台高度センサーの小さいブラケットに固定しているファスナーを取り外します。

シザースの構成

15 作業台高度センサーを小角度のセンサーブラケットから外します。

16 スクイーズコネクターを作業台高度センサーの大きなブラケットに固定しているプラスチック製ナットを取り外します。

17 作業台高度センサーの大きなブラケットからスクイーズコネクターを取り外します。



操舵側

1 第 1 内側アーム
2 ファスナー（作業台高度センサー部品）
3 第 1 ピボットピン
4 レバーアーム固定ネジ
5 スクイーズコネクター
6 レバーアーム
7 作業台高度センサーハーネス接続
8 作業台高度センサー
9 ファスナー（作業台高度センサーの大きなブラケット）
10 ファスナー（作業台高度センサー）
11 作業台高度センサー部品

18 作業台高度センサーの大きなブラケットを第 1 内側アームピボットブラケットに固定しているファスナーを取り外します。

19 第 1 の内側アームピボットブラケットから作業台高度センサーの大きなブラケットを取り外します。

⚠ 危険 転倒の危険。作業台高度センサーの大きなブラケットと第 1 の内側アームピボットブラケットをシャーシに固定しているファスナーの取り付けを怠ると、機械が転倒し、重傷を負ったり死に至る可能性があります。

シザースの構成

9-9
リフトシリンダー

リフトシリンダーの取り外し方法

⚠ 警告

人体への傷害の危険。この手順を行うには、特定のリフト、作業場所、および修理技術が必要です。修理技能がない作業員がこの手順を行ったり、適切な工具なしにこれらの手順を行うと、重傷を負ったり死に至る場合があります。また、機械に重大な損傷をあたえる場合があります。この作業には、ディーラーによるサービスが必要です。

注記：ホース部品またはフィッティングを取り外す場合、フィッティングおよび（または）ホースの先の O リング（取り付けられている場合）を交換する必要があります。全ての接続は仕様に記載されているトルクで取り付ける必要があります。「仕様」の「油圧ホースおよびフィッティングのトルク仕様」を参照してください。

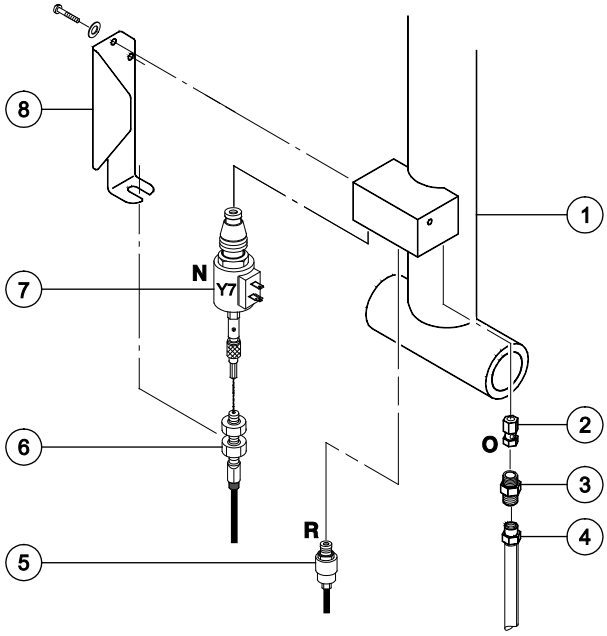
GS-1530, GS-1532, GS-1930 および GS-1932:

注記：圧力変換器を搭載していないモデルは、ステップ 1 から 23、27、および 28 に従います。
圧力変換器を搭載しているモデルはステップ 1 から 28 に従います。

1 キースイッチを回して地上操作にし、地上操作と作業台操作の両方で赤色非常停止ボタンを引いて、ON(オン)の位置にします。

2 作業台を 7 ～ 8 フィート/2.1 ～ 2.4 m 上げます。

3 安全アームを上げ、シザースアームの中央へ動かし、垂直位置へ回転させて下げます。



1 リフトシリンダー
2 オリフィス（図中 O）
3 コネクターフィッティング
4 油圧ホース
5 圧力変換器（図中 R）（搭載されている場合）
6 手動下降ケーブル
7 電磁弁（図中 N）
8 ケーブル固定ブラケット

4 作業台を安全アームの上に下ろします。

⚠ 警告

手のケガの危険作業台が降下しているときは、安全アームに手を近づけないでください。

5 適切なリフト機材を使用して、機械のステアリング側のリンクスタックを支えます。

6 地上操作で、キースイッチを OFF（オフ）の位置に回し、赤色非常停止ボタンを OFF（オフ）の位置に押します。

7 バッテリーパックを機械から外します。

⚠ 警告 感電/やけどの危険帯電している回路に触れると、重傷を負ったり死に至ることがあります。指輪、時計などの装身具をすべて外してください。

8 ワイヤーに印を付け、リフトシリンダーのドラム側の電磁弁のコイルから取り外します。

9 3 ピンコネクターが搭載されてる場合には、印を付けて、圧力変換器のハーネスから取り外します。9-9 に記載の修理の手順「圧力変換器の取り外し方法（搭載されている場合）」を参照してください。

10 電磁弁の調節ナットを緩め、バルブから手動下降ケーブルを外します。

注記：組立を行う際、作業台手動下降ケーブルを適切に調整しなければなりません。の「作業台手動下降ケーブルの調節方法」を参照してください。

11 手動下降ケーブル固定ブラケットをシリンダーに取り付けているファスナーを取り外します。ブラケットをシリンダーから外します。

12 リフトシリンダーの油圧ホースに印をつけ、取り外して栓をします。シリンダーのフィッティングにキャップを付けます。

⚠ 警告 人体への傷害の危険。作動油が飛び散ると、皮膚に火傷を負うことがあります。油圧接続をゆっくりと緩めていき、オイルの圧力が徐々に下がるようにします。オイルが吹き出たり、散らないように注意してください。

13 オーバーヘッドクレーンからリフトシリンダーのロッド側に支えとしてリフトストラップを取り付けます。

14 リフトシリンダーロッド側のピボットピンから固定ファスナーを外します。軟質金属ドリフトを使ってピンを外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険リフトシリンダーが適切に支えられていないと、ピボットピンを外すときに、落下することがあります。

15 シリンダーを第 2 内側アームの上に下ろします。

16 オーバーヘッドクレーンあるいは同様の上昇デバイスからリフトシリンダーのドラムの端にリフトストラップを取り付け、支えます。

17 リフトシリンダードラム側のピボットピンからファスナーを外します。軟質金属ドリフトを使ってピンを外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険リフトシリンダーが適切に支えられていないと、ピボットピンを外すときに、落下することがあります。

18 リフトシリンダーを適切なリフト機材へ支えて固定させます。

19 機械のステアリング側にあるシザースアームの間のリフトシリンダーを取り外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険リフトシリンダーがリフト機材に適切に固定されていないと、バランスを崩し、落下します。

注意 部品の損傷の危険。機械から取り外すときに、シリンダーのバルブやフィッティングを損傷しないよう注意してください。

シザースの構成

20 新しいシリンダー、フィッテイング、ホースと圧力変換器（搭載されている場合）を取り付けます。

トルク仕様	
電磁弁、2 ポジション 2 方向、N.C.（図中 N）	20 ft-lbs 27 Nm
コイルナット	5 ft-lbs 7 Nm
圧力変換器（搭載されている場合）（図中 R）	27 ft-lbs 37 Nm

21 機械のステアリング側のリンクスタックを支えているリフト機材を取り外します。

22 バッテリーパックを機械に接続します。

23 キースイッチを回して地上操作に切り替えます。

圧力変換器を搭載していないモデルはステップ 27 に進みます。
圧力変換器を搭載しているモデルはステップ 24 に進みます。

24 地上操作のスクロールアップおよびスクロールダウンボタンを押し続けます。

25 地上操作で赤色非常停止ボタンを引いてオンの位置にします。

26 地上操作メニューボタンを使用して、サービス無効化モードに移動します。サービス無効化モードを選択します。

注記：機械は作業台を上昇させるためにはサービス無効化モードである必要があります。サービス無効化モードの間、GCON のみが制限された機能の中で作動します。作業台は既定の時間上昇し、停止します。

27 作業台を上げ、安全アームを収納位置へ回転させます。

28 作業台を収納位置まで完全に下げます。

注記：圧力変換器付きのモデルの場合は、作業台過負荷システムを調節してください。「修理の手順」セクションの「作業台過負荷システムの調節方法（搭載されている場合）」を参照してください。

GS-2032, GS-2632, GS-2046 および GS-2646

⚠ 警告 人体への傷害の危険。この手順を行うには、特定のリフト、作業場所、および修理技術が必要です。修理技能がない作業員がこの手順を行ったり、適切な工具なしにこれらの手順を行うと、重傷を負ったり死に至る場合があります。また、機械に重大な損傷をあたえる場合があります。この作業には、ディーラーによるサービスが必要です。

注記：ホース部品またはフィッティングを取り外す場合、フィッティングおよび（または）ホースの先の O リング（取り付けられている場合）を交換する必要があります。全ての接続は仕様に記載されているトルクで取り付ける必要があります。「仕様」の「油圧ホースおよびフィッティングのトルク仕様」を参照してください。

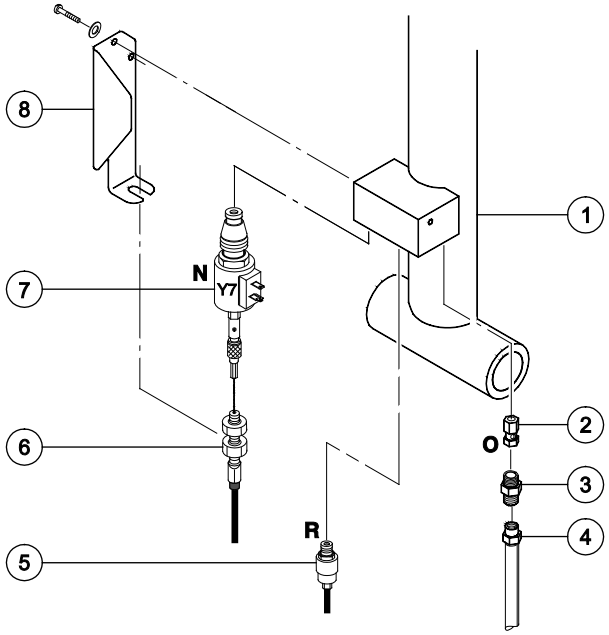
注記：圧力変換器を搭載していないモデルは、ステップ 1 から 23、27、および 28 に従います。
圧力変換器を搭載しているモデルはステップ 1 から 28 に従います。

1 キースイッチを回して地上操作にし、地上操作と作業台操作の両方で赤色非常停止ボタンを引いて、ON(オン)の位置にします。

2 作業台を 7 ～ 8 フィート/2.1 ～ 2.4 m 上げます。

シザースの構成

3 安全アームを上げ、シザースアームの中央へ動かし、垂直位置へ回転させて下げます。



1 リフトシリンダー
2 オリフィス（図中 O）
3 コネクターフィッティング
4 油圧ホース
5 圧力変換器（図中 R）（搭載されている場合）
6 手動下降ケーブル
7 電磁弁（図中 N）
8 ケーブル固定ブラケット

4 作業台を安全アームの上に下ろします。

⚠ 警告 手のケガの危険作業台が降下しているときは、安全アームに手を近づけないでください。

5 適切なリフト機材を使用して、機械のステアリング側のリンクスタックを支えます。

6 地上操作で、キースイッチを OFF（オフ）の位置に回し、赤色非常停止ボタンを OFF（オフ）の位置に押します。

7 バッテリーパックを機械から外します。

⚠ 警告 感電/やけどの危険帯電している回路に触れると、重傷を負ったり死に至ることがあります。指輪、時計などの装身具をすべて外してください。

8 ワイヤーに印を付け、リフトシリンダーのドラム側の電磁弁のコイルから取り外します。

9 3 ピンコネクターが搭載されてる場合には、印を付けて、圧力変換器のハーネスから取り外します。に記載の修理の手順「圧力変換器の取り外し方法（搭載されている場合）」を参照してください。

10 電磁弁の調節ナットを緩め、バルブから手動下降ケーブルを外します。

注記：組立を行う際、作業台手動下降ケーブルを適切に調整しなければなりません。の「作業台手動下降ケーブルの調節方法」を参照してください。

11 手動下降ケーブル固定ブラケットをシリンダーに取り付けているファスナーを取り外します。ブラケットをシリンダーから外します。

12 リフトシリンダーの油圧ホースに印をつけ、取り外して栓をします。シリンダーのフィッティングにキャップを付けます。

⚠ 警告 人体への傷害の危険。作動油が飛び散ると、皮膚に火傷を負うことがあります。油圧接続をゆっくりと緩めていき、オイルの圧力が徐々に下がるようにします。オイルが吹き出たり、散らないように注意してください。

13 オーバーヘッドクレーンからリフトシリンダーのロッド側に支えとしてリフトストラップを取り付けます。

シザースの構成

14 リフトシリンダーロッド側のピボットピンから固定ファスナーを外します。軟質金属ドリフトを使ってピンを外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険リフトシリンダーが適切に支えられていないと、ピボットピンを外すときに、落下することがあります。

15 第 1 内側アームのシリンダープレート上にシリンダーを下ろします。

16 オーバーヘッドクレーンあるいは同様の上昇デバイスからリフトシリンダーのドラムの端にリフトストラップを取り付け、支えます。

17 リフトシリンダードラム側のピボットピンからファスナーを外します。軟質金属ドリフトを使ってピンを外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険リフトシリンダーが適切に支えられていないと、ピボットピンを外すときに、落下することがあります。

18 リフトシリンダーを適切なリフト機材へ支えて固定させます。

19 機械のステアリング側にあるシザースアームの間のリフトシリンダーを取り外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険リフトシリンダーがリフト機材に適切に固定されていないと、バランスを崩し、落下します。

注意 部品の損傷の危険。機械から取り外すときに、シリンダーのバルブやフィッティングを損傷しないよう注意してください。

20 新しいシリンダー、フィッテイング、ホースと圧力変換器（搭載されている場合）を取り付けます。

トルク仕様	
電磁弁、2 ポジション 2 方向、N.C.（図中 N）	20 ft-lbs 27 Nm
コイルナット	5 ft-lbs 7 Nm
圧力変換器（搭載されている場合）（図中 R）	27 ft-lbs 37 Nm

21 機械のステアリング側のリンクスタックを支えているリフト機材を取り外します。

22 バッテリーパックを機械に接続します。

23 キースイッチを回して地上操作に切り替えます。

圧力変換器を搭載していないモデルはステップ 27 に進みます。
圧力変換器を搭載しているモデルはステップ 24 に進みます。

24 地上操作のスクロールアップおよびスクロールダウンボタンを押し続けます。

25 地上操作で赤色非常停止ボタンを引いてオンの位置にします。

26 地上操作メニューボタンを使用して、サービス無効化モードに移動します。サービス無効化モードを選択します。

注記：機械は作業台を上昇させるためにはサービス無効化モードである必要があります。サービス無効化モードの間、GCON のみが制限された機能の中で作動します。作業台は既定の時間上昇し、停止します。

27 作業台を上げ、安全アームを収納位置へ回転させます。

28 作業台を収納位置まで完全に下げます。

注記：圧力変換器付きのモデルの場合は、作業台過負荷システムを調節してください。「修理の手順」セクションの「作業台過負荷システムの調節方法（搭載されている場合）」を参照してください。

シザースの構成

GS-3232 および GS-3246

⚠ 警告 人体への傷害の危険。この手順を行うには、特定のリフト、作業場所、および修理技術が必要です。修理技能がない作業員がこの手順を行ったり、適切な工具なしにこれらの手順を行うと、重傷を負ったり死に至る場合があります。また、機械に重大な損傷をあたえる場合があります。この作業には、ディーラーによるサービスが必要です。

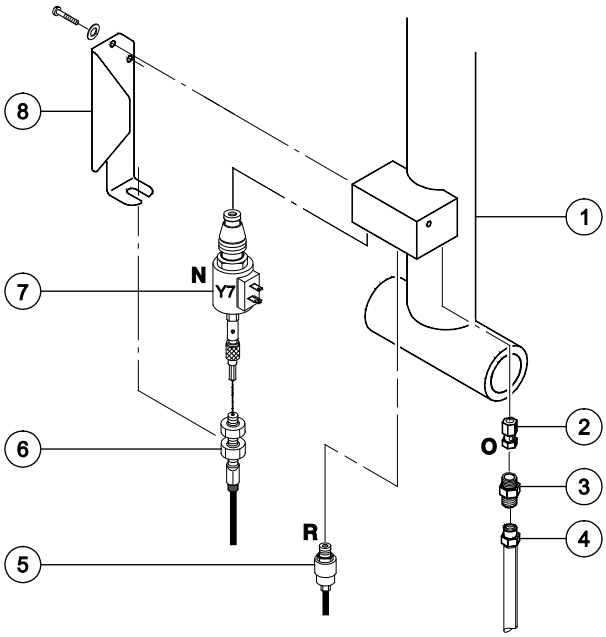
注記：ホース部品またはフィッティングを取り外す場合、フィッティングおよび（または）ホースの先の O リング（取り付けられている場合）を交換する必要があります。全ての接続は仕様に記載されているトルクで取り付ける必要があります。「仕様」の「油圧ホースおよびフィッティングのトルク仕様」を参照してください。

注記：圧力変換器を搭載していないモデルは、ステップ 1 から 21、25、および 26 に従います。
圧力変換器を搭載しているモデルはステップ 1 から 26 に従います。

1 キースイッチを回して地上操作にし、地上操作と作業台操作の両方で赤色非常停止ボタンを引いて、ON(オン)の位置にします。

2 作業台を 7 ～ 8 フィート/2.1 ～ 2.4 m 上げます。

3 安全アームを上げ、シザースアームの中央へ動かし、垂直位置へ回転させて下げます。



1 リフトシリンダー
2 オリフィス（図中 O）
3 コネクターフィッティング
4 油圧ホース
5 圧力変換器（図中 R）（搭載されている場合）
6 手動下降ケーブル
7 電磁弁（図中 N）
8 ケーブル固定ブラケット

シザースの構成

4 作業台を安全アームの上に下ろします。

⚠ 警告 手のケガの危険作業台が降下しているときは、安全アームに手を近づけないでください。

5 適切なリフト機材を使用して、機械のステアリング側のリンクスタックを支えます。

6 地上操作で、キースイッチを OFF（オフ）の位置に回し、赤色非常停止ボタンを OFF（オフ）の位置に押します。

7 バッテリーパックを機械から外します。

⚠ 警告 感電/やけどの危険帯電している回路に触れると、重傷を負ったり死に至ることがあります。指輪、時計などの装身具をすべて外してください。

注記：下部リフトシリンダーで、オリフィスフィッティングの小さい口が供給ホースに一番近くなるようにオリフィスフィッティングを取り付けます。

8 ワイヤーに印を付け、リフトシリンダーのドラム側の電磁弁のコイルから取り外します。

上のシリンダーを取り外す場合は、ステップ13に進んでください。

9 3 ピンコネクターが搭載されてる場合には、印を付けて、圧力変換器のハーネスから取り外します。に記載の修理の手順「圧力変換器の取り外し方法（搭載されている場合）」を参照してください。

10 電磁弁の調節ナットを緩め、バルブから手動下降ケーブルを外します。

注記：組立を行う際、作業台手動下降ケーブルを適切に調整しなければなりません。の「作業台手動下降ケーブルの調節方法」を参照してください。

11 手動下降ケーブル固定ブラケットをシリンダーに取り付けているファスナーを取り外します。ブラケットをシリンダーから外します。

12 リフトシリンダーの油圧ホースに印をつけ、取り外して栓をします。シリンダーのフィッティングにキャップを付けます。

⚠ 警告 人体への傷害の危険。作動油が飛び散ると、皮膚に火傷を負うことがあります。油圧接続をゆっくりと緩めていき、オイルの圧力が徐々に下がるようにします。オイルが吹き出たり、散らないように注意してください。

13 オーバーヘッドクレーンあるいは同様の上昇デバイスからリフトシリンダーのドラムの端にリフトストラップを取り付け、支えます。

14 リフトシリンダーロッド側のピボットピンから固定ファスナーを外します。軟質金属ドリフトを使ってピンを外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険リフトシリンダーが適切に支えられていないと、ピボットピンを外すときに、落下することがあります。

15 第 1 内側アームのシリンダープレート上にシリンダーを下ろします。

シザースの構成

16 オーバーヘッドクレーンあるいは同様の上昇デバイスからリフトシリンダーのドラムの端にリフトストラップを取り付け、支えます。

17 リフトシリンダードラム側のピボットピンからファスナーを外します。軟質金属ドリフトを使ってピンを外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険リフトシリンダーが適切に支えられていないと、ピボットピンを外すときに、落下することがあります。

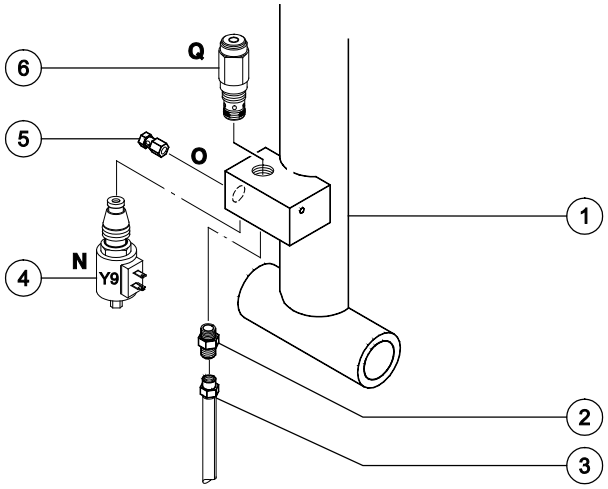
18 リフトシリンダーを適切なリフト機材へ支えて固定させます。

19 機械のステアリング側にあるシザースアームの間のリフトシリンダーを取り外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険リフトシリンダーがリフト機材に適切に固定されていないと、バランスを崩し、落下します。

注意 部品の損傷の危険。機械から取り外すときに、シリンダーのバルブやフィッティングを損傷しないよう注意してください。

20 新しいシリンダー、フィッテイング、ホースと圧力変換器（搭載されている場合）を取り付けます。



上部リフトシリンダー

1 リフトシリンダー
2 コネクターフィッティング
3 油圧ホース
4 電磁弁（図中 N）
5 オリフィス（図中 O）
6 安全弁（図中 Q）

注記：上部リフトシリンダーで、オリフィスフィッティングの小さい口が供給ホースに一番近くなるようにオリフィスフィッティングを取り付けます。

トルク仕様	
電磁弁、2 ポジション 2 方向、N.C.（図中 N）	20 ft-lbs 27 Nm
安全弁（図中 Q）	20 ft-lbs 27 Nm
コイルナット	5 ft-lbs 7 Nm

シザースの構成

21 機械のステアリング側のリンクスタックを支えているリフト機材を取り外します。

22 バッテリーパックを機械に接続します。

23 キースイッチを回して地上操作に切り替えます。

圧力変換器を搭載していないモデルはステップ 27 に進みます。
圧力変換器を搭載しているモデルはステップ 24 に進みます。

24 地上操作のスクロールアップおよびスクロールダウンボタンを押し続けます。

25 地上操作で赤色非常停止ボタンを引いてオンの位置にします。

26 地上操作メニューボタンを使用して、サービス無効化モードに移動します。サービス無効化モードを選択します。

注記:機械は作業台を上昇させるためにはサービス無効化モードである必要があります。サービス無効化モードの間、GCON のみが制限された機能の中で作動します。作業台は既定の時間上昇し、停止します。

27 作業台を上げ、安全アームを収納位置へ回転させます。

28 作業台を収納位置まで完全に下げます。

注記:圧力変換器付きのモデルの場合は、作業台過負荷システムを調節してください。「修理の手順」セクションの「作業台過負荷システムの調節方法(搭載されている場合)」を参照してください。

GS-4047

⚠ 警告

人体への傷害の危険。この手順を行うには、特定のリフト、作業場所、および修理技術が必要です。修理技能がない作業員がこの手順を行ったり、適切な工具なしにこれらの手順を行うと、重傷を負ったり死に至る場合があります。また、機械に重大な損傷をあたえる場合があります。この作業には、ディーラーによるサービスが必要です。

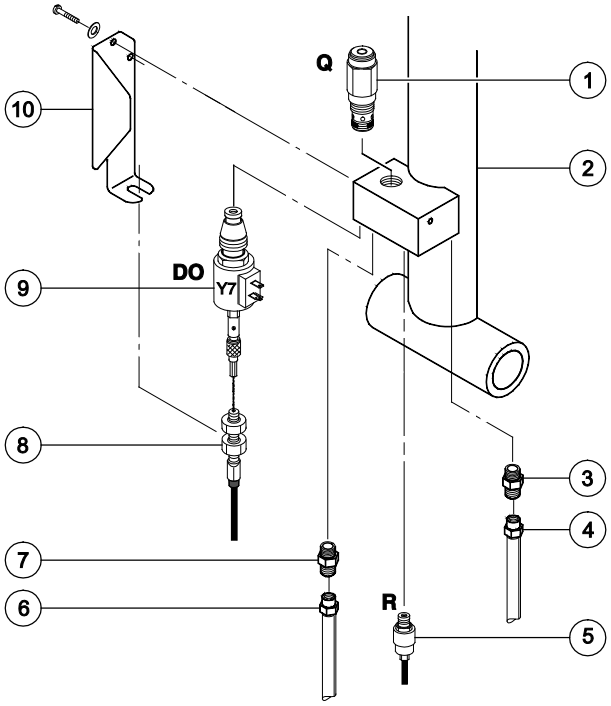
注記:ホース部品またはフィッティングを取り外す場合、フィッティングおよび(または)ホースの先の O リング(取り付けられている場合)を交換する必要があります。全ての接続は仕様に記載されているトルクで取り付ける必要があります。「仕様」の「油圧ホースおよびフィッティングのトルク仕様」を参照してください。

1 キースイッチを回して地上操作にし、地上操作と作業台操作の両方で赤色非常停止ボタンを引いて、ON(オン)の位置にします。

2 作業台を 7 ～ 8 フィート/2.1 ～ 2.4 m 上げます。

シザースの構成

3 安全アームを上げ、シザースアームの中央へ動かし、垂直位置へ回転させて下げます。



1 安全弁（図中 Q）
2 リフトシリンダー
3 コネクターフィッティング
4 油圧ホース
5 圧力変換器（図中 R）（搭載されている場合）
6 手動下降ケーブル
7 電磁弁（図中 DO）
8 ケーブル固定ブラケット

4 作業台を安全アームの上に下ろします。

⚠ 警告 手のケガの危険作業台が降下しているときは、安全アームに手を近づけないでください。

5 適切なリフト機材を使用して、機械のステアリング側のリンクスタックを支えます。

6 地上操作で、キースイッチを OFF（オフ）の位置に回し、赤色非常停止ボタンを OFF（オフ）の位置に押します。

7 バッテリーパックを機械から外します。

⚠ 警告 感電/やけどの危険帯電している回路に触れると、重傷を負ったり死に至ることがあります。指輪、時計などの装身具をすべて外してください。

8 ワイヤーに印を付け、リフトシリンダーのドラム側の電磁弁のコイルから取り外します。

上のシリンダーを取り外す場合は、ステップ13に進んでください。

9 3 ピンコネクターが搭載されてる場合には、印を付けて、圧力変換器のハーネスから取り外します。に記載の修理の手順「圧力変換器の取り外し方法（搭載されている場合）」を参照してください。

10 電磁弁の調節ナットを緩め、バルブから手動下降ケーブルを外します。

注記：組立を行う際、作業台手動下降ケーブルを適切に調整しなければなりません。の「作業台手動下降ケーブルの調節方法」を参照してください。

11 手動下降ケーブル固定ブラケットをシリンダーに取り付けているファスナーを取り外します。ブラケットをシリンダーから外します。

シザースの構成

12 リフトシリンダーの油圧ホースに印をつけ、取り外して栓をします。シリンダーのフィッティングにキャップを付けます。

⚠ 警告 人体への傷害の危険。作動油が飛び散ると、皮膚に火傷を負うことがあります。油圧接続をゆっくりと緩めていき、オイルの圧力が徐々に下がるようにします。オイルが吹き出たり、散らないように注意してください。

13 オーバーヘッドクレーンあるいは同様の上昇デバイスからリフトシリンダーのドラムの端にリフトストラップを取り付け、支えます。

14 リフトシリンダーロッド側のピボットピンから固定ファスナーを外します。軟質金属ドリフトを使ってピンを外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険リフトシリンダーが適切に支えられていないと、ピボットピンを外すときに、落下することがあります。

15 第 1 内側アームのシリンダープレート上にシリンダーを下ろします。

16 オーバーヘッドクレーンあるいは同様の上昇デバイスからリフトシリンダーのドラムの端にリフトストラップを取り付け、支えます。

17 リフトシリンダードラム側のピボットピンからファスナーを外します。軟質金属ドリフトを使ってピンを外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険リフトシリンダーが適切に支えられていないと、ピボットピンを外すときに、落下することがあります。

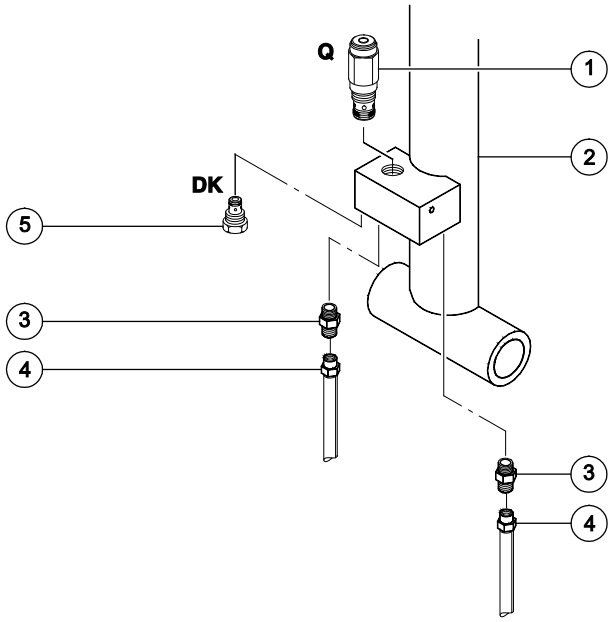
18 リフトシリンダーを適切なリフト機材へ支えて固定させます。

19 機械のステアリング側にあるシザースアームの間のリフトシリンダーを取り外します。

⚠ 要注意 手のケガの危険リフトシリンダーがリフト機材に適切に固定されていないと、バランスを崩し、落下します。

注意 部品の損傷の危険。機械から取り外すときに、シリンダーのバルブやフィッティングを損傷しないよう注意してください。

20 新しいシリンダー、フィッテイング、ホースと圧力変換器（搭載されている場合）を取り付けます。



上部リフトシリンダー

1 安全弁（図中 Q）
2 リフトシリンダー
3 コネクターフィッティング
4 油圧ホース
5 チェックバルブ（図中 DK）

トルク仕様	
電磁弁、2 ポジション 2 方向、N.C. （図中 N）	20 ft-lbs 27 Nm
安全弁 （図中 Q）	20 ft-lbs 27 Nm
コイルナット	5 ft-lbs 7 Nm
圧力変換器（搭載されている場合） （図中 R）	27 ft-lbs 37 Nm
チェックバルブ （図中 DK）	20 ft-lbs 27 Nm

21 機械のステアリング側のリンクスタックを支えているリフト機材を取り外します。

22 バッテリーパックを機械に接続します。

23 キースイッチを回して地上操作に切り替えます。

24 地上操作のスクロールアップおよびスクロールダウンボタンを押し続けます。

25 地上操作で赤色非常停止ボタンを引いてオンの位置にします。

26 地上操作メニューボタンを使用して、サービス無効化モードに移動します。サービス無効化モードを選択します。

注記：機械は作業台を上昇させるためにはサービス無効化モードである必要があります。サービス無効化モードの間、GCON のみが制限された機能の中で作動します。作業台は既定の時間上昇し、停止します。

27 作業台を上げ、安全アームを収納位置へ回転させます。

28 作業台を収納位置まで完全に下げます。

注記：圧力変換器付きのモデルの場合は、作業台過負荷システムを調節してください。「修理の手順」セクションの「作業台過負荷システムの調節方法（搭載されている場合）」を参照してください。

9-10
圧力変換器

圧力変換器の取り外し方法（搭載されている場合）

注記：機械リフト構造に圧力変換器のみが部品として置き換えられている場合は、作業台過負荷システムを調節する必要はありません。圧力変換器が交換された後に、頻繁に不必要な機械のつまずきが起きる場合は、無負荷調整を推奨します。「修理の手順」セクションの「作業台過負荷システムの調節方法（搭載されている場合）」を参照してください。

1 キースイッチを回して地上操作にし、地上操作と作業台操作の両方で赤色非常停止ボタンを引いて、ON(オン)の位置にします。

2 作業台を 7 ～ 8 フィート/2.1 ～ 2.4 m 上げます。

3 安全アームを上げ、シザースアームの中央へ動かし、垂直位置へ回転させて下げます。

4 作業台を安全アームの上に下ろします。

5 地上操作で、キースイッチを OFF（オフ）の位置に回し、赤色非常停止ボタンを OFF（オフ）の位置に押します。

6 バッテリーパックを機械から外します。

⚠ 警告 感電/やけどの危険帯電している回路に触れると、重傷を負ったり死に至ることがあります。指輪、時計などの装身具をすべて外してください。

7 手動下降ケーブルを 3 秒間引きます。

8 3 ピンコネクターに印を付けて、圧力変換器のハーネスから取り外します。

シザースの構成

9 リフトシリンダーからゆっくりと圧力変換器を緩め、取り外します。圧力変換器を処分してください。

⚠ 警告 人体への傷害の危険。作動油が飛び散ると、皮膚に火傷を負うことがあります。油圧接続をゆっくりと緩めていき、オイルの圧力が徐々に下がるようにします。オイルが吹き出たり、散らないように注意してください。

10 バッテリーパックを機械に接続します。

11 キースイッチを回して地上操作に切り替えます。

12 地上操作のスクロールアップおよびスクロールダウンボタンを押し続けます。

13 地上操作で赤色非常停止ボタンを引いてオンの位置にします。

14 地上操作メニューボタンを使用して、サービス無効化モードに移動します。サービス無効化モードを選択します。

注記：機械は作業台を上昇させるためにはサービス無効化モードである必要があります。サービス無効化モードの間、GCON のみが制限された機能の中で作動します。作業台は既定の時間上昇し、停止します。

15 作業台を上げ、安全アームを収納位置へ回転させます。

16 作業台を収納位置まで完全に下げます。

注記：圧力変換器の交換後、作業台過負荷システムの調節は不要です。機械が不必要なつまずきを頻繁に起こす場合は、無負荷調節を推奨します。「修理の手順」セクションの「作業台過負荷システムの調節方法（搭載されている場合）」を参照してください。

トルク仕様	
圧力変換器（搭載されている場合）（図中 R）	27 ft-lbs 37 Nm

9-11
作業台過負荷システム（搭載されている場合）

作業台過負荷システムの調節方法

機械を障害物のない安定した水平な面で収納状態にして、このテストを行ってください。

作業台過負荷システムの調節中は、作業台への作業員の立ち入りは許可されていません。

この手順は、作業台が完全に延長できる環境で行ってください。屋内専用に定められているモデルは、作業台が完全に上昇するために十分な高さがある施設の中で調整されなければなりません。施設の高さが作業台の完全な上昇に適切でない場合は、風速が 28 mph/12.5 m/秒以内であれば、屋内専用に規定されているモデルであっても屋外で調節することができます。屋内専用に規定されている機械を屋外で調節している間は、平らなおもりのみを使用してください。

作業台高度センサーに損傷がなく、正常に機能していることを確認した後に、この手順を行ってください。

このセクションの作業台過負荷調節手順には、全負荷調節および無負荷調節の 2 つのオプションがあります。全負荷調節には、作業台の規定負荷のありとなしの調節という 2 つのステップがあります。無負荷調節は作業台の規定負荷を必要としません。

注記：機械が全負荷調節手順を完了した場合には、無負荷調節は、C-2 過負荷調節要件を満たすためにスタンドアロンで完了することが可能です。

注記：新しい地上コントローラが機械に取り付けられた場合には、定格作業台最大積載荷重量を維持するために全負荷調節手順が必要となります。
無負荷調節が行われた場合には、機械のリフト性能は著しく低下します。

注記：作業台過負荷システムを調節する前に、周囲温度は 32°F/0°C でなければなりません。

注記：作業台過負荷システムを調節するには、地上操作 LCD 画面で表示されるメニューに従ってください。

シザースの構成

全負荷調節：第 1 部

1 バッテリーを完全に充電し、作動油量を確認します。

注記：作動油の量は、油圧タンクの FULL（満タン）と ADD（追加）のマークの間を指している必要があります。

2 作業台とシャーシのシザースアーム磨耗板が接触する個所に、薄くドライフィルム潤滑剤を塗ります。

3 機械の操舵側の両方のホイールをブロックで留めます。

4 適切なリフト機材を使用して、作業台デッキの中心に機械の最大積載重量に相当するテスト用の負荷を設置します。負荷を作業台に固定してください。下記の図を参照してください。

GS-1530 および GS-1532	272 kg
GS-1930 および GS-1932	227 kg
GS-2032	363 kg
GS-2632	227 kg
GS-3232	227 kg

注記：GS-3232 の調節後に機械操作に何度も不具合が起きる場合は、250 kg の負荷を使用して、全負荷および無負荷で機械を再度調節することを推奨します。

GS-2046	544 kg
GS-2646	454 kg
GS-3246	317 kg
GS-4047	350 kg

5 キースイッチを回して地上操作に切り替えます。

6 地上操作では、メニュー上昇およびメニュー下降ボタンを押し続けます。

7 両方のボタンを押している間、赤色非常停止ボタンを引き出します。

8 地上コントローラの電源が入った後に、メニュー上昇およびメニュー下降ボタンを離します。

9 メニュー上昇およびメニュー下降ボタンを使用して、オプションの選択までスクロールします。確定ボタンを押します。

10 メニュー上昇またはメニュー下降ボタンを使用して、作業台過負荷までスクロールします。

11 確定ボタンを押して、作業台過負荷を選択します。

12 メニュー上昇またはメニュー下降ボタンを使用して、作業台過負荷調節までスクロールします。

13 確定ボタンを押して、作業台過負荷調節を選択します。

14 確定ボタンを再度押して、作業台過負荷調節選択を確定します。

15 メニュー上昇およびメニュー下降ボタンを使用して、全負荷調節を選択します。

16 確定ボタンを押して、全負荷調節を選択します。

17 確定ボタンを押して、定格重量が作業台にあることを確認します。

18 作業台が最大の高さに到達するまで、地上操作で機能作動ボタンと作業台上昇ボタンを押し続けます。

19 **GS-4047 以外のすべてのモデル**：作業台が最大の高さに到達したときに、地上操作確定ボタンを押します。地上操作がデータを収集できるようにします。**GS-4047 のみ**：メニュー確定ボタンを押して、最大の高さを決定します。最大の高さに到達するまで、機械は 1.2 秒間下降し、次に 1.2 秒間上昇します。作業台が最大の高さに到達すると、LCD 画面にメッセージが表示され、メニュー確定ボタンが解除されます。

注記：LCD 画面にメッセージが表示される前のいずれかの時間にメニュー確定ボタンが解除されると、調節手順はステップ 18 から再始動します。

20 プロンプトが表示されたときに、機能作動ボタンと作業台下降ボタンを押し続けます。作業台は下降し、データを収集する所定位置で自動的に停止します。地上操作がデータを収集できるようにします。

21 下降し、データを収集している作業の間、機能作動ボタンおよび作業台下降ボタンを押し続けます。機械は機械が収納位置になる前に、データを収集するために停止し、数回下降します。作業台が収納位置に到達したときに、確定ボタンを押します。

注記:ソフトウェア改定版 H またはそれ以前および GS-3032、GS-2646 および GS-4047 モデルは、ステップ 24 に進んでください。

注記:ソフトウェア改訂版 J またはそれ以上のその他の全てのモデルは、ステップ 22 に進んでください。

22 プロンプトが表示されたときに、作業台が最大の高さに到達するまで、機能作動ボタンと作業台上昇ボタンを押し続けます。作業台が最大の高さに到達したときに、確定ボタンを押します。

注記:機械がデータを収集している間に機能作動ボタンまたは作業台上昇ボタンが解除された場合、作業台を最大の高さまで上昇させる前に GCON LCD がユーザーに 5 秒間作業台を下降するようにプロンプト表示します。

23 プロンプトが表示されたときに、作業台が完全に収納されるまで、機能作動ボタンと作業台上昇ボタンを押し続けます。作業台が収納位置に到達したときに、確定ボタンを押します。

注記:機械がデータを収集している間に機能作動ボタンまたは作業台上昇ボタンが解除された場合、作業台を収納位置まで再度下げる前に GCON LCD がユーザーに 5 秒間作業台を上昇するようにプロンプト表示します。

注記:重量の取り外しをする場所に機械を走行するために、機械が PCON に切り替えられた場合は、全負荷調整前にステップ 3 とステップ 5 から 14 を繰り返す必要があります。第 2 部は実行されました。さらに、CO25 故障コードが表示されます。これは全負荷調節で起こり、全負荷調節第 1 部で収集されたデータは失われません。

24 適切なリフト機材を使用して、作業台デッキからテスト用の負荷を取り外します。

25 作業台デッキから負荷が外された後、確定ボタンを押して負荷が取り外されたことを確認します。

シザースの構成

全負荷調節:第 2 部

26 作業台が最大の高さに到達するまで、地上操作で機能作動ボタンと作業台上昇ボタンを押し続けます。

27 **GS-4047 以外のすべてのモデル**:作業台が最大の高さに到達したときに、確定ボタンを押します。地上操作がデータを収集できるようにします。**GS-4047 のみ**:メニュー確定ボタンを押して、最大の高さを決定します。最大の高さに到達するまで、機械は 1.2 秒間下降し、次に 1.2 秒間上昇します。作業台が最大の高さに到達すると、LCD 画面にメッセージが表示され、メニュー確定ボタンが解除されます。

注記:LCD 画面にメッセージが表示される前のいずれかの時間にメニュー確定ボタンが解除されると、調節手順はステップ 26 から再始動します。

28 プロンプトが表示されたときに、機能作動ボタンと作業台下降ボタンを押し続けて作業台を下げます。作業台は下降し、データを収集する所定位置で自動的に停止します。地上操作がデータを収集できるようにします。

29 下降し、データを収集している作業の間、機能作動ボタンおよび作業台下降ボタンを押し続けます。機械は機械が収納位置になる前に、データを収集するために停止し、数回下降します。作業台が収納位置に到達したときに、確定ボタンを押します。

注記:ソフトウェア改定版 H またはそれ以前および GS-2032、GS-2646 および GS-4047 モデルは、ステップ 32 に進んでください。

注記:ソフトウェア改訂版 J またはそれ以上のその他の全てのモデルは、ステップ 30 に進んでください。

30 プロンプトが表示されたときに、作業台が最大の高さに到達するまで、機能作動ボタンと作業台上昇ボタンを押し続けます。作業台が最大の高さに到達したときに、確定ボタンを押します。

注記:機械がデータを収集している間に機能作動ボタンまたは作業台上昇ボタンが解除された場合、作業台を最大の高さまで上昇させる前に GCON LCD がユーザに 5 秒間作業台を下降するようにプロンプト表示します。

31 プロンプトが表示されたときに、作業台が完全に収納されるまで、機能作動ボタンと作業台上昇ボタンを押し続けます。作業台が収納位置に到達したときに、確定ボタンを押します。

注記:機械がデータを収集している間に機能作動ボタンまたは作業台上昇ボタンが解除された場合、作業台を収納位置まで再度下げる前に GCON LCD がユーザに 5 秒間作業台を上昇するようにプロンプト表示します。

32 プロンプトが表示されたときに、赤色非常停止ボタンを押して、作業台過負荷調節手順を完了します。

シザースの構成

無負荷調節

1 バッテリーを完全に充電し、作動油量を確認します。

注記:作動油の量は、油圧タンクの FULL(満タン)とADD(追加) のマークの間を指している必要があります。

2 シザースアーム磨耗板が接触するシャーシの個所に、薄くドライフィルム潤滑剤を塗ります。

3 機械の操舵側の両方のホイールをブロックで留めます。

4 キースイッチを回して地上操作に切り替えます。

5 地上操作では、メニュー上昇およびメニュー下降ボタンを押し続けます。

6 両方のボタンを押している間、赤色非常停止ボタンを引き出します。

7 地上コントローラの電源が入った後に、メニュー上昇およびメニュー下降ボタンを離します。

8 地上操作で、メニュー上昇またはメニュー下降ボタンを使用して、作業台過負荷までスクロールします。

9 確定ボタンを押して、作業台過負荷を選択します。

10 メニュー上昇またはメニュー下降ボタンを使用して、作業台過負荷調節までスクロールします。

11 確定ボタンを押して、作業台過負荷調節を選択します。

12 確定ボタンを再度押して、作業台過負荷調節選択を確定します。

13 メニュー上昇およびメニュー下降ボタンを使用して、無負荷調節を選択します。

14 確定ボタンを押して、無負荷調節を選択します。

15 確定ボタンを押して、作業台に負荷がないことを確認します。

16 作業台が最大の高さに到達するまで、地上操作で機能作動ボタンと作業台上昇ボタンを押し続けます。

17 **GS-4047 以外のすべてのモデル**:作業台が最大の高さに到達したときに、地上操作確定ボタンを押します。地上操作がデータを収集できるようにします。**GS-4047 のみ**:メニュー確定ボタンを押して、最大の高さを決定します。最大の高さに到達するまで、機械は 1.2 秒間下降し、次に 1.2 秒間上昇します。作業台が最大の高さに到達すると、LCD 画面にメッセージが表示され、メニュー確定ボタンが解除されます。LCD 画面にメッセージが表示される前のいずれかの時間にメニュー確定ボタンが解除されると、調節手順はステップ 16 から再始動します。

18 プロンプトが表示されたときに、機能作動ボタンと作業台下降ボタンを押し続けて作業台を下げます。作業台は下降し、データを収集する所定位置で自動的に停止します。地上操作がデータを収集できるようにします。

19 下降し、データを収集している作業の間、機能作動ボタンおよび作業台下降ボタンを押し続けます。機械は機械が収納位置になる前に、データを収集するために停止し、数回下降します。作業台が収納位置に到達したときに、確定ボタンを押します。

注記:ソフトウェア改定版 H またはそれ以前および GS-2032、GS-2646 および GS-4047 モデルは、ステップ 22 に進んでください。

注記:ソフトウェア改訂版 J またはそれ以上のその他の全てのモデルは、ステップ 20 に進んでください。

20 プロンプトが表示されたときに、作業台が最大の高さに到達するまで、機能作動ボタンと作業台上昇ボタンを押し続けます。作業台が最大の高さに到達したときに、確定ボタンを押します。

注記:機械がデータを収集している間に機能作動ボタンまたは作業台上昇ボタンが解除された場合、作業台を最大の高さまで上昇させる前に GCON LCD がユーザに 5 秒間作業台を下降するようにプロンプト表示します。

21 プロンプトが表示されたときに、作業台が完全に収納されるまで、機能作動ボタンと作業台上昇ボタンを押し続けます。作業台が収納位置に到達したときに、確定ボタンを押します。

注記:機械がデータを収集している間に機能作動ボタンまたは作業台上昇ボタンが解除された場合、作業台を収納位置まで再度下げる前に GCON LCD がユーザに 5 秒間作業台を上昇するようにプロンプト表示します。

22 プロンプトが表示されたときに、赤色非常停止ボタンを押して、無負荷調節手順を完了します。

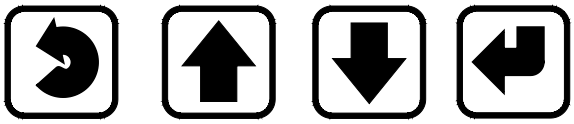
9-12 作業台過負荷の復元メッセージ

地上操作の LCD 画面に**「OL: PLATFORM OVERLOADED(作業台過負荷)」**と表示されると、作業台が過負荷状態の間は非常下降システムが作動します。

作業台過負荷の復元メッセージの消去方法

注記:このメッセージの消去は、本装置のトラブルシューティングおよび修理トレーニングを受け認定された担当者によって行われなければなりません。

注記:以下の表を参照して、この手順で使用される各 LCD 画面コントロールボタンの説明を確認してください。



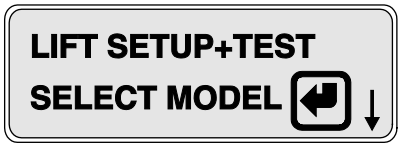
中断 スクロールアップ スクロールダウン 確定

1 キースイッチを回して作業台操作位置にし、作業台操作の赤色非常停止ボタンを引いて、ON(オン)の位置にします。

2 地上操作の**スクロールアップ**および**スクロールダウン**ボタンを押し続けます。

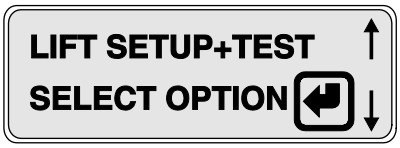
3 地上操作の赤色非常停止ボタンを引きます。

⊙ 結果:地上操作 LCD 画面には以下が表示されます。



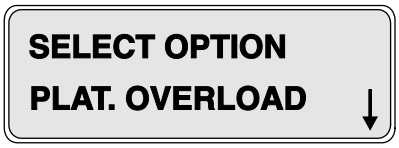
4 **スクロールダウン**ボタンを押します。

⊙ 結果:地上操作 LCD 画面には以下が表示されます。



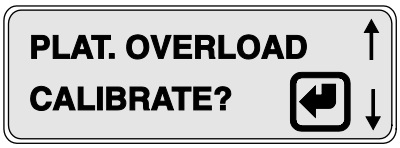
5 **確定**ボタンを押します。

⊙ 結果:地上操作 LCD 画面には以下が表示されます。



6 **確定**ボタンを押します。

⊙ 結果:地上操作 LCD 画面には以下が表示されます。



7 **スクロールダウン**ボタンを 5 秒間、押したままの状態にします。

⊙ 結果:地上操作 LCD 画面には以下が表示されます。



8 **確定**ボタンを押します。

⊙ 結果:地上操作 LCD 画面には以下が表示されます。



9 次の順番でボタンを押します。**(ダウン)(ダウン)(アップ)(確定)**

注記:各キーを押すと、アスタリスク(*)が LCD 画面の二行目に表示されます。

⊙ 結果:地上操作 LCD 画面には以下が表示されます。



注記:3 秒後に、LCD 画面は**「SELECT OPTION PLATOVERLOAD(オプションの作業台負荷の選択)」**という表示に戻ります。

10 赤色非常停止ボタンを押します。

作業台の構成

10-1
作業台

作業台の取り外し方法

この作業を行う場合は、作業台延長部を完全に収納し、定位置にロックした状態で行ってください。

1 作業台を約 3 フィート/1 m 上昇させます。

2 作業台を機械のステアリング側の作業台取り付け具に固定しているファスナーを取り外します。

3 作業台を下ろし収納します。

4 バッテリーパックを機械から外します。

⚠ 警告 感電/やけどの危険帯電している回路に触れると、重傷を負ったり死に至ることがあります。指輪、時計などの装身具をすべて外してください。

5 作業台のコントロールケーブルから作業台操作パネルを取り外します。

6 AC コンセントのカバーを外します。コンセントの配線に印をつけ、外します。

⚠ 警告 感電/やけどの危険帯電している回路に触れると、重傷を負ったり死に至ることがあります。指輪、時計などの装身具をすべて外してください。

7 作業台から配線を外し、作業台から配線を完全に取り出します。

8 作業台への空気配管オプション付きのモデル：空気配管を作業台から取り外します。空気配管を作業台から完全に外します。

9 非ステアリング側で作業台をフォークリフトで支えます。リフト圧をかけないでください。

10 作業台手摺りの安全帯固定場所からフォークリフトの荷物台にストラップをつけ、作業台を支えやすいようにします。

11 **GS-1530/32 および GS-1930/32**：作業台のステアリング側を少し持ち上げて作業台の取り付け具から離し、非ステアリング側の作業台スライドブロックが作業台下の点検口から見えるようになるまで、作業台を非ステアリング側にスライドさせます。

すべての他のモデル：作業台のステアリング側を少し持ち上げて作業台の取り付け具から離し、非ステアリング側の作業台スライドブロックが作業台下の点検口から見えるようになるまで、作業台を非ステアリング側にスライドさせます。

⚠ 警告 手のケガの危険。作業台が適切に支えられていないと落下することがあります。

12 作業台を慎重に機械から外し、作業台を支えることのできる物の上に置きます。

注記：作業台を取り外す前に摩耗版の位置をメモします。作業台が正常に機能するには正しい摩耗版の位置付けが重要です。

10-2
作業台延長部

作業台延長部の取り外し方法

1 作業台を下ろし収納します。

2 作業台を約 3 フィート/1 m 延長します。

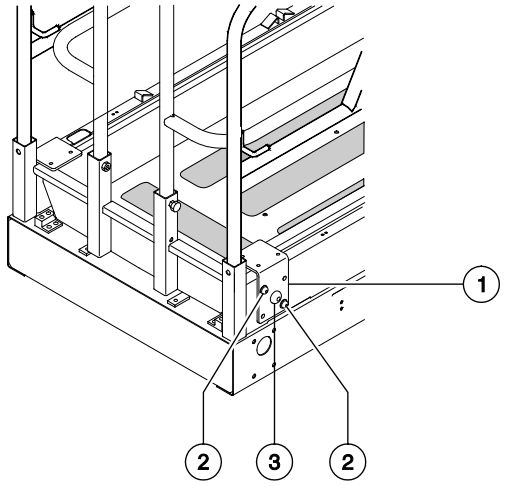
3 作業台より作業台操作を取り外します。

4 機械のステアリング側で作業台延長部をフォークリフトで支えます。リフト圧をかけないでください。

5 作業台延長部の手摺りにストラップをつけ、それをフォークリフトの荷物台につなげて、作業台延長部を支えやすいようにします。

6 それぞれの作業台延長部ローラーブラケット部品から固定ファスナーを外します。各アッセンブリを機械から外します。

注記：作業台ローラーボルトを外さないでください。



1 ローラーブラケットアッセンブリ
2 アッセンブリ固定ファスナー
3 作業台ローラーボルト

7 機械から作業台ローラーホイールを取り外します。

8 作業台延長部を作業台から慎重にスライドさせて取り外し、支えることのできる物の上に置きます。

作業台延長部磨耗板の交換方法

1 作業台延長部を取り外します。の「作業台延長部の取り外し方法」を参照してください。

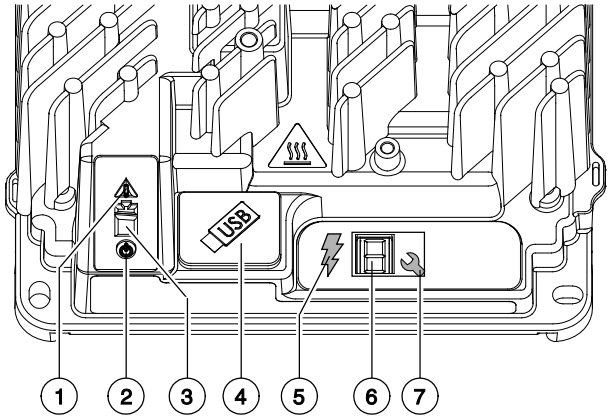
2 磨耗板を留めているリベットをドリルを使って外します。

3 新しい磨耗板を新しいリベットで留めて、取り付けます。新しいリベットを取り付けるときは、リベットのヘッドが磨耗板の表面から出ないようにしてください。

バッテリー充電器

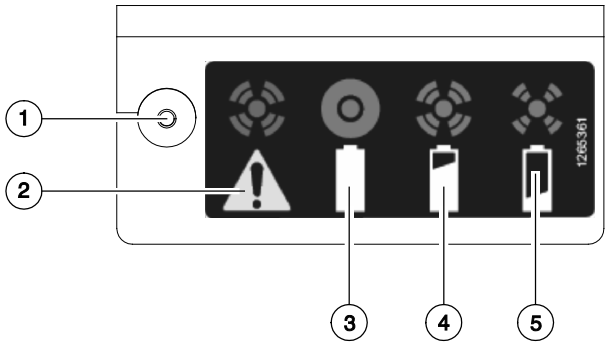
11-1
バッテリー充電器

充電器には、バッテリー充電用に内部メモリーに保存された選択可能な充電プロフィールが含まれます。これらのプロフィールは各バッテリータイプ固有のものです。充電プロフィールは、機械固有のバッテリータイプと一致したプログラミングが必要となります。



充電器状態表示器

1 エラー/故障表示器
2 AC 状態表示器
3 充電状態
4 USB ポート
5 充電表示器
6 充電器表示
7 充電プロフィール選択ボタン



リモート充電器状態表示器

1 エラー/故障表示器
2 エラー/故障
3 充電完了
4 充電中、満充電状態
5 充電中、低充電状態

充電プロフィールを選択中

⚠ 警告 感電/やけどの危険帯電している回路に触れると、重傷を負ったり死に至ることがあります。指輪、時計などの装身具をすべて外してください。

1 地上操作で、キースイッチをオフの位置に回し、赤色非常停止ボタンをオフの位置に押します。

2 バッテリーのコンパートメントを開きます。

3 充電プロフィール選択ボタンを押し続け、バッテリー充電器を AC 電源に差し込みます。琥珀色のエラー表示がオンになり、緑色の充電表示ランプが点滅するまでボタンを押し続けます。ボタンを離します。

4 充電プロフィール選択ボタンを押して離し、ご利用の機械とバッテリータイプに適合した充電プロフィールに移動します。下記の図を参照してください。

プロフィール	説明
P001	シザース、GR、GRC、QS（GS-4047 を含まない）- 液式鉛蓄バッテリー - 温度補償型 *
P003	シザース、GR、GRC、QS（GS-4047 を含まない）- 液式鉛蓄バッテリー - 非温度補償型 **
P007	GS-4047 - 液式鉛蓄バッテリー - 非温度補償型 **
P043	全てのシザース、GR、GRC、QS - AGM バッテリー - 温度補償型 *

*温度補償型：バッテリー温度センサーが機械に設置されています。

** 非温度補償型バッテリー温度センサーが機械に設置されていません。

5 エラー表示器と充電表示器のランプが消え、AC 状態表示器のランプが点灯するまで充電プロフィール選択ボタンを押し続け、選択を確認し、充電プロフィールモードを終了します。ボタンを離します。

注記：充電プロフィールモードは 15 秒間動作がないとタイムアウトして終了します。その場合、充電プロフィール番号が 3 回表示されるか、または AC 電源が切れます。

6 充電選択ボタンを押した後に離し、正しい充電プロフィールが選択されたかを確認します。

このページは、あえて空白にしてあります。

診断



必ず以下に従うこと。

☑ トラブルシューティングと修理手順は、本装置の修理トレーニングを受け認定された担当者によって実施されなければなりません。

☑ 損傷もしくは故障している機械は、直ちに故障の貼り紙を付けて、作業を中止してください。

☑ 機械を操作する前に、損傷あるいは故障している個所を修理してください。

☑ 特別な指示がない限り、次の状態で機械の修理手順を行ってください。

- 機械を安定した水平な面に配置した状態
- 作業台を収納した状態
- スイッチが OFF(オフ）の位置にあり、キーが抜かれている状態
- 地上操作と作業台操作の両方で赤色非常停止ボタンが OFF(オフ） の位置にある
- タイヤをブロックで留めた状態
- すべての外部 AC 電源が機械から切断されている

トラブルシューティングを始める前に:

☑ ご利用の機械の適切な操作説明書に記載されている安全規則と操作指示をよく読み、理解し、従ってください。

☑ 必要な工具とテスト器具が全て使用できる状態にあることを確認してください。

☑ それぞれに適切な故障コードを念入りにお読みください。手順を省略すると危険な状態を招きます。

☑ 下記の起こりうる危険に注意し、作業場での一般的な安全管理を行ってください。

⚠ 危険 手のケガの危険油圧システムの部品をテストあるいは交換しているときは、常にシステムを支え、動かないようにしてください。

⚠ 警告 感電/やけどの危険帯電している回路に触れると、重傷を負ったり死に至ることがあります。指輪、時計などの装身具をすべて外してください。

⚠ 警告 人体への傷害の危険。作動油が飛び散ると、皮膚に火傷を負うことがあります。油圧接続をゆっくりと緩めていき、オイルの圧力が徐々に下がるようにします。オイルが吹き出たり、散らないように注意してください。

このセクションについて

機械の故障が見つかった場合、このセクションの故障コード表はサービス担当者が参照して問題の原因を正確に把握するために役立ちます。このセクションでは、基本的な手工具と、電圧計、オーム計、圧力計などのテスト器具が必要になります。

診断

定義

GSDS – Genie SmartLink™ 診断システム

ECM – 電子コントロールモジュール

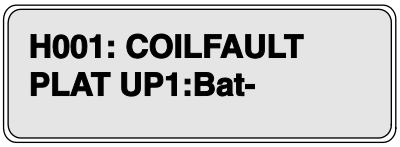
GCON – 地上操作

PCON – 作業台操作

OIC ー 操作表示コード

DTC – 診断故障コード

GCON LCD 診断計測値



診断計測値は、機械の操作状態と故障に関する情報を提供する英数字のコードを表示します。

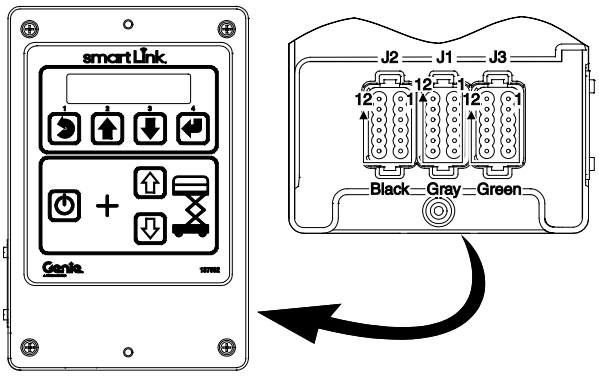
診断故障コード表には、故障の内容が説明されています。また機械の故障個所が明確に示されているため、トラブルシューティングが容易に実施できます。

特定のモデル用のトラブルシューティングに役立つように、各コードの下には対応モデルが記載されてます。

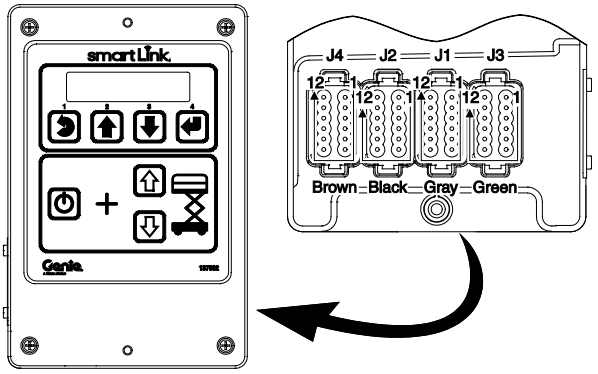
Genie® SmartLink™ 診断システム

この機械は、Genie SmartLink™ 診断システム（GSDS）が搭載されています。GSDS は操作表示コード（OIC）と診断故障コード（DTC）を表示することによって発生した故障を示します。これらのコードは作業台操作と地上操作で表示されます。地上操作ではLCD 画面にもコードの簡単な説明を表示します。このセクションの GCON I/O 案内図、操作表示コード（OIC）および診断故障コード（DTC）を参照して、問題のトラブルシューティングに役立ててください。

GCON ECM コネクターのレイアウト



地上操作 ECM の後方（アウトリガーなしのモデル）



地上操作 ECM の後方（アウトリガーありのモデル）

診断

負荷検出機能なしの GCON I/O 案内表（GS-3232 以外のすべてのモデル）			
GCON ピン番号	**回路機能**	**I/O タイプ**	**ワイヤーゲージと色**
J1 コネクター – 灰色			
J1-01	ECM 電源	電源入力	14 RD
J1-02	PCON、非常停止電源	電源出力	18 RD
J1-03	PCON、非常停止リターン	電源入力	18 WH
J1-04	PCON へのリンク – CANH	データバス型	18 GR
J1-05	PCON へのリンク – CANL	データバス型	18 OR
J1-06	PCON – 地上	地上出力	18 BR
J1-07	GCON – 地上	地上入力	14 茶
J1-08	キースイッチ – PCON モード	デジタル入力	18 BK
J1-09	キースイッチ – GCON モード	デジタル入力	18 WH
J1-10	GCON – 非常モード	デジタル入力	18 WH/BK
J1-11	回路なし	該当なし	該当なし
J1-12	ドライバー電源	電源入力	14 RD
J-2 コネクター – 黒			
J2-01	作業台上昇コイル	デジタル出力	18 OR
J2-02	作業台下降コイル	デジタル出力	18 OR/BK
J2-03	ステアリング左コイル	デジタル出力	18 BL/BK
J2-04	ステアリング右コイル	デジタル出力	18 BL
J2-05	パラレルコイル（GS-32 & GS-46）	デジタル出力	18 RD/WH
J2-06	走行前進コイル	デジタル出力	18 WH
J2-07	回路なし	該当なし	該当なし
J2-08	モーターコントローラ作動	デジタル出力	18 GR/WH
J2-09	回路なし	該当なし	該当なし
J2-10	走行逆進コイル	デジタル出力	18 WH/BK
J2-11	モーターコントローラスロットル	アナログ出力	18 GR
J2-12	回路なし	該当なし	該当なし
J-3 コネクター – 緑			
J3-01	回路なし	該当なし	該当なし
J3-02	GCON – アラーム	デジタル出力	18 BL
J3-03	スイッチ/センサー電源	デジタル出力	14 RD
J3-04	自動車ホーン	デジタル出力	18 WH
J3-05	ポットホール リミットスイッチ	デジタル入力	18 OR/RD
J3-06	地上	地上入力	18 BR
J3-07	下降リミットスイッチ	デジタル入力	18 OR
J3-08	レベルセンサー	デジタル入力	18 RD/BK
J3-09	地上	地上入力	18 BK
J3-10	地上	地上入力	18 BK
J3-11	回路なし	該当なし	該当なし
J3-12	負荷検出機能 – 地上	地上入力	18 BK

負荷検出機能付きの GCON I/O 案内表（GS-3232 以外のすべてのモデル）			
GCON ピン番号	**回路機能**	**I/O タイプ**	**ワイヤーゲージと色**
J1 コネクター – 灰色			
J1-01	ECM 電源	電源入力	14 RD
J1-02	PCON、非常停止電源	電源出力	18 RD
J1-03	PCON、非常停止リターン	電源入力	18 WH
J1-04	PCON へのリンク – CANH	データバス型	18 GR
J1-05	PCON へのリンク – CANL	データバス型	18 OR
J1-06	PCON – 地上	地上出力	18 BR
J1-07	GCON – 地上	地上入力	14 BR
J1-08	キースイッチ – PCON モード	デジタル入力	18 BK
J1-09	キースイッチ – GCON モード	デジタル入力	18 WH
J1-10	GCON – 非常モード	デジタル入力	18 WH/BK
J1-11	回路なし	該当なし	該当なし
J1-12	ドライバー電源	電源入力	14 RD
J-2 コネクター – 黒			
J2-01	作業台上昇コイル	デジタル出力	18 OR
J2-02	作業台下降コイル	デジタル出力	18 OR/BK
J2-03	ステアリング左コイル	デジタル出力	18 BL/BK
J2-04	ステアリング右コイル	デジタル出力	18 BL
J2-05	パラレルコイル（GS-32、GS-46 & GS-47）	デジタル出力	18 RD/WH
J2-06	走行前進コイル	デジタル出力	18 WH
J2-07	地上（GS-4047）	地上入力	18 BR
J2-08	モーターコントローラ作動	デジタル出力	18 GR/WH
J2-09	リフト圧セレクター（GS-4047）	該当なし	該当なし
J2-10	走行逆進コイル	デジタル出力	18 WH/BK
J2-11	モーターコントローラスロットル	アナログ出力	18 GR
J2-12	回路なし	該当なし	該当なし
J-3 コネクター – 緑			
J3-01	回路なし	該当なし	該当なし
J3-02	GCON – アラーム	デジタル出力	18 BL
J3-03	スイッチ/センサー電源	デジタル出力	14 RD
J3-04	自動車ホーン	デジタル出力	18 WH
J3-05	ポットホール リミットスイッチ	デジタル入力	18 OR/RD
J3-06	地上	地上入力	18 BR
J3-07	下降リミットスイッチ	デジタル入力	18 OR
J3-08	レベルセンサー	デジタル入力	18 RD/BK
J3-09	作業台過負荷圧力変換器	地上入力	18 BL/WH
J3-10	作業台高度センサー	地上入力	18 OR/WH
J3-11	回路なし	該当なし	該当なし
J3-12	負荷検出機能 – 地上	地上入力	18 BK

診断

負荷検出機能なしの GCON I/O 案内表（GS-3232 のみ）			
GCON ピン番号	**回路機能**	**I/O タイプ**	**ワイヤーゲージと色**
J1 コネクター – 灰色			
J1-01	ECM 電源	電源入力	14 RD
J1-02	PCON、非常停止電源	電源出力	18 RD
J1-03	PCON、非常停止リターン	電源入力	18 WH
J1-04	PCON へのリンク – CANH	データバス型	18 GR
J1-05	PCON へのリンク – CANL	データバス型	18 OR
J1-06	PCON – 地上	地上出力	18 BR
J1-07	GCON – 地上	地上入力	14 BR
J1-08	キースイッチ – PCON モード	デジタル入力	18 BK
J1-09	キースイッチ – GCON モード	デジタル入力	18 WH
J1-10	GCON – 非常モード	デジタル入力	18 WH/BK
J1-11	回路なし	該当なし	該当なし
J1-12	ドライバー電源	電源入力	14 RD
J-2 コネクター – 黒			
J2-01	作業台上昇コイル	デジタル出力	18 OR
J2-02	作業台下降コイル	デジタル出力	18 OR/BK
J2-03	ステアリング左コイル	デジタル出力	18 BL/BK
J2-04	ステアリング右コイル	デジタル出力	18 BL
J2-05	パラレルコイル（GS-32 & GS-46）	デジタル出力	18 RD/WH
J2-06	走行前進コイル	デジタル出力	18 WH
J2-07	回路なし	該当なし	該当なし
J2-08	モーターコントローラ作動	デジタル出力	18 GR/WH
J2-09	回路なし	該当なし	該当なし
J2-10	走行逆進コイル	デジタル出力	18 WH/BK
J2-11	モーターコントローラスロットル	アナログ出力	18 GR
J2-12	回路なし	該当なし	該当なし

負荷検出機能なしの GCON I/O 案内表(GS-3232 のみ)続き			
GCON ピン番号	**回路機能**	**I/O タイプ**	**ワイヤーゲージと色**
J-3 コネクター – 緑			
J3-01	回路なし	該当なし	該当なし
J3-02	GCON – アラーム	デジタル出力	18 BL
J3-03	スイッチ/センサー電源	デジタル出力	14 RD
J3-04	自動車ホーン	デジタル出力	18 WH
J3-05	ポットホール リミットスイッチ	デジタル入力	18 OR/RD
J3-06	地上	地上入力	18 GR
J3-07	下降リミットスイッチ	デジタル入力	18 OR
J3-08	レベルセンサー	デジタル入力	18 RD/BK
J3-09	地上	地上入力	18 BK
J3-10	地上	地上入力	18 BK
J3-11	回路なし	該当なし	該当なし
J3-12	負荷検出機能 – 地上	地上入力	18 BK
J-4 コネクター – 茶			
J4-01	左前方圧力変換器	アナログ入力	18 WH
J4-02	右前方圧力変換器	アナログ入力	18 OR
J4-03	左後方圧力変換器	アナログ入力	18 BL
J4-04	右後方圧力変換器	アナログ入力	18 GR
J4-05	レバーセンサー – X 軸	アナログ入力	18 OR
J4-06	レバーセンサー – Y 軸	アナログ入力	18 BR
J4-07	左前方アウトリガーコイル	デジタル出力	18 RD/WH
J4-08	右前方アウトリガーコイル	デジタル出力	18 OR/WH
J4-09	左後方アウトリガーコイル	デジタル出力	18 BL/WH
J4-10	右後方アウトリガーコイル	デジタル出力	18 GR/WH
J4-11	アウトリガー延長コイル	デジタル出力	18 GR
J4-12	アウトリガー収縮コイル	デジタル出力	18 GR/BK

診断

負荷検出機能付きの GCON I/O 案内表（GS-3232 のみ）			
GCON ピン番号	**回路機能**	**I/O タイプ**	**ワイヤーゲージと色**
J1 コネクター – 灰色			
J1-01	ECM 電源	電源入力	14 RD
J1-02	PCON、非常停止電源	電源出力	18 RD
J1-03	PCON、非常停止リターン	電源入力	18 WH
J1-04	PCON へのリンク – CANH	データバス型	18GR
J1-05	PCON へのリンク – CANL	データバス型	18 OR
J1-06	PCON – 地上	地上出力	18 BR
J1-07	GCON – 地上	地上入力	14 BR
J1-08	キースイッチ – PCON モード	デジタル入力	18 BK
J1-09	キースイッチ – GCON モード	デジタル入力	18 WH
J1-10	GCON – 非常モード	デジタル入力	18 WH/BK
J1-11	回路なし	該当なし	該当なし
J1-12	ドライバー電源	電源入力	14 RD
J-2 コネクター – 黒			
J2-01	作業台上昇コイル	デジタル出力	18 OR
J2-02	作業台下降コイル	デジタル出力	18 OR/BK
J2-03	ステアリング左コイル	デジタル出力	18 BL/BK
J2-04	ステアリング右コイル	デジタル出力	18 BL
J2-05	パラレルコイル（GS-32、GS-46 & GS-47）	デジタル出力	18 RD/WH
J2-06	走行前進コイル	デジタル出力	18 WH
J2-07	地上（GS-4047）	地上入力	18 BR
J2-08	モーターコントローラ作動	デジタル出力	18 GR/WH
J2-09	リフト圧セレクター（GS-4047）	該当なし	該当なし
J2-10	走行逆進コイル	デジタル出力	18 WH/BK
J2-11	モーターコントローラスロットル	アナログ出力	18 GR
J2-12	回路なし	該当なし	該当なし

負荷検出機能付きの GCON I/O 案内表（GS-3232 のみ）続き			
GCON ピン番号	**回路機能**	**I/O タイプ**	**ワイヤーゲージと色**
J-3 コネクター – 緑			
J3-01	回路なし	該当なし	該当なし
J3-02	GCON – アラーム	デジタル出力	18 BL
J3-03	スイッチ/センサー電源	デジタル出力	14 RD
J3-04	自動車ホーン	デジタル出力	18 WH
J3-05	ポットホール リミットスイッチ	デジタル入力	18 OR/RD
J3-06	地上	地上入力	18 GR
J3-07	下降リミットスイッチ	デジタル入力	18 OR
J3-08	レベルセンサー	デジタル入力	18 RD/BK
J3-09	作業台過負荷圧力変換器	地上入力	18 BL/WH
J3-10	作業台高度センサー	地上入力	18 OR/WH
J3-11	回路なし	該当なし	該当なし
J3-12	負荷検出機能 – 地上	地上入力	18 BK
J-4 コネクター – 茶			
J4-01	左前方圧力変換器	アナログ入力	18 WH
J4-02	右前方圧力変換器	アナログ入力	18 OR
J4-03	左後方圧力変換器	アナログ入力	18 BL
J4-04	右後方圧力変換器	アナログ入力	18 GR
J4-05	レバーセンサー – X 軸	アナログ入力	18 OR
J4-06	レバーセンサー – Y 軸	アナログ入力	18 BR
J4-07	左前方アウトリガーコイル	デジタル出力	18 RD/WH
J4-08	右前方アウトリガーコイル	デジタル出力	18 OR/WH
J4-09	左後方アウトリガーコイル	デジタル出力	18 BL/WH
J4-10	右後方アウトリガーコイル	デジタル出力	18 GR/WH
J4-11	アウトリガー延長コイル	デジタル出力	18 GR
J4-12	アウトリガー収縮コイル	デジタル出力	18 GR/BK

診断

操作表示コード（OIC）

これらのコードは電気システムにより生成され、通常操作中の水平でない、過負荷カットアウト、シャーシモード操作およびポットホールガードの引っかかりなどの機械の操作状況を示します。これらのコードは電気システムでの機器の故障を表示するものではありません。

コード	状態
LL	水平でない
OL	作業台過負荷（CE およびオーストラリア）
CH	シャーシモード運転
PHS	ポットホール ガードのひっかかり
nd	走行なし（オプション）
Ld	持ち上げ機能無効化（GS-3232 のみ）

注記：アウトリガーが完全に収納されていない、機械が自動で水平になっていない、アウトリガーが地面と接触していない、またはレベルセンサーが機械が水平でないと検出したときに、**Ld** 操作表示コードが表示されます。上記のいずれかの状況が発生した場合には、リフト機能は無効になります。

アウトリガーを伸長または収縮している間とアウトリガーが自動水平手順を実行している間は、リフト機能もまた無効になります。上記の操作を実行している間、**Ld** 操作表示コードが表示されます。

診断故障コード（DTC）

これらのコードはシステムにより生成され、電気システムで機器または回路での故障が検出されたことを示します。
発生する可能性のある診断故障コードのタイプは、以下で説明しています。

「HXXX」タイプ – 電気システムで油圧機能を管理する機器に関連する故障を表示します。故障コード「HXXX」は電池の負電極の短絡、電池の正電極の短絡、開回路と一般の短絡に分類されます。これらの機器の例は、電磁コントロールの油圧弁とモーターコントローラです。

「PXXX」タイプ – 電気システムで電源タイプ機器に関連する故障を表示します。故障コード「PXXX」は電池の負電極の短絡、電池の正電極の短絡、開回路と一般の短絡に分類されます。これらの機器の例は、ホーン、センサー電源およびアラームです。

「UXXX」タイプ – 電気システムでのユーザーインターフェース機器に関連する故障を表示します。故障コード「UXXX」は電池の負電極の短絡、電池の正電極の短絡、開回路と一般の短絡に分類されます。これらの機器の例は、GCON 上昇および下降スイッチと PCON 走行ジョイスティックです。

「FXXX」タイプ – 電気システムでの機械フィードバック機器に関連する故障を表示します。故障コード「FXXX」は電池の負電極の短絡、電池の正電極の短絡、開回路と一般の短絡に分類されます。これらの機器の例は、リミットスイッチ、高度センサーおよび圧力変換器です。

「CXXX」タイプ – 電気システムでのコントロール機器に関連する故障を表示します。これらの機器の例は、作業台操作と地上操作 ECM です。

「HXXX」および「PXXX」故障コードのトラブルシューティング

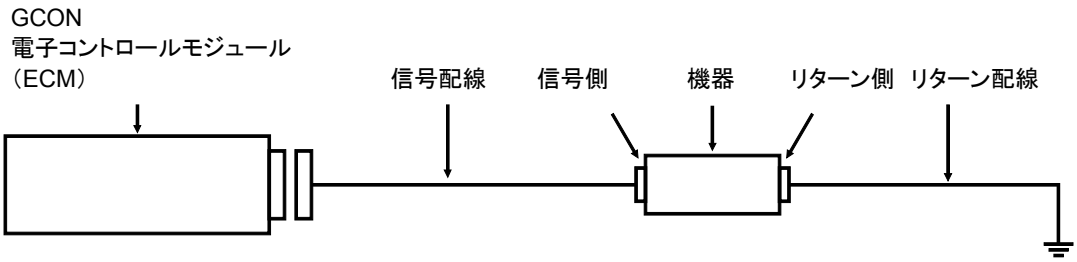
以下で表示している手順では、「HXXX」および「PXXX」タイプの故障を診断して修理するための、一般的なステップを説明しています。

診断表

1	短絡または開回路の故障を起こした機器を確認します。	良くない →	故障した機器を交換します。
	良い↓		
2	地上操作と故障した機器の間のハーネスまたはコネクターの短絡もしくは開回路を確認します。	良くない →	ハーネス/コネクターを修理または交換します。
	良い↓		
3	GCON 電子コントロールモジュール（ECM）を確認します。	良くない →	ECMを交換します。

配線図

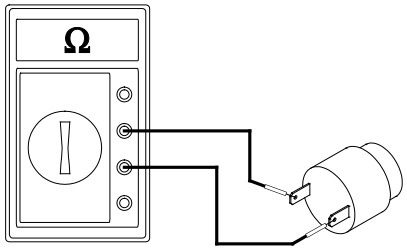
下記の配線図では、「HXXX」と「PXXX」の故障タイプを起こす機器の一般的な配線方法を示しています。
これらのタイプの機器の信号は地上操作で発生し、システム接地で終了します。

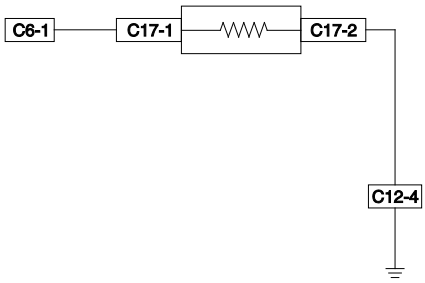


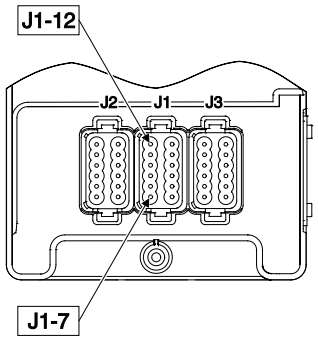
「HXXX」または「PXXX」のタイプの故障コードのトラブルシューティングを無事に完了するには、故障が起きている回路全体を調べる必要があります。

診断

故障点検手順

1	障害のある回路に関連する機器の確認		
	1 故障している機器コネクターを取り外します。 2 マルチメーターを使用して、故障している機器の 2 つの端末間の 抵抗値を測定します。 3 抵抗値は以下の値でなければなりません。 **機器** — **標準の抵抗値** 電磁弁、走行 — 27.2 Ω 電磁弁、ステアリング — 19 Ω 電磁弁、作業台上昇 — 25 Ω 電磁弁、作業台下降 — 6.25 Ω GCON および PCON アラーム — >1M Ω 自動車ホーン — 1.0 Ω モーターコントローラ – 作動 — 5.7k Ω モーターコントローラ – スロットル — 5.7k Ω 接触器コイル — 47 Ω		
OK	**ステップ 2 に進む**	**良くない**	**故障した機器を交換します。**

2	地上操作と故障した機器の間のハーネスを確認します。		
	1 GCON ECM コネクター、J1、J2 および J3 を取り外します。 2 故障している機器コネクターを取り外します。 3 GCON ECM コネクターと故障した機器の信号側の間の連続性を確認します。 ⊙ 結果:抵抗値は 0 Ω に近くなければなりません。 4 故障した機器のリターン側とシステム接地の間の連続性を確認します。 ⊙ 結果:抵抗値は 0 Ω に近くなければなりません。 5 リターン側と故障した機器のハーネスプラグの信号側の間の抵抗値を確認します。 ⊙ 結果:抵抗値は 1M Ω より高くなければなりません。		
OK	**ステップ 3 に進む**	**良くない**	**ハーネスを交換または修理します。**

3	GCON ECM の確認
	1 GCON ECM コネクター、J1、J2 および J3 を取り外します。 2 B- タイプ故障の短絡の場合は、ピン J1-7（接地）と故障コードに関連する GCON ピンの間の抵抗値を測定します。 このセクションの GCON I/O 案内図 を参照して、故障のある回路ピンを識別してください。 3 地上抵抗の短絡は 5k Ω 以上でなければなりません。 4 B+ タイプ故障の短絡の場合は、ピン J1-12（ドライバー回路電源）と故障コードに関連する GCON ピンの間の抵抗値を測定します。 このセクションの GCON I/O 案内図 を参照して、故障のある回路ピンを識別してください。 5 電源抵抗の短絡は 50k Ω 以上でなければなりません。
	良くない: GCON ECM の交換

診断

「HXXX」タイプの故障

DTC 番号	GCON LCD のメッセージ	問題 詳細	可能性のある 原因	故障 モード
H001: GS30、 GS32、 GS46 & GS47	H001:COILFAULT PLAT UP1:BAT-	作業台上昇第 1 回路と電池負 電極の間の短絡。	• 作業台上昇第 1 ハーネスでの短絡 • 作業台上昇第 1 コイル短絡 • GCON ECM	作業台上昇機能 抑制。
H002: GS30、 GS32、 GS46 & GS47	H002:COILFAULT PLAT UP1:OPEN	作業台上昇第 1 回路の開回路。	• 作業台上昇第 1 ハーネスでの短絡 • 作業台上昇第 1 コイル開回路 • GCON ECM	作業台上昇機能 抑制。
H003: GS30、 GS32、 GS46 & GS47	H003:COILFAULT PLAT UP1:BAT+	作業台上昇第 1 回路と電池正電 極の間の短絡。	• 作業台上昇第 1 ハーネスでの短絡 • 作業台上昇第 1 コイル短絡 • GCON ECM	作業台下降 以外のすべての機能 の抑制。
H009: GS30、 GS32、 GS46 & GS47	H009:COILFAULT PLAT DOWN1:BAT+	作業台下降第 1 回路と電池正電 極の間の短絡。	• 作業台上昇第 1 ハーネスでの短絡 • 作業台上昇第 1 コイル短絡 • GCON ECM	すべての機能 の抑制。
H013: GS30、 GS32、 GS46 & GS47	H013:COILFAULT DRIVE FWD1:BAT-	走行前進第 1 回路と電池負 電極の間の短絡。	• 走行前進第 1 ハーネスでの短絡 • 走行前進第 1 コイル短絡 • GCON ECM	走行前進 機能抑制。
H014: GS30、 GS32、 GS46 & GS47	H014:COILFAULT DRIVE FWD1:OPEN	走行前進第 1 回路での開回路 。	• 走行前進第 1 ハーネスでの開回路 • 走行前進第 1 コイル開回路 • GCON ECM	走行前進 機能抑制。
H015: GS30、 GS32、 GS46 & GS47	H015:COILFAULT DRIVE FWD1:BAT+	走行前進第 1 回路と電池正電極 の間の短絡。	• 走行前進第 1 ハーネスでの短絡 • 走行前進第 1 コイル短絡 • GCON ECM	作業台下降 以外のすべての機能 の抑制。
H019: GS30、 GS32、 GS46 & GS47	H019:COILFAULT DRIVE REV1:BAT-	走行前進第 1 回路と電池負電極 の間の短絡。	• 走行逆進第 1 ハーネスでの短絡 • 走行逆進第 1 コイル短絡 • GCON ECM	走行逆進 機能抑制。
H020: GS30、 GS32、 GS46 & GS47	H020:COILFAULT DRIVE REV1:OPEN	走行逆進第 1 回路での開回路 。	• 走行逆進第 1 ハーネスでの短絡 • 走行逆進第 1 コイル開回路 • GCON ECM	走行逆進 機能抑制。
H021: GS30、 GS32、 GS46 & GS47	H021:COILFAULT DRIVE REV1:BAT+	走行逆進第 1 回路と電池正電極の 間の短絡。	• 走行逆進第 1 ハーネスでの短絡 • 走行逆進第 1 コイル短絡 • GCON ECM	作業台下降 以外のすべての機能 の抑制。
H027: GS30、 GS32、 GS46 & GS47	H027:COILFAULT DRIVE STEER RIGHT:BAT+	ステアリング右回路と電池正電極の間 の短絡。	• ステアリング右ハーネスでの短絡 • ステアリング右コイルの短絡 • GCON ECM	作業台下降 以外のすべての機能 の抑制。
H030: GS30、 GS32、 GS46 & GS47	H030:COILFAULT DRIVE STEER LEFT:BAT+	ステアリング左回路と電池正 電極の間の短絡。	• ステアリング左ハーネスでの短絡 • ステアリング左コイルの短絡 • GCON ECM	作業台下降 以外のすべての機能 の抑制。
H033: GS30、 GS32、 GS46 & GS47	H033:COILFAULT HI/LO SPEED:BAT+	高/低速コイルと電池正電極の間の 短絡。	• 高/低速コイルハーネスでの短絡 • 高/低速コイルの短絡 • GCON ECM	高/低速コイル の無効化。機械は 低速モードで操作し ます。

「HXXX」タイプの故障、続き

DTC 番号	GCON LCD のメッセージ	問題 詳細	可能性のある 原因	故障 モード
H049: GS-3232	H049:COILFAULT O/R EXTEND:BAT-	アウトリガー延長コイルと電池負電極の間の短絡。	• アウトリガー延長コイルハーネスでの短絡 • アウトリガー延長コイルの短絡 • GCON ECM	アウトリガー延長機能のみが無効になっています。
H050: GS-3232	H050:COILFAULT O/R EXTEND:OPEN	アウトリガー延長コイル回路での開回路。	• アウトリガー延長コイルハーネスでの開回路 • アウトリガー延長コイルの開回路 • GCON ECM	アウトリガー延長機能のみが無効になっています。
H051: GS-3232	H051:COILFAULT O/R EXTEND:BAT+	アウトリガー延長コイルと電池正電極の間の短絡。	• アウトリガー延長コイルハーネスでの短絡 • アウトリガー延長コイルの短絡 • GCON ECM	作業台下降以外のすべての機能の抑制。
H052: GS-3232	H052:COILFAULT O/R RETRACT:BAT-	アウトリガー収縮コイルと電池負電極の間の短絡。	• アウトリガー収縮コイルハーネスでの短絡 • アウトリガー収縮コイルの短絡 • GCON ECM	アウトリガー収縮機能のみが無効になっています。
H053: GS-3232	H053:COILFAULT O/R RETRACT:OPEN	アウトリガー収縮コイル回路での開回路。	• アウトリガー収縮コイルハーネスでの開回路 • アウトリガー収縮コイルの開回路 • GCON ECM	アウトリガー収縮機能のみが無効になっています。
H054: GS-3232	H054:COILFAULT O/R RETRACT:BAT+	アウトリガー収縮コイルと電池正電極の間の短絡。	• アウトリガー収縮コイルハーネスでの短絡 • アウトリガー収縮コイルの短絡 • GCON ECM	作業台下降以外のすべての機能の抑制。
H057: GS-3232	H057:COILFAULT LF RIGGER:BAT+	左前方アウトリガーコイルと電池正電極の間の短絡。	• 左前方アウトリガーコイルハーネスでの短絡 • 左前方アウトリガーコイルの短絡 • GCON ECM	作業台下降以外のすべての機能の抑制。
H060: GS-3232	H060:COILFAULT LR RIGGER:BAT+	左後方アウトリガーコイルと電池正電極の間の短絡。	• 左後方アウトリガーコイルハーネスでの短絡 • 左後方アウトリガーコイルの短絡 • GCON ECM	作業台下降以外のすべての機能の抑制。
H063: GS-3232	H063:COILFAULT RF RIGGER:BAT+	右前方アウトリガーコイルと電池正電極の間の短絡。	• 右前方アウトリガーコイルハーネスでの短絡 • 右前方アウトリガーコイルの短絡 • GCON ECM	作業台下降以外のすべての機能の抑制。
H066: GS-3232	H066:COILFAULT RR RIGGER:BAT+	右後方アウトリガーコイルと電池正電極の間の短絡。	• 右後方アウトリガーコイルハーネスでの短絡 • 右後方アウトリガーコイルの短絡 • GCON ECM	作業台下降以外のすべての機能の抑制。
H067: GS30, GS32, GS46 & GS47	H067:FAULT MC ENABLE:BAT-	モーターコントローラ回路と電池負電極の間の短絡。	• モーターコントローラ作動ワイヤーでの短絡 • モーターコントローラ • GCON ECM	作業台下降以外のすべての機能の抑制。
H069: GS30, GS32, GS46 & GS47	H069:FAULT MC ENABLE:BAT+	モーターコントローラ回路と電池正電極の間の短絡。	• モーターコントローラ作動ワイヤーでの短絡 • モーターコントローラ • GCON ECM • 接触器コイル	作業台下降以外のすべての機能の抑制。
H070: GS30, GS32, GS46 & GS47	H070:FAULT MC THROTTLE:BAT-	モーターコントローラスレットル回路と電池負電極の間の短絡。	• モーターコントローラスレットルワイヤーでの短絡 • モーターコントローラ • GCON ECM	作業台下降以外のすべての機能の抑制。

診断

「HXXX」タイプの故障、続き

DTC 番号	GCON LCD のメッセージ	問題 詳細	可能性のある 原因	故障 モード
H072: GS30、GS32、GS46 & GS47	H072:FAULT MC THROTTLE:BAT+	モーターコントローラスロットル回路と電池正電極の間の短絡。	• モーターコントローラスレットルワイヤーでの短絡 • モーターコントローラ • GCON ECM	作業台下降以外のすべての機能の抑制。
H074: GS-3232	H074:COILFAULT LF RIGGER	左前方アウトリガー回路と電池正/負電極の間の短絡または開回路。	• 左前方アウトリガーハーネスでの短絡または開回路 • 左前方アウトリガーコイルの短絡または開回路 • GCON ECM	左前方アウトリガー機能抑制。
H075: GS-3232	H075:COILFAULT LR RIGGER	左後方アウトリガー回路と電池正/負電極の間の短絡または開回路。	• 左後方アウトリガーハーネスでの短絡または開回路 • 左後方アウトリガーコイルの短絡または開回路 • GCON ECM	左後方アウトリガー機能抑制。
H076: GS-3232	H076:COILFAULT RF RIGGER	右前方アウトリガー回路と電池正/負電極の間の短絡または開回路。	• 右前方アウトリガーハーネスでの短絡または開回路 • 右前方アウトリガーコイルの短絡または開回路 • GCON ECM	右前方アウトリガー機能抑制。
H077: GS-3232	H077:COILFAULT RR RIGGER	右後方アウトリガー回路と電池正/負電極の間の短絡または開回路。	• 右後方アウトリガーハーネスでの短絡または開回路 • 右後方アウトリガーコイルの短絡または開回路 • GCON ECM	右後方アウトリガー機能抑制。
H078: GS30、GS32、GS46 & GS47	H078:COILFAULT PLAT DOWN1	作業台下降第 1 回路と電池正/負電極の間の短絡または開回路。	• 作業台下降第 1 ハーネスでの短絡または開回路 • 作業台下降第 1 コイルの短絡または開回路 • GCON ECM	作業台下降機能抑制。
H079: GS32、GS46 & GS47	H079:COILFAULT HI/LO SPEED	高/低速回路と電池正/負電極の間の短絡または開回路。	• 高/低速ハーネスでの短絡 • 高/低速コイルの短絡または開回路 • GCON ECM	高/低速コイルの無効化。電池の負極での開回路または短絡の場合は、機械は高速モードで動作します。電池正極での短絡の場合は、機械は低速モードで作動します。
H080: GS30、GS32、GS46 & GS47	H080:COILFAULT STEER LEFT	ステアリング左回路と電池負電極の間の短絡または開回路。	• ステアリング左ハーネスでの短絡または開回路 • ステアリング左コイルの短絡または開回路 • GCON ECM	ステアリング左機能の抑制。
H081: GS30、GS32、GS46 & GS47	H081:COILFAULT STEER RIGHT	ステアリング右回路と電池負電極の間の短絡または開回路。	• ステアリング右ハーネスでの短絡または開回路 • ステアリング右コイルの短絡または開回路 • GCON ECM	ステアリング右機能の抑制。
H102: GS-4047	H102:COILFAULT RELIEF VALVE:BAT+	安全弁回路と電池正電極の間の短絡。	• 安全弁ハーネスでの短絡 • 安全弁コイルの短絡 • GCON ECM	リミットスイッチの上にある間、作業台下降以外のすべての機能が抑制される。
H103: GS-4047	H103:COILFAULT RELIEF VALVE:BAT-	安全弁回路と電池負電極の間の短絡。	• 安全弁ハーネスでの短絡 • 安全弁コイルの短絡 • GCON ECM	リミットスイッチの上にある間、作業台下降以外のすべての機能が抑制される。
H104: GS-4047	H104:COILFAULT RELIEF VALVE:OPEN	安全弁回路開放。	• 安全弁ハーネスでの開回路 • 安全弁コイルの開回路 • GCON ECM	リミットスイッチの上にある間、作業台下降以外のすべての機能が抑制される。

「HXXX」タイプの故障、続き

DTC 番号	GCON LCD のメッセージ	問題 詳細	可能性のある 原因	故障 モード
H106: GS-2646AV	H106:COILFAULT DECK EXTEND:BAT-	作業台延長回路と電池負電極の間の短絡。	• PED ハーネスでの短絡 • PED 延長弁コイルの短絡 • GCON ECM	すべての機能 の抑制。
H107: GS-2646AV	H107:COILFAULT DECK EXTEND:OPEN	作業台延長回路での開回路。	• PED ハーネスでの開回路 • PED 延長弁コイルの開回路 • GCON ECM	すべての機能 の抑制。
H108: GS-2646AV	H108:COILFAULT DECK EXTEND:BAT+	作業台延長回路と電池正電極の間の短絡。	• PED ハーネスでの短絡 • PED 延長弁コイルの短絡 • GCON ECM	すべての機能 の抑制。
H109: GS-2646AV	H109:COILFAULT DECK RETRACT:BAT-	作業台収縮回路と電池負電極の間の短絡。	• PED ハーネスでの短絡 • PED 収縮弁コイルの短絡 • GCON ECM	すべての機能 の抑制。
H110: GS-2646AV	H110:COILFAULT DECK RETRACT:OPEN	作業台収縮回路での開回路。	• PED ハーネスでの開回路 • PED 収縮弁コイルの開回路 • GCON ECM	すべての機能 の抑制。
H111: GS-2646AV	H111:COILFAULT DECK RETRACT:BAT+	作業台収縮回路と電池正電極の間の短絡。	• PED ハーネスでの短絡 • PED 収縮弁コイルの短絡 • GCON ECM	すべての機能 の抑制。
H114: GS-2646AV	H114:COILFAULT DECK ENABLE:BAT+	作業台作動回路と電池正電極の間の短絡。	• PED ハーネスでの短絡 • PED 作動弁コイルの短絡 • GCON ECM	すべての機能 の抑制。
H115: GS-2646AV	H115:COILFAULT DECK ENABLE	作業台作動回路の短絡。	• PED ハーネスでの短絡 • GCON ECM	すべての機能 の抑制。

診断

「PXXX」タイプの故障

DTC 番号	GCON LCD の メッセージ	説明	可能性のある原因	故障モード
P001: GS30、GS32、GS46 および GS47	P001:PWR FAULT SW PWR1:BAT-	スイッチング電源第 1 回路と電池負電極の間の短絡。	・スイッチング電源第 1、下降リミットスイッチ、ポットホールリミットスイッチ、デジタル傾斜スイッチハーネスでの短絡。 ・GCON ECM。	すべての機能の抑制。
P003: GS30、GS32、GS46 および GS47	P003:PWR FAULT SW PWR1:BAT+	スイッチング電源第 1 回路と電池正電極の間の短絡。	・スイッチング電源第 1、下降リミットスイッチ、ポットホールリミットスイッチ、デジタル傾斜スイッチハーネスでの短絡。 ・GCON ECM。	すべての機能の抑制。
P004: GS30、GS32、GS46 および GS47	P004:DEVICEFAULT HORN:BAT-	自動車ホーン回路と電池負電極の間の短絡。	・自動車ホーンハーネスでの短絡。 ・自動車ホーンの短絡。 ・GCON ECM。	自動車ホーン抑制。
P005: GS30、GS32、GS46 および GS47	P005:DEVICEFAULT HORN:OPEN	自動車ホーン回路の開回路。	・自動車ホーンハーネスでの開回路。 ・自動車ホーンの開回路。 ・GCON ECM。	自動車ホーン抑制。
P006: GS30、GS32、GS46 および GS47	P006:DEVICEFAULT HORN:BAT+	自動車ホーン回路と電池正電極の間の短絡。	・自動車ホーンハーネスでの短絡。 ・自動車ホーンの短絡。 ・GCON ECM。	自動車ホーン抑制。
P007: GS30、GS32、GS46 および GS47	P007:DEVICEFAULT GCON ALARM:BAT-	GCON アラーム回路と電池負電極の間の短絡。	・GCON アラームハーネスでの短絡。 ・GCON アラームでの短絡。 ・GCON ECM。	GCON アラーム抑制。
P009: GS30、GS32、GS46 および GS47	P009:DEVICEFAULT GCON ALARM:BAT+	GCON アラーム回路と電池正電極の間の短絡。	・GCON アラームハーネスでの短絡。 ・GCON アラームでの短絡。 ・GCON ECM。	GCON アラーム抑制。
P013: GS30、GS32、GS46 および GS47	P013:PWR FAULT PCON PWRET:BAT-	PCON 電源リターン回路と電池負電極の間の短絡。	・PCON 電源リターンハーネスでの短絡。 ・GCON ECM。	すべての機能の抑制。
P015: GS30、GS32、GS46 および GS47	P015:PWR FAULT PCON PWRET:BAT+	PCON 電源リターン回路と電池正電極の間の短絡。	・PCON 電源リターンハーネスでの短絡。 ・GCON ECM。	すべての機能の抑制。
P018: GS30、GS32、GS46 および GS47	018:PWR FAULT PCON POWER:BAT-	PCON 電源回路と電池負電極の間の短絡。	・PCON 電源ハーネスでの短絡。 ・GCON ECM。	すべての機能の抑制。
P019: GS30、GS32、GS46 および GS47	018:PWR FAULT PCON POWER:BAT+	PCON 電源回路と電池正電極の間の短絡。	・PCON 電源ハーネスでの短絡。 ・GCON ECM。	すべての機能の抑制。

「UXXX」タイプの故障

DTC 番号	GCON LCD の メッセージ	説明	可能性のある原因	故障モード
U001: GS30、GS32、GS46 および GS47	U001:SWITCHFAULT GCON MAIN FTN EN	システム始動時の GCON メイン機能作動スイッチの短絡。	・GCON メイン機能作動スイッチの短絡。 ・GCON ECM。	すべての GCON 機能の抑制。
U002: GS30、GS32、GS46 および GS47	U002:SWITCHFAULT GCON PLAT UP	システム始動時の GCON 上昇方向スイッチの短絡。	・GCON 上昇方向スイッチの短絡。 ・GCON ECM。	作業台下降以外のすべての GCON 機能の抑制。
U003: GS30、GS32、GS46 および GS47	U003:SWITCHFAULT GCON PLAT DOWN	システム始動時の GCON 下降方向スイッチの短絡。	・GCON 下降方向スイッチの短絡。 ・GCON ECM。	作業台上昇以外のすべての GCON 機能の抑制。
U004: GS30、GS32、GS46 および GS47	U004:SWITCHFAULT GCON LCD UP	システム始動時の GCON LCD スクロールアップスイッチの短絡。	・GCON LCD スクロールアップスイッチの短絡。 ・GCON ECM。	すべての GCON LCD メニュー機能の抑制。
U005: GS30、GS32、GS46 および GS47	U005:SWITCHFAULT GCON LCD DOWN	システム始動時の GCON LCD スクロールダウンスイッチの短絡。	・GCON LCD スクロールダウンスイッチの短絡。 ・GCON ECM。	すべての GCON LCD メニュー機能の抑制。
U006: GS30、GS32、GS46 および GS47	U006:SWITCHFAULT GCON LCD ENTER	システム始動時の GCON LCD 確定スイッチの短絡。	・GCON LCD 確定スイッチの短絡。 ・GCON ECM。	すべての GCON LCD メニュー機能の抑制。
U007: GS30、GS32、GS46 および GS47	U007:SWITCHFAULT GCON LCD ESCAPE	システム始動時の GCON LCD 中断スイッチの短絡。	・GCON LCD 中断スイッチの短絡。 ・GCON ECM。	すべての GCON LCD メニュー機能の抑制。
U014: GS30、GS32、GS46 および GS47	U014:SWITCHFAULT PCON DRIVE EN	システム始動時の PCON 走行作動スイッチの短絡。	• PCON 走行作動スイッチの短絡。 ・GCON ECM。	すべての PCON 走行および操舵機能の抑制。
U015: GS30、GS32、GS46 および GS47	U015:SWITCHFAULT PCON STEER LEFT	システム始動時の PCON 操舵左スイッチの短絡。	・PCON 操舵左スイッチの短絡。 ・GCON ECM。	すべての PCON 走行および操舵機能の抑制。
U016: GS30、GS32、GS46 および GS47	U016:SWITCHFAULT PCON STEER RIGHT	システム始動時の PCON 操舵右スイッチの短絡。	・PCON 操舵右スイッチの短絡。 ・GCON ECM。	すべての PCON 走行および操舵機能の抑制。
U017: GS30、GS32、GS46 および GS47	U017:SWITCHFAULT PCON HORN	システム始動時の PCON ホーンスイッチの短絡。	・PCON ホーンスイッチの短絡。 ・GCON ECM。	PCON ホーンスイッチ機能の抑制。
U018: GS30、GS32、GS46 および GS47	U018:SWITCHFAULT PCON LO DRIV SPD	システム始動時の PCON 低速走行スイッチの短絡。	・PCON 低速走行スイッチの短絡。 ・GCON ECM。	機械は低速走行に制限されています。
U019: GS30、GS32、GS46 および GS47	U019:SWITCHFAULT PCON LO LIFT SPD	システム始動時の PCON 低速リフトスイッチの短絡。	・PCON 低速リフトスイッチの短絡。 ・GCON ECM。	PCON 作業台上昇および下降機能の抑制。

診断

「UXXX」タイプの故障、続き

DTC 番号	GCON LCD の メッセージ	説明	可能性のある原因	故障モード
U020: GS30、GS32、GS46 および GS47	U020:SWITCHFAULT PCON HI LIFT SPD	システム始動時の PCON 高速リフトスイッチの短絡。	・PCON 高速リフトスイッチの短絡。 ・GCON ECM。	PCON 作業台上昇および下降機能の抑制。
U021: GS30、GS32、GS46 および GS47	U021:SWITCHFAULT PCON UP	システム始動時の PCON 上昇方向スイッチの短絡。	・PCON 上昇方向スイッチの短絡。 ・GCON ECM。	PCON 作業台上昇機能抑制。
U022: GS30、GS32、GS46 および GS47	U022:SWITCHFAULT PCON DOWN	システム始動時の PCON 下降方向スイッチの短絡。	・PCON 下降方向スイッチの短絡。 ・GCON ECM。	PCON 作業台下降機能の抑制。
U023: GS-3232	U023:SWITCHFAULT PCON O/R ENABLE	システム始動時の PCON アウトリガー作動スイッチの短絡。	・PCON アウトリガー作動スイッチの短絡。 ・GCON ECM。	すべてのアウトリガー機能の抑制。
U033: GS30、GS32、GS46 および GS47	U033:JSTICKFAULT OUT OF CAL RANGE	PCON 走行ジョイスティック信号はシステム始動時に許容調整範囲外にあります。	・PCON 走行ジョイスティックが始動時にニュートラルの位置にない。 ・PCON ジョイスティック。 ・GCON ECM。	すべての PCON 走行および操舵機能の抑制。
U034: GS30、GS32、GS46 および GS47	U034:JSTICKFAULT OUT OF RANGE:HI	システム始動時の PCON 走行ジョイスティック信号と電池正電極の間の短絡。	・PCON 走行ジョイスティック信号回路の短絡。 ・PCON ジョイスティック。 ・GCON ECM。	すべての PCON 走行および操舵機能の抑制。
U035: GS30、GS32、GS46 および GS47	U035:JSTICKFAULT OUT OF RANGE:LO	システム始動時の PCON 走行ジョイスティック信号と電池負電極の間の短絡。	・PCON 走行ジョイスティック信号回路の短絡。 ・PCON ジョイスティック。 ・GCON ECM。	すべての PCON 走行および操舵機能の抑制。
U036: GS30、GS32、GS46 および GS47	U036:SWITCHFAULT GCON + PCON:ON	GCON キースイッチの誤配線または短絡。	・GCON キースイッチ。 ・GCON ECM。	すべての機能の抑制。
U037: GS30、GS32、GS46 および GS47	U037:SWITCHFAULT FOOTSW PRESSED	機械の始動時にペダルスイッチが踏まれた。	・ペダルスイッチハーネスでの短絡。 ・ペダルスイッチ ・GCON ECM。	すべての機能の抑制。
U038: GS30、GS32、GS46 および GS47	U038:SWITCHFAULT FOOTSWITCH:BAT+	ペダルスイッチと電池正電極間の誤配線または短絡。	・ペダルスイッチハーネスでの短絡。 ・ペダルスイッチ ・GCON ECM。	すべての機能の抑制。
U039: GS30、GS32、GS46 および GS47	U039:SWITCHFAULT FOOTSW:OPEN/BAT-	ペダルスイッチと電池負電極間の誤配線、開回路、または短絡。	・ペダルスイッチハーネスでの短絡。 ・ペダルスイッチ ・GCON ECM。	すべての機能の抑制。
U040: GS30、GS32、GS46 および GS47 (GS-3232 を除く)	U040:SWITCHFAULT FOOTSW:TIMEOUT	機械の始動時に PCON デッキスイッチが押された。	・ペダルスイッチハーネスでの短絡。 ・ペダルスイッチ ・GCON ECM。	すべての機能の抑制。

「UXXX」タイプの故障、続き

DTC 番号	GCON LCD の メッセージ	説明	可能性のある原因	故障モード
U041: GS30、GS32、GS46 および GS47	U041: SWITCHFAULT GCON DECK ENABLE	GCON デッキ機能スイッチが引っかかり押し下げられたままになっている、またはシステム開始時に押し下げられたままになっている。	• GCON デッキ作動スイッチが引っかかり押し下げられたままになっている。 ・GCON デッキ機能スイッチがシステム開始時に押し下げられたままになっている。 ・GCON ECM。	すべての機能の抑制。
U042: GS30、GS32、GS46 および GS47	U042: SWITCHFAULT PCON DRIVE MODE	PCON 走行モードスイッチが引っかかり押し下げられたままになっている、またはシステム開始時に押し下げられたままになっている。	• PCON 走行モードスイッチが引っかかり押し下げられたままになっている。 ・PCON 走行モードスイッチがシステム開始時に押し下げられたままになっている。 ・PCON ECM。	すべての機能の抑制。
U043: GS-32 32	U043: SWITCHFAULT PCON OR MODE	PCON アウトリガーモードスイッチが引っかかり押し下げられたままになっている、またはシステム開始時に押し下げられたままになっている。	・PCON アウトリガーモードスイッチが引っかかり押し下げられたままになっている。 ・PCON アウトリガーモードスイッチがシステム開始時に押し下げられたままになっている。 ・PCON ECM。	アウトリガー延長/収縮機能の制御。
U045: GS30、GS32、GS46 および GS47	U045: SWITCHFAULT PCON FUNCTION EN	PCON 機能作動スイッチが引っかかり押し下げられたままになっている、またはシステム開始時に押し下げられたままになっている。	・PCON 機能作動スイッチが引っかかり押し下げられたままになっている。 ・PCON 機能スイッチがシステム開始時に押し下げられたままになっている。 ・PCON ECM。	すべての走行および操舵機能の抑制。
U046: GS30、GS32、GS46 および GS47	U046: SWITCHFAULT PCON LIFT MODE	PCON リフトモードスイッチが引っかかり押し下げられたままになっている、またはシステム開始時に押し下げられたままになっている。	・PCON リフトモードスイッチが引っかかり押し下げられたままになっている。 ・PCON リフトモードスイッチがシステム開始時に押し下げられたままになっている。 ・PCON ECM。	作業台上昇/下降以外のすべての機能が作動。

診断

「FXXX」タイプの故障

DTC 番号	GCON LCD の メッセージ	説明	可能性のある原因	故障モード
F001: GS-3232	F001:SWITCHFAULT UP LIMIT1:BAT+	システム始動時の上昇リミット第 1 スイッチの短絡。	・上昇リミットスイッチ回路の短絡。 ・上昇リミット第 1 スイッチの短絡。 ・GCON ECM。	作業台上昇機能抑制。
F003: GS30、GS32、GS46 および GS47	F003:SWITCHFAULT DOWN LIMIT1:BAT+	システム始動時の下降リミット第 1 スイッチの短絡。	・下降リミット回路の短絡。 ・下降リミット第 1 スイッチの短絡。 ・GCON ECM。	作業台下降以外のすべての機能の抑制。
F005: GS30、GS32、GS46 および GS47	F005:SWITCHFAULT POTHOLE:BAT+	システム始動時のポットホールリミット第 1 スイッチの短絡。	・ポットホールスイッチ回路の短絡。 ・ポットホールリミット第 1 スイッチの短絡。 ・GCON ECM。	機械が上昇した状態にある限り、作業台下降以外のすべての機能は抑制。機械が収納位置にある場合には、すべての機能が再開します。
F007: GS30、GS32、GS46 および GS47	F007:SWITCHFAULT CHASSISTILT:BAT+	システム始動時のシャーシのデジタル傾斜スイッチの短絡。	・シャーシのデジタル傾斜スイッチ回路の短絡。 ・シャーシのデジタル傾斜スイッチの短絡。 ・GCON ECM。	機械が上昇した状態にある限り、作業台下降以外のすべての機能は抑制。機械が収納位置にある場合には、すべての機能が再開します。
F008: GS30、GS32、GS46 および GS47	F008:SENSORFAULT OVLD XDUCER:BAT+	作業台過負荷変換器回路と電池正電極の間の短絡。	・変換器回路の短絡。 ・故障している圧力変換器 ・GCON ECM。	すべての機能の抑制。
F009: GS30、GS32、GS46 および GS47	F009:SENSORFAULT OVLD XDUCER:BAT-	作業台過負荷変換器回路と電池負電極の間の短絡。	・変換器回路の短絡。 ・故障している圧力変換器 ・GCON ECM。	すべての機能の抑制。
F010: GS30、GS32、GS46 および GS47	F010:SENSORFAULT PLAT HEIGHT:BAT+	作業台高度センサー回路と電池正電極の間の短絡。	・作業台高度センサー回路の短絡。 ・故障した作業台高度センサー。 ・GCON ECM。	機械が上昇した状態にある限り、作業台下降以外のすべての機能は抑制。機械が収納位置にある場合には、すべての機能が再開します。
F011: GS30、GS32、GS46 および GS47	F011:SENSORFAULT PLAT HEIGHT:BAT-	作業台高度センサー回路と電池負電極の間の短絡。	・作業台高度センサー回路の短絡。 ・故障した作業台高度センサー。 ・GCON ECM。	機械が上昇した状態にある限り、作業台下降以外のすべての機能は抑制。機械が収納位置にある場合には、すべての機能が再開します。

「FXXX」タイプの故障、続き

DTC 番号	GCON LCD の メッセージ	説明	可能性のある原因	故障モード
F012: GS-3232	F012:SENSORFAULT LEVEL PITCH:BAT+	レベル傾斜センサー回路と電池正電極の間の短絡。	・レベルピッチセンサー回路の短絡。 ・故障したレベルセンサー ・GCON ECM。	すべての機能の抑制。
F013: GS-3232	F013:SENSORFAULT LEVEL PITCH:BAT-	レベル傾斜センサー回路と電池負電極の間の短絡。	・レベルピッチセンサー回路の短絡。 ・故障したレベルセンサー ・GCON ECM。	すべての機能の抑制。
F014: GS-3232	F014:SENSORFAULT LEVEL ROLL:BAT+	レベル回転センサー回路と電池正電極の間の短絡。	・レベル回転センサー回路の短絡。 ・故障したレベルセンサー ・GCON ECM。	すべての機能の抑制。
F015: GS-3232	F015:SENSORFAULT LEVEL ROLL:BAT-	レベル回転センサー回路と電池負電極の間の短絡。	・レベル回転センサー回路の短絡。 ・故障したレベルセンサー ・GCON ECM。	すべての機能の抑制。
F016: GS-3232	F016:SENSORFAULT LF RIGGER:BAT+	左前方アウトリガーセンサー回路と電池正電極の間の短絡。	・左前方アウトリガーセンサー回路での短絡。 ・故障している圧力変換器 ・GCON ECM。	アウトリガー延長が作動していると、左前方アウトリガーは抑制。アウトリガーはまだ収縮可能です。
F017: GS-3232	F017:SENSORFAULT LF RIGGER:BAT-	左前方アウトリガーセンサー回路と電池負電極の間の短絡。	・左前方アウトリガーセンサー回路での短絡。 ・故障している圧力変換器 ・GCON ECM。	アウトリガー延長が作動していると、左前方アウトリガーは抑制。アウトリガーはまだ収縮可能です。
F018: GS-3232	F018:SENSORFAULT RF RIGGER:BAT+	右前方アウトリガーセンサー回路と電池正電極の間の短絡。	・右前方アウトリガーセンサー回路での短絡。 ・故障している圧力変換器 ・GCON ECM。	アウトリガー延長が作動していると、右前方アウトリガーは抑制。アウトリガーはまだ収縮可能です。
F019: GS-3232	F019:SENSORFAULT RF RIGGER:BAT-	右前方アウトリガーセンサー回路と電池負電極の間の短絡。	・右前方アウトリガーセンサー回路での短絡。 ・故障している圧力変換器 ・GCON ECM。	アウトリガー延長が作動していると、右前方アウトリガーは抑制。アウトリガーはまだ収縮可能です。
F020: GS-3232	F020:SENSORFAULT LR RIGGER:BAT+	左後方アウトリガーセンサー回路と電池正電極の間の短絡。	・左後方アウトリガーセンサー回路での短絡。 ・故障している圧力変換器 ・GCON ECM。	アウトリガー延長が作動していると、左後方アウトリガーは抑制。アウトリガーはまだ収縮可能です。
F021: GS-3232	F021:SENSORFAULT LR RIGGER:BAT-	左後方アウトリガーセンサー回路と電池負電極の間の短絡。	・左後方アウトリガーセンサー回路での短絡。 ・故障している圧力変換器 ・GCON ECM。	アウトリガー延長が作動していると、左後方アウトリガーは抑制。アウトリガーはまだ収縮可能です。
F022: GS-3232	F022:SENSORFAULT RR RIGGER:BAT+	右後方アウトリガーセンサー回路と電池正電極の間の短絡。	・右後方アウトリガーセンサー回路での短絡。 ・故障している圧力変換器 ・GCON ECM。	アウトリガー延長が作動していると、右後方アウトリガーは抑制。アウトリガーはまだ収縮可能です。

診断

「FXXX」タイプの故障、続き

DTC 番号	GCON LCD の メッセージ	説明	可能性のある原因	故障モード
F023: GS-3232	F023:SENSORFAULT RR RIGGER:BAT-	右後方アウトリガーセンサー回路と電池負電極の間の短絡。	・右後方アウトリガーセンサー回路での短絡。 ・故障している圧力変換器 ・GCON ECM。	アウトリガー延長が作動していると、右後方アウトリガーは抑制。アウトリガーはまだ収縮可能です。
F034: GS30、GS32、GS46 および GS47	F034:SENSORFAULT OVLD:PLAT HEIGHT	高度センサー設定は正しく調整されていない。	・高度センサーは収納位置の高さおよび最大の高さの設定に、調節が必要になります。 ・GCON または PCON ECM。	すべての機能の抑制。
F035: GS30、GS32、GS46 および GS47	F035:SENSORFAULT OVLD RANGE:LOW	高度センサー設定は調節された収納位置の高さよりも低くなる。	・高度センサーは収納位置の高さが正しく調節されていない。 ・GCON または PCON ECM。	すべての機能の抑制。
F036: GS30、GS32、GS46 および GS47	F036:SENSORFAULT OVLD RANGE:HI	高度センサー設定は調節された最大の高さよりも高くなる。	・高度センサーは最大の高さが正しく調節されていない。 ・GCON または PCON ECM。	すべての機能の抑制。
F072: GS-2646AV	F072:SENSORFAULT FUNCTION CUT B+	機能カットアウトセンサー B+ 故障。	・故障した延長デッキリミットスイッチ。 ・故障したゲート近接スイッチ。 ・GCON ECM。	すべての機能の抑制。
F073: GS-2646AV	F073:SENSORFAULT DECK SENSOR B+	電源デッキセンサー B+ 故障。	・デッキセンサー入力回路の短絡。 ・GCON ECM。	すべての機能の抑制。
F129: GS30、GS32、GS46 および GS47	F129:TILT SENSOR FAULT	UTS 不適合による故障。UTS 内部の 2 つの加速度計の不適合。(世界共通の傾斜センサー)	・故障した UTS。	すべての機能の抑制。

「CXXX」タイプの故障

DTC 番号	GCON LCD の メッセージ	説明	可能性のある原因	故障モード
C001: GS30、GS32、GS46 および GS47	C001：GCON ECM FAULT TYPE 1	GCON ECM CRC チェックエラー。	・正しくないソフトウェアファイル。 ・GCON ECM 内部故障。	すべての機能の抑制。
C004: GS30、GS32、GS46 および GS47	C004：GCON ECM FAULT TYPE 4	GCON ECM マスター スイッチ エラー。	・マスタースイッチ回路での短絡。 ・GCON ECM。	すべての機能の抑制。
C005: GS30、GS32、GS46 および GS47	C005：GCOM ECM FAULT TYPE 5	GCON ECM 安全スイッチエラー。	・安全スイッチ回路での短絡。 ・GCON ECM。	すべての機能の抑制。
C006: GS30、GS32、GS46 および GS47	C006：GCON ECM FAULT TYPE 6	GCON 入力冗長性エラー。	・入力調節回路障害。 ・GCON ECM。	すべての機能の抑制。
C007: GS30、GS32、GS46 および GS47	C007：GCON ECM FAULT TYPE 7	GCON ECM プロセッサ間通信エラー。	・不正確にプログラムされた機器。 ・機器でのソフトウェアロード中のエラー。 ・GCON ECM。	すべての機能の抑制。
C009: GS30; GS32' GS46 & GS47	C009：GCON ECM FAULT FAULT TYPE 9	GCON 故障タイプ 9。	・Genie サポートに連絡。	すべての機能の抑制。
C010: GS30, GS32, GS46 & GS47	C010：SECONDARY NOT PROGRAMMED	GCON 補助プロセッサーがプログラムされていない。	・不正確にプログラムされた機器。 ・機器でのソフトウェアロード中のエラー。 ・GCON ECM。	すべての機能の抑制。
C021: GS30、GS32、GS46 および GS47	C021：PCON NOT DETECTED	PCON 不検出エラー。	・PCON 切断。 ・CAN 通信障害。 ・GCON または PCON ECM。	すべての機能の抑制。
C023: GS30、GS32、GS46 および GS47	C023：MACHINE MODEL FAULT	検出モデルとプログラムされたモデルの不一致。	・正しくない機械モデルがプログラムされている。 ・GCON または PCON ECM。	すべての機能の抑制。
C025: GS30、GS32、GS46 および GS47	C025：SYSTEMFAULT PLAT OVLD：NOCAL	作業台過負荷システムが調節されていない。	作業台過負荷システムが調節されていない。 ・GCON または PCON ECM。	すべての機能の抑制。

診断

「CXXX」タイプの故障

DTC 番号	GCON LCD の メッセージ	説明	可能性のある原因	故障モード
C028: GS30、GS32、GS46 および GS47	C028:SERVICE OVERRIDE MODE ON	機械はサービス無効化モードです。	・機械はサービス無効化モードで使用するためにプログラムされている。	下降および上昇機能以外のすべての機能の抑制。 作業台は最大上昇時間のXX 秒間、一度のみ上昇することができます。 上昇時間 XX は機械モデルにより異なります。
C029: GS-3232	C029:SYSTEMFAULT O/R SENSOR:NOCAL	アウトリガーが調節されていない。	・アウトリガーが調節されていない。 ・GCON ECM。	全ての機能が作動している。 下降リミットスイッチより上にリフトしない。
C053: GS30、GS32、GS46 および GS47	C053:PCON-GCOM SOFTWARE MISMATCH	ソフトウェア改正版が PCON と GCON で一致しない。	・安全スイッチ回路での短絡。 ・GCON ECM。	すべての機能の抑制。

注記:GCOM を更新していない機械に最新の PCON がインストールされている場合は、エラーコード C053 が表示されます。GCON を更新する必要があります。または元の PCON が機械に再インストールされなければなりません。

バッテリー充電器

充電器は継続的に内部および外部の状態をモニターします。故障およびエラーコードは充電器によって生成され、内部または外部の故障が電気システムで検出されたことを表示します。発生する可能性のある診断故障コードのタイプは、以下で説明しています。

タイプ「F」コード – 内部に故障状況が発生し、充電が停止されたことを表示します。

タイプ「E」コード – 外部に故障状況が発生し、充電が停止されたことを表示します。

タイプ「P」コード – 充電プログラムモードが作動していることを表示します。この状態は充電プロフィールが構成されている場合に発生します。

タイプ「USB」コード - USB インターフェイスが作動しているため、USB を取り外してはいけません。この状態は充電ファームウェアが更新されている場合に発生します。

 点灯している赤色 - 内部故障状態。タイプ「F」故障コード。

 点滅している琥珀色 - 外部故障状態。タイプ「E」エラーコード。

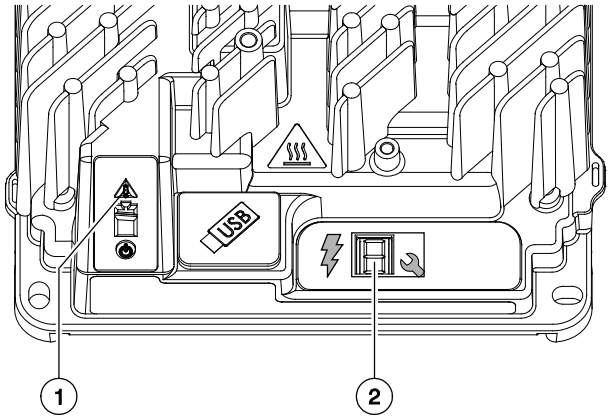
 点滅してる緑色 - USB インターフェイスが作動中。

 点灯している緑色 - ファームウェア更新が完了。USB を充電器から取り外してください。

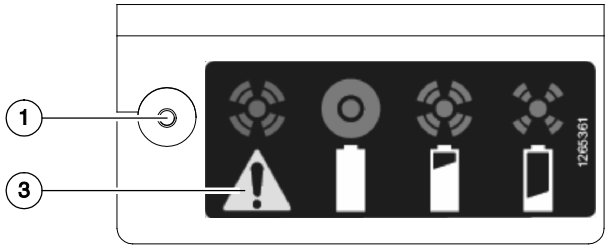
コードは F、E または P の後に 3 つの数字とピリオドが続きます（例：E-0-0-4）。充電器には複数のコードが表示されることもあります。

バッテリーのタイプが別のものに変更される場合には（例：液式鉛蓄から AGM に変更）、充電器プロフィールはプログラムされなければなりません。「修理手順」セクションの「充電器プロフィールのプログラミング」を参照してください。

診断



充電器状態表示器



リモート充電器状態表示器

1 エラー/故障表示器
2 充電器表示
3 エラー/故障

充電器故障コード

故障コード	説明	可能性のある原因	解決法
F-0-0-1	DC-DC 故障:LLC の過度の漏電故障	内部の充電器故障	AC 入力とバッテリーパックを 30 秒間切断してください。 故障原因がはっきりと分からない場合は、Genie 製品サポートまでご連絡ください。
F-0-0-2	PFC 故障:PFC の過度の漏電故障		
F-0-0-3	PFC の始動に時間がかかりすぎている。		
F-0-0-4	充電器は現在のオフセットを調節できない。		
F-0-0-5	終了時に出力リレー電圧が高すぎる。		

充電器エラーコード

エラー コード	説明	状態	可能性のある原因
E-0-0-1	高バッテリー電圧	バッテリー電圧が高過ぎるため充電できない。	バッテリー電圧とケーブル接続を確認してください。 状況が正常になった場合、自動的に解除されます。
E-0-0-2	充電サイクル開始前に低バッテリー電圧が検出された。	バッテリー電圧が低過ぎるため充電できない。	バッテリー電圧とケーブル接続を確認してください。 バッテリー状態を確認してください。 状況が正常になった場合、自動的に解除されます。
E-0-0-3	充電タイムアウト	バッテリーパックが適切な時間制限内に必要な電圧に達しなかったために発生した充電タイムアウト。	充電出力が高温のために低減した。低温での充電。 バッテリー状態を確認してください。 破損したバッテリーを交換してください。 バッテリー接続を確認してください。 バッテリーパックの重放電。 状況が正常になった場合、バッテリーパックを 30 秒間切断して故障表示を解除してください。
E-0-0-4	欠陥バッテリー	バッテリーパックが最低電圧までトリクル充電できなかった。	バッテリー状態を確認してください。 破損したバッテリーを交換してください。 バッテリー接続を確認してください。 状況が正常になった場合、バッテリーパックを 30 秒間切断して故障表示を解除してください。
E-0-0-7	アンペア時間制限超過	安全制限の超過。	バッテリー状態を確認してください。 破損したバッテリーを交換してください。 バッテリー接続を確認してください。 バッテリーパックの重放電。 充電中のバッテリーパックの高寄生ロード。 寄生ロードを切断してください。 状況が正常になった場合、バッテリーパックを 30 秒間切断して故障表示を解除してください。

診断

充電器エラーコード

エラー コード	説明	状態	可能性のある原因
E-0-0-8	範囲外のバッテリー温度	バッテリー温度センサー。	温度センサーと電気接続を確認してください。 充電器を休ませます。AC 電源を 30 秒間切断してください。 状況が正常になった場合、自動的に解除されます。
E-0-1-1	外部コマンドによる充電器の無効化	バッテリーパックが充電されていません…	停電 充電完了前に AC 電源が切断された。
E-0-1-2	逆極性	間違ったバッテリー接続	バッテリー接続を確認してください。 状況が正常になった場合、自動的に解除されます。
E-0-1-3	バッテリーは通電していません。	バッテリー電圧を検出したが、充電器はバッテリーパックを充電できない。	バッテリータイプに不適合なプロフィール。 異なるバッテリータイプを装備した異なる機械からインストールされている。 状況が正常になった場合、バッテリーパックを 30 秒間切断して故障表示を解除してください。
E-0-1-6	ソフトウェア更新が失敗した	ソフトウェア更新が失敗した。	正しいソフトウェアで USB フラッシュドライブがフォーマットされているか確認してください。 ソフトウェア更新の失敗が続く場合は、Genie 製品サポートまでご連絡ください。
E-0-1-7	USB エラー	USB が正しく接続されていない。	USB フラッシュドライブを取り外し、再度挿入してください。 AC 入力とバッテリーパックを 30 秒間切断してください。
E-0-1-8	スロット CRC エラー	ソフトウェア更新が失敗した。	正しいソフトウェアで USB フラッシュドライブがフォーマットされているか確認してください。 ソフトウェア更新の失敗が続く場合は、Genie 製品サポートまでご連絡ください。
E-0-1-9	ハードウェアがソフトウェアをサポートしていない	充電器のハードウェアがプログラムされているソフトウェアのバージョンをサポートしていない。	正しいソフトウェアで USB フラッシュドライブがフォーマットされているか確認してください。 ソフトウェア更新の失敗が続く場合は、Genie 製品サポートまでご連絡ください。
E-0-2-0	アルゴリズムが選択されていない	充電器プロフィールがプログラムされていない。	正しいバッテリープロフィール用の充電器をプログラムしてください。

充電器エラーコード

エラー コード	説明	状態	可能性のある原因
E-0-2-1	充電中に高バッテリー電圧が検出された	バッテリー電圧が充電器プロフィールによって検出された通り高過ぎる。	バッテリー電圧とケーブル接続を確認してください。 充電器プロフィールが正しいバッテリータイプでプログラムされているか確認してください。 状況が正常になった場合、自動的に解除されます。
E-0-2-2	充電中に低バッテリー電圧が検出された	バッテリー電圧が充電器プロフィールによって検出された通り低過ぎる。	バッテリー電圧とケーブル接続を確認してください。 充電器プロフィールが正しいバッテリータイプでプログラムされているか確認してください。 状況が正常になった場合、自動的に解除されます。
E-0-2-3	高 AC 電圧	270VAC 以上の AC 電圧。	安定した AC 電源に 85 ～ 270VAC/45 ～ 65 Hz で接続してください。 状況が正常になった場合、自動的に解除されます。
E-0-2-4	初期化の失敗	充電器の正しい作動に失敗した。	AC 入力とバッテリーパックを 30 秒間切断してください。 Genie 製品サポートまでご連絡ください。
E-0-2-5	低 AC 電圧振動	AC 電圧が不安定。	安定した AC 電源に 85 ～ 270VAC/45 ～ 65 Hz で接続してください。 小型の発電機を使用している。 状況が正常になった場合、自動的に解除されます。
E-0-2-6	スクリプト失敗	ソフトウェア更新が失敗した。	正しいソフトウェアで USB フラッシュドライブがフォーマットされているか確認してください。 ソフトウェア更新の失敗が続く場合は、Genie 製品サポートまでご連絡ください。
E-0-2-7	USB 超過電流故障	USB 超過電流保護が妨害された。	USB フラッシュドライブを取り外し、再度挿入してください。 別の USB フラッシュドライブを使用してください。
E-0-2-8	充電プロフィールの不適合	選択された充電プロフィールは充電ソフトウェアと適合しません。	充電ソフトウェアを更新してください。 充電プロフィールが正しくプログラムされているか確認してください。 現在のファームウェアを更新して、エラーが発生する場合には、Genie 製品サポートまでご連絡ください。

診断

充電器エラーコード

エラー コード	説明	状態	原因
E-0-2-9	CAN バスエラー	CAN バスネットワークエラー。	CAN バス接続を確認してください。 CAN モジュールは正しく機能していません。 終端抵抗は ～ 60 オームです。
E-0-3-0	COMM バッテリーモジュールエラー	CAN バスバッテリーモジュールエラー。	CAN バスバッテリーモジュールは正しく機能していません。
E-0-3-1	アラームを作動させた ADC の Vref 測定	内部の充電器エラー。	AC 入力とバッテリーパックを 30 秒間切断してください。 Genie 製品サポートまでご連絡ください。
E-0-3-2	CAN バスハートビートエラー	CAN バスハートビートエラー。	CAN 機器は正しく機能していません。
E-0-3-6	バッテリー温度センサー充電プロフィール	バッテリー温度センサーの設置は充電器プロフィールに必要ですが、設置されていません。	バッテリー温度センサーの接続を確認してください。 充電器プロフィールを確認し、バッテリー温度センサーが設置されていることを確認してください。
E-0-3-8	CAN Open エラー	CAN Open 再プログラミングが失敗しました。	CAN Open ソフトウェアをダウンロードしてください。 USB フラッシュドライブを使用して充電器を再プログラムしてください。

回路図



必ず以下に従うこと。

☑ トラブルシューティングと修理手順は、本装置の修理トレーニングを受け認定された担当者によって実施されなければなりません。

☑ 損傷もしくは故障している機械は、直ちに故障の貼り紙を付けて、作業を中止してください。

☑ 機械を操作する前に、損傷あるいは故障している個所を修理してください。

トラブルシューティングを始める前に:

☑ ご利用の機械の適切な操作説明書に記載されている安全規則と操作指示をよく読み、理解し、従ってください。

☑ 必要な工具とテスト器具が全て使用できる状態にあることを確認してください。

このセクションについて

このセクションには、2 つのグループの回路図があります。

電気回路図

⚠ 警告 感電/やけどの危険帯電している回路に触れると、重傷を負ったり死に至ることがあります。指輪、時計などの装身具をすべて外してください。

油圧システム回路

⚠ 警告 人体への傷害の危険。作動油が飛び散ると、皮膚に火傷を負うことがあります。油圧接続をゆっくりと緩めていき、オイルの圧力が徐々に下がるようにします。オイルが吹き出たり、散らないように注意してください。

電気部品と配線の色の説明

電気部品の説明	
項目	**説明**
B5	バッテリー
	B5は 24V DC のバッテリーパック で、4 つの電池で構成され、各電池は 6V DC（GS-4047 以外のすべての機械） B10 は平行に配線された 24 V DC のバッテリーパックで、4 つの電池で構成され、 各電池は 12V DC（GS-4047）
C	コネクター
	C1 = Anderson コネクタ C2 = PCON ケーブルコネクタ C3 = PCON コイルコードコネクタ C4 = 電源コントロール（J1） C5 = センサー & スイッチ（J3） C6 = 機能マニホールド（J2） C7 = センサー電源バス C8 = センサー接地母線 C9 = ポットホール リミットスイッチ C10 = 下降リミットスイッチ C11 = レベルセンサー C12 = 機能マニホールド接地母線 C13 = 走行逆進コイル C14 = 走行前進コイル C15 = ステアリング右コイル C16 = ステアリング左コイル C17 = 作業台上昇コイル C18 = 作業台下降コイル C19 = 負荷検出ケーブル C20 = 作業台高度ケーブル C21 = 負荷検出接地ケーブル C22 = パラレルコイル C23 = 作業台高度センサー C24 = 作業台過負荷変換器 C25 = アウトリガー（J4）（GS-3232） C26 = アウトリガー収縮コイル（GS-3232） C27 = アウトリガー延長コイル （GS-3232） C28 = 右後方アウトリガーコイル（GS-3232） C29 = 左後方アウトリガーコイル（GS-3232） C30 = 右前方アウトリガーコイル（GS-3232） C31 = 左前方アウトリガーコイル（GS-3232） C32 = アウトリガーマニホールド接地母線（GS-332） C33 = アウトリガーセンサー電源バス（GS-3232） C34 = アウトリガーレベルセンサー接地母線（GS-3232） C35 = 左前方アウトリガー圧力変換器（GS-3232） C36 = 右前方アウトリガー圧力変換器（GS-3232）

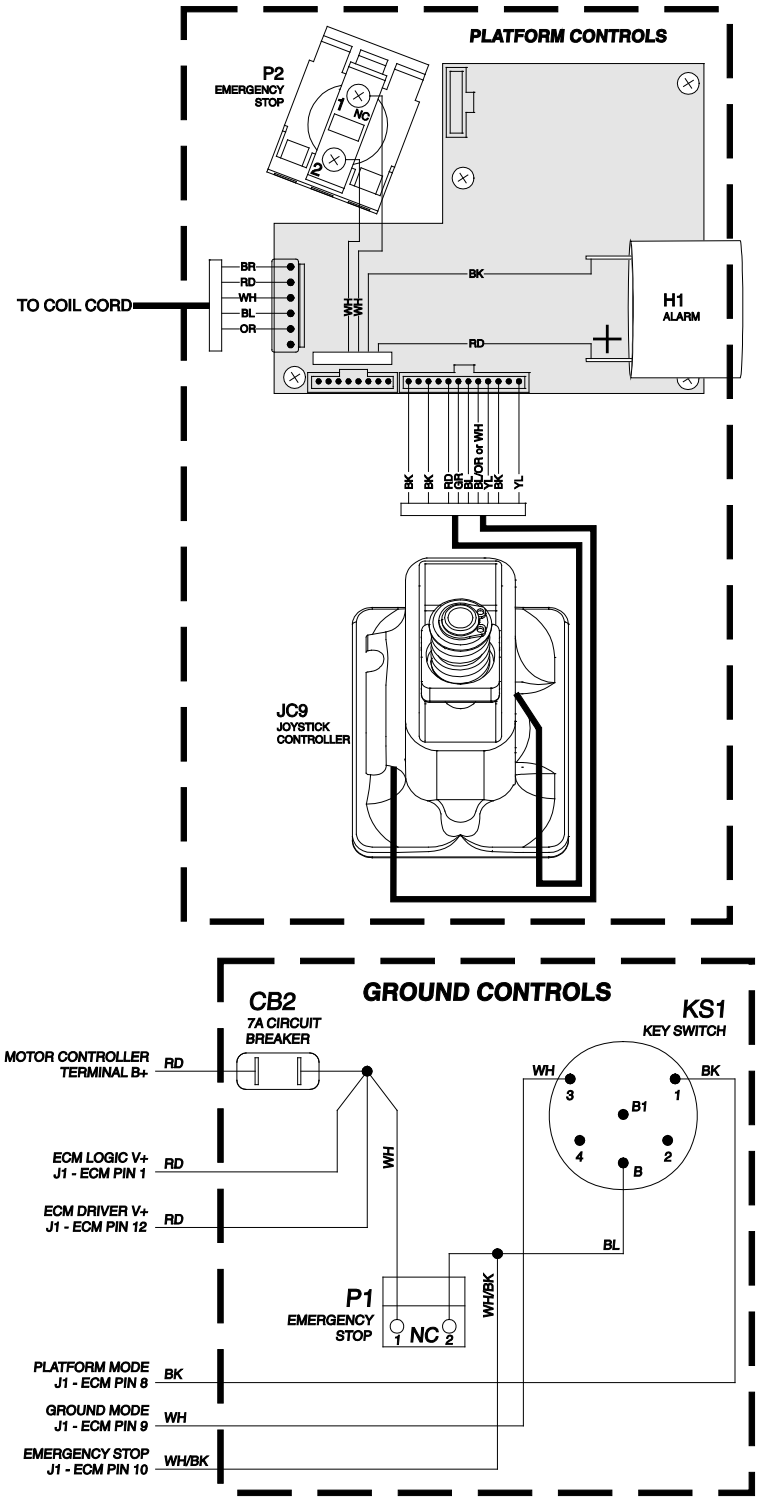
電気部品の説明 続き	
項目	**説明**
C	コネクター
	C37 = 左後方アウトリガー圧力変換器（GS-3232） C38 = 右後方アウトリガー圧力変換器（GS-3232） C39 = アウトリガーセンサー電源（GS-3232） C40 = 上昇リミットスイッチ（GS-3232） C41 = 作業台制御バス C43 = キースイッチ、作業台モード C44 = キースイッチ、非常停止 C45 = 自動車スタイルのホーン+ C46 = 非常停止 C47 = GCON アラーム + C48 = 回路ブレーカー、MTR V+ C49 = 非常停止、ECM ドライバー V+ C50 = 回路ブレーカー、ECM ドライバー V+ C51 = キースイッチ、地上モデル C52 = GCON アラーム - C53 = 自動車スタイルホーン - C70 = 作業台下降コイル +（GS-3232 & GS-3246） C71 = 作業台下降コイル -（GS-3232 & GS-3246） C84 = リフト圧セレクターコイル（GS-4047）
CB2	回路ブレーカー、7A
E	筐体
	EN1 = 作業台操作ボックス
	EN4 = AC 出力ボックス
FB	点滅ビーコン（オプション）
FS1	ペダルスイッチ（オプション）
GND	接地スタッド
H	ホーンもしくはアラーム
	H1 = ホーンまたはアラーム H2 = 自動車スタイルのホーン（オプション） H5 = 多機能アラーム
J	コネクタープラグ
	J1 = 電力コントロール （U5） J2 = 機能マニホールド （U5） J3 = センサー & スイッチ （U5） J4 = アウトリガー （U5） GS-3232） J5 = PCON コイルコードと作業台操作プリント基板を接続 J6 = PCON 非常停止 & アラームと作業台操作プリント基板を接続 J7 = ジョイスティックと作業台操作プリント基板を接続

電気部品と配線の色の説明

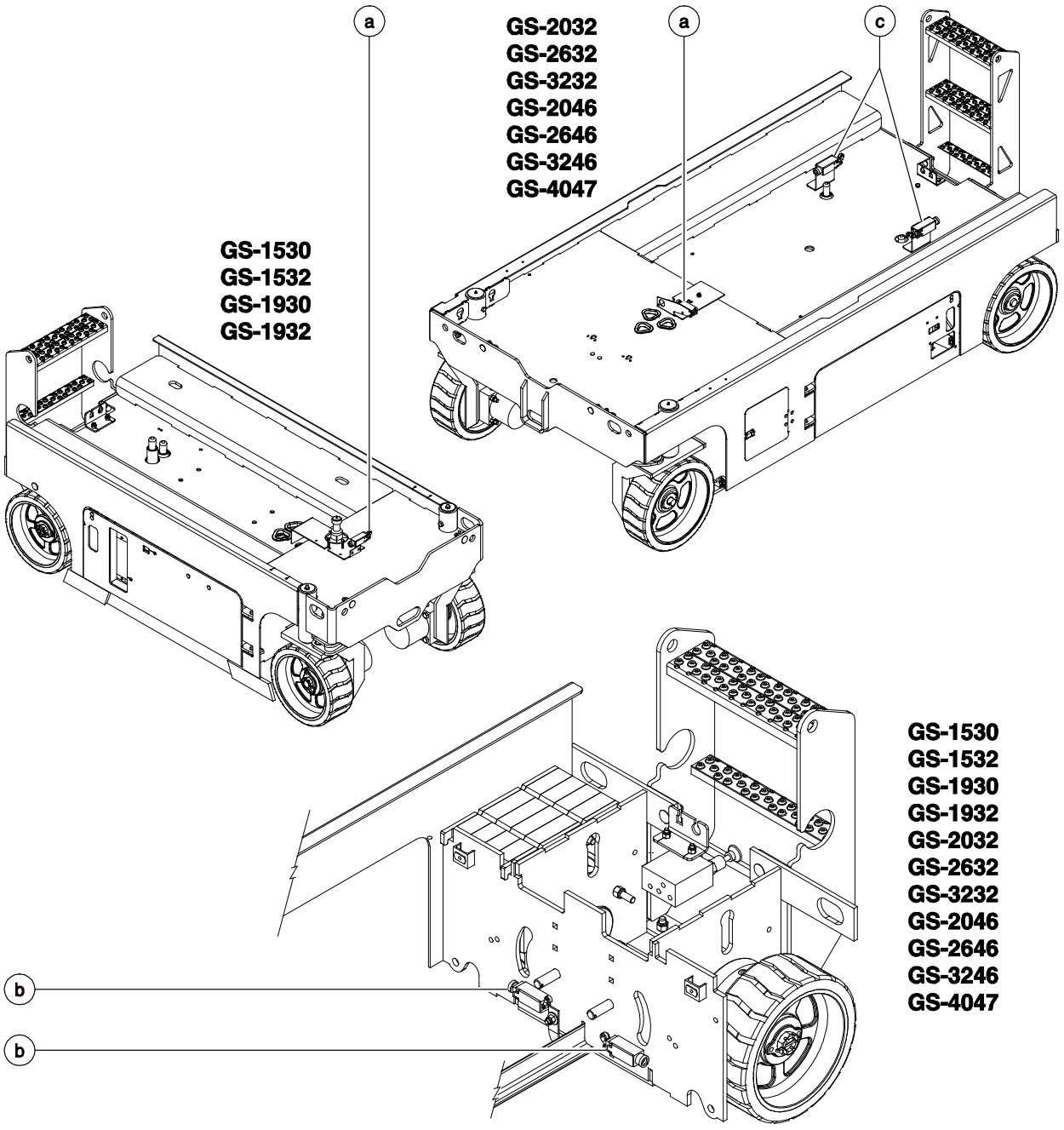
電気部品の説明 続き	
項目	**説明**
JC9	ジョイスティックコントローラ
K1	接触器、モーターコントローラ電源、N.O.H.C.
KS1	キースイッチ
LS	リミットスイッチ
	LS1 = 最大走行高度（GS-3232） LS6 = 作業台下降 LS7 = ポットホール LS8 = ポットホール LS10 = 最大走行高度（GS-3232）
M5	油圧電源ユニット
N.C.	通常閉まっている
N.C.H.O	通常閉まっているのを開けている
N.O.H.C.	通常開いているのを閉めている
P	電源スイッチ
	P1 = 地上操作の非常停止ボタン P2 = 作業台操作の非常停止ボタン
PT	圧力変換器
	PT1 = 左前方アウトリガー（GS-3232） PT2 = 右前方アウトリガー（GS-3232） PT3 = リフト後方アウトリガー（GS-3232） PT4 = 右後方アウトリガー（GS-3232） PT15 = 作業台過負荷（オプション）
R30	抵抗器、20 Ohm、10W
S	センサー
	S7 = レベルセンサー S8 = アウトリガーレベルセンサー（GS-3232） S14 = 作業台高度センサー
U	電気部品
	U3 = PCON プリント基板 U5 = 電気コントロールモジュール U6 = モーターコントローラ U9 = バッテリー充電器 U13 = 変圧器（オプション）
Y	**バルブコイル** Y1 = パラレル（GS-32、GS-46 & GS47 モデル） Y2 = リフト圧セレクター（GS-4047） Y3 = ステアリング右 Y4 = ステアリング左 Y5 = 走行逆進 Y6 = 走行前進 Y7 = 作業台下降 Y8 = 作業台上昇 Y9 = 作業台下降 GS-3232 & GS-3246） Y33 = 左後方アウトリガー（GS-3232） Y34 = 右後方アウトリガー（GS-3232） Y35 = 左前方アウトリガー（GS-3232） Y36 = 右前方アウトリガー（GS-3232） Y39 = アウトリガー収縮（GS-3232） Y40 = アウトリガー延長（GS-3232）

ワイヤカラーの説明	
色	**説明**
BK	黒
BK/RD	黒/赤
BL	青
BL/BK	青/黒
BL/OR	青/オレンジ
BL/WH	青/白
BR	茶
GR	緑
GR/BK	緑/黒
GR/WH	緑/白
GR/YL	緑/黄色
LB	明るい青
OR	オレンジ
OR/BK	オレンジ/黒
OR/RD	オレンジ/赤
OR/WH	オレンジ/白
RD	赤
RD/BK	赤/黒
RD/WH	赤/白
WH	白
WH/BK	白/黒
YL	黄

配線図接地および作業台操作



リミットスイッチの説明



リミットスイッチの説明

a 下降リミットスイッチ LS6

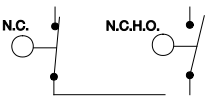
b ポットホール リミットスイッチ LS7、LS8

c アウトリガーが配置されていないときの最大走行高度は 22 フィート/6.7 m（LS1、LS10 GS-3232）

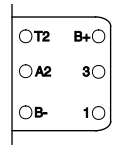
電気シンボルの説明



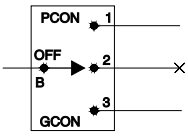
説明または色付きのワイヤー



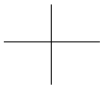
リミットスイッチ



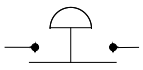
モーターコントローラ



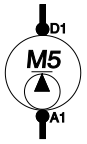
キースイッチ



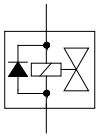
回路交差、接続なし



非常停止ボタン



モーター



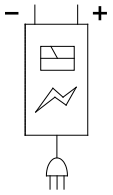
ダイオード付き電磁弁



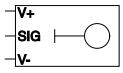
ダイオード



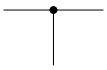
回路ブレーカー



バッテリー充電器



レベルセンサー



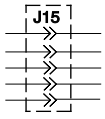
回路接続



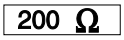
フューズ



6V または 12V DC バッテリー



Deutsch コネクター



抵抗器



接触器



ホーンもしくはアラーム



点滅ビーコン



作業台高度センサー



圧力変換器

油圧システムシンボルの説明



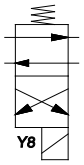
油圧シリンダー



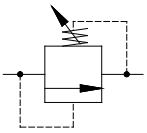
変速モーター



圧力変換器



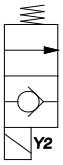
電磁作動
2 ポジション 4 方向
切換え弁



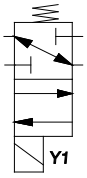
安全弁



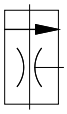
双方向モーター



電磁作動
2 ポジション 2 方向バルブ
遮断弁
通常は開いている



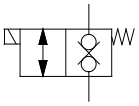
電磁作動
2 ポジション 4 方向
切換え弁



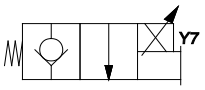
優先流量レギュレータ



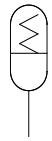
ブレーキ



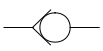
電磁操作
2 ポジション 2 方向バルブ
通常は閉じられている



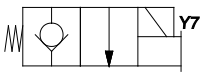
比例電磁作動 2 ポジション 2 方向切換え弁 通常は閉じられている



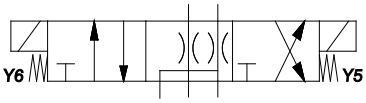
アキュムレーター



チェックバルブ



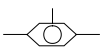
電磁作動
2 ポジション 2 方向
切換え弁
通常は閉じられている



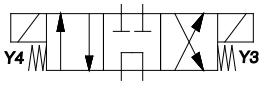
電磁作動
3 ポジション 5 方向
切換え弁



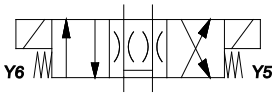
固定置換速度ポンプ



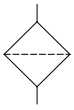
シャトルバルブ



電磁作動 3 ポジション 4 方向
切換え弁



電磁作動 3 ポジション 4 方向切換え弁

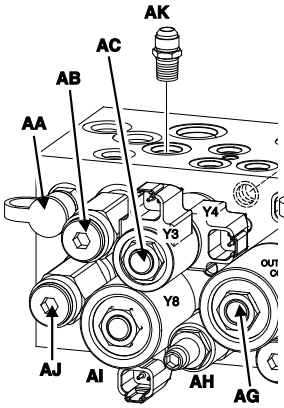


フィルター

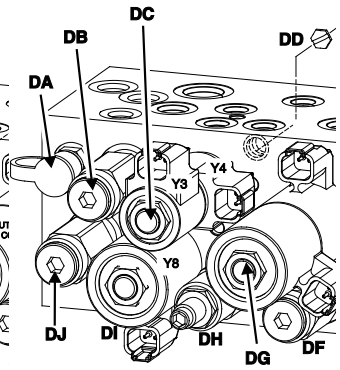


寸法付き開口部

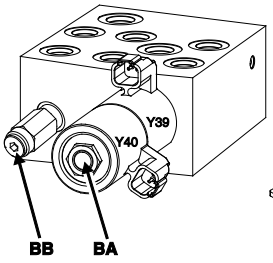
油圧システム回路図



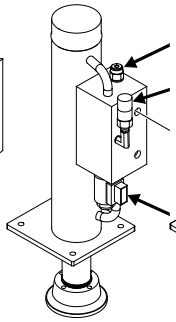
機能マニホールド部品
GS-2032、GS-2632、
GS-3232、GS-2046、
GS-2646 および
GS-3246



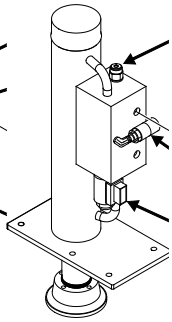
機能マニホールド部品
GS-4047



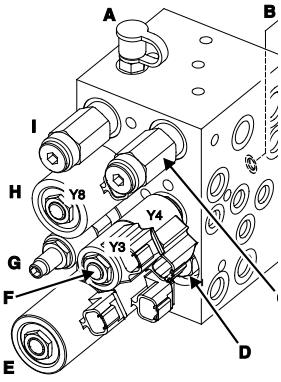
アウトリガーマニホールド
GS-3232



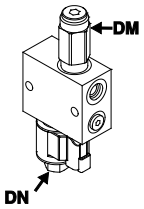
前方アウトリガーシリンダー
GS-3232



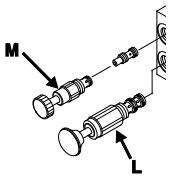
後方アウトリガーシリンダー
GS-3232



機能マニホールド部品
GS-1530、GS-1532、
GS-1930 および
GS-1932



リフト圧セレクターマニホールド
GS-4047



ブレーキ解除マニホールド
すべてのモデル

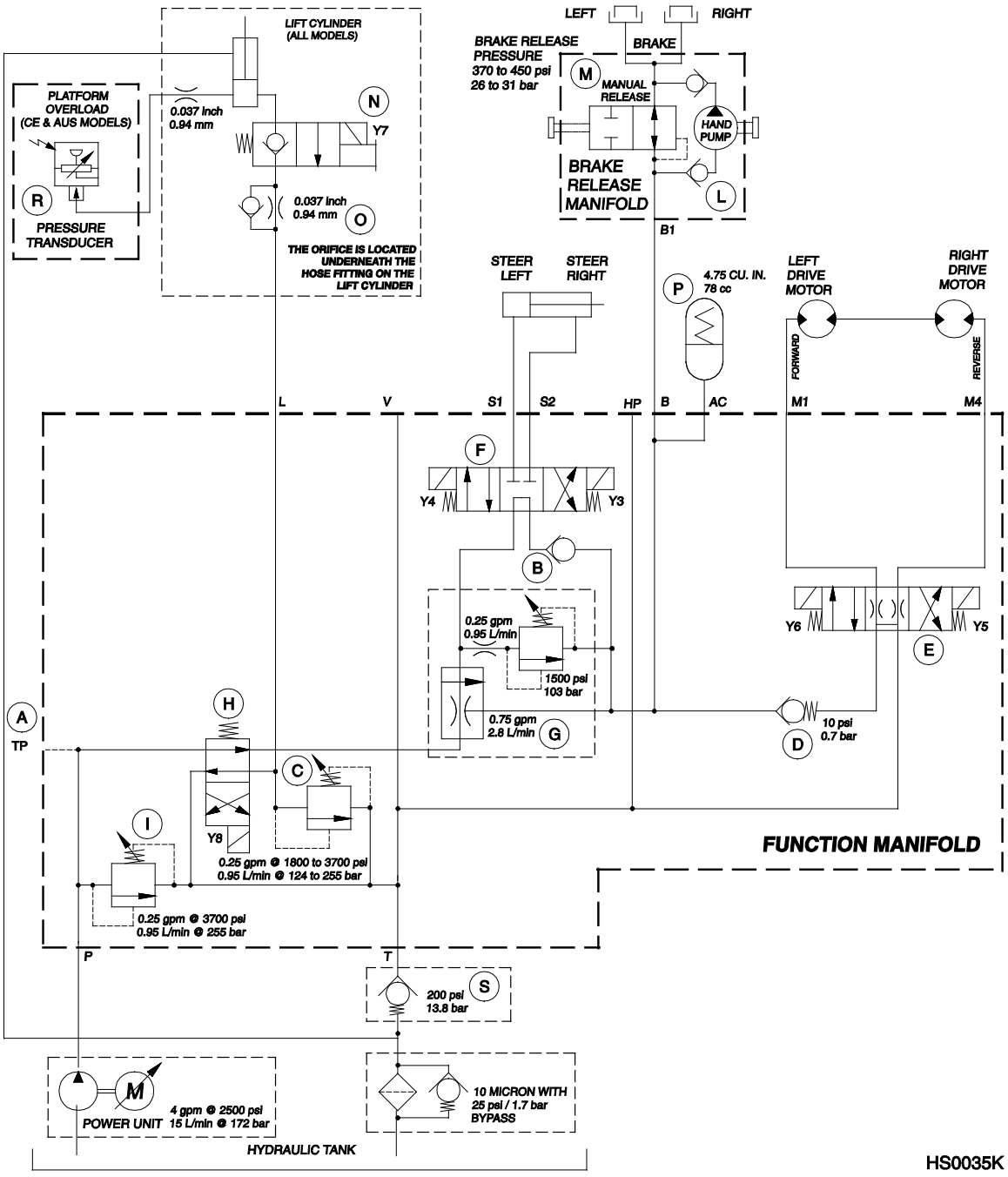
油圧システム部品略語の説明

項目	説明
A	テストポート
B	チェックバルブ、ステアリング回路
C	安全弁、リフト
D	チェックバルブ、駆動回路
E	走行　前進/バック
F	ステアリング左右
G	流量レギュレータ/安全弁
H	作業台上昇
I	安全弁、システム
L	携帯ポンプ、手動ブレーキ解除
M	ニードル弁、手動ブレーキ解除
N	作業台下降バルブ
O	オリフィス、作業台降下回路
P	アキュムレーター
Q	安全弁、作業台下降
R	圧力変換器、作業台過負荷（CE のみ）
S	チェックバルブ、駆動回路
AA	テストポート
AB	安全弁、システム
AC	ステアリング左右
AD	チェックディスク、ステアリング回路
AE	走行速度
AF	安全弁、ブレーキ回路
AG	走行　前進/バック
AH	流量レギュレータ/安全弁
AI	作業台上昇
AJ	安全弁、リフト
AK	チェックバルブ、リフト（GS-3232 および GS-3246 負荷センサーが搭載されているモデルのみ）

項目	説明
BA	3 ポジション 4 方向切換え弁 – アウトリガーシリンダー延長/収縮
BB	安全弁、アウトリガー回路
CA	右前方アウトリガー延長/収縮
CB	左前方アウトリガー延長/収縮
CC	右後方アウトリガー延長/収縮
CD	左後方アウトリガー延長/収縮
CE	オリフィスプラグ – アウトリガー収縮
CF	チェックバルブ、パイロット操作
CG	圧力変換器
DA	テストポート
DB	安全弁、システム
DC	ステアリング左右
DD	チェックバルブ、ステアリング回路
DE	走行速度
DF	安全弁、ブレーキ解除
DG	走行　前進/バック
DH	流量レギュレータ/安全弁
DI	作業台上昇
DJ	安全弁、リフト
DK	チェックバルブ、上部シリンダー
DL	チェックバルブ、下部シリンダー
DM	安全弁、リフト
DN	リフト回路
DO	作業台下降バルブ

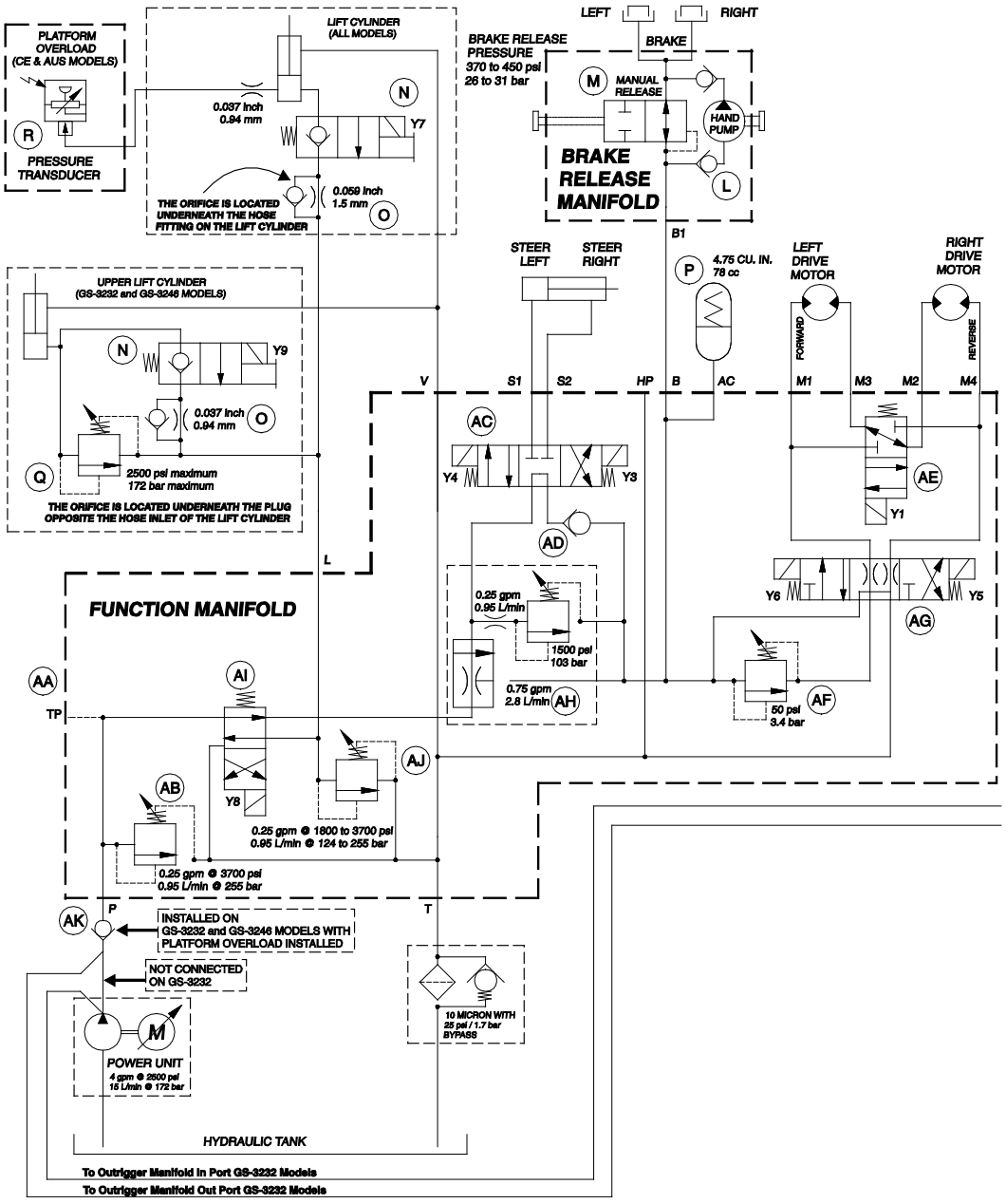
油圧システム回路図

油圧システム回路図、GS-1530/1532/1930/1932
（シリアル番号 GS3010A-110000 から、GS3011C-10000 から、GS3014D-101 から、GS3016P-142281 からの機種）



油圧システム回路図

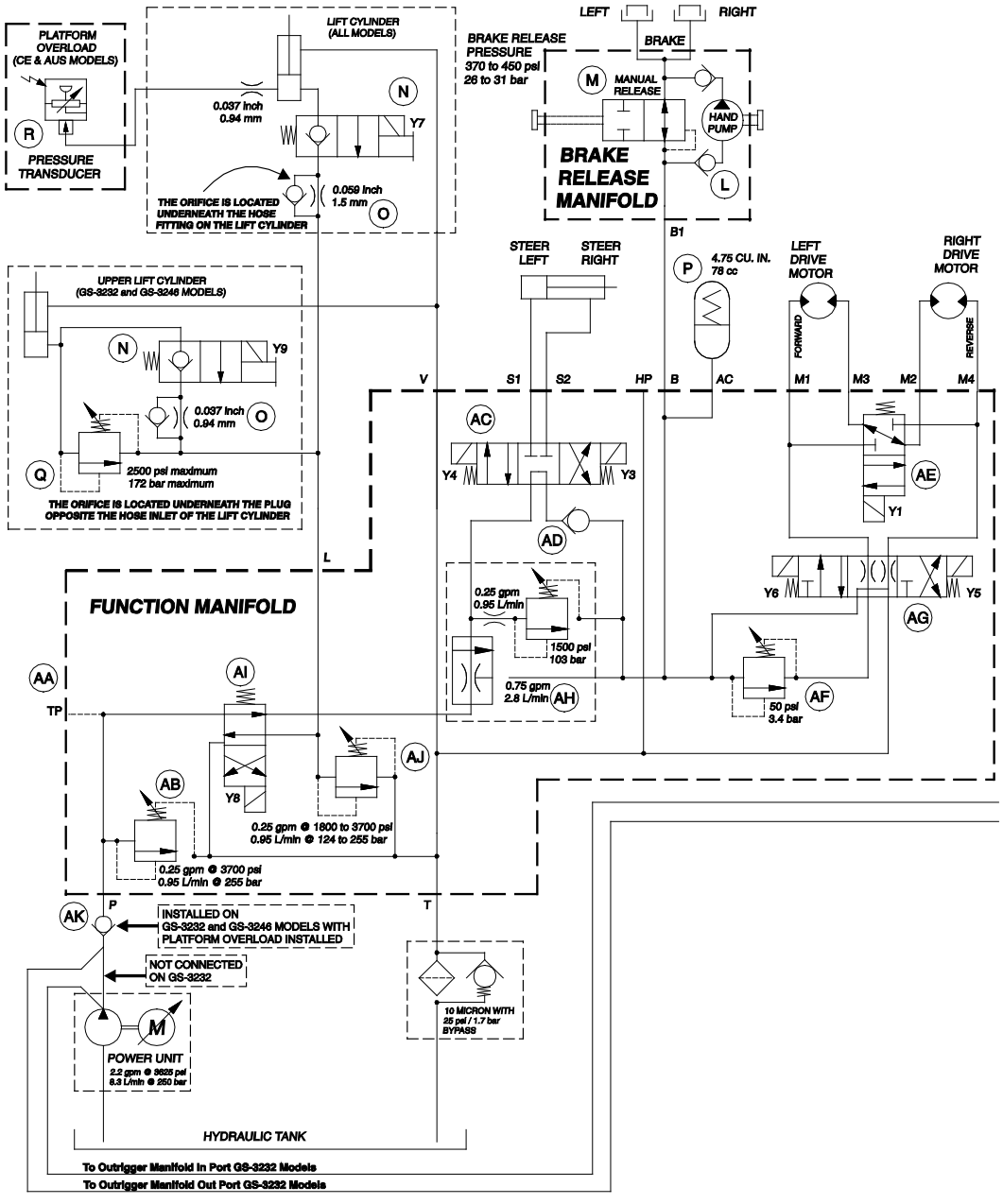
油圧システム回路図、GS-2032/2632/3232（シリアル番号 GS3211A-110000 ～ GS3214A-119070、GS3212C-10000 ～ GS3214C-11873 の機種）
GS-2046/2646/3246（シリアル番号 GS4612A-110000 ～ GS4614A-117177、GS4614C-10000 ～ GS4614C-12073 の機種）



HS0036R

油圧システム回路図

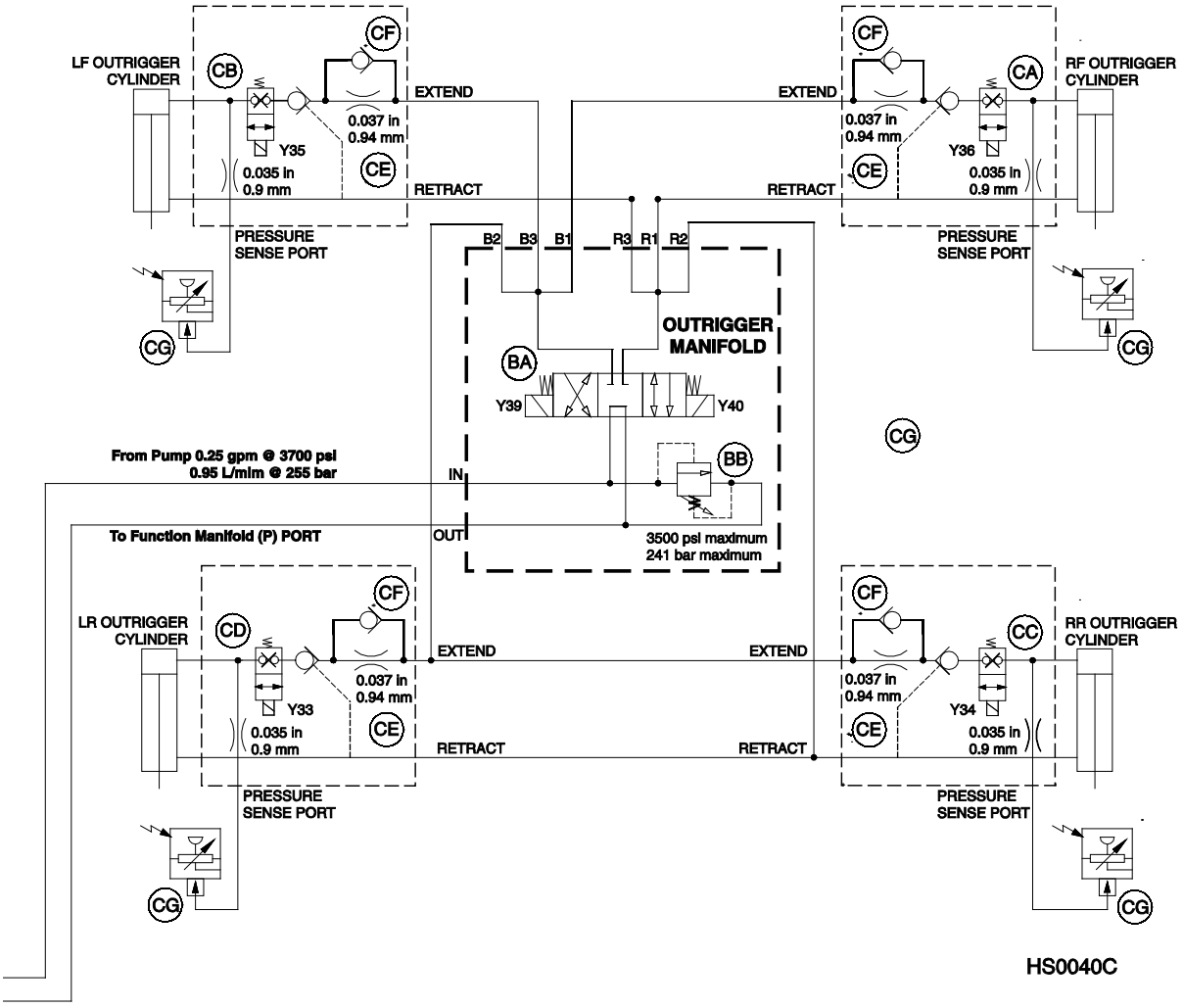
油圧システム回路図、GS-2032/2632/3232
（シリアル番号 GS3214A-119071 から、GS3214C-11874 からの機種）
GS-2046/2646/3246
（シリアル番号 GS4614A-117178 から、GS4614C-12074 から、
GS4614D-101 からの機種）



HS0036T

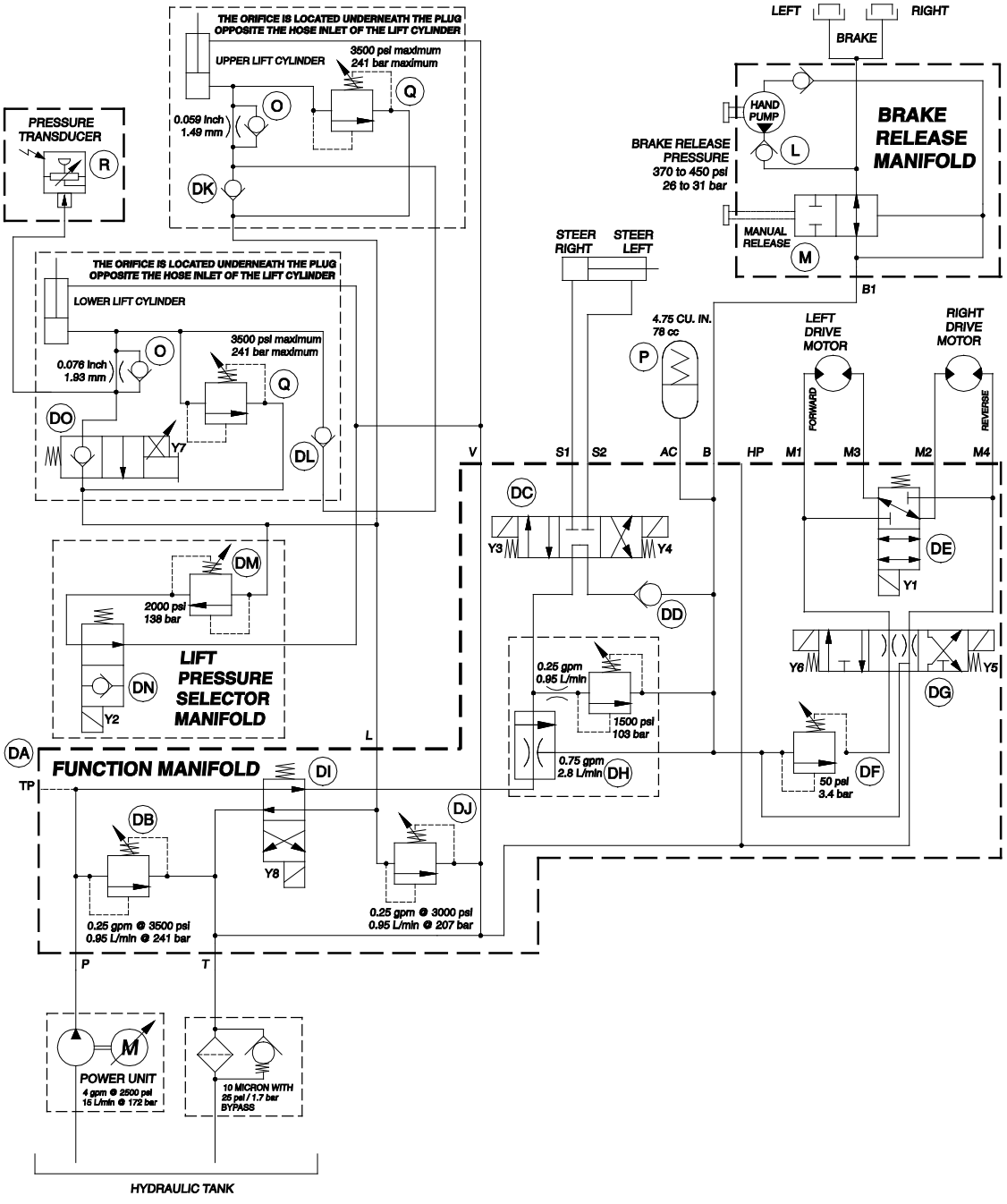
油圧システム回路図

油圧システム回路図、GS-3232
（シリアル番号 GS3211A-110000 から、GS3212C-10000 から、
GS3216P-142677 からの機種）



油圧システム回路図

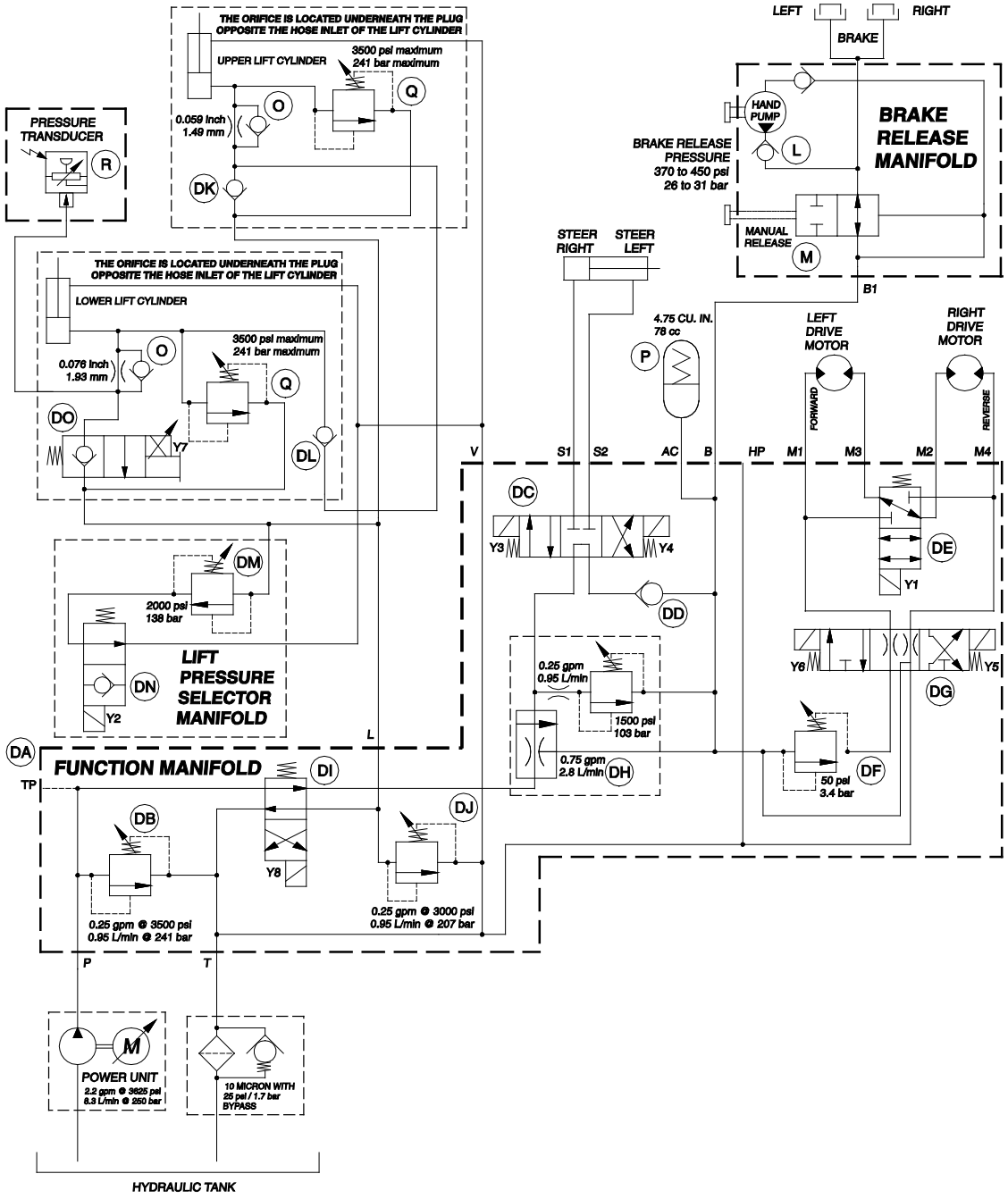
油圧システム回路図、GS-4047
（シリアル番号 GS4712C-101 ～ GS4714C-1459 の機種）



HS0254B

油圧システム回路図

油圧システム回路図、GS-4047
（シリアル番号 GS4714C-1460 から、GS4714D-101 から、GS4716P-101 からの機種）

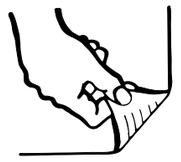


HS0254C

このページは、あえて空白にしてあります。

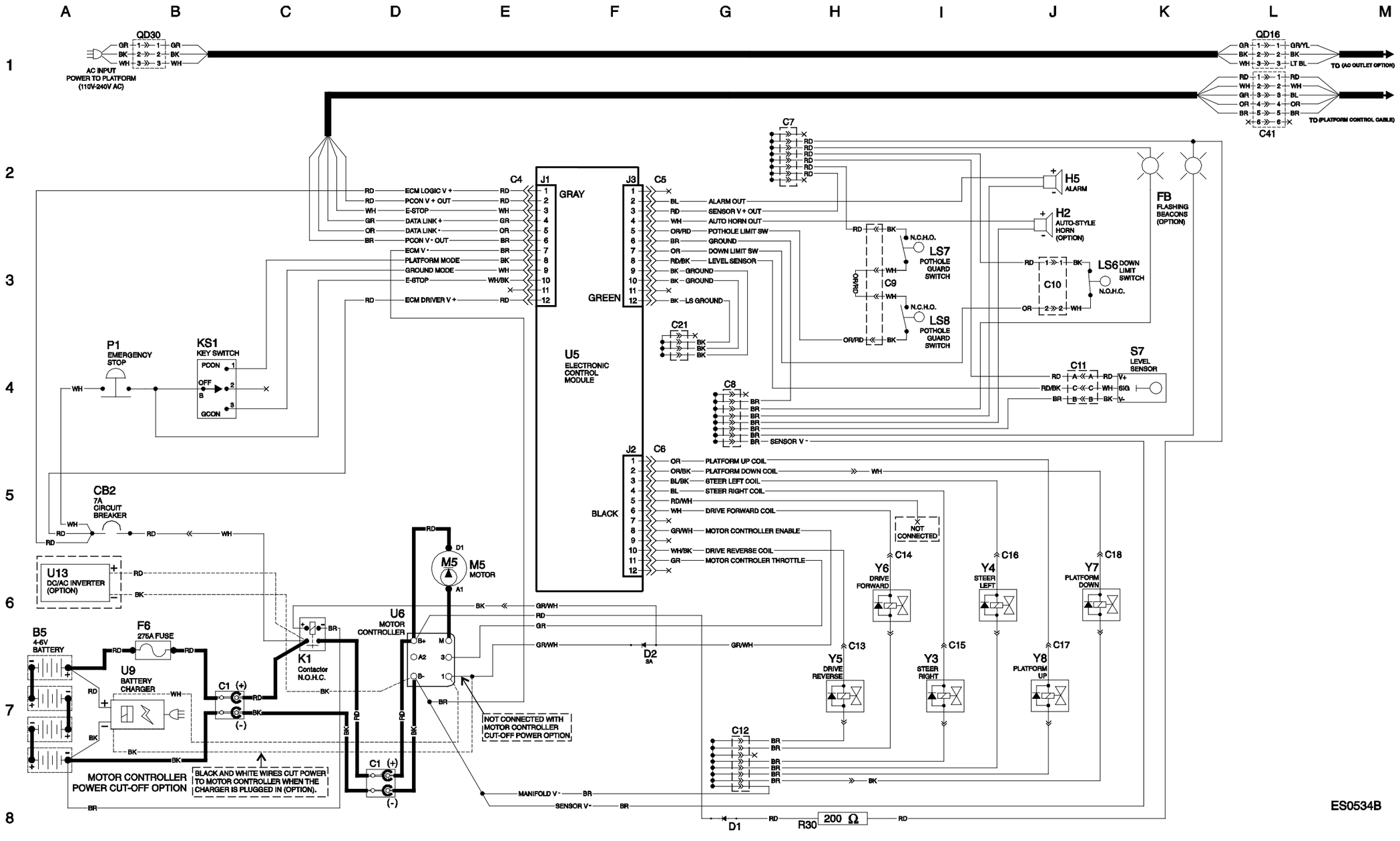
電気回路図、GS-1530、GS-1930、ANSI/CSA

（シリアル番号 GS3010A-110000 ～ GS3011A-110827 の機種）



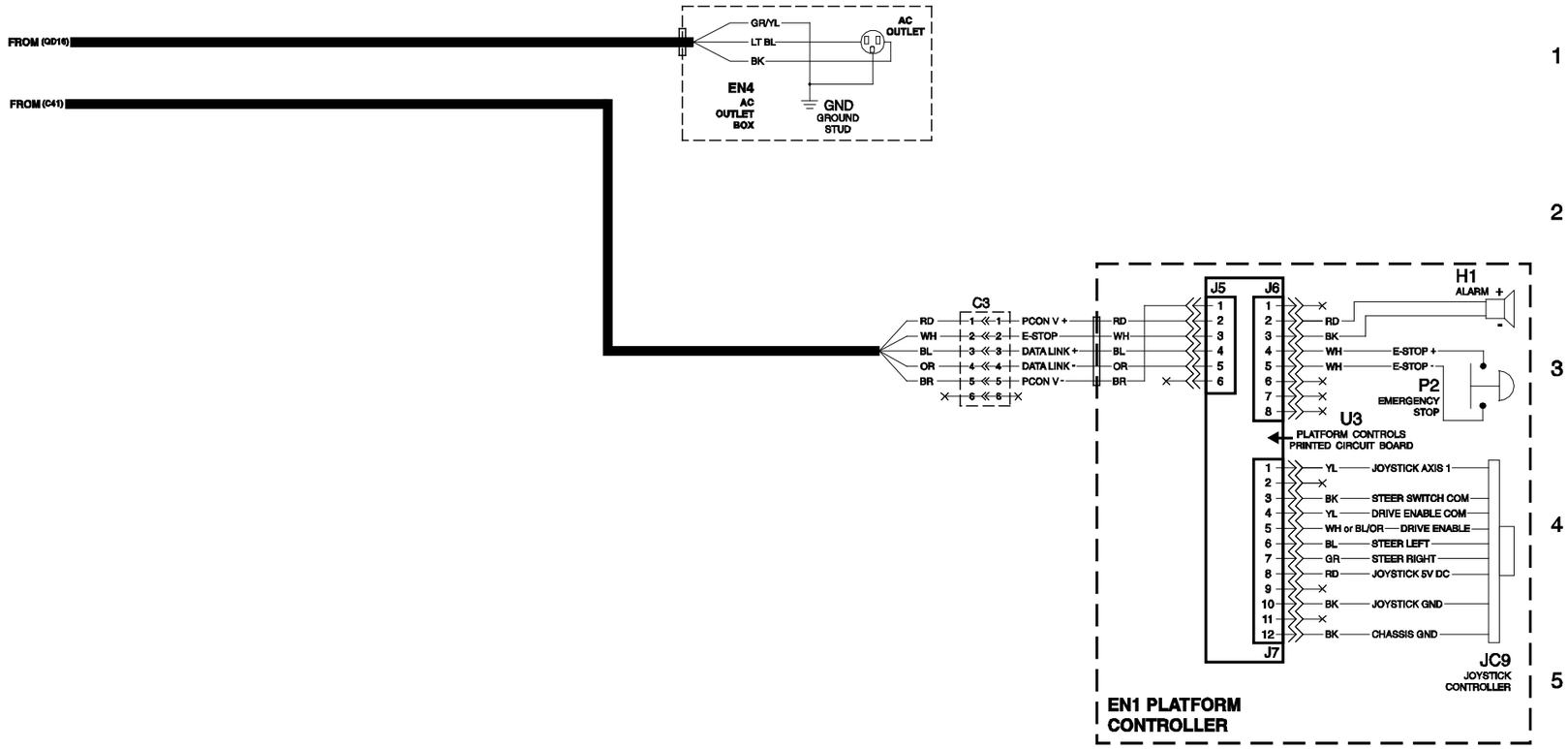
電気回路図、GS-1530、GS-1930、ANSI/CSA

（シリアル番号 GS3010A-110000 ～ GS3011A-110827 の機種）



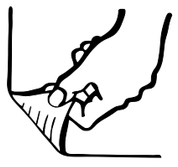
電気回路図、GS-1530、GS-1930、ANSI/CSA

（シリアル番号 GS3010A-110000 ～ GS3011A-110827 の機種）



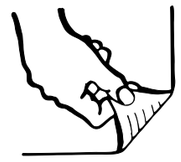
電気回路図、GS-1530、GS-1930、ANSI/CSA

（シリアル番号 GS3010A-110000 ～ GS3011A-110827 の機種）



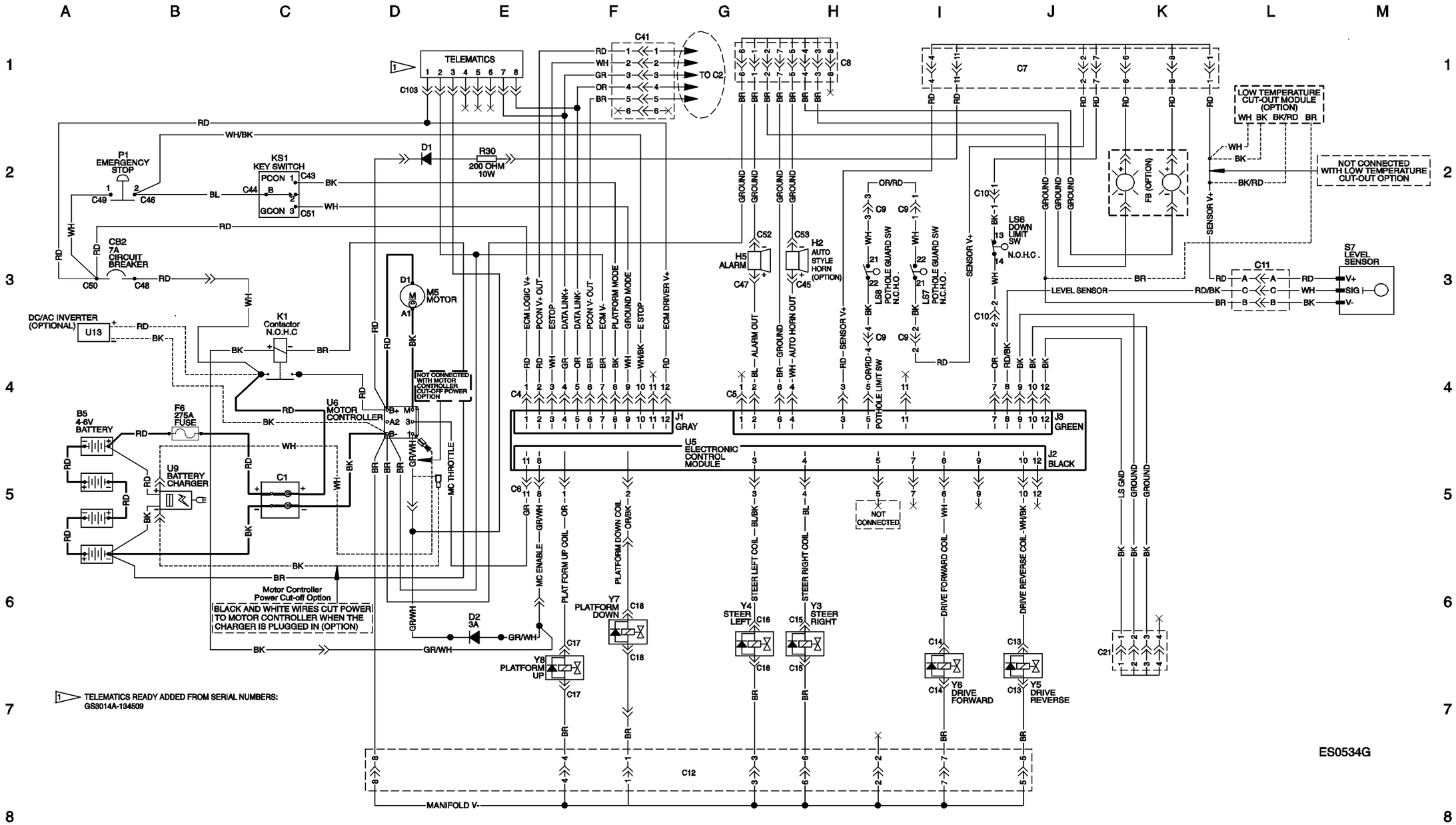
電気回路図、GS-1530、GS-1930、ANSI/CSA

（シリアル番号 GS3011A-110828 ～ GS3014A-136972 、GS3014D-101 ～ GS3015D-1113 の機種）



電気回路図、GS-1530、GS-1930、ANSI/CSA

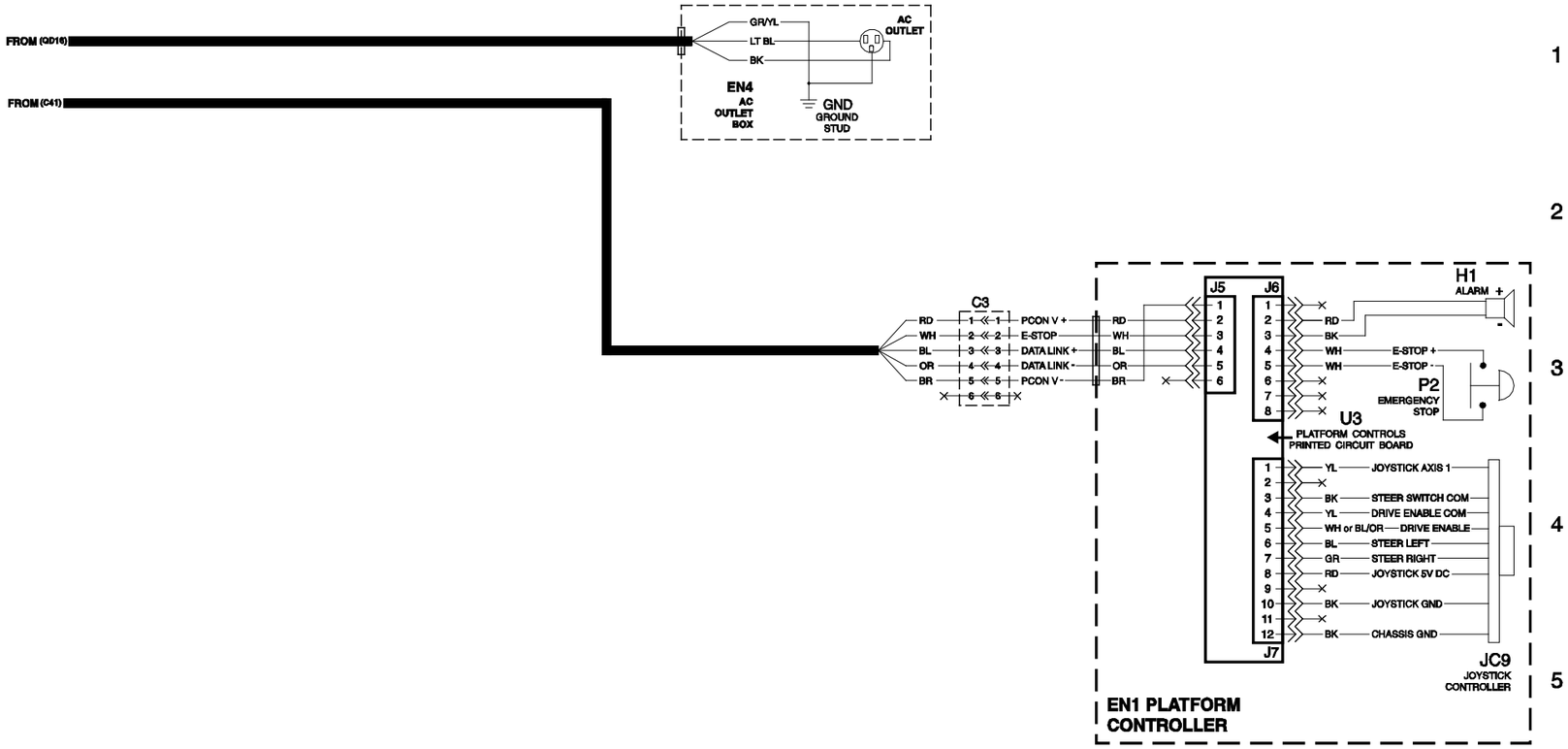
（シリアル番号 GS3011A-110828 ～ GS3014A-136972、GS3014D-101 ～ GS3015D-1113 の機種）



ES0534G

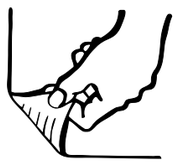
電気回路図、GS-1530、GS-1930、ANSI/CSA

（シリアル番号 GS3011A-110828 ～ GS3014A-136972 、GS3014D-101 ～ GS3015D-1113 の機種）



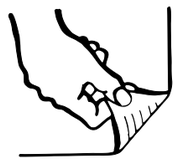
電気回路図、GS-1530、GS-1930、ANSI/CSA

（シリアル番号 GS3011A-110828 ～ GS3014A-136972、GS3014D-101 ～ GS3015D-1113 の機種）



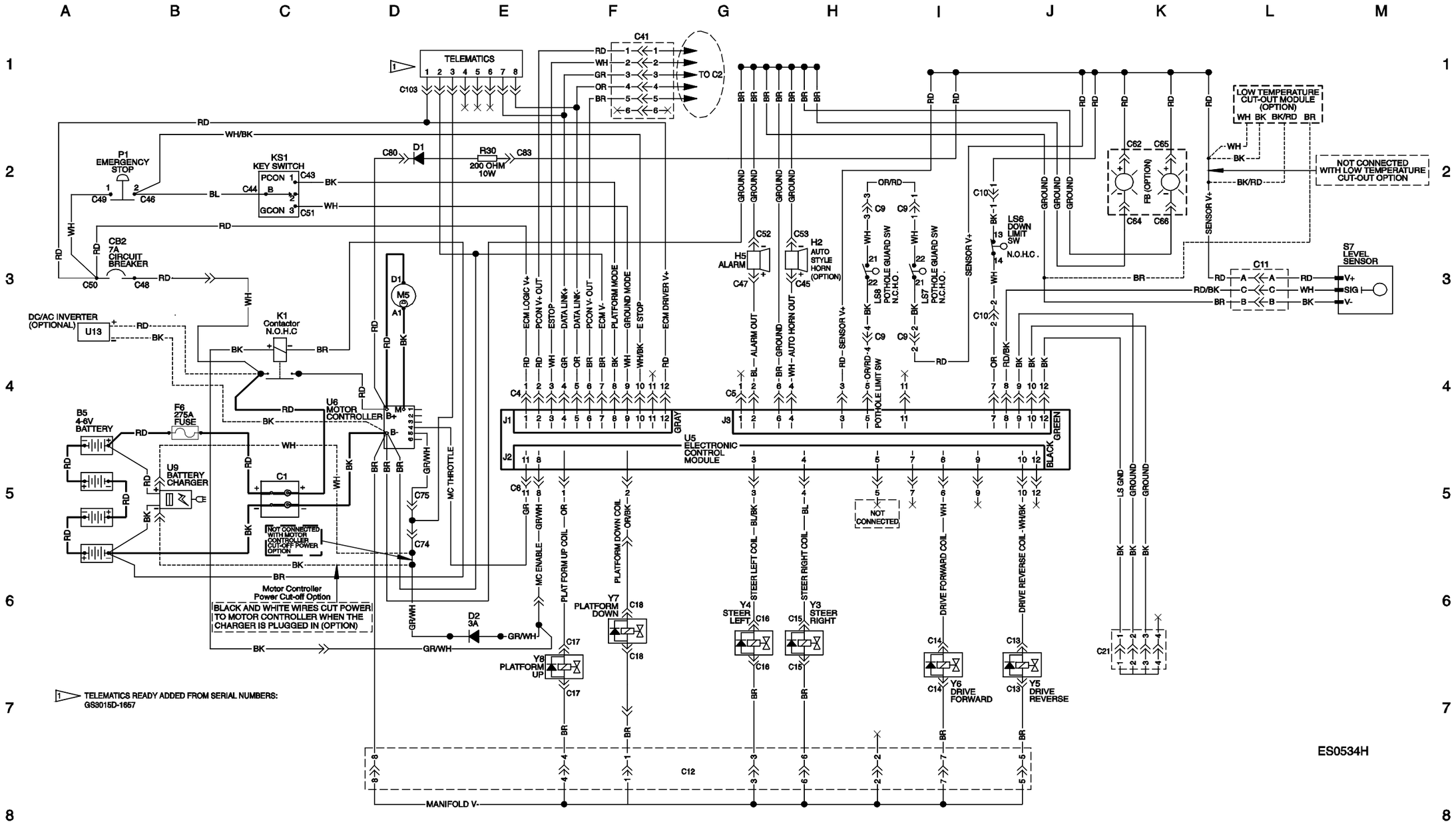
電気回路図、GS-1530、GS-1930、ANSI/CSA

（シリアル番号 GS3014A-136973 から、GS3015D-1114 ～ GS3016D-5426、GS3016P-142281～ GS3016P-158208 の機種）



電気回路図、GS-1530、GS-1930、ANSI/CSA

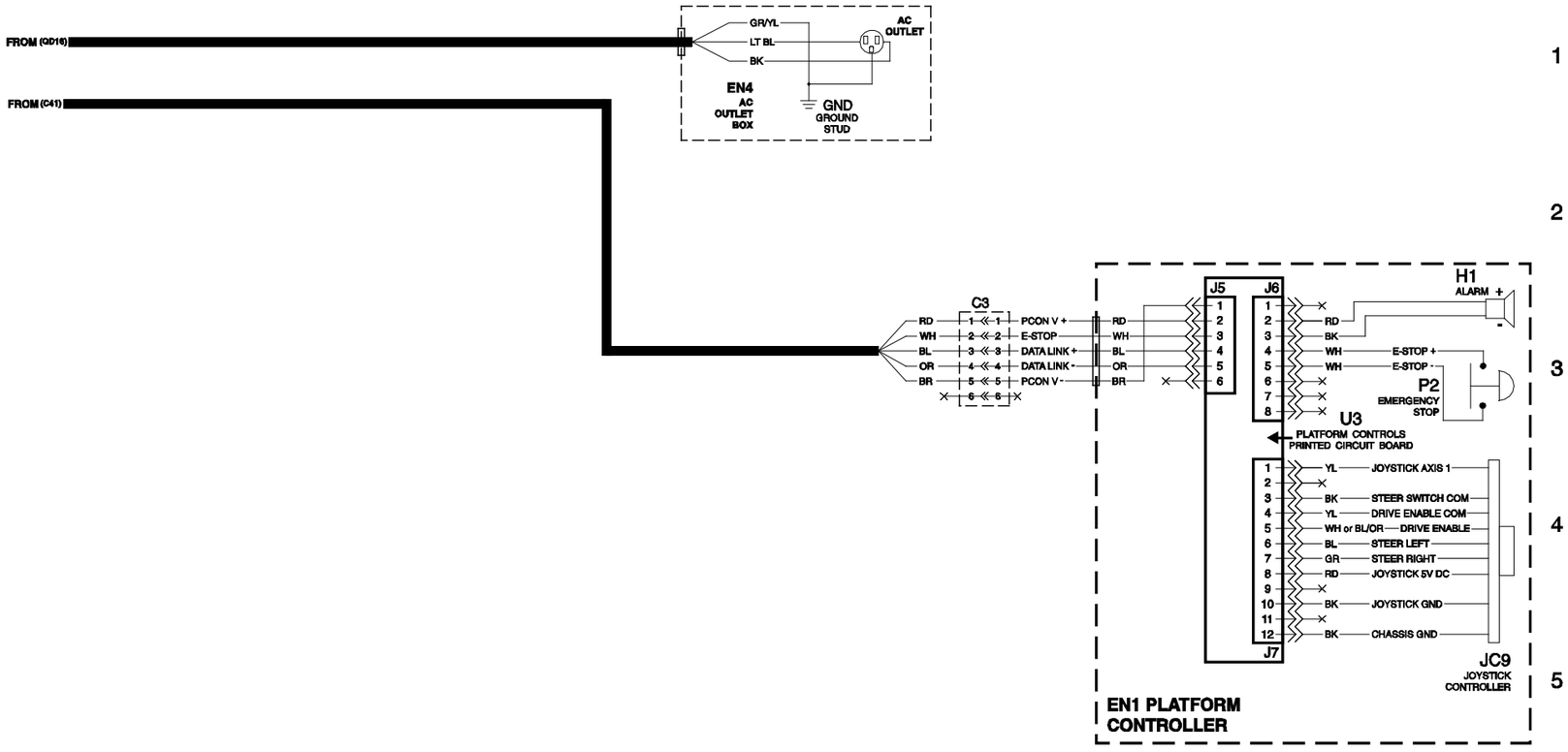
（シリアル番号 GS3014A-136973 から、GS3015D-1114 ～ GS3016D-5426、GS3016P-142281～ GS3016P-158208 の機種）



ES0534H

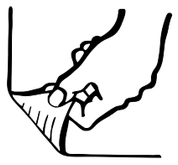
電気回路図、GS-1530、GS-1930、ANSI/CSA

（シリアル番号 GS3014A-136973 から、GS3015D-1114 ～ GS3016D-5426、GS3016P-142281～ GS3016P-158208 の機種）



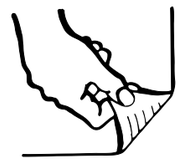
電気回路図、GS-1530、GS-1930、ANSI/CSA

（シリアル番号 GS3014A-136973 から、GS3015D-1114 ～ GS3016D-5426、GS3016P-142281～ GS3016P-158208 の機種）



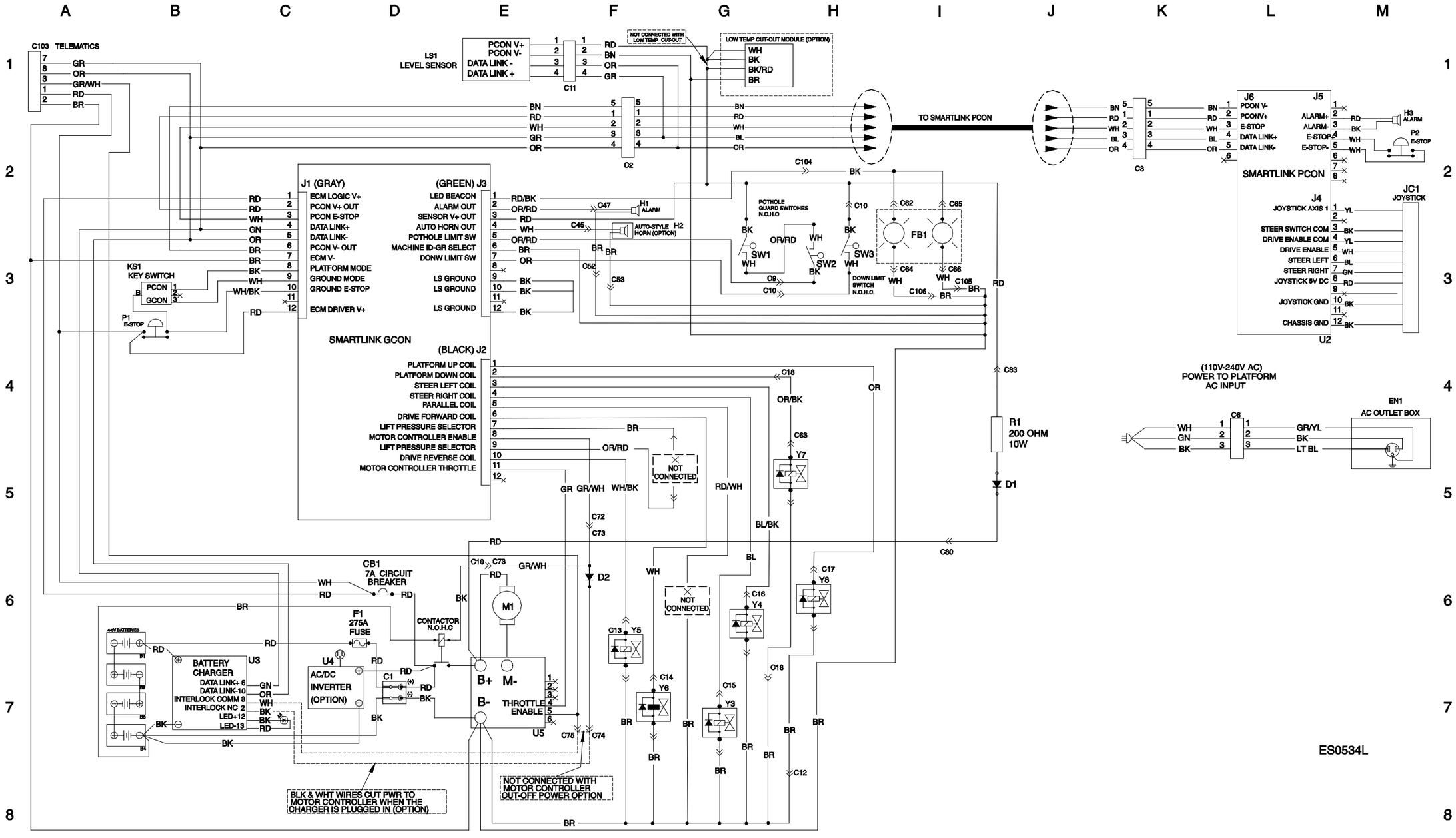
電気回路図、GS-1530、GS-1930、ANSI/CSA

（シリアル番号 GS3016D-5427 から、GS301P-158209 からの機種）



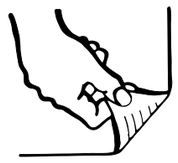
電気回路図、GS-1530、GS-1930、ANSI/CSA

（シリアル番号 GS3016D-5427 から、GS3016P-158209 からの機種）



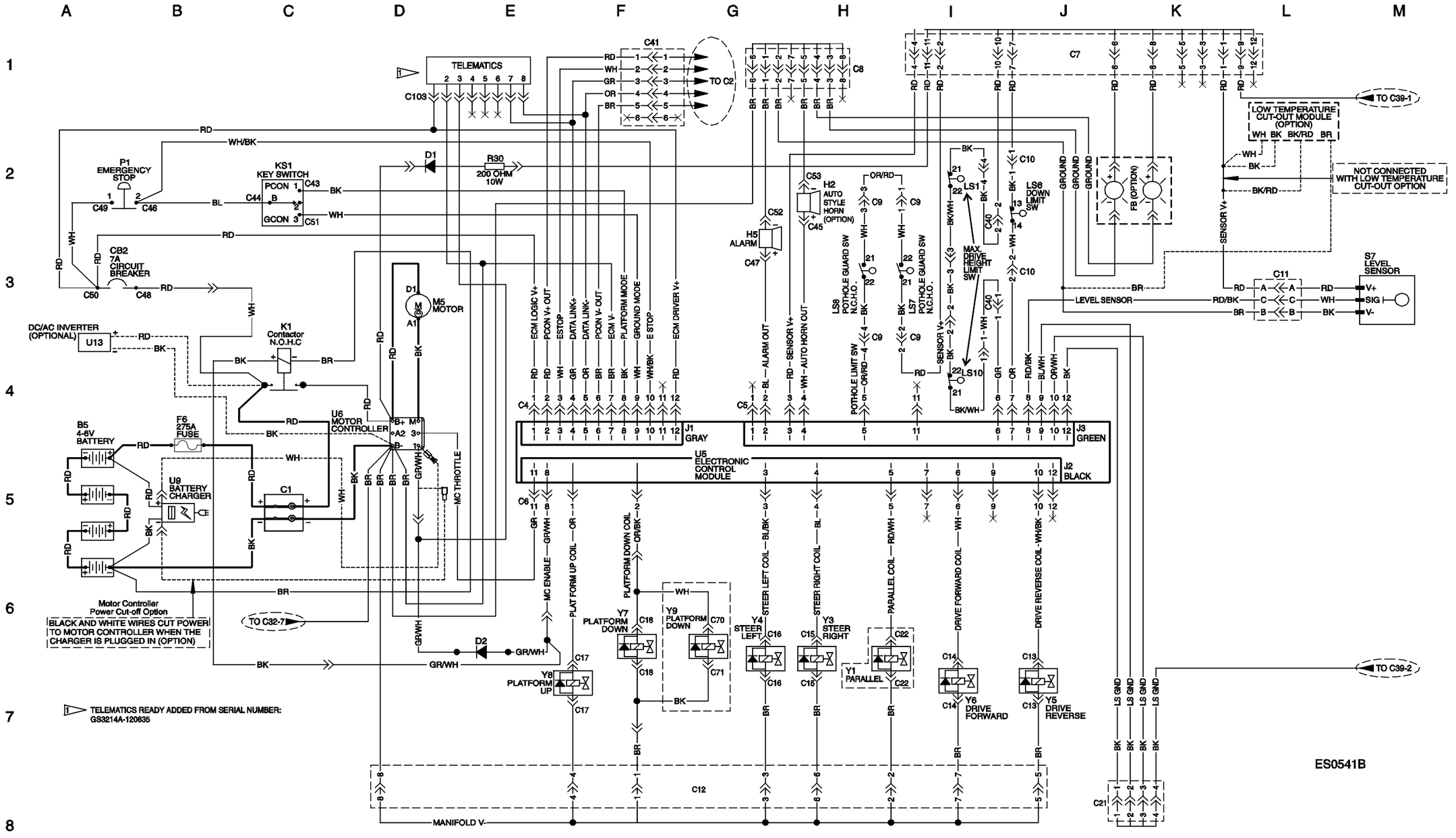
電気回路図、GS-3232、ANSI/CSA

（シリアル番号 GS3211A-110000 ～ GS3214A-135714 の機種）



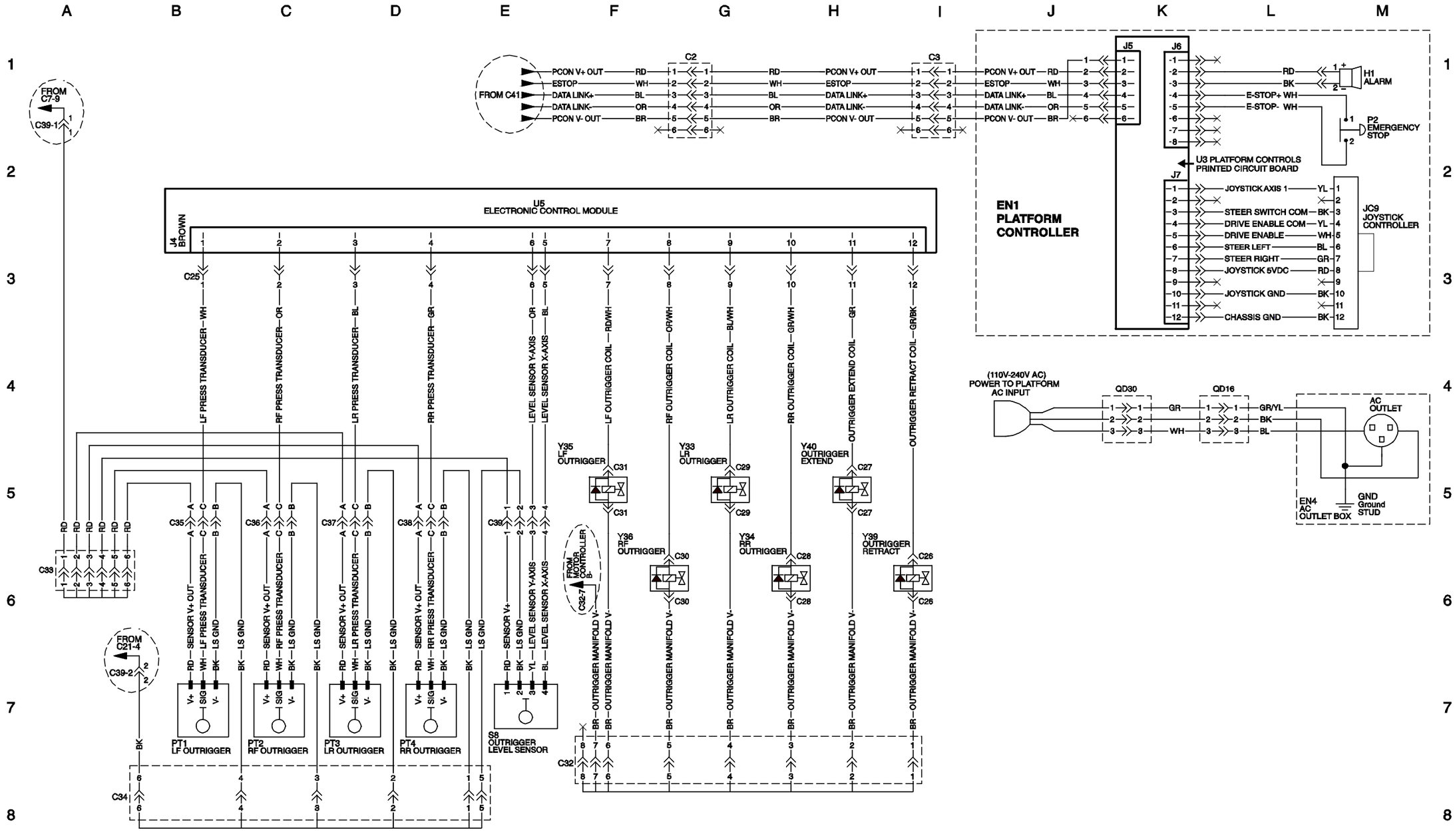
電気回路図、GS-3232、ANSI/CSA

（シリアル番号 GS3211A-110000 ～ GS3214A-135714 の機種）



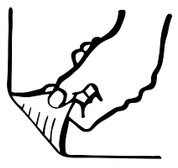
電気回路図、GS-3232、ANSI/CSA

（シリアル番号 GS3211A-110000 ～ GS3214A-135714 の機種）



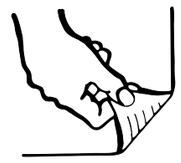
電気回路図、GS-3232、ANSI/CSA

（シリアル番号 GS3211A-110000 ～ GS3214A-135714 の機種）



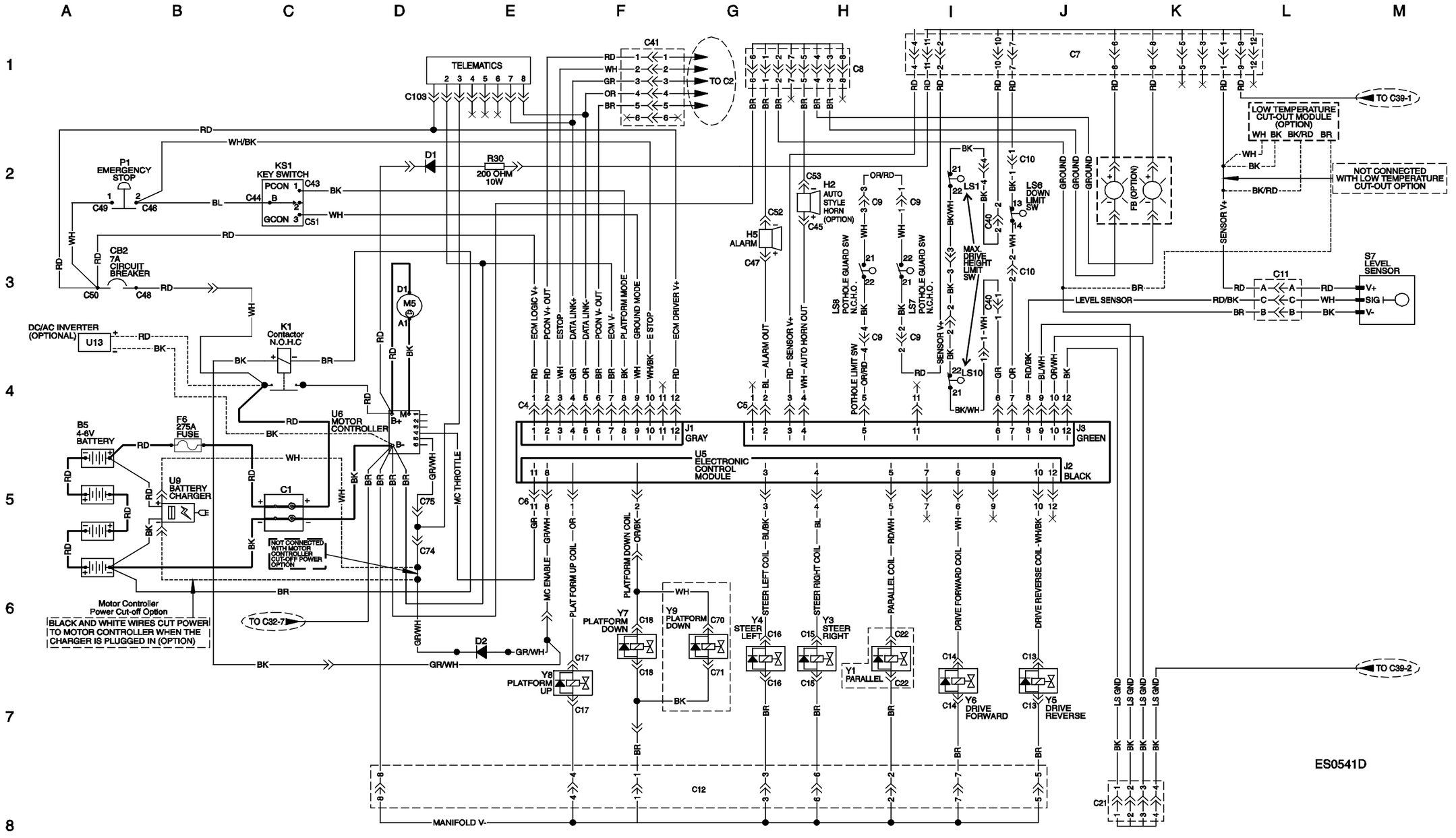
電気回路図、GS-3232、ANSI/CSA

（シリアル番号 GS3214A-135715 ～ GS3215A-141898 の機種）



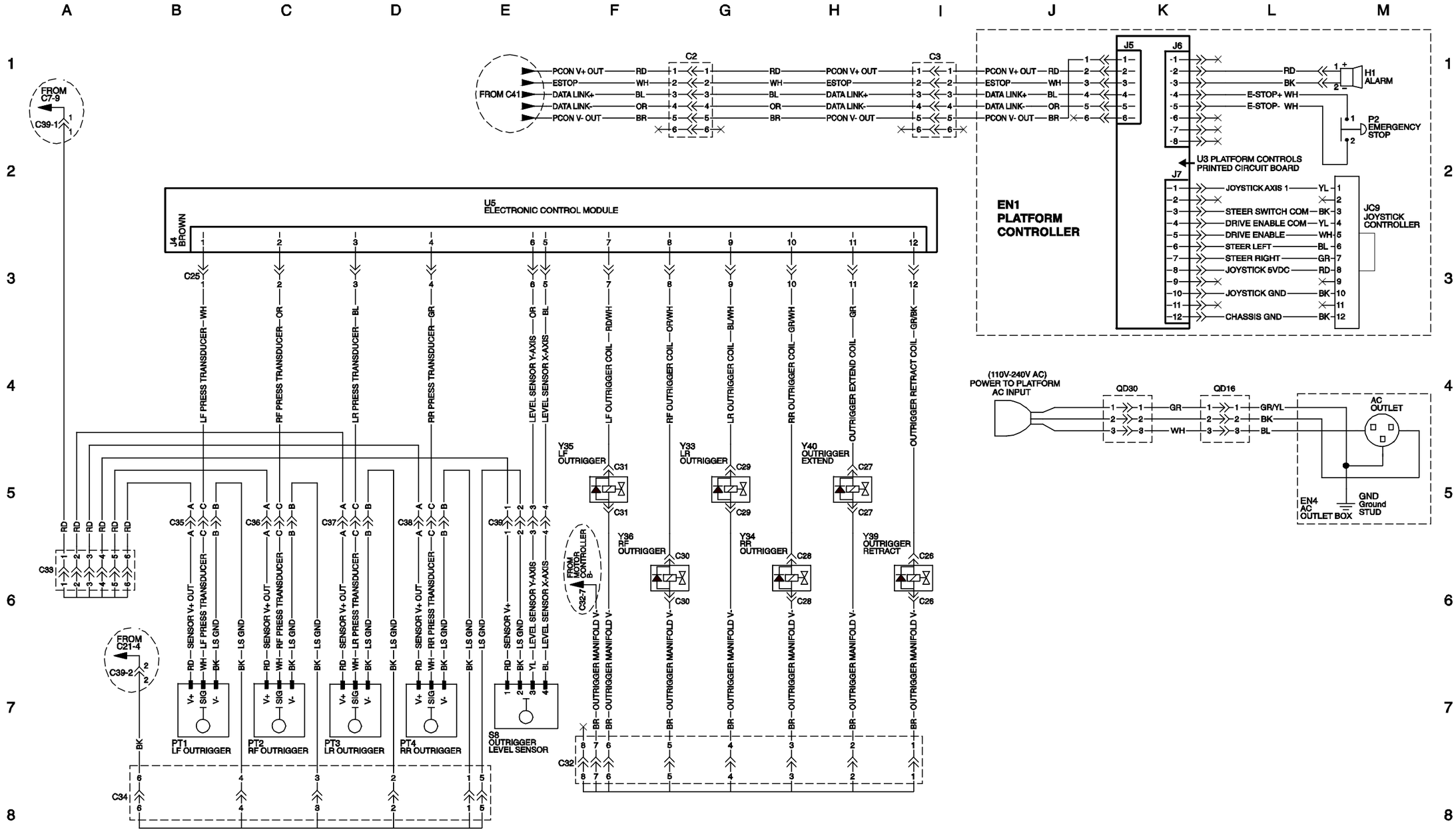
電気回路図、GS-3232、ANSI/CSA

（シリアル番号 GS3214A-135715 ～ GS3215A-141898 の機種）



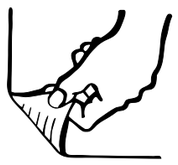
電気回路図、GS-3232、ANSI/CSA

（シリアル番号 GS3214A-135715 ～ GS3215A-141898 の機種）



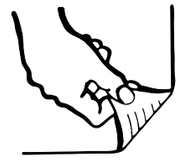
電気回路図、GS-3232、ANSI/CSA

（シリアル番号 GS3214A-135715 ～ GS3215A-141898 の機種）



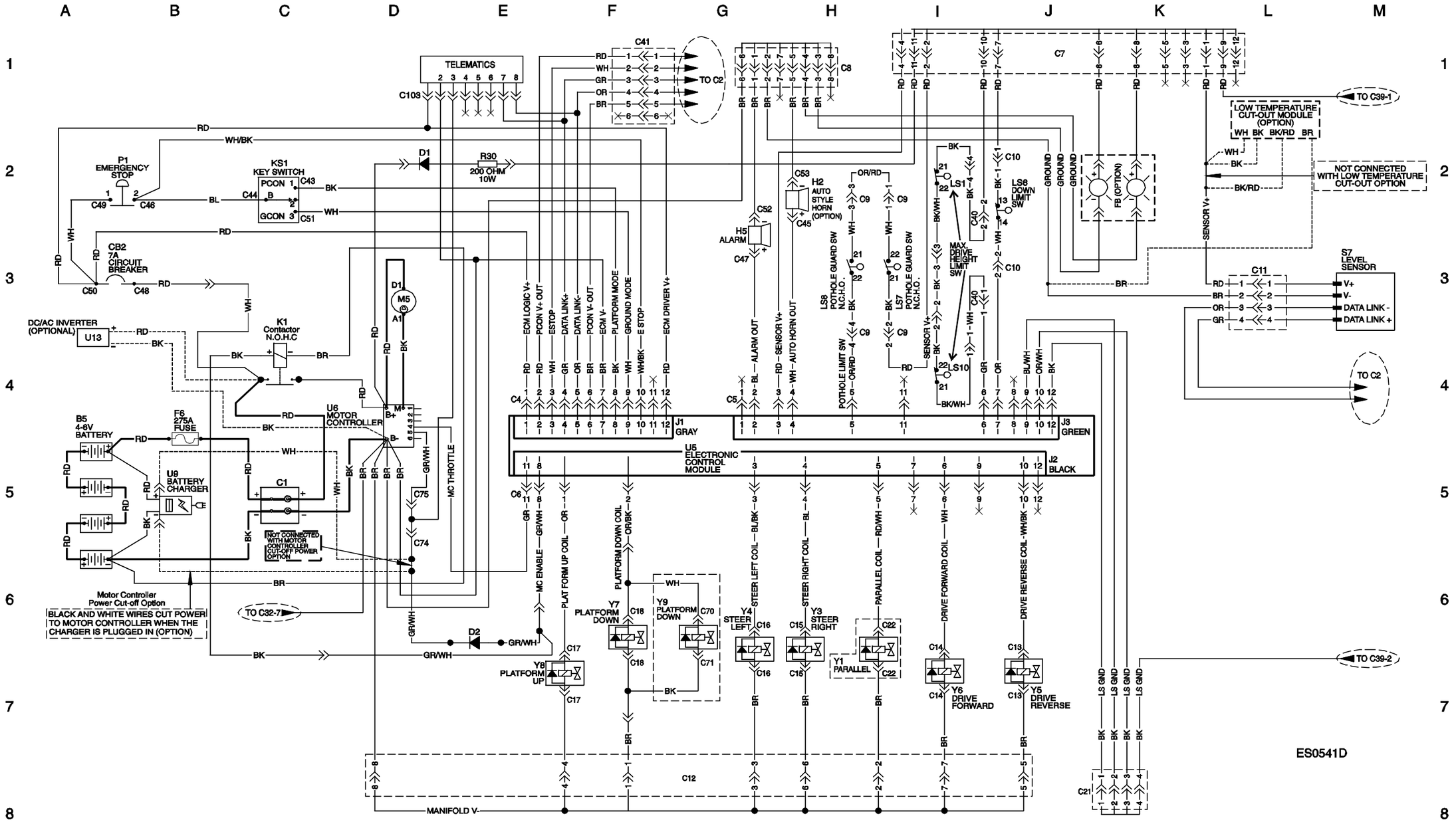
電気回路図、GS-3232、ANSI/CSA

（シリアル番号 GS3215A-141899 から、GS3216P-142677 ～ GS3216P-146462 の機種）



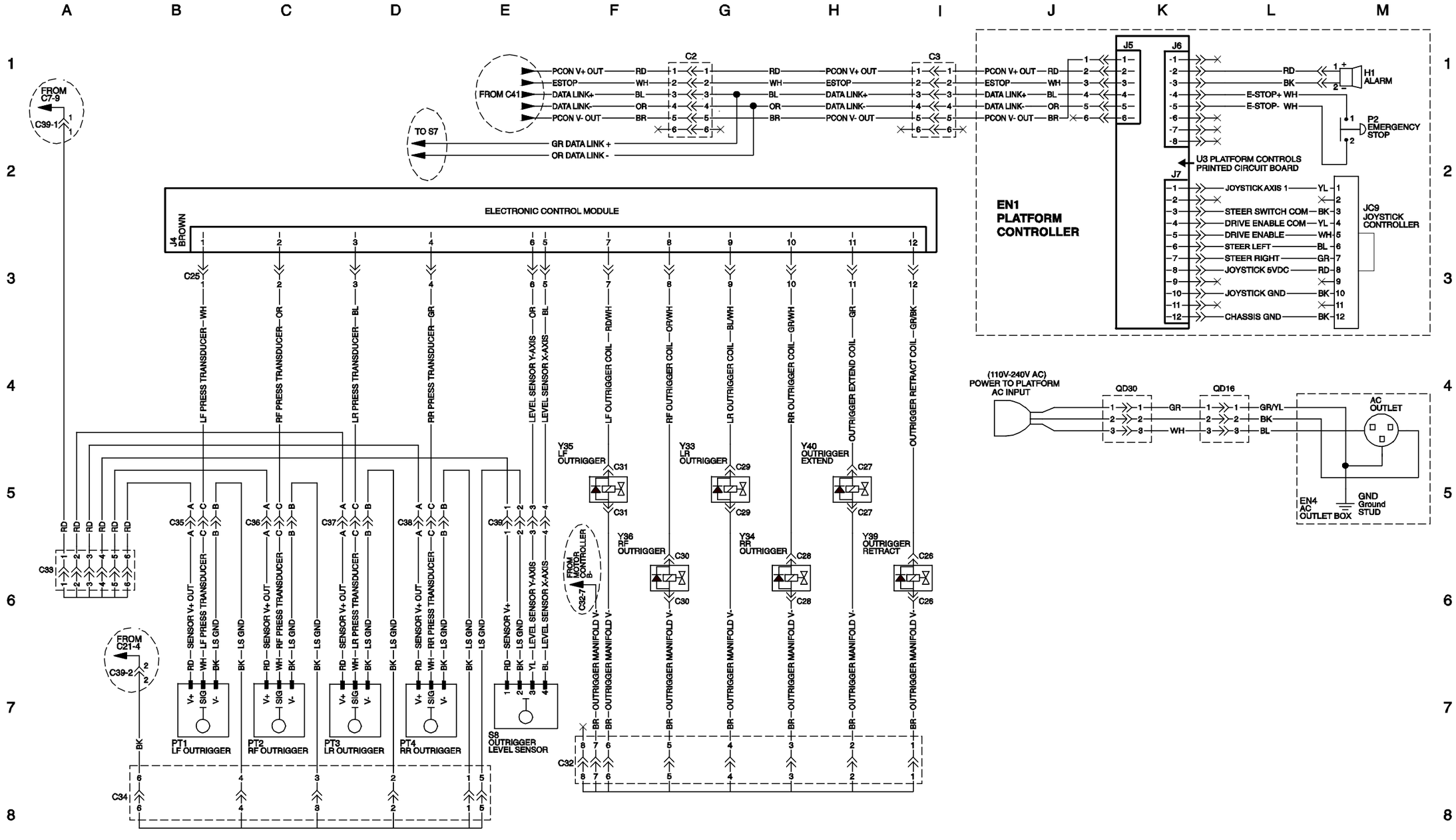
電気回路図、GS-3232、ANSI/CSA

（シリアル番号 GS3215A-141899 から、GS3216P-142677 ～ GS3216P-146462 の機種）



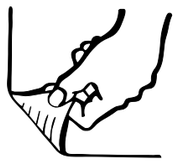
電気回路図、GS-3232、ANSI/CSA

（シリアル番号 GS3215A-141899 から、GS3216P-142677 ～ GS3216P-146462 の機種）



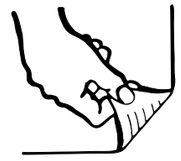
電気回路図、GS-3232、ANSI/CSA

（シリアル番号 GS3215A-141899 から、GS3216P-142677 ～ GS3216P-146462 の機種）



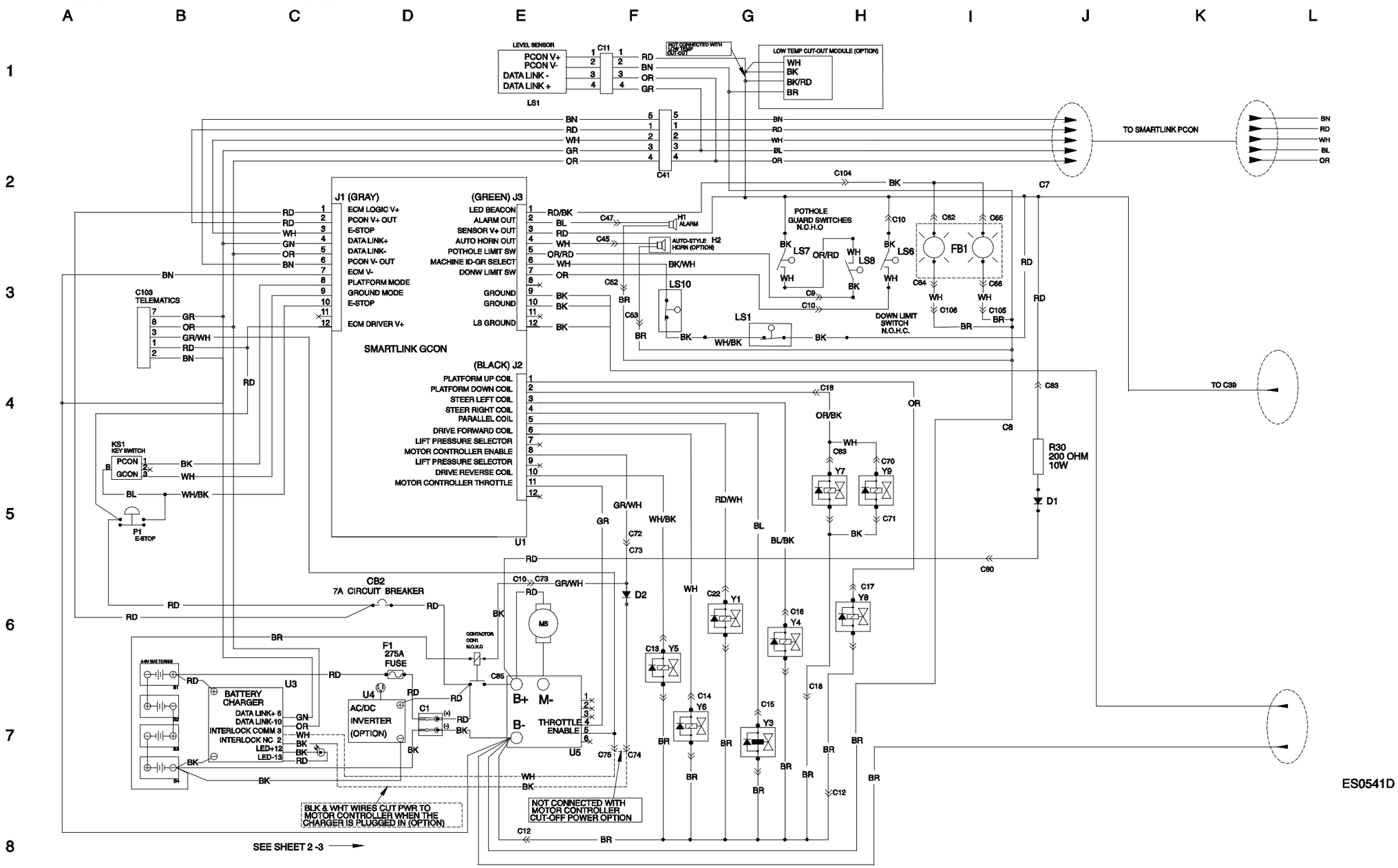
電気回路図、GS-3232、ANSI/CSA

（シリアル番号 GS3216P-146463 からの機種）



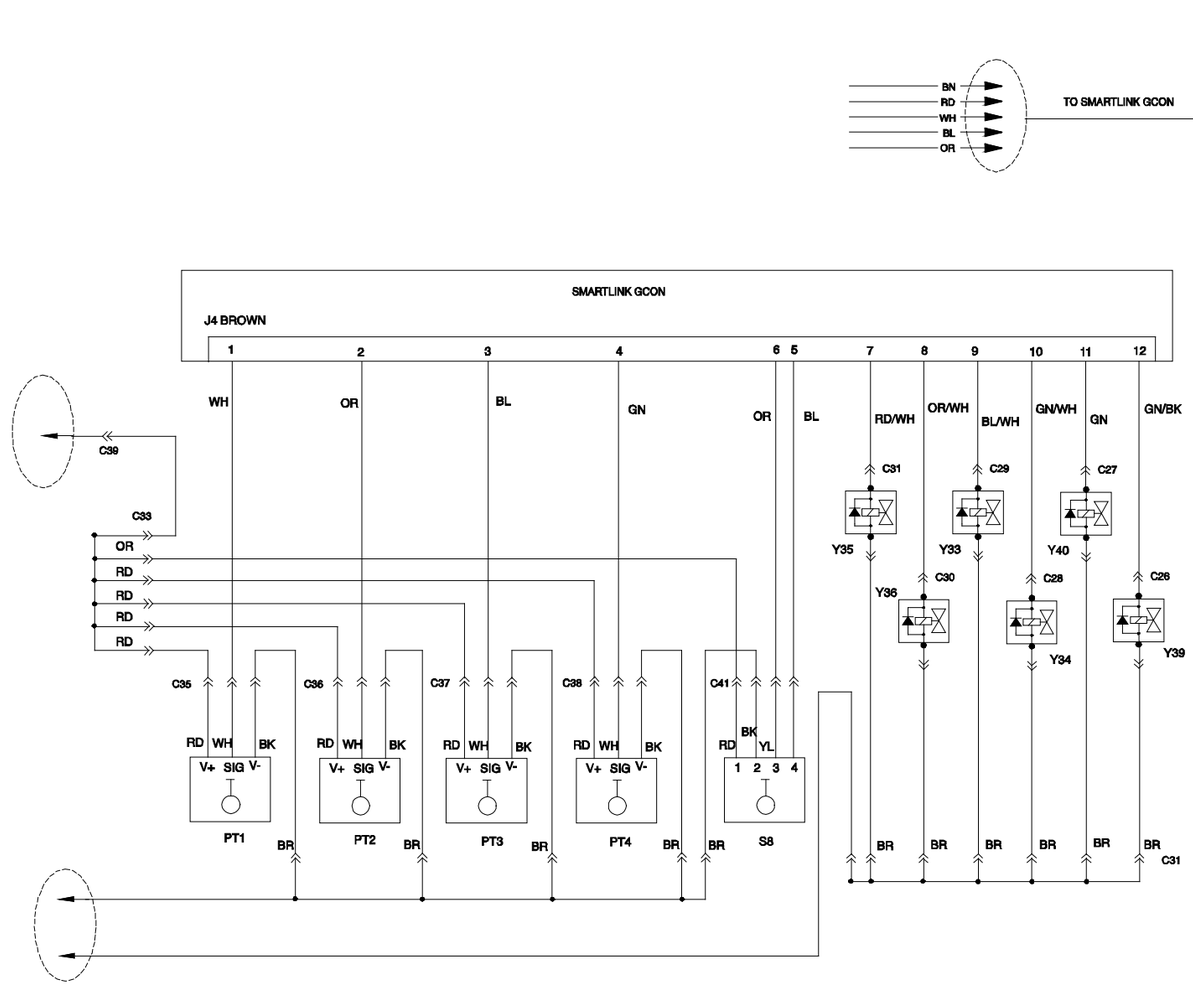
電気回路図、GS-3232、ANSI/CSA

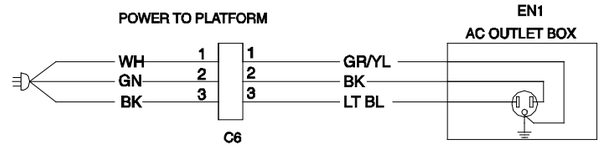
（シリアル番号 GS3216P-146463 からの機種）



電気回路図、GS-3232、ANSI/CSA

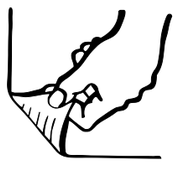
（シリアル番号 GS3216P-146463 からの機種）





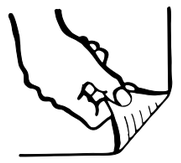
電気回路図、GS-3232、ANSI/CSA

（シリアル番号 GS3216P-146463 からの機種）



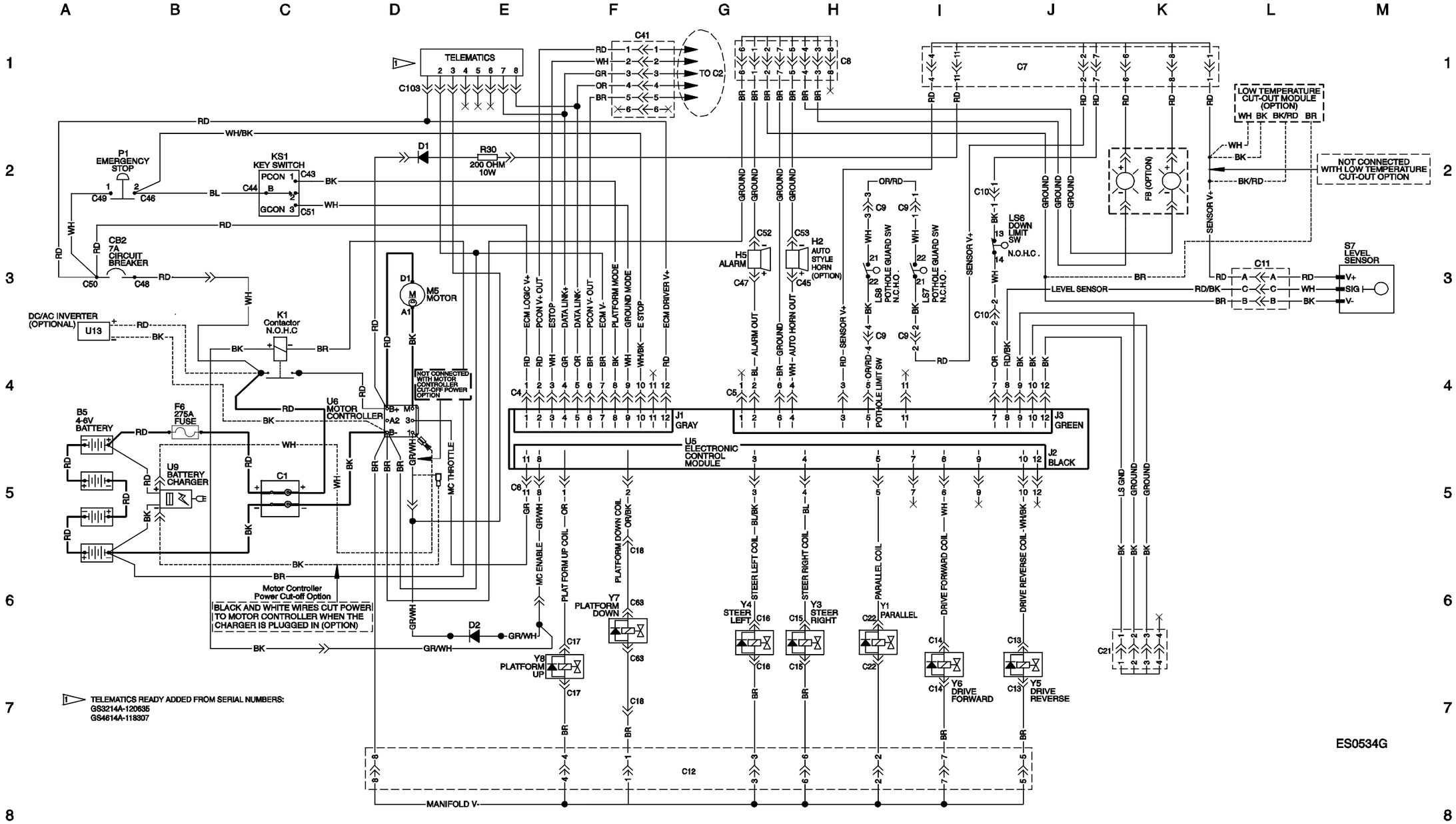
電気回路図、GS-2032、2632、2046、2646、ANSI/CSA

（シリアル番号 GS3211A-110000 ～ GS3214A-135714、GS4612A-110000 ～ GS4614A-135366、GS4613D-101 ～ GS4615D-1303 の機種）



電気回路図、GS-2032、2632、2046、2646、ANSI/CSA

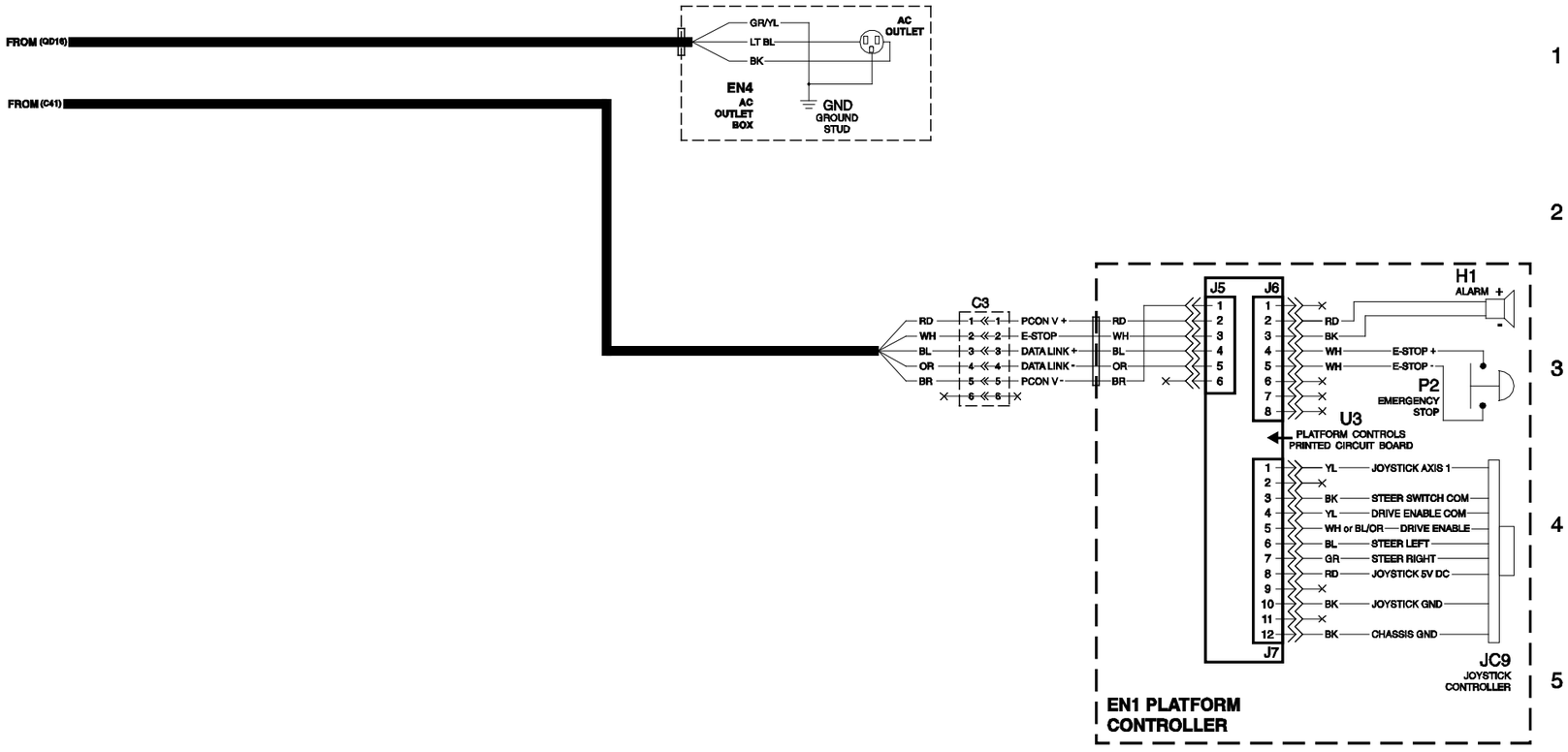
（シリアル番号 GS3211A-110000 ～ GS3214A-135714、
GS4612A-110000 ～ GS4614A-135366、GS4613D-101 ～ GS4615D-1303 の機種）



ES0534G

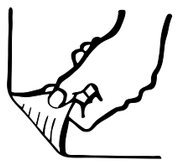
電気回路図、GS-2032、2632、2046、2646、ANSI/CSA

（シリアル番号 GS3211-110000 ～ GS3214A-135714、GS4612A-110000 ～ GS4614A-135366、GS4613D-101 ～ GS4615D-1303 の機種）



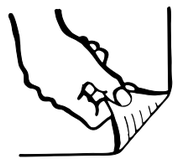
電気回路図、GS-2032、2632、2046、2646、ANSI/CSA

**（シリアル番号 GS3211A-110000 ～ GS3214A-135714、
GS4612A-110000 ～ GS4614A-135366、GS4613D-101 ～ GS4615D-1303 の機種）**



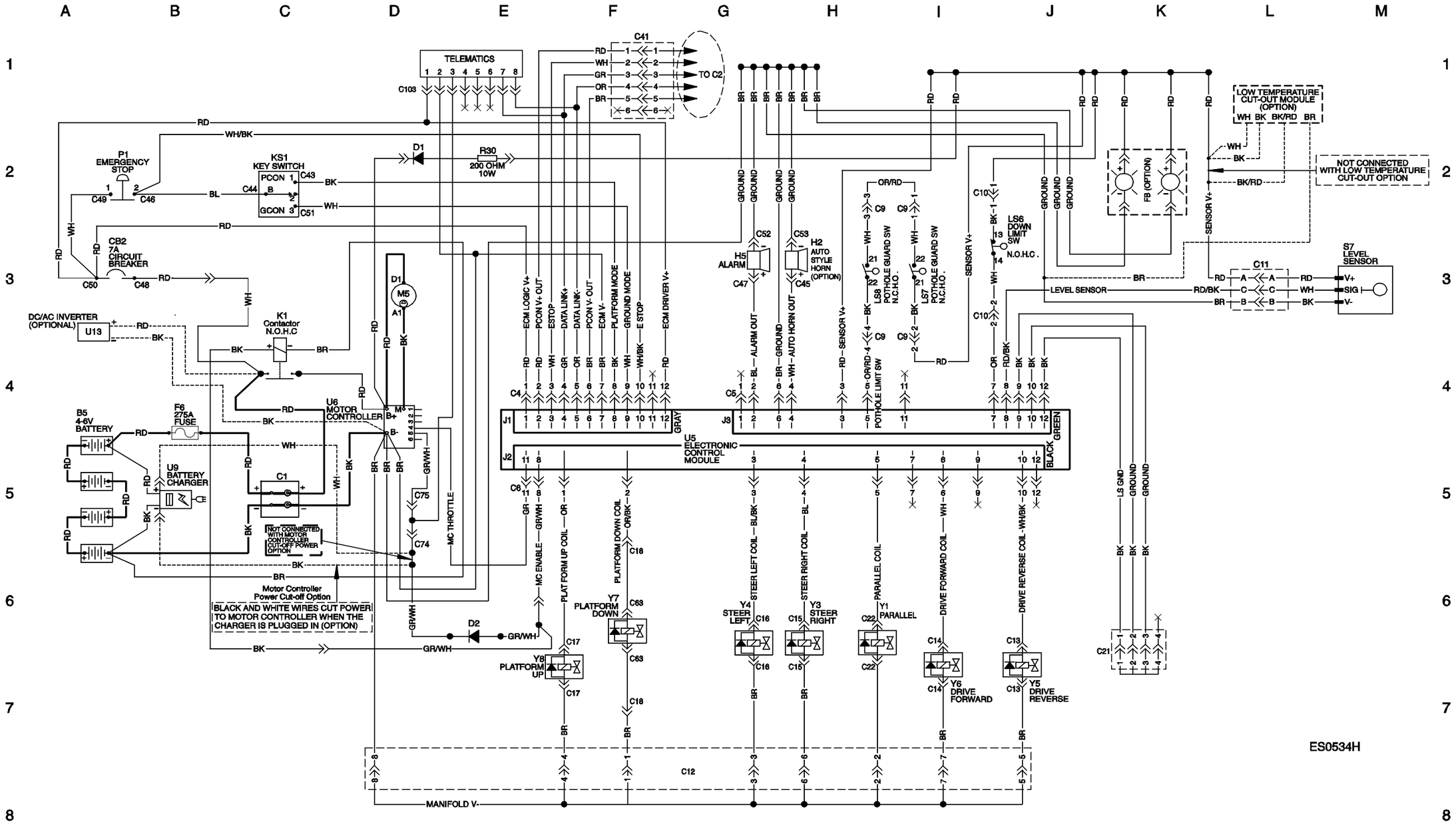
電気回路図、GS-2032、2632、2046、2646、ANSI/CSA

（シリアル番号 GS3214A-135715 ～ GS3215A-141898、GS4614A-135367 ～ GS4615A-137959、GS4615D-1304 の機種）



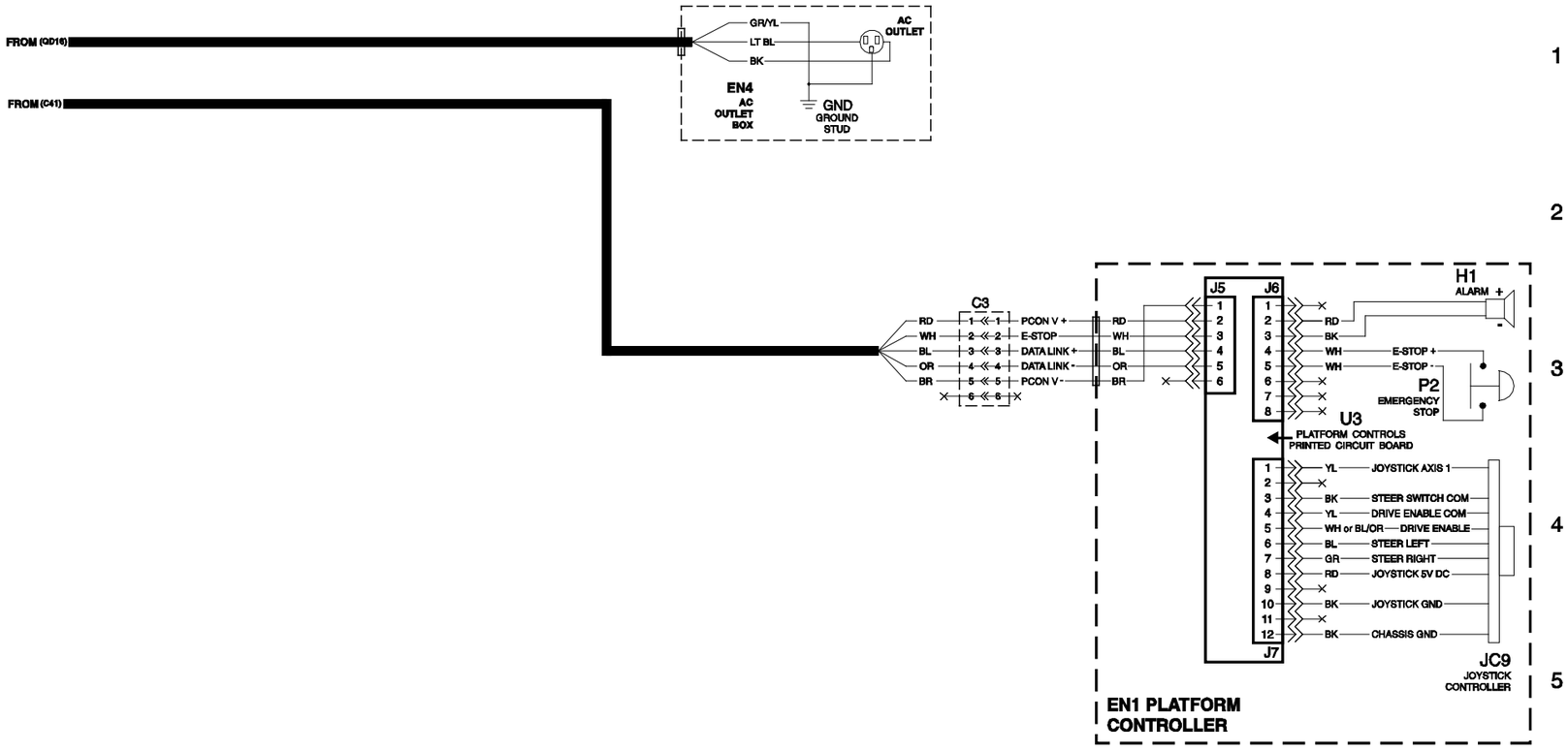
電気回路図、GS-2032、GS-2632、2046、2646、ANSI/CSA

（シリアル番号 GS3214A-135715 ～ GS3215A-141898、
GS4614A-135367 ～ GS4615A-137959、GS4615D-1304 からの機種）



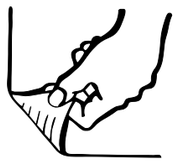
電気回路図、GS-2032、2632、2046、2646、ANSI/CSA

（シリアル番号 GS3214A-1135715 ～ GS3215A-1141898、GS4614A-135367 ～ GS4615A-137959、GS4615D-1304 からの機種）



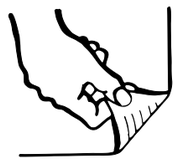
電気回路図、GS-2032、2632、2046、2646、ANSI/CSA

**（シリアル番号 GS3214A-135715 ～ GS3215A-141898、
GS4614A-135367 ～ GS4615A-137959、GS4615D-1304 からの機種）**



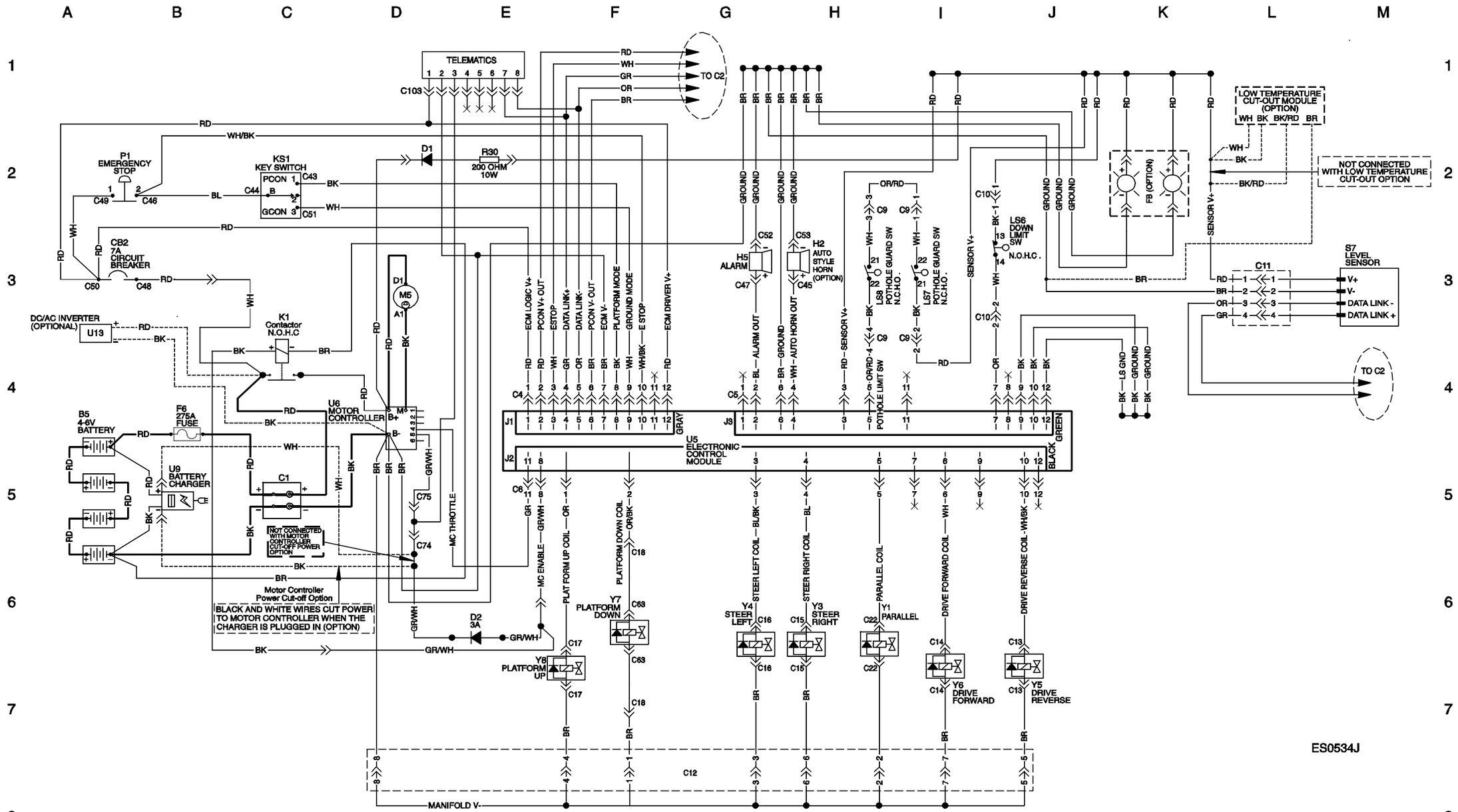
電気回路図、GS-2032、2632、2046、2646、ANSI/CSA

（シリアル番号 GS3215A-141899 から、GS3216P-142676 ～ GS3216P-146462、GS4615A-137960 から、GS4615D-1305 ～ GS4616D-4432、GS4616P-138362 ～ GS4616P-139710 の機種）



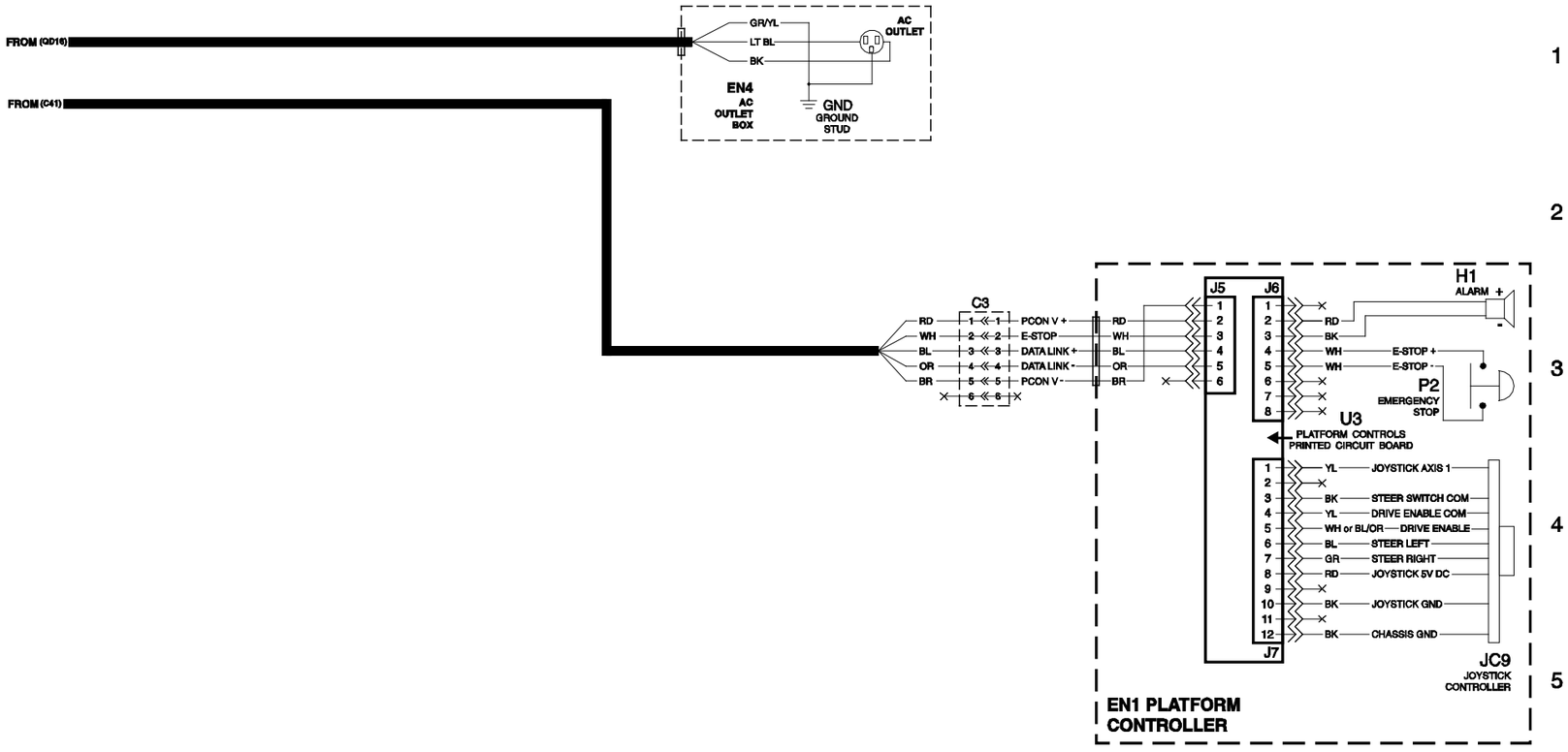
電気回路図、GS-2032、2632、2046、2646、ANSI/CSA

**（シリアル番号 GS3215A-141899 から、GS3216P-142676 ～ GS3216P-146462、
GS4615A-137960 から、GS4615D-1305 ～ GS4616D-4432、GS4616P-138362 ～ GS4616P-139710 の機種）**



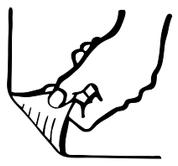
電気回路図、GS-2032、2632、2046、2646、ANSI/CSA

（シリアル番号 GS3215A-141899 から、GS3216P-142676 ～ GS3216P-146462、GS4615A-137960 から、GS4615D-1305 ～ GS4616D-4432、GS4616P-138362 ～ GS4616P-139710 の機種）



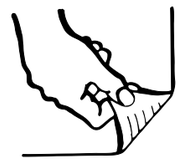
電気回路図、GS-2032、2632、2046、2646、ANSI/CSA

**（シリアル番号 GS3215A-14189 から、GS3216P-142676 ～ GS3216P-146462、
GS4615A-137960 から、GS4615D-1305 ～ GS4616D-4432、GS4616P-138362 ～ GS4616P-139710 の機種）**



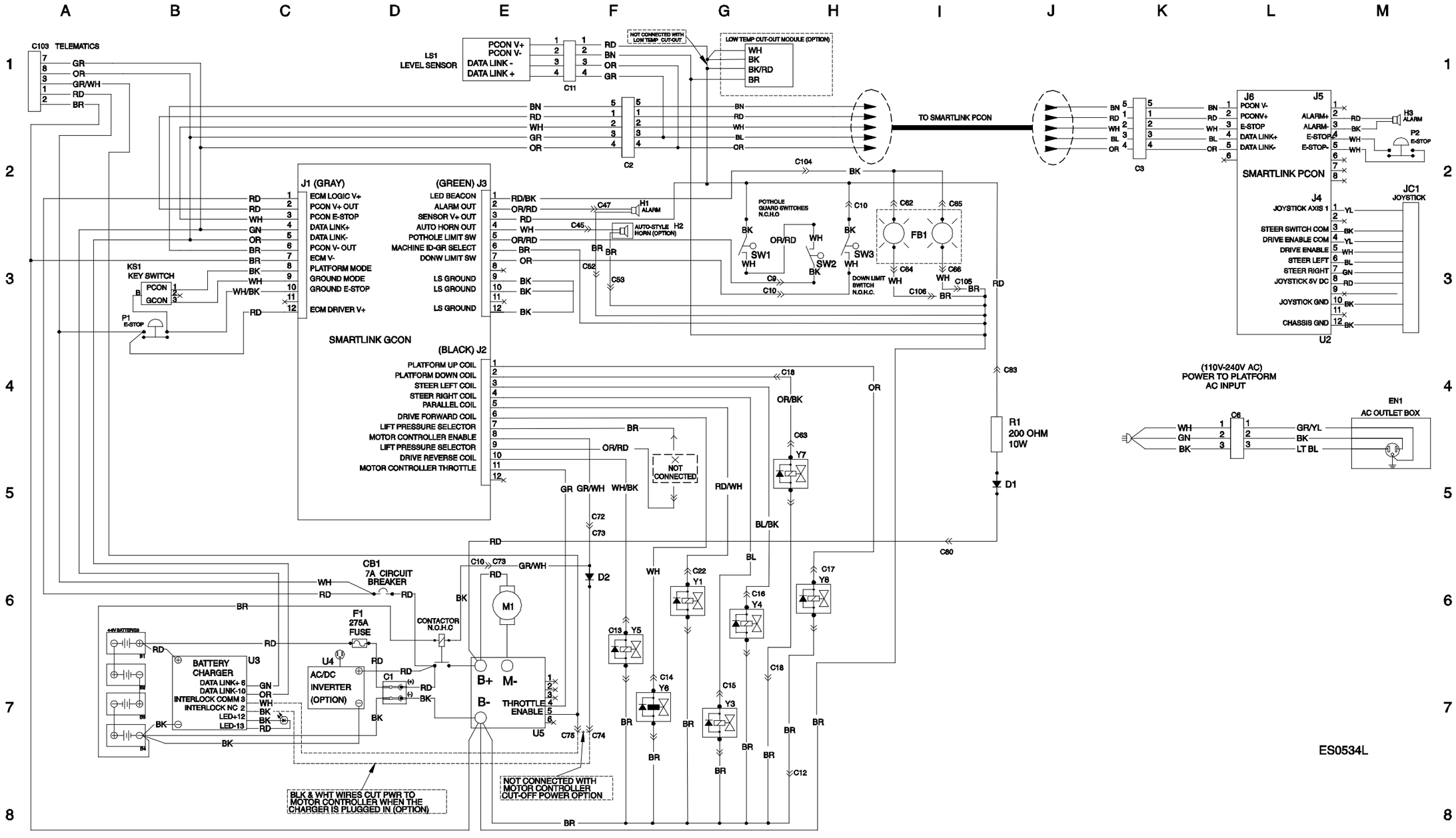
電気回路図、GS-2032、2632、2046、2646、ANSI/CSA

（シリアル番号 GS3216P-146463 から、GS4616D-4433 から、GS4616P-139711 からの機種）



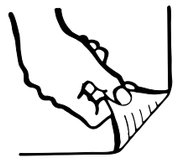
電気回路図、GS-2032、2632、2046、2646、ANSI/CSA

（シリアル番号 GS3216P-146463 から、GS4616D-4433 から、GS4616P-139711 からの機種）



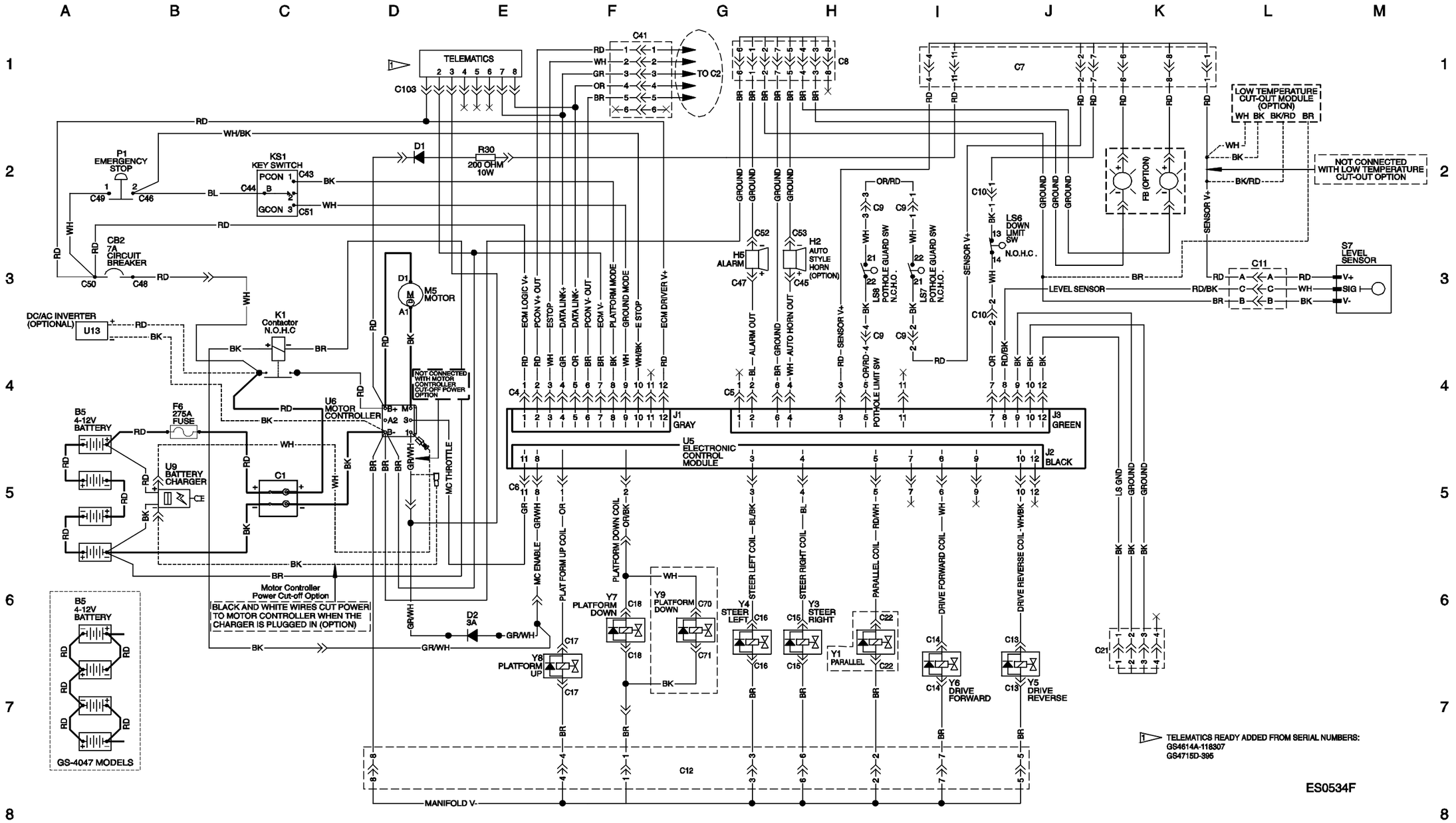
電気回路図、GS-3246、GS-4047、ANSI/CSA

（シリアル番号 GS4612A-110000 ～ GS4614A-135366、GS4614D-101 ～ GS4615D-1303、GS4714D-101 ～ GS4715D-749 の機種）



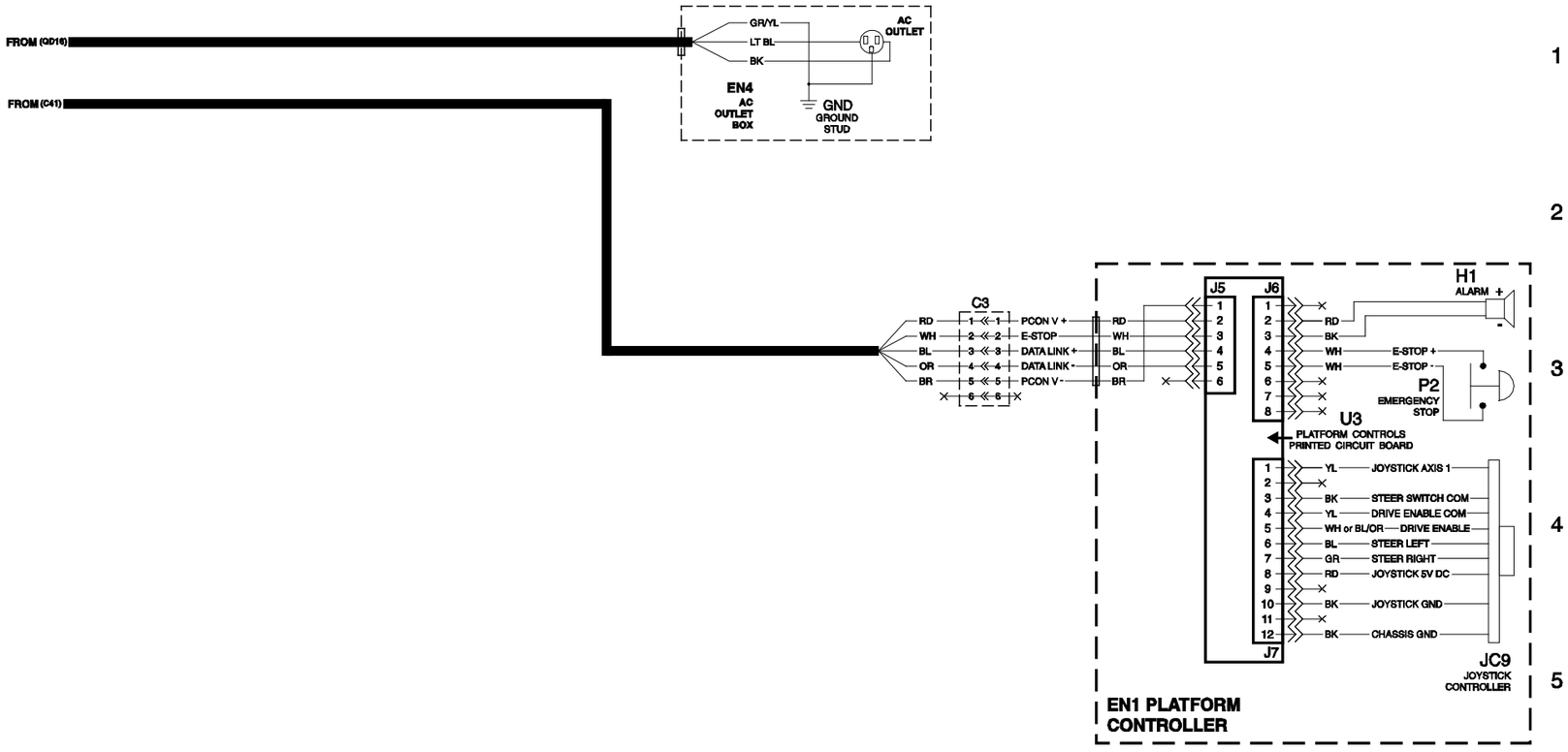
電気回路図、GS-3246、GS-4047、ANSI/CSA

（シリアル番号 GS4612A-110000 ～ GS4614A-135366、GS4614D-101 ～ GS4615D-1303、GS4714D-101 ～ GS4715D-749 の機種）



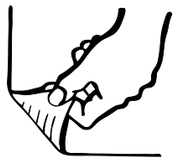
電気回路図、GS-3246、GS-4047、ANSI/CSA

（シリアル番号 GS4621A-110000 ～ GS4614A-135366、GS4614D-101 ～ GS4615D-1303、GS4714D-101 ～ GS4715D-749 の機種）



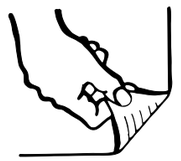
電気回路図、GS-3246、GS-4047、ANSI/CSA

（シリアル番号 GS4612A-110000 ～ GS4614A-135366、GS4614D-101 ～ GS4615D-1303、GS4714D-101 ～ GS4715D-749 の機種）



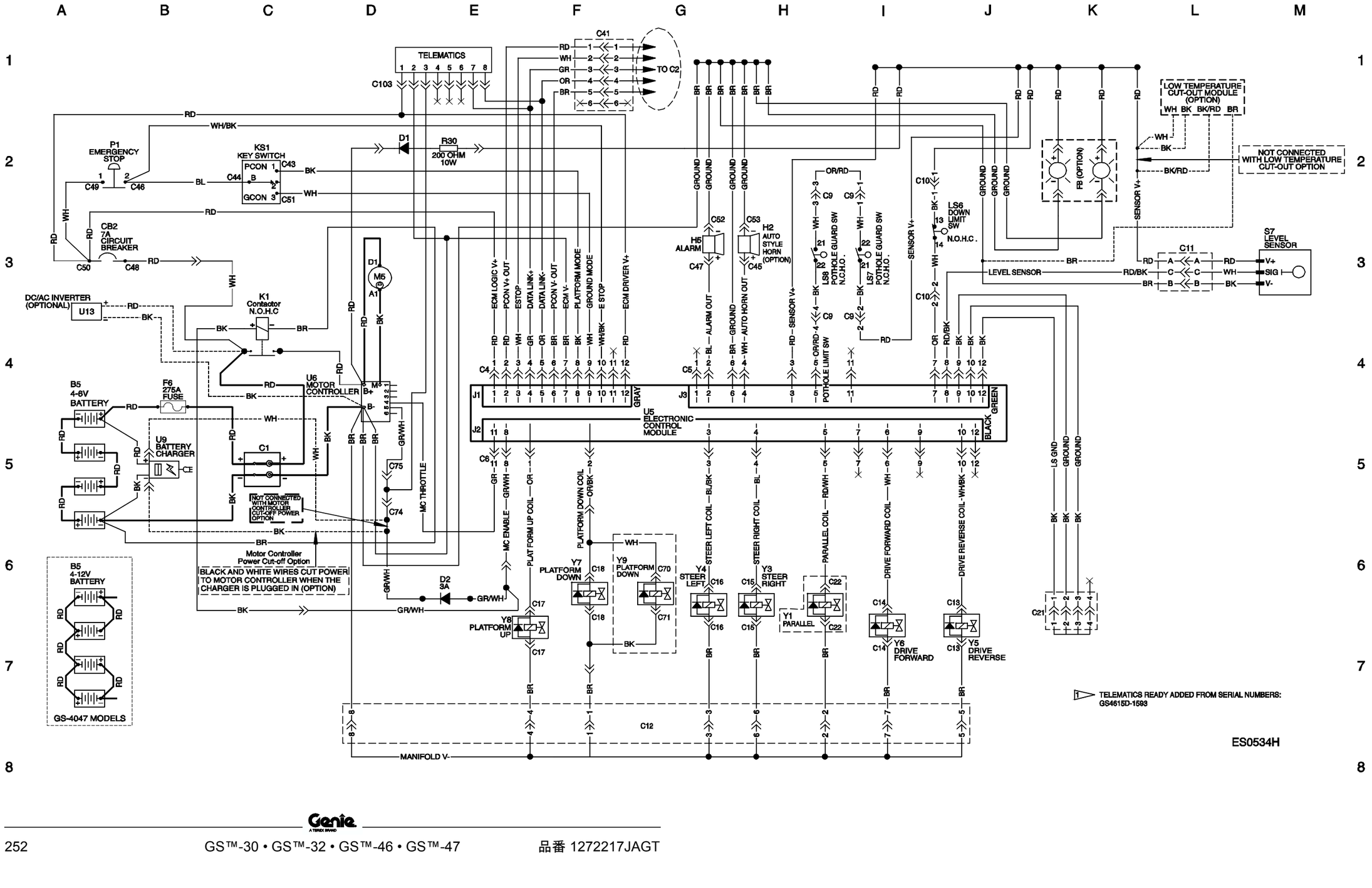
電気回路図、GS-3246、GS-4047、ANSI/CSA

（シリアル番号 GS4614A-135367 ～ GS4615A-137959、GS4615D-1304 ～ GS4616D-4432、GS4616P-138362 ～ GS4616P-139710、GS4715D-750 ～ GS4716D-3101 の機種）



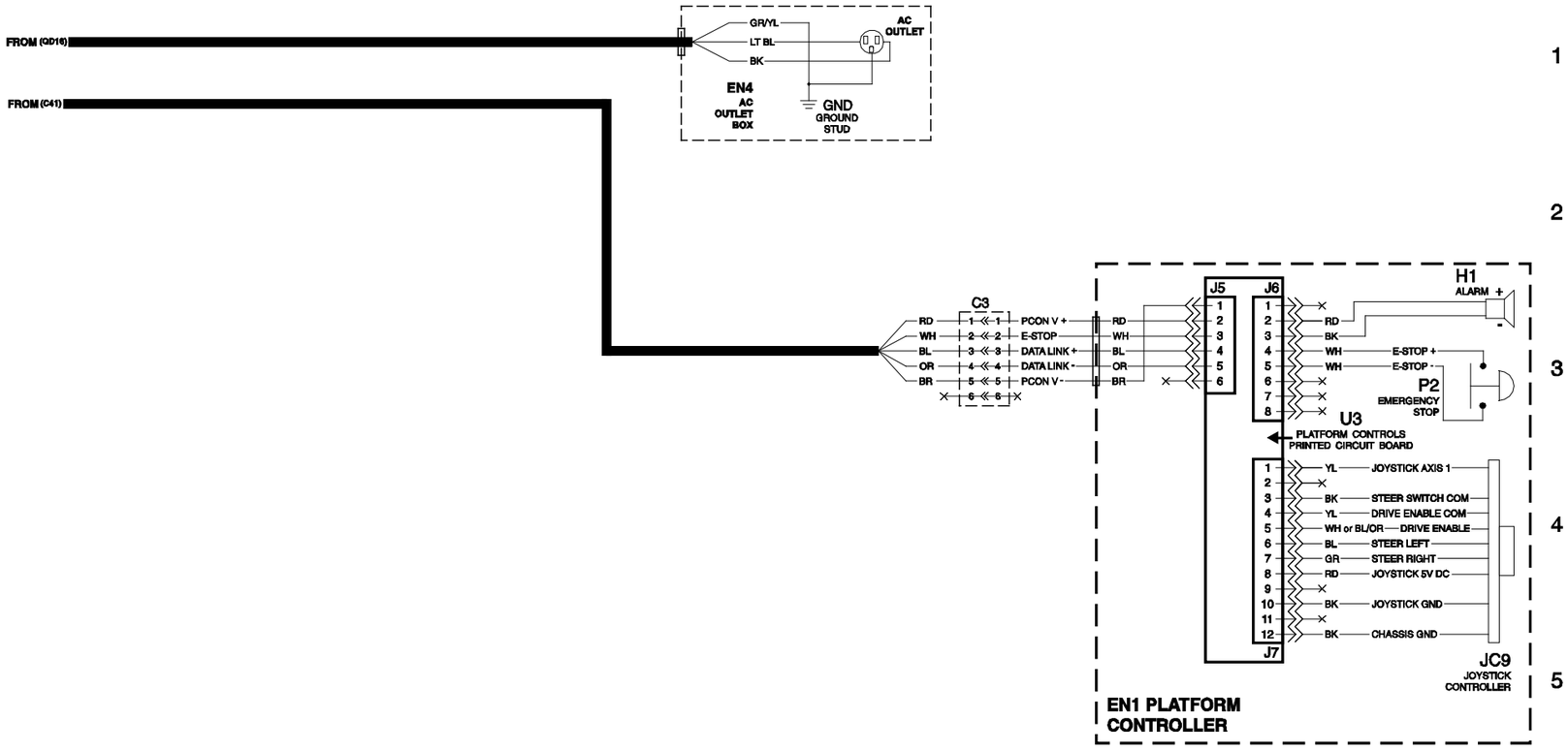
電気回路図、GS-3246、GS-4047、ANSI/CSA

（シリアル番号 GS4614A-135367 ～ GS4615A-137959、GS4615D-1304 ～ GS4616D-4432、GS4616P-138362 ～ GS4616P-139710、GS4715D-750 ～ GS4716D-3101 の機種）



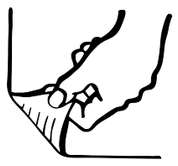
電気回路図、GS-3246、GS-4047、ANSI/CSA

（シリアル番号 GS4614A-135367 ～ GS4615A-137959、GS4615D-1304 ～ GS4616D-4432、GS4616P-138362 ～ GS4616P-139710、GS4715D-750 ～ GS4716D-3101 の機種）



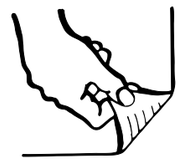
電気回路図、GS-3246、GS-4047、ANSI/CSA

（シリアル番号 GS4614A-135367 ～ GS4615A-137959、GS4615D-1304 ～ GS4616D-4432、GS4616P-138362 ～ GS4616P-139710、GS4715D-750 ～ GS4716D-3101 の機種）



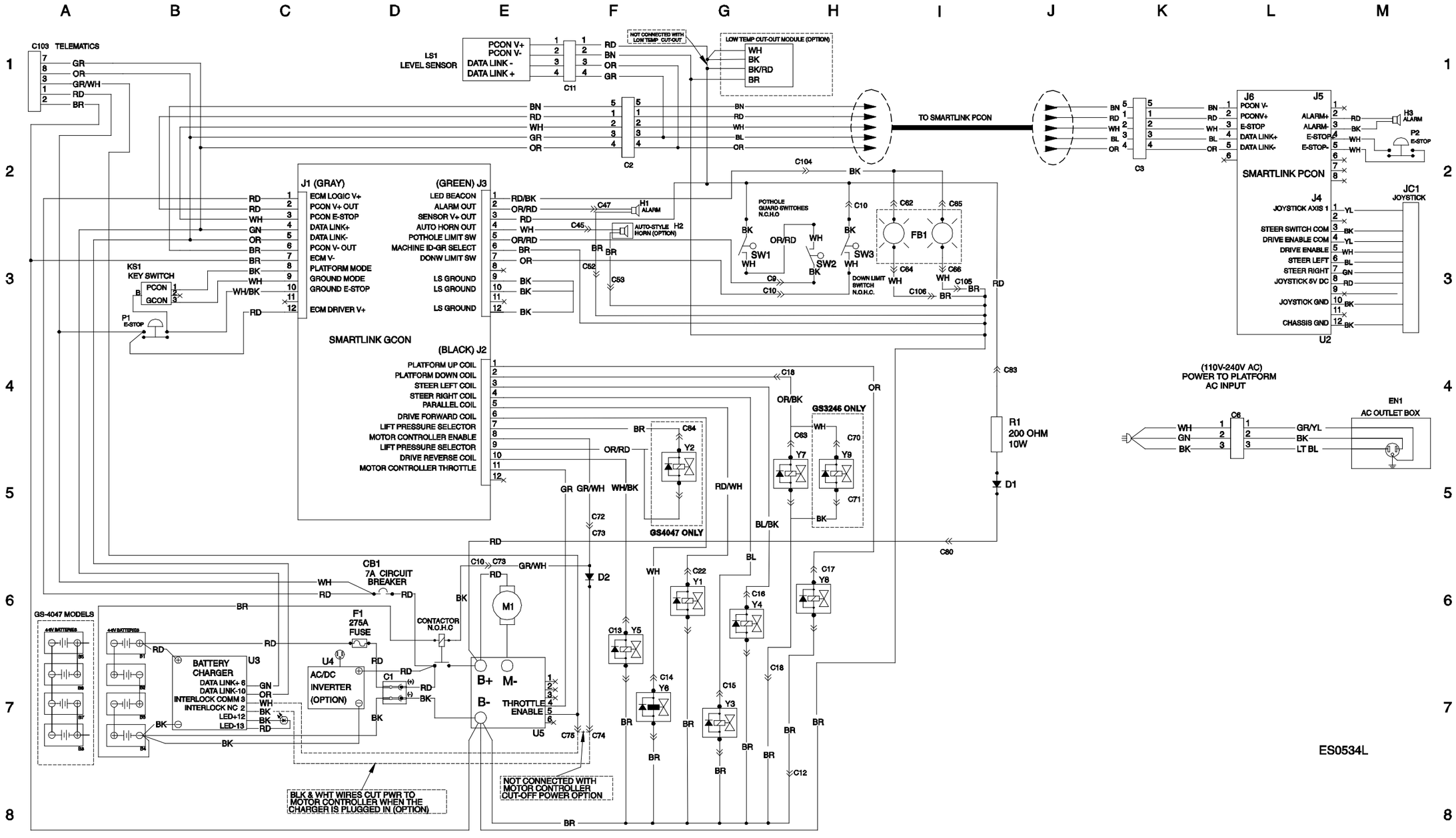
電気回路図、GS-3246、GS-4047、ANSI/CSA

（シリアル番号 GS4616D-4433 から、GS4616P-139711 から、GS4716D-3102 から、GS4716P-101 からの機種）



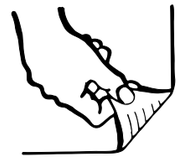
電気回路図、GS-3246、GS-4047、ANSI/CSA

（シリアル番号 GS4616D-4433 から、GS4616P-139711 から、GS4716D-3102 から、GS4716P-101 からの機種）



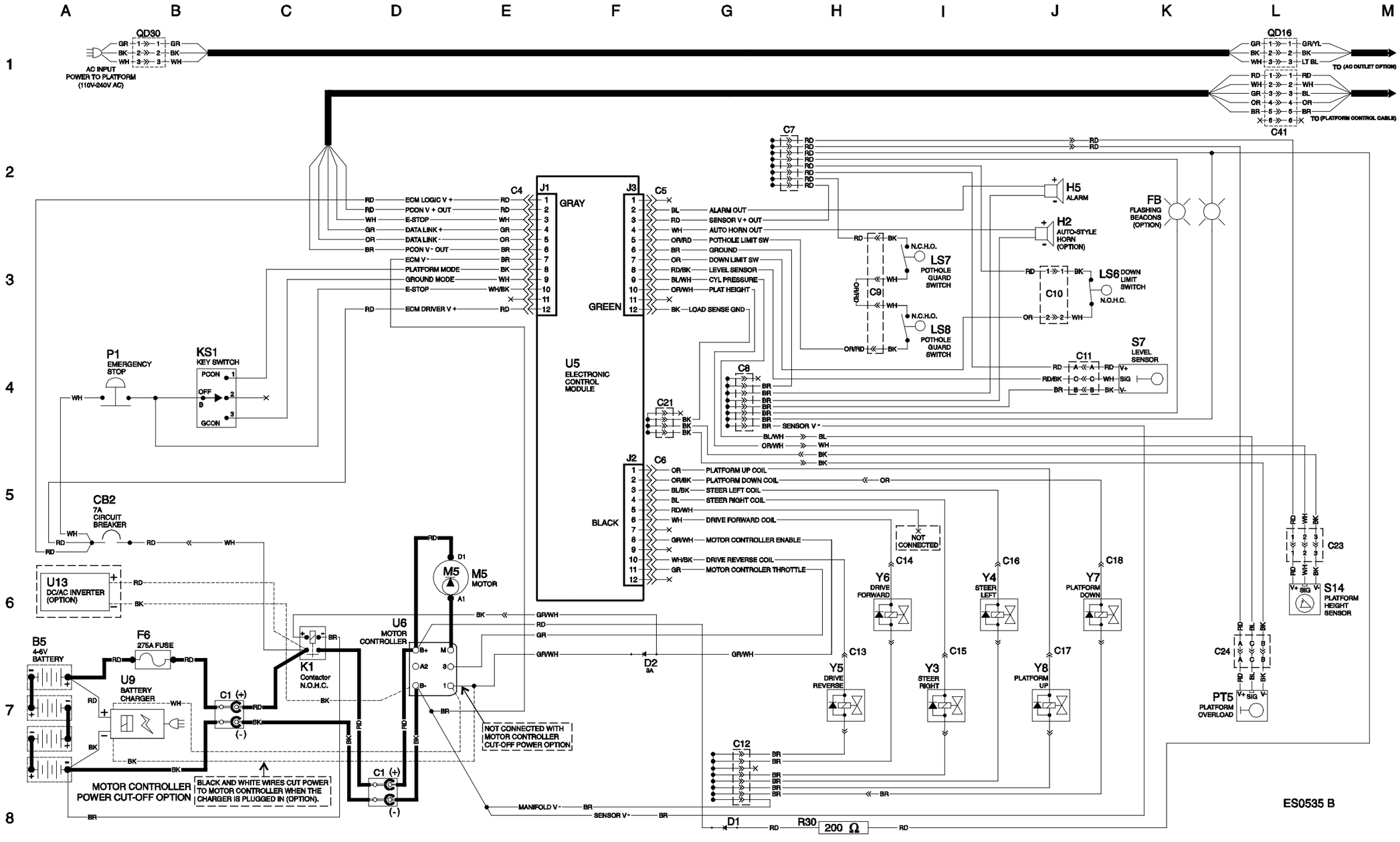
電気回路図、GS-1530、1532、1930、1932、ANSI/CE

（シリアル番号 GS3010A-110000 ～ GS3011A-110827 の機種）



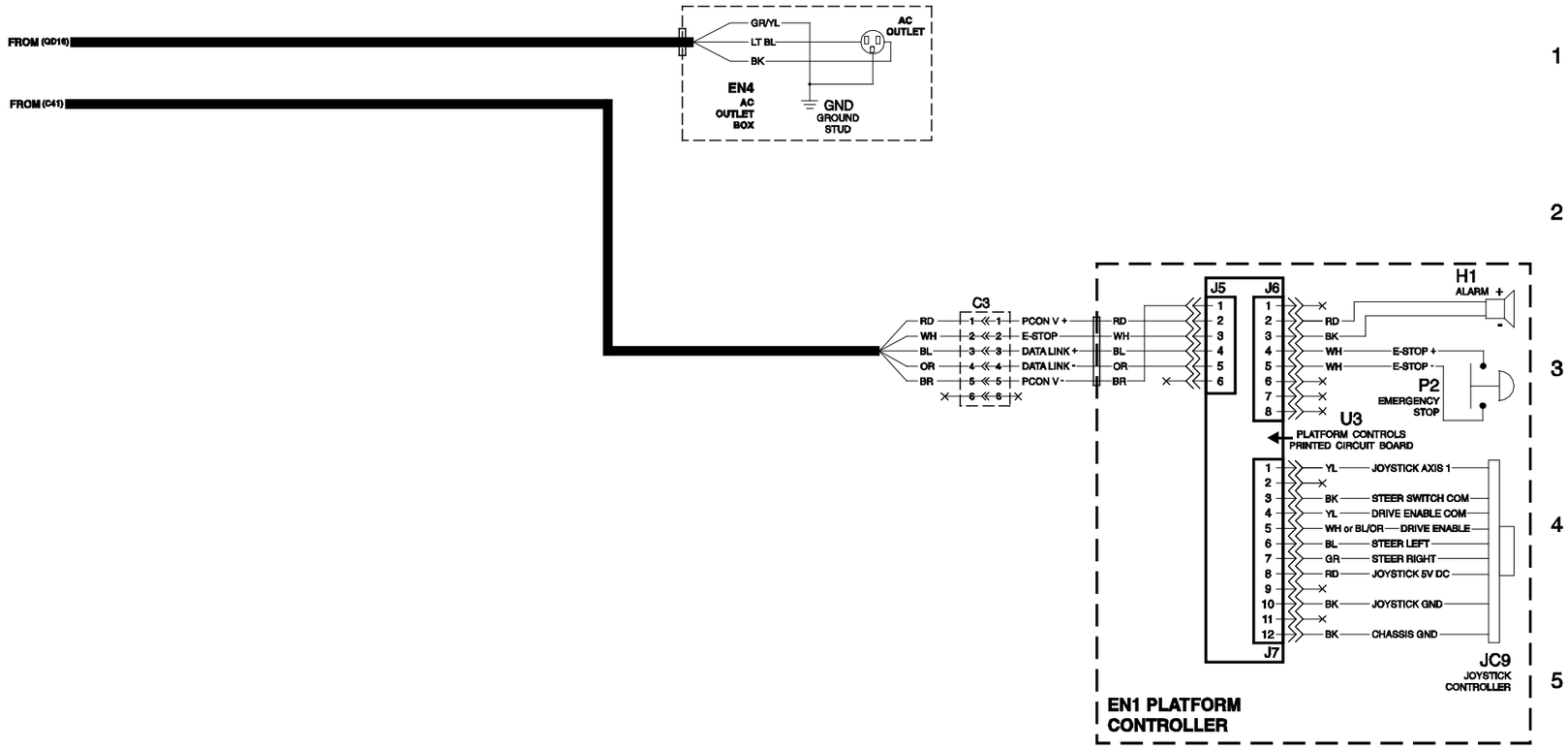
電気回路図、GS-1530、1532、1930、1932、ANSI/CE

（シリアル番号 GS3010A-110000 ～ GS3011A-110827 の機種）



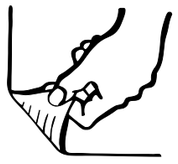
電気回路図、GS-1530、1532、1930、1932、ANSI/CE

（シリアル番号 GS3010A-110000 ～ GS3011A-110827 の機種）



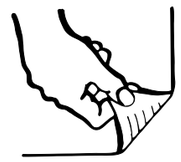
電気回路図、GS-1530、1532、1930、1932、ANSI/CE

（シリアル番号 GS3010A-110000 ～ GS3011A-110827 の機種）



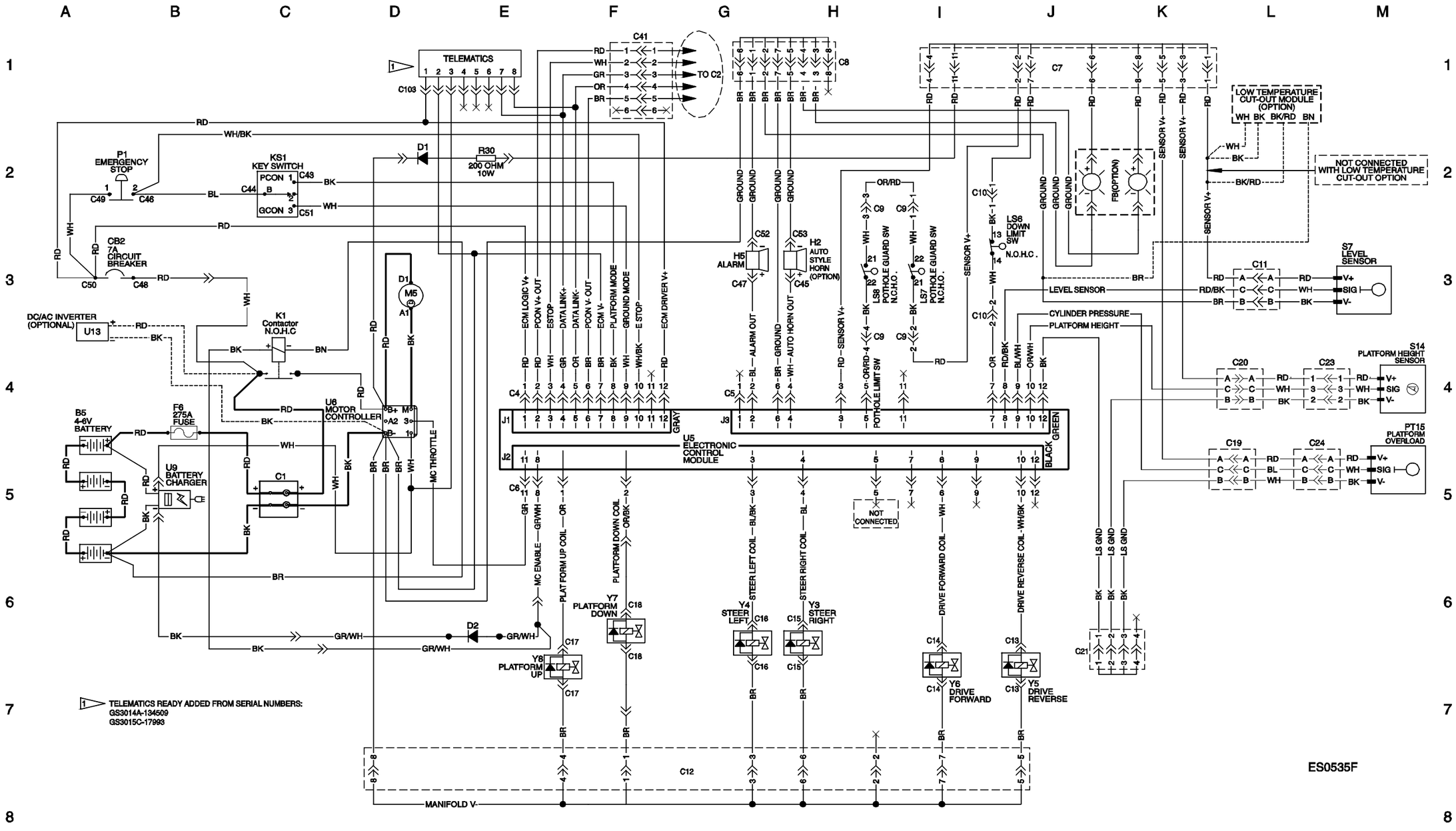
電気回路図、GS-1530、1530、1930、1932、ANSI/CE

（シリアル番号 GS3011A-110828 ～ GS3014A-136972、GS3011C-10000 ～ GS3015C-18038、GS3014D-101 ～ GS3015D-1113 の機種）



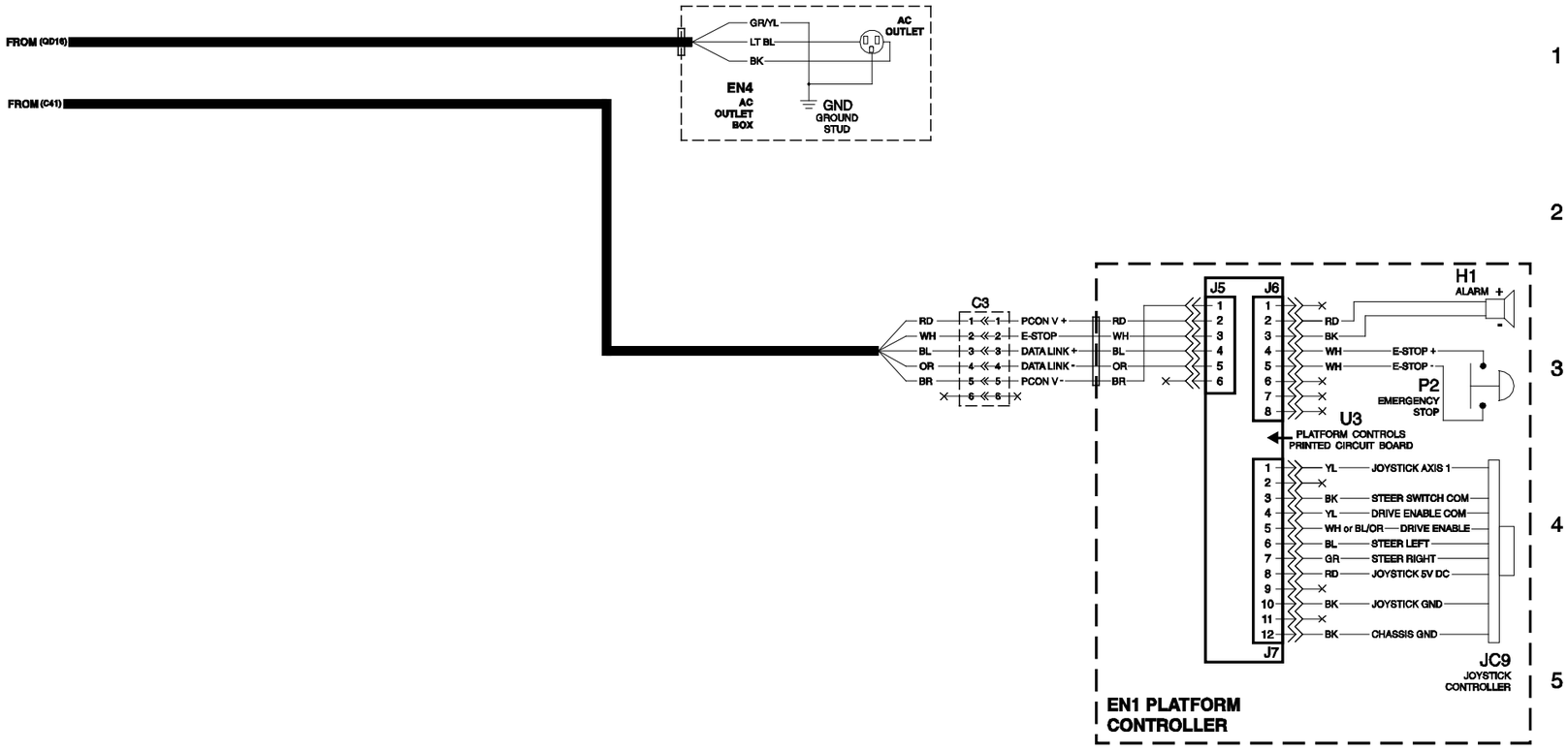
電気回路図、GS-1530、1532、1930、1932、ANSI/CE

（シリアル番号 GS3011A-110828 ～ GS3014A-136972、
GS3011C-10000 ～ GS3015C-18038、GS3014D-101 ～ GS3015D-1113 の機種）



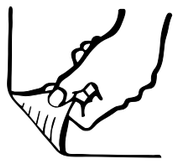
電気回路図、GS-1530、1532、1930、1932、ANSI/CE

（シリアル番号 GS3011A-110828 ～ GS3014A-136972、GS3011C-10000 ～ GS3015C-18038、GS3014D-101 ～ GS3015D-1113 の機種）



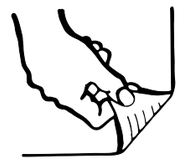
電気回路図、GS-1530、1532、1930、1932、ANSI/CE

**（シリアル番号 GS3011A-110828 ～ GS3014A-136972、
GS3011C-10000 ～ GS3015C-18038、GS3014D-101 ～ GS3015D-1113 の機種）**



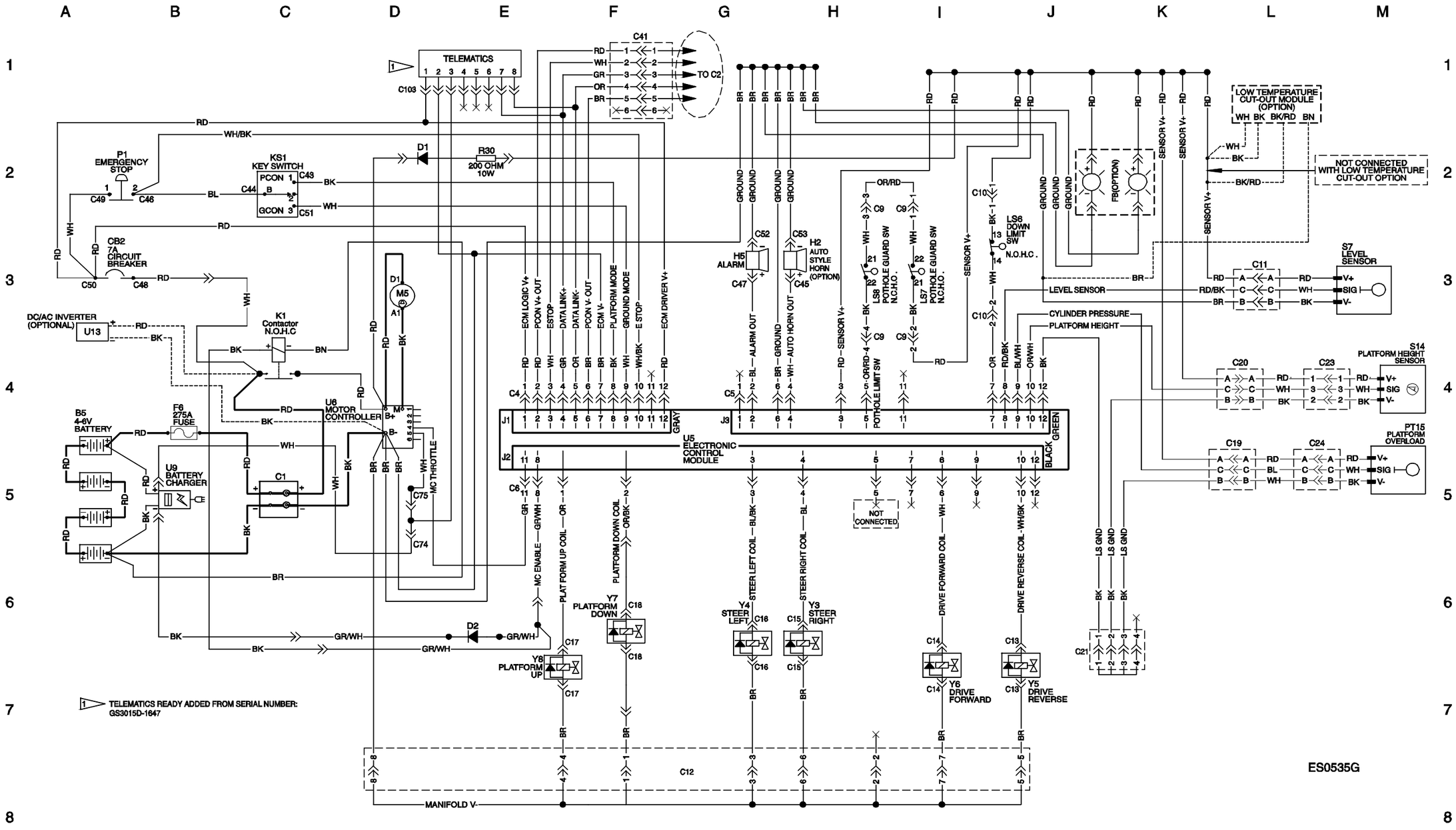
電気回路図、GS-1530、1532、1930、1932、AS/CE

（シリアル番号 GS3014A-136973、GS3015C-18039、GS3015D-1114 ～ GS3016D-5426、GS3016P-142281 ～ GS3016P-158208 の機種）



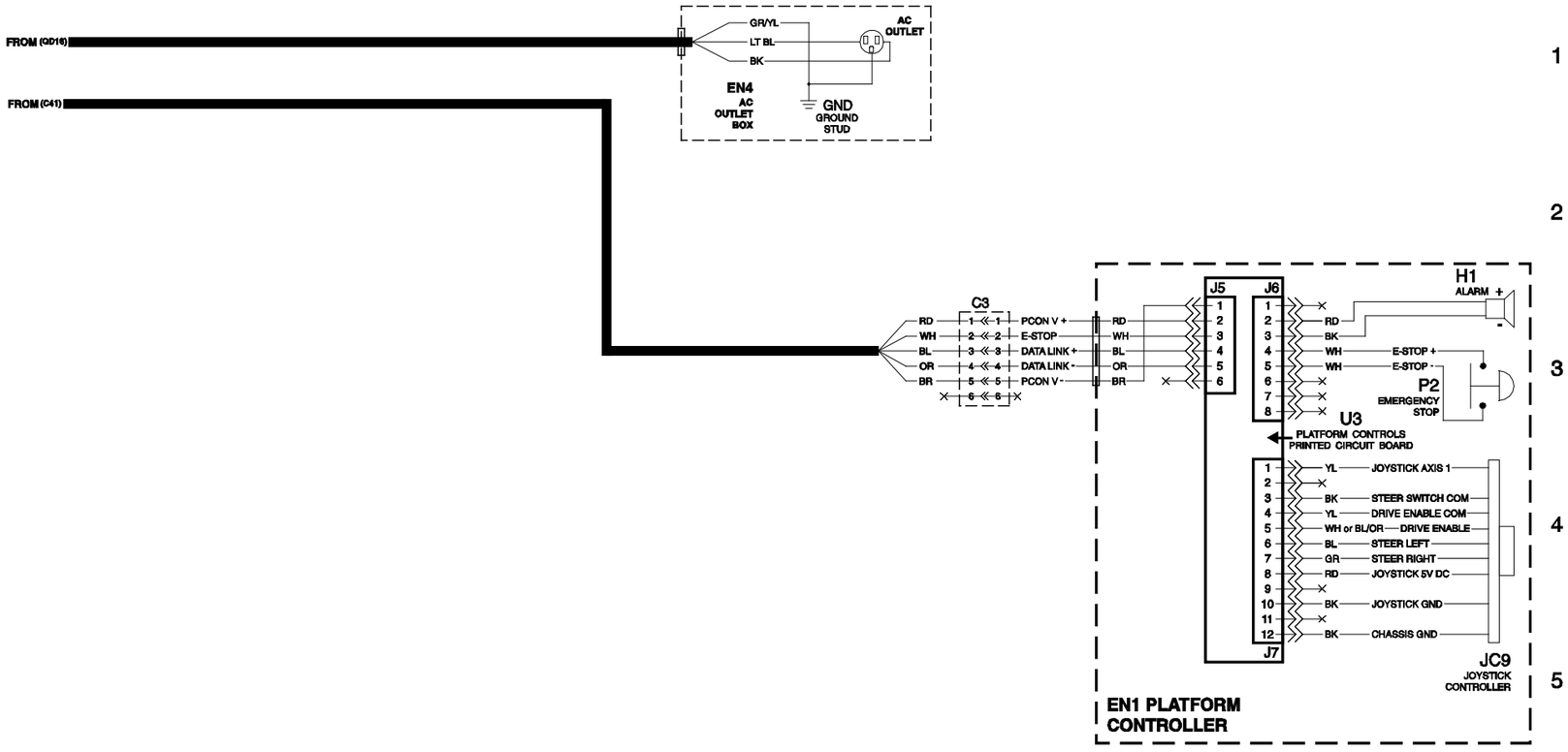
電気回路図、GS-1530、1532、1930、1932、AS/CE

（シリアル番号 GS3014A-136973 から、GS3015C-18039 から、GS3015D-1114 ～ GS3016D-5426、GS3016P-142281 ～ GS3016P-158208 の機種）



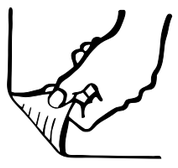
電気回路図、GS-1530、1532、1930、1932、AS/CE

（シリアル番号 GS3014A-136973 から、GS3015C-18039 から、GS3015D-1114 ～ GS3016D-5426、GS3016P-142281 ～ GS3016P-158208 の機種）



電気回路図、GS-1530、1532、1930、1932、AS/CE

（シリアル番号 GS3014A-136973 から、GS3015C-18039 から、GS3015D-1114 ～ GS3016D-5426、GS3016P-142281 ～ GS3016P-158208 の機種）

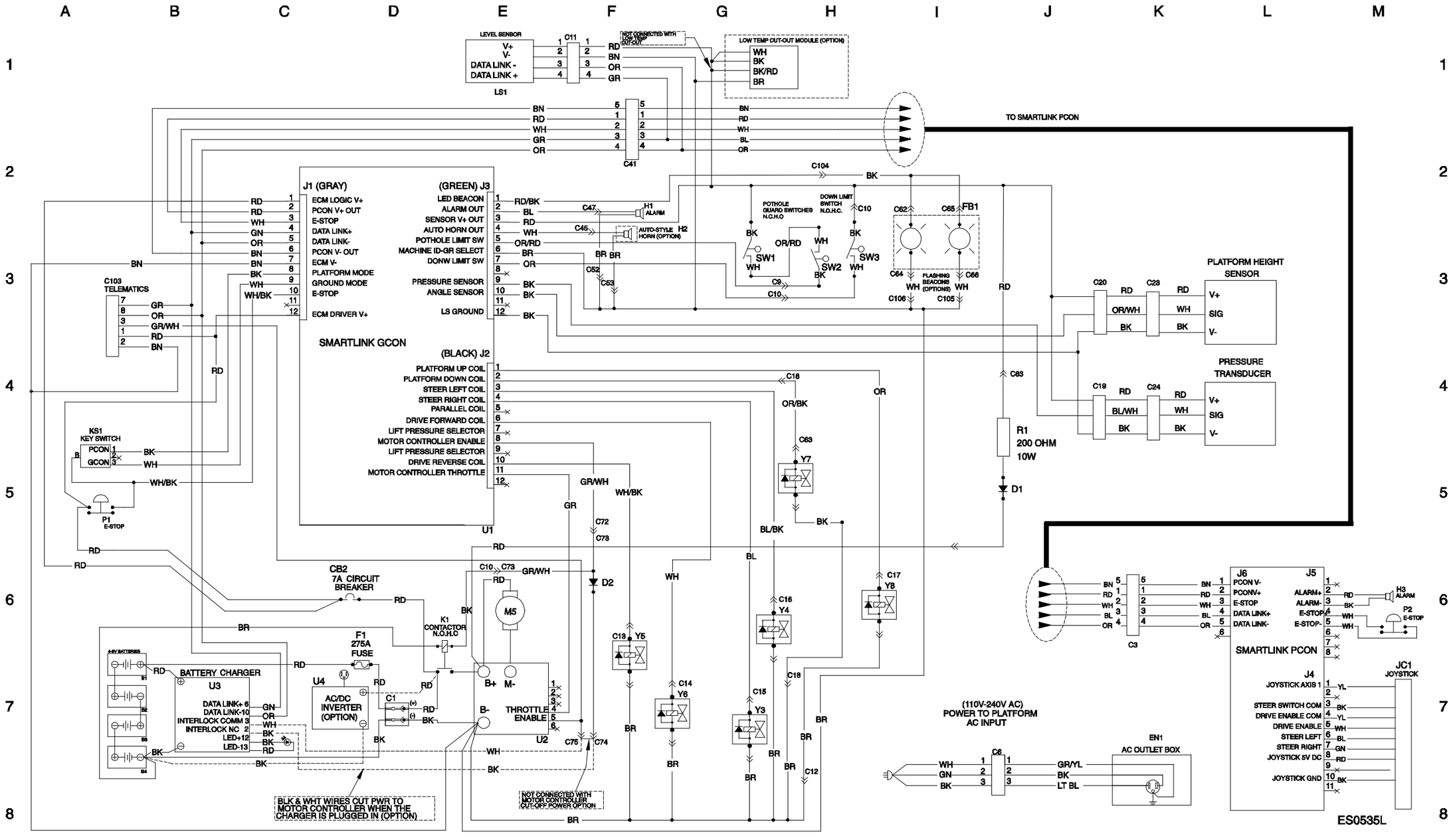


電気回路図、GS-1530、1532、1930、1932、AS/CE

（シリアル番号 GS3016D-5427、GS3016P-158209 の機種）

電気回路図、GS-1530、1532、1930、1932、AS/CE

（シリアル番号 GS3016D-5427 から、GS3016P-158209 からの機種）

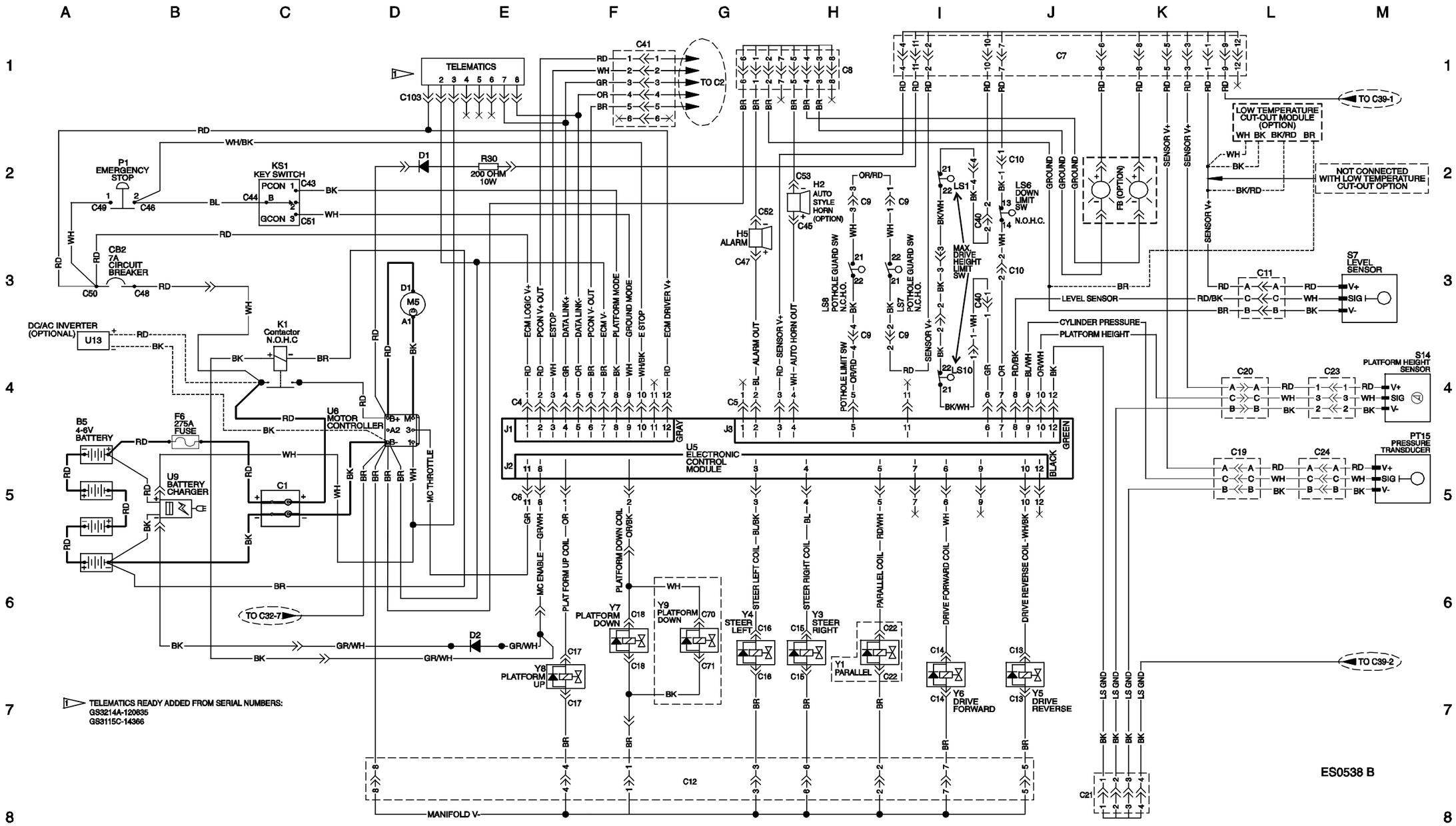


電気回路図、GS-3232、AS/CE

（シリアル番号 GS3211A-110000 ～ GS3214A-135714、GS3212C-10000 ～ GS3215C-14503 の機種）

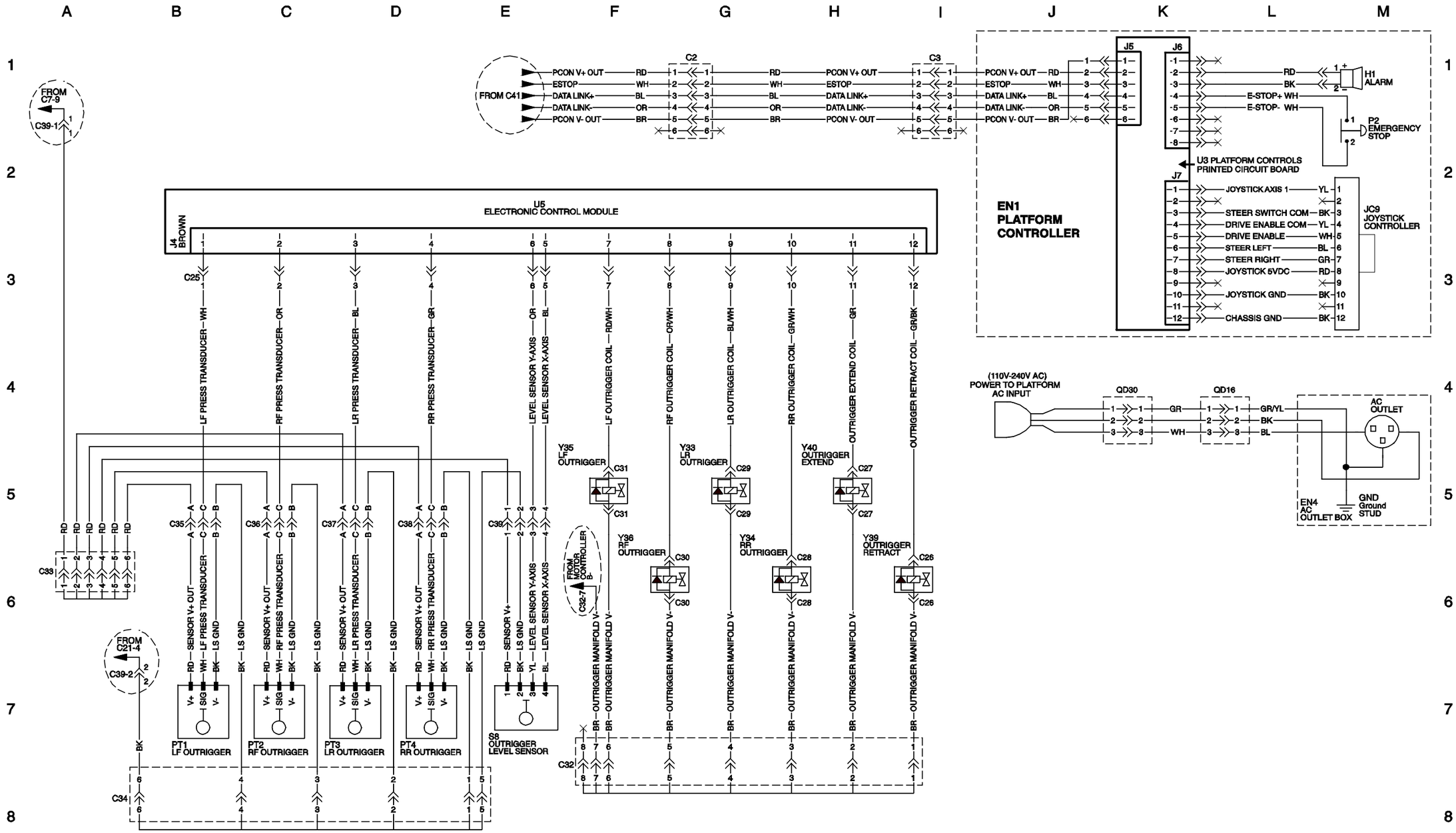
電気回路図、GS-3232、AS/CE

（シリアル番号 GS3211A-110000 ～ GS3214A-135714、GS3212C-10000 ～ GS3215C-14503 の機種）



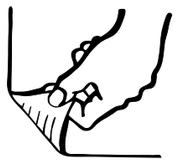
電気回路図、GS-3232、AS/CE

（シリアル番号 GS3211A-110000 ～ GS3214A-135714、GS3212C-10000 ～ GS3215C-14503 の機種）



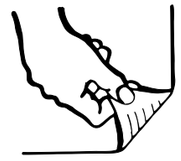
電気回路図、GS-3232、AS/CE

**（シリアル番号 GS3211A-110000 ～ GS3214A-135714、
GS3212C-10000 ～ GS3215C-14503 の機種）**



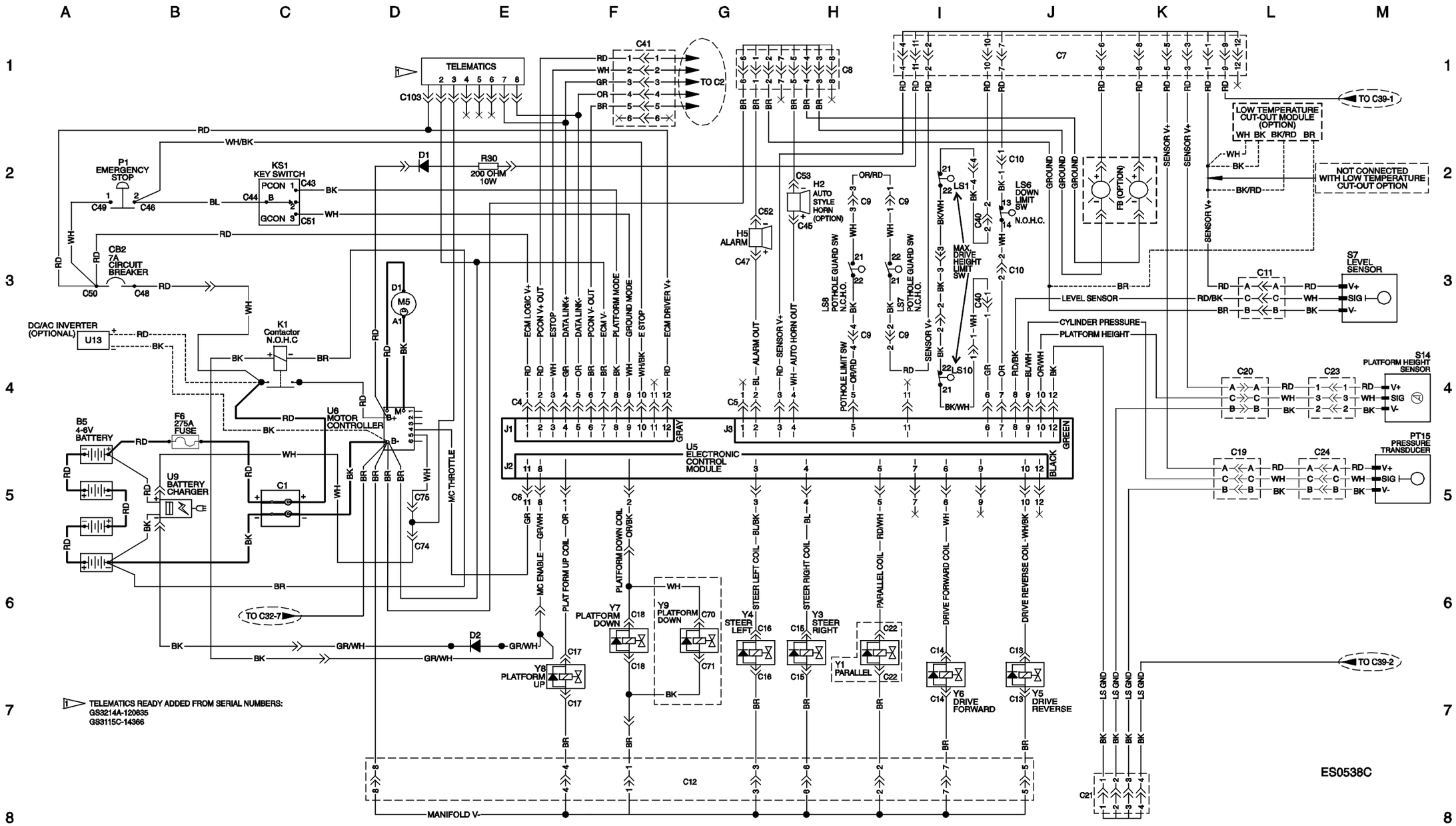
電気回路図、GS-3232、AS/CE

（シリアル番号 GS3214A-135715 ～ GS3215A-141898、GS3215C-14504 からの機種）



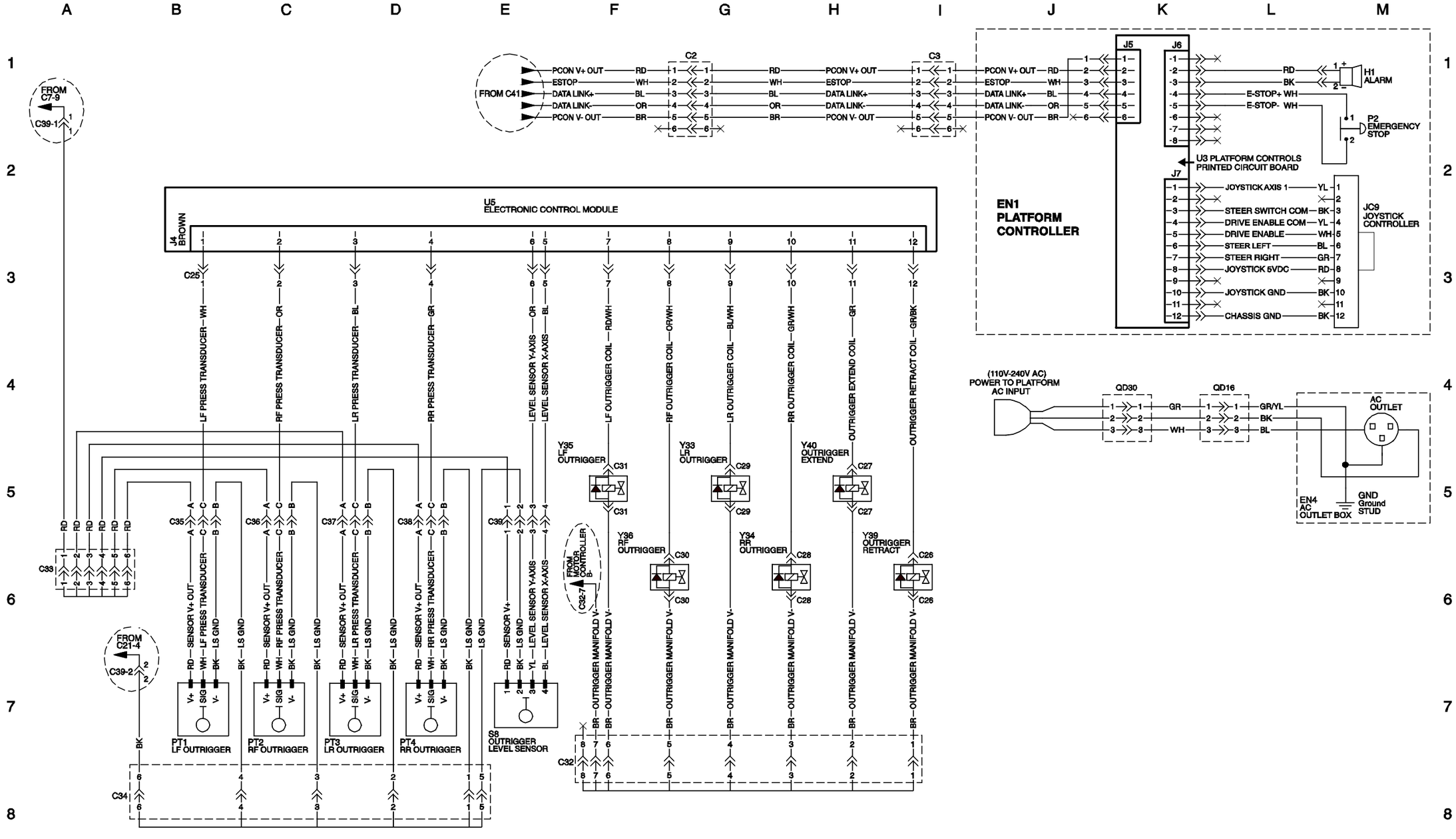
電気回路図、GS-3232、AS/CE

（シリアル番号 GS3214A-135715 ～ GS3215A-141898、GS3215C-14504 からの機種）



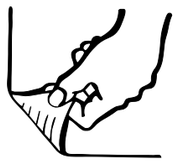
電気回路図、GS-3232、AS/CE

（シリアル番号 GS3214A-135715 ～ GS3215A-141898、GS3215C-14504 からの機種）



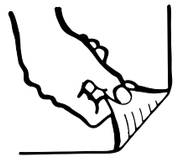
電気回路図、GS-3232、AS/CE

（シリアル番号 GS3214A-135715 ～ GS3215A-141898、GS32115C-14504 からの機種）



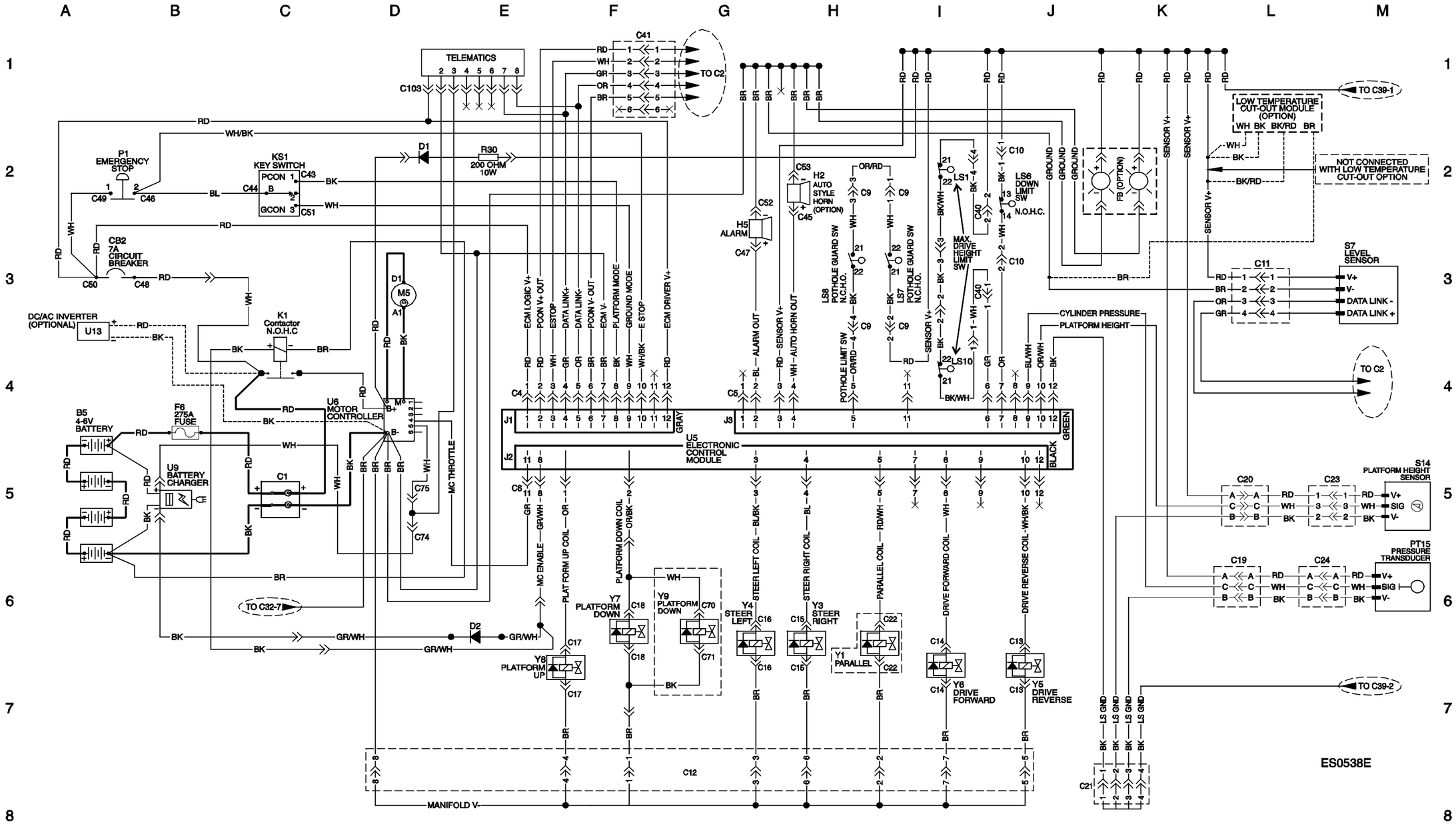
電気回路図、GS-3232、AS/CE

（シリアル番号 GS3215A-141899 から、GS3216P-142676 ～ GS3216P-146462 の機種）



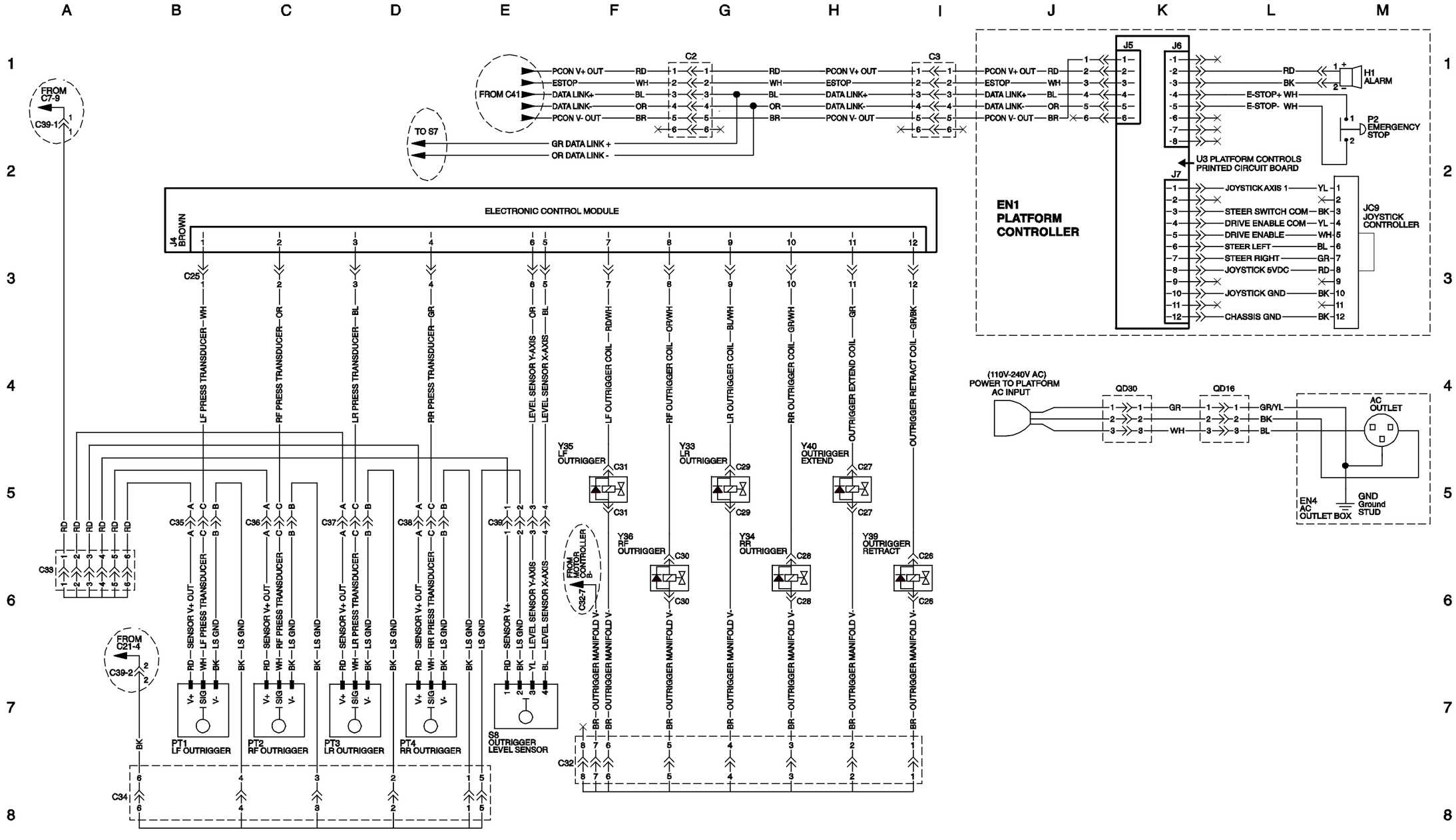
電気回路図、GS-3232、AS/CE

（シリアル番号 GS3215A-141899 から、GS3216P-142676 ～ GS3216P-146462 の機種）



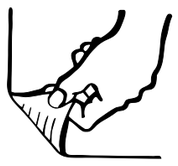
電気回路図、GS-3232、AS/CE

（シリアル番号 GS3215A-141899 から、GS3216P-142676 ～ GS3216P-146462 の機種）



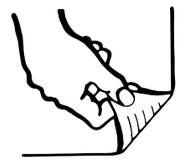
電気回路図、GS-3232、AS/CE

（シリアル番号 GS3215A-141899 から、GS3216P-142676 ～ GS3216P-146462 の機種）



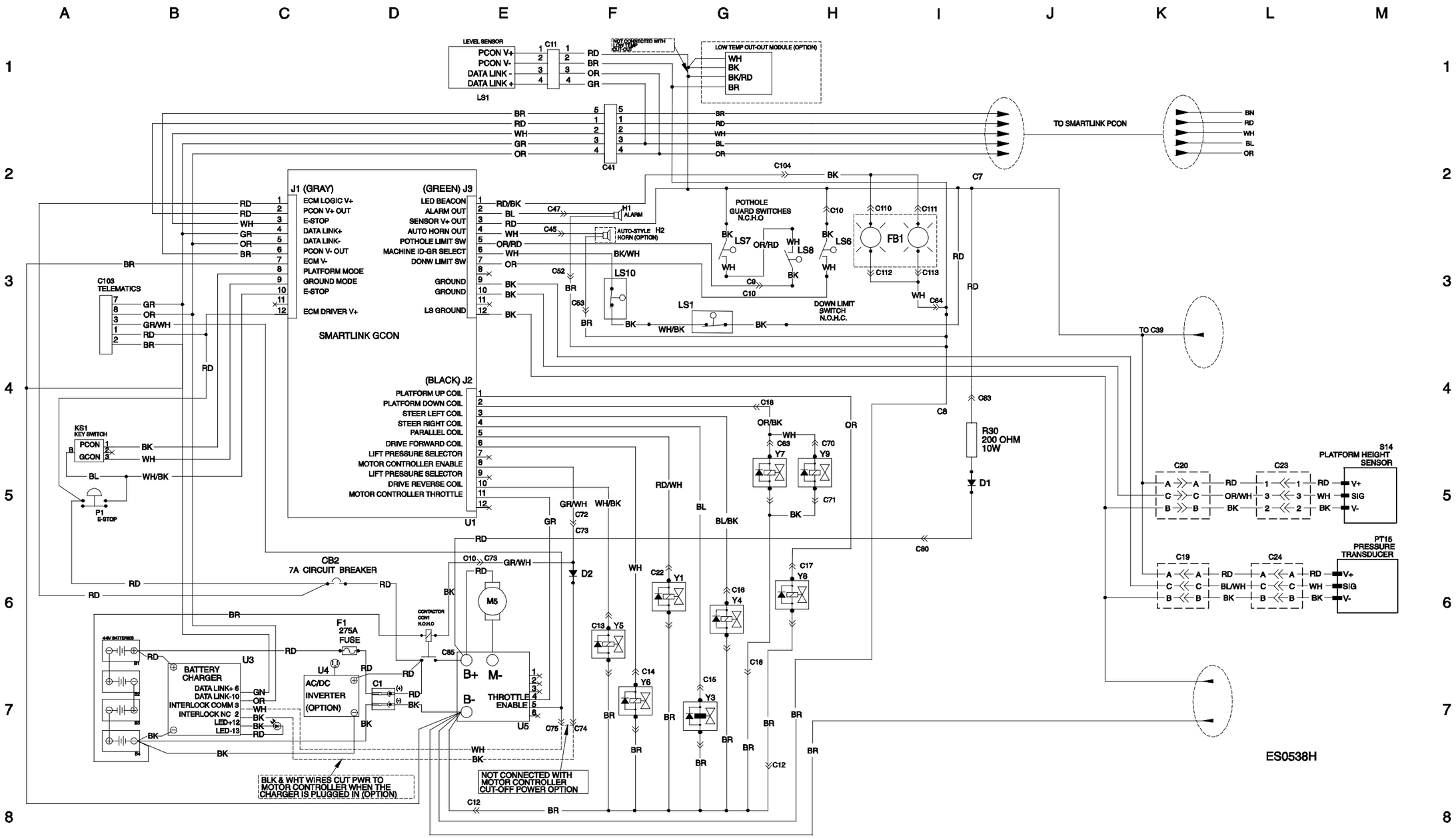
電気回路図、GS-3232、AS/CE

（シリアル番号 GS3216P-146463 からの機種）



電気回路図、GS-3232、AS/CE

（シリアル番号 GS3216P-146463 からの機種）

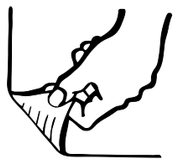


電気回路図、GS-3232、AS/CE

（シリアル番号 GS3216P-146463 からの機種）

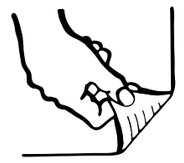
電気回路図、GS-3232、AS/CE

（シリアル番号 GS3216P-143463 からの機種）



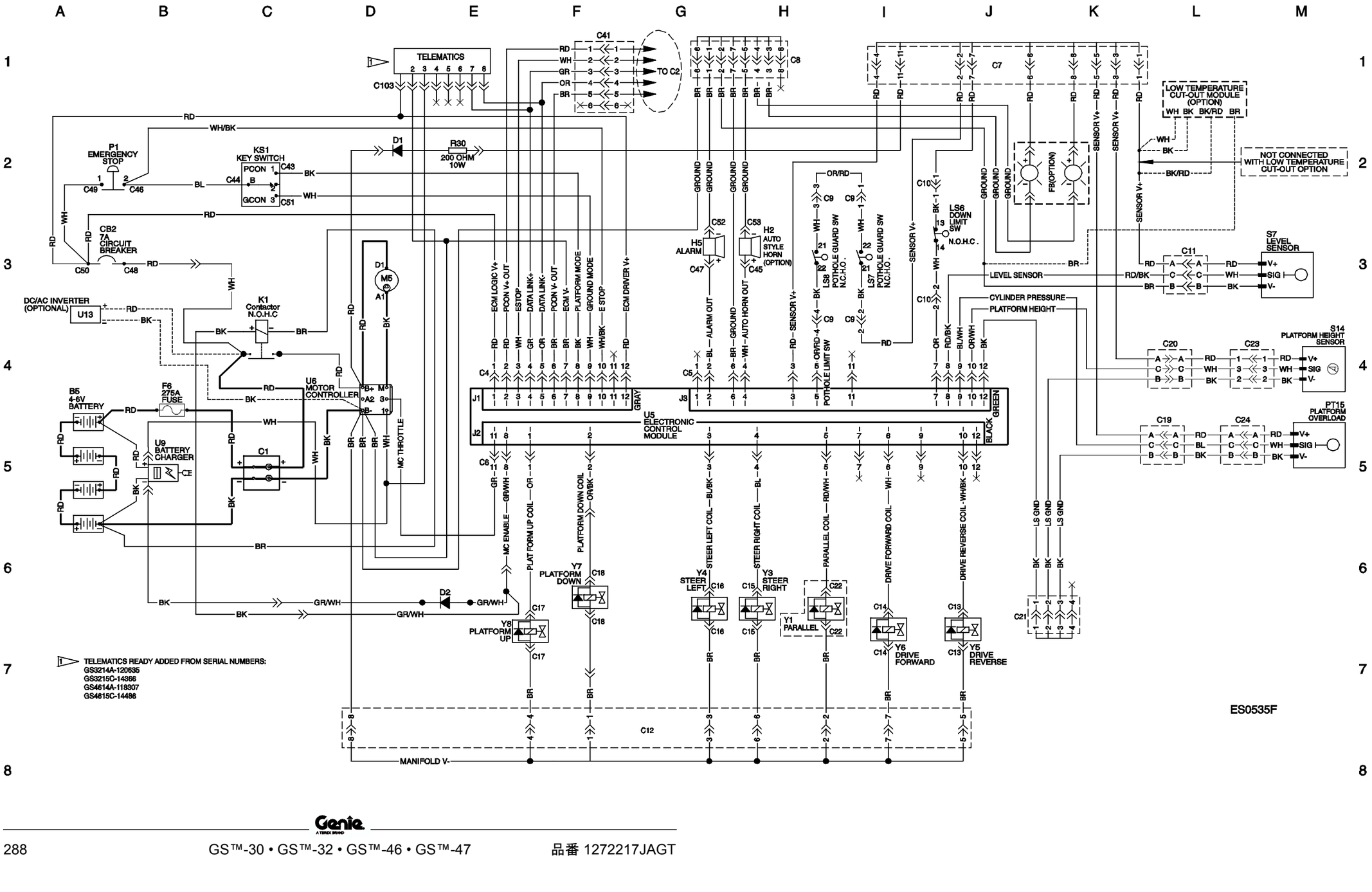
電気回路図、GS-2032、2632、2046、2646、AS/CE

（シリアル番号 GS3211A-110000 ～ GS3214A-135715、GS3212C-10000 ～ GS3215C-14377、GS4612A-110000 ～ GS4614A-135366、GS4612C-10000 ～ GS4615C-14503、GS4613D-101 ～ GS4615D-1303 の機種）



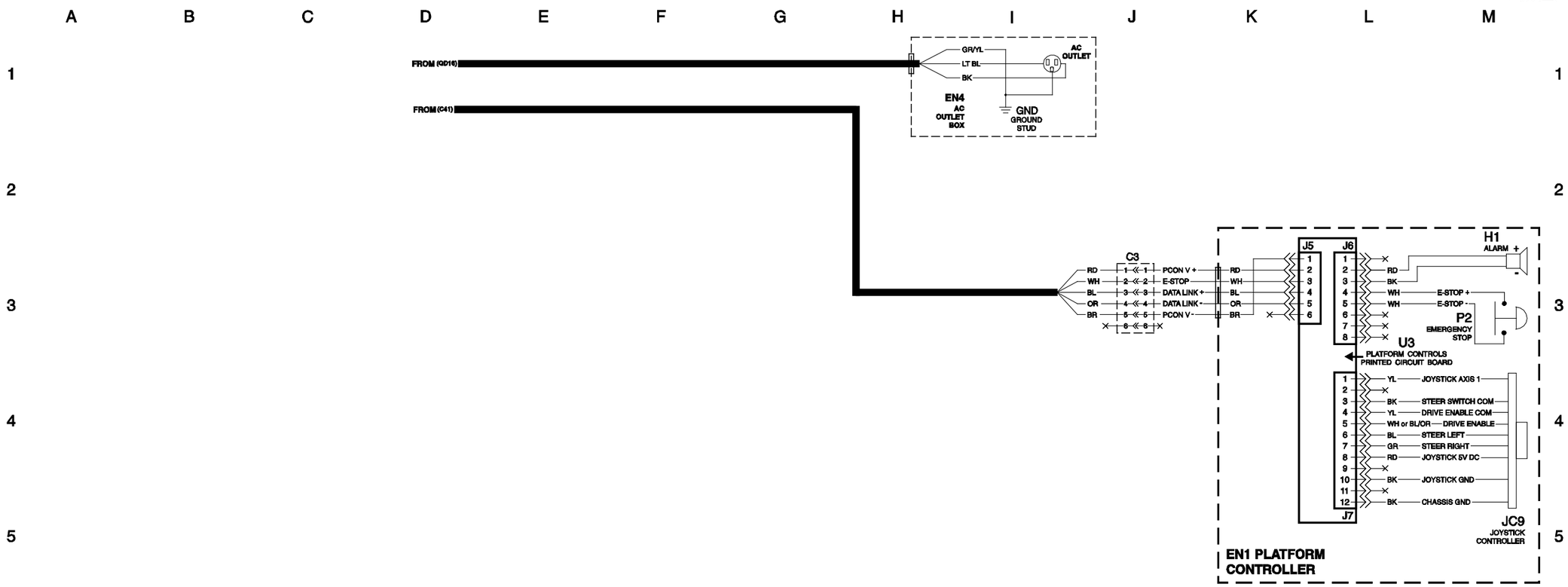
電気回路図、GS-2032、2632、2046、2646、AS/CE

（シリアル番号 GS3211A-110000 ～ GS3214A-1135714、GS3212C-10000 ～ GS3215C-14377、GS4612A-110000 ～ GS4614A-135366、GS4612C-10000 ～ GS4615C-14503、GS4613D-101 ～ GS4615D-1303 の機種）



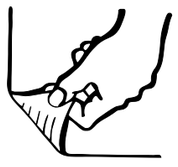
電気回路図、GS-2032、2632、2046、2646、AS/CE

（シリアル番号 GS3211A-110000 ～ GS3214A-135714、GS3212C-10000 ～ GS3215C-14377、GS4612A-110000 ～ GS4614A-135366、GS4612C-10000 ～ GS4615C-14503、GS4613D-101 ～ GS4615D-1303 の機種）



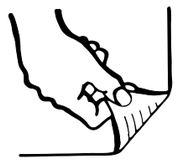
電気回路図、GS-2032、2632、2046、2646、AS/CE

（シリアル番号 GS3211A-110000 ～ GS3214A-1135714、GS3215C-10000 ～ GS3215C-14377、GS4612A-110000 ～ GS4614A-135366、GS4612C-10000 ～ GS4615C-14503、GS4613D-101 ～ GS4615D-1303 の機種）



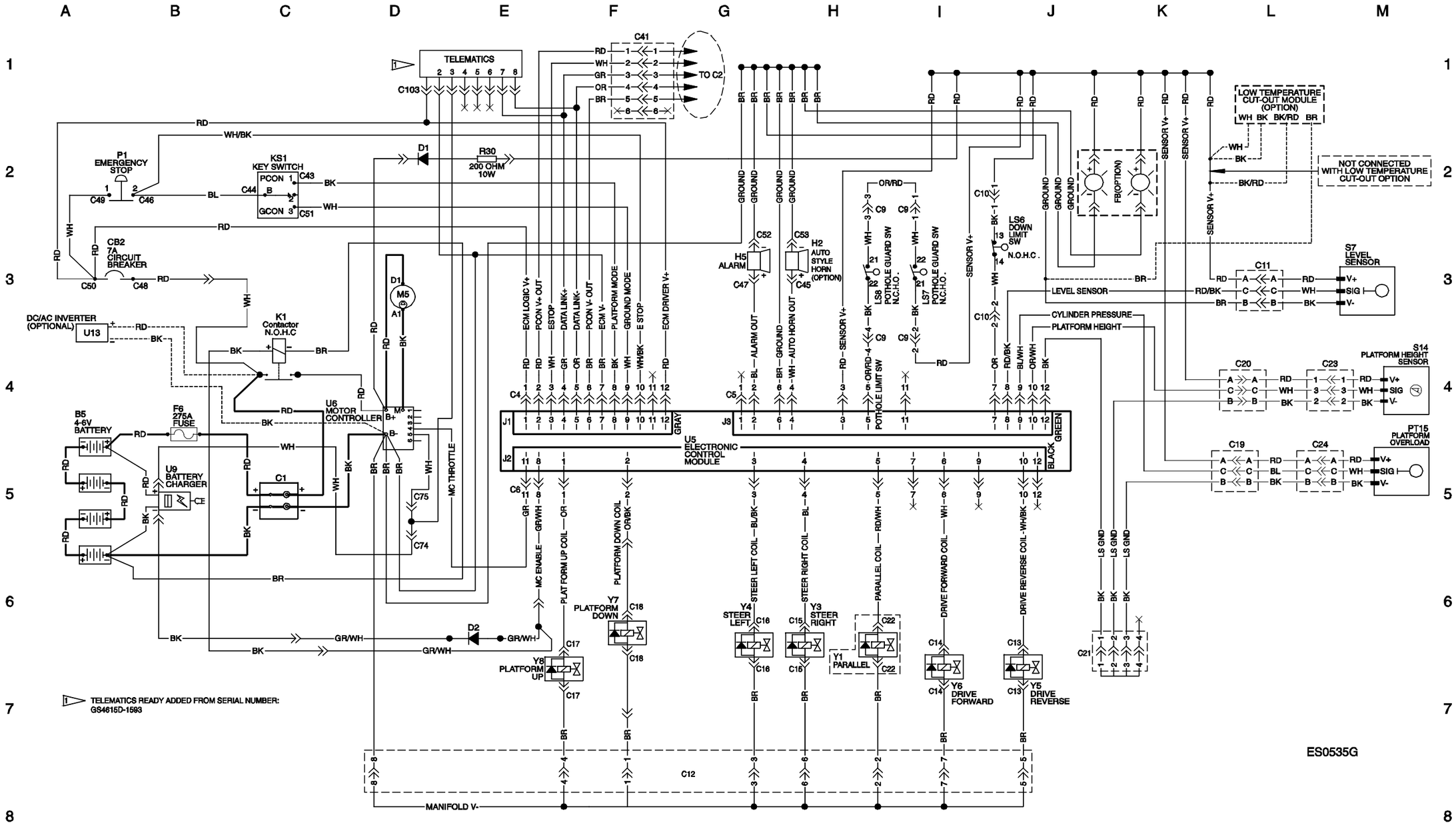
電気回路図、GS-2032、2632、2046、2646、AS/CE

（シリアル番号 GS3214A-135715 ～ GS3215A-141898、GS3215C-14378 から、GS4614A-135367 ～ GS4615A-137959、GS46C-14504 から、GS4615D-1304 からの機種）



電気回路図、GS-2032、2632、2046、2646、AS/CE

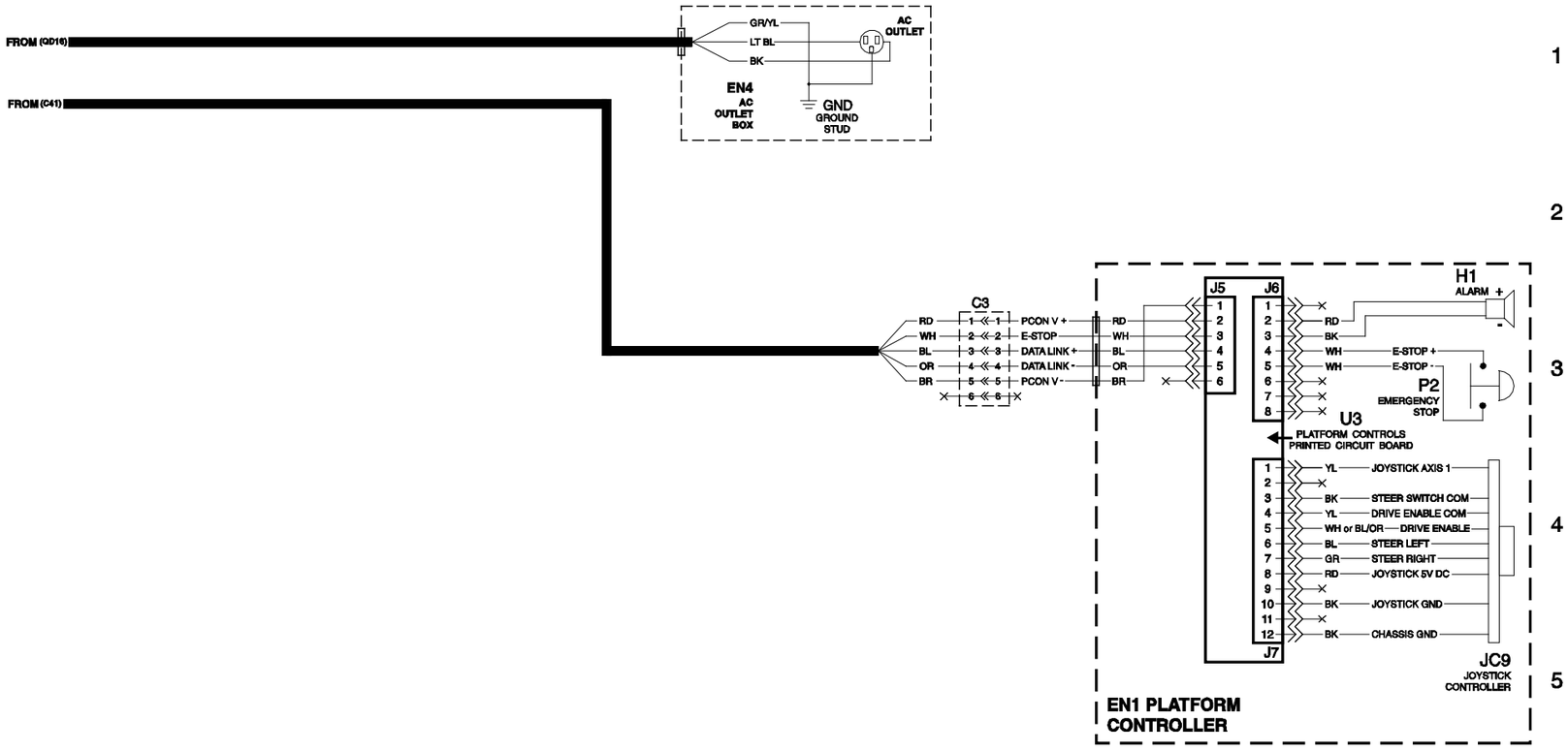
（シリアル番号 GS3214A-135715 ～ GS3215A-141898、GS3215C-14378 から、GS4614A-135367 ～ GS4615A-137959、GS4615C-14504 から、GS4615D-1304 からの機種）



ES0535G

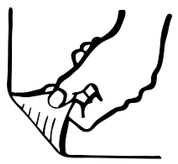
電気回路図、GS-2032、2632、2046、2646、AS/CE

（シリアル番号 GS3214A-1135715 ～ GS3215A-1141898、GS3215C-14378 から、GS4614A-135367 ～ GS4615A-137959、GS4615C-14504 から、GS4615D-1304 からの機種）



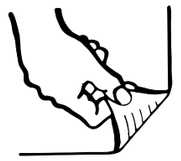
電気回路図、GS-2032、2632、2046、2646、AS/CE

**（シリアル番号 GS3214A-135715 ～ GS3215A-141898、GS3215C-14378 から、
GS4614A-135367 ～ GS4615A-137959、GS4615C-14504 から、GS4615D-1304 からの機種）**



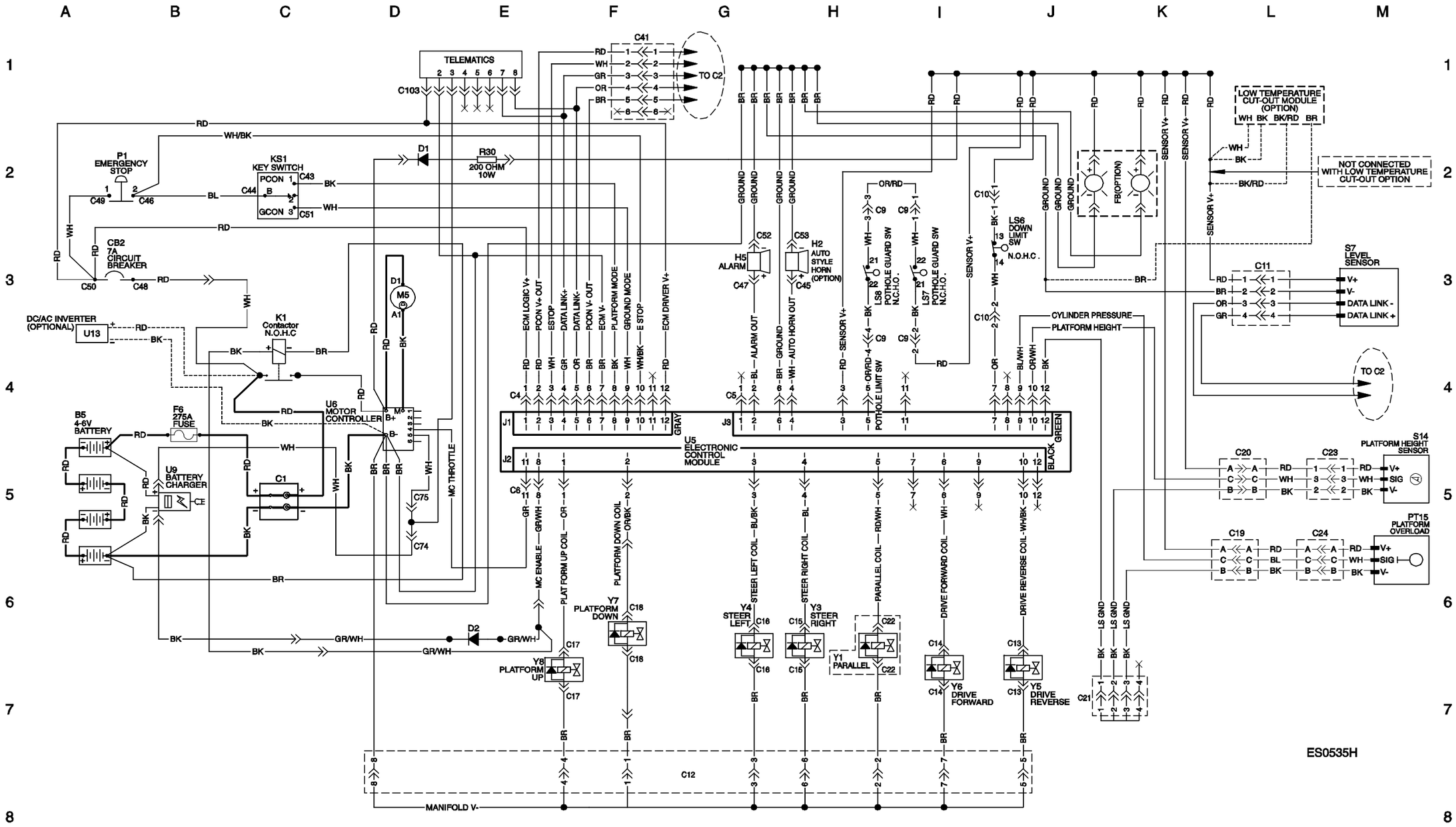
電気回路図、GS-2032、2632、2046、2646、AS/CE

（シリアル番号 GS3215A-141899 から、GS3216P-142676 ～ GS3216P-146462、GS4615A-137960 から、GS4616P-138362 ～ GS4616P-139710 の機種）



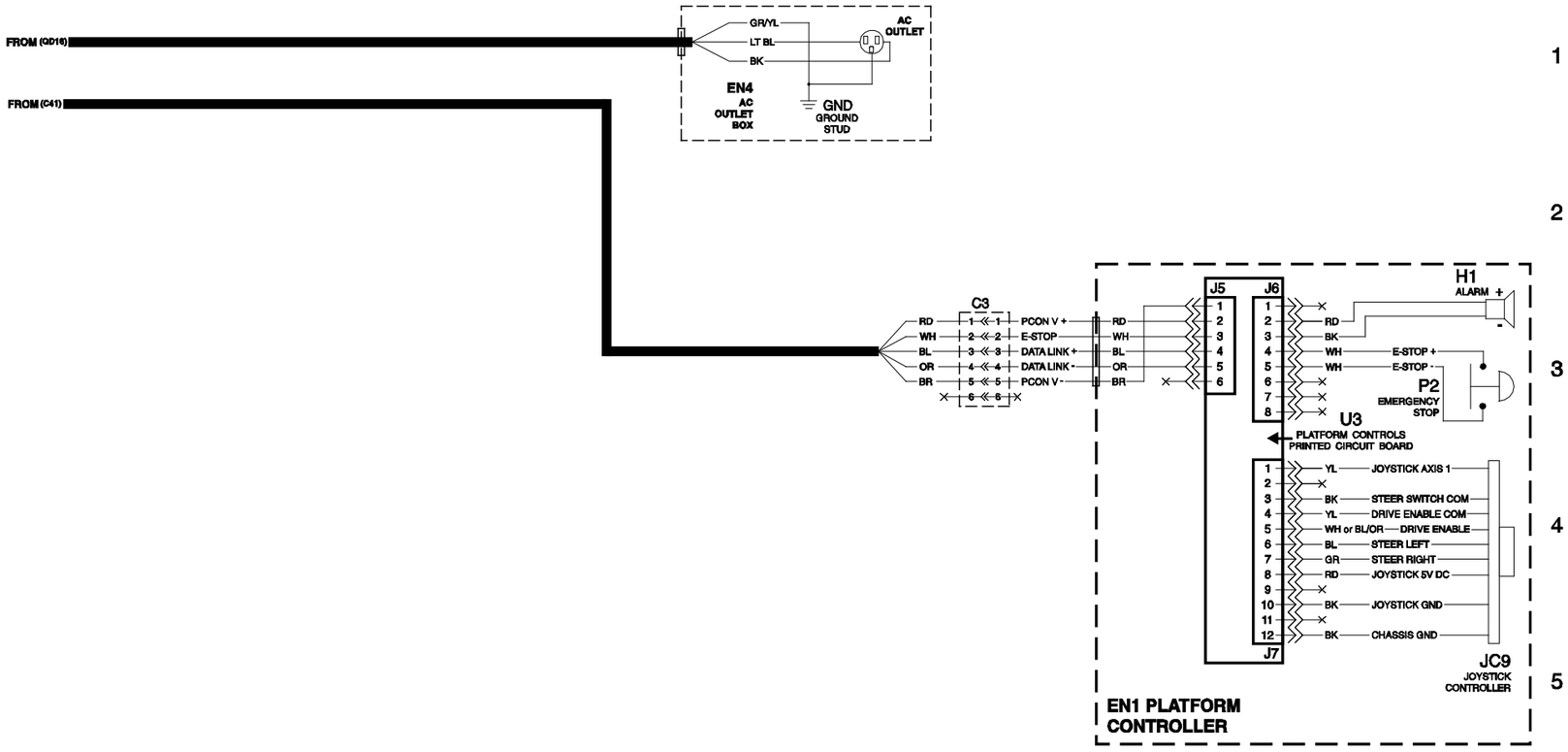
電気回路図、GS-2032、2632、2046、2646、AS/CE

（シリアル番号 GS3215A-141899 以降、GS3216P-142676 ～ GS3216P-146462、GS4616P-138362 ～ GS4616P-139710 の機種）



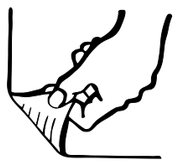
電気回路図、GS-2032、2632、2046、2646、AS/CE

（シリアル番号 GS3215A-141899 から、GS3216P-142676 ～ GS3216P-146462、GS4615A-137960 から、GS4616P-138362 ～ GS4616P-139710 の機種）



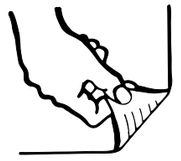
電気回路図、GS-2032、2632、2046、2646、AS/CE

（シリアル番号 GS3215A-141899 以降、GS3216P-142676 ～ GS3216P-146462、GS4616P-138362 ～ GS4616P-139710 の機種）



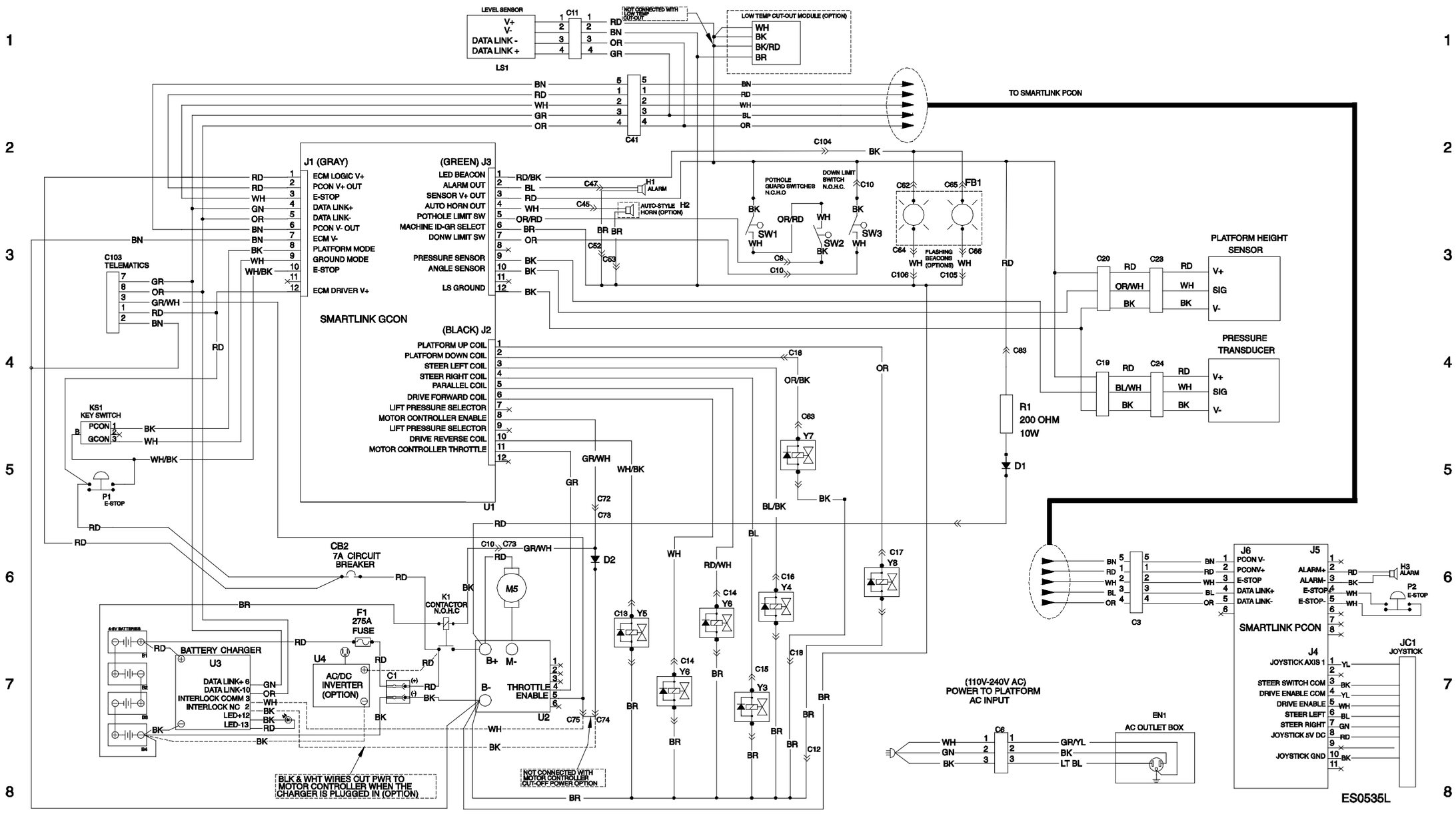
電気回路図、GS-2032、2632、2046、2646、AS/CE

（シリアル番号 GS3216P-146463 から、GS4616P-139711 からの機種）



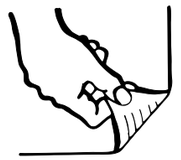
電気回路図、GS-2032、2632、2046、2646、AS/CE

（シリアル番号 GS3216P-146463 から、GS4616P-139711 からの機種）



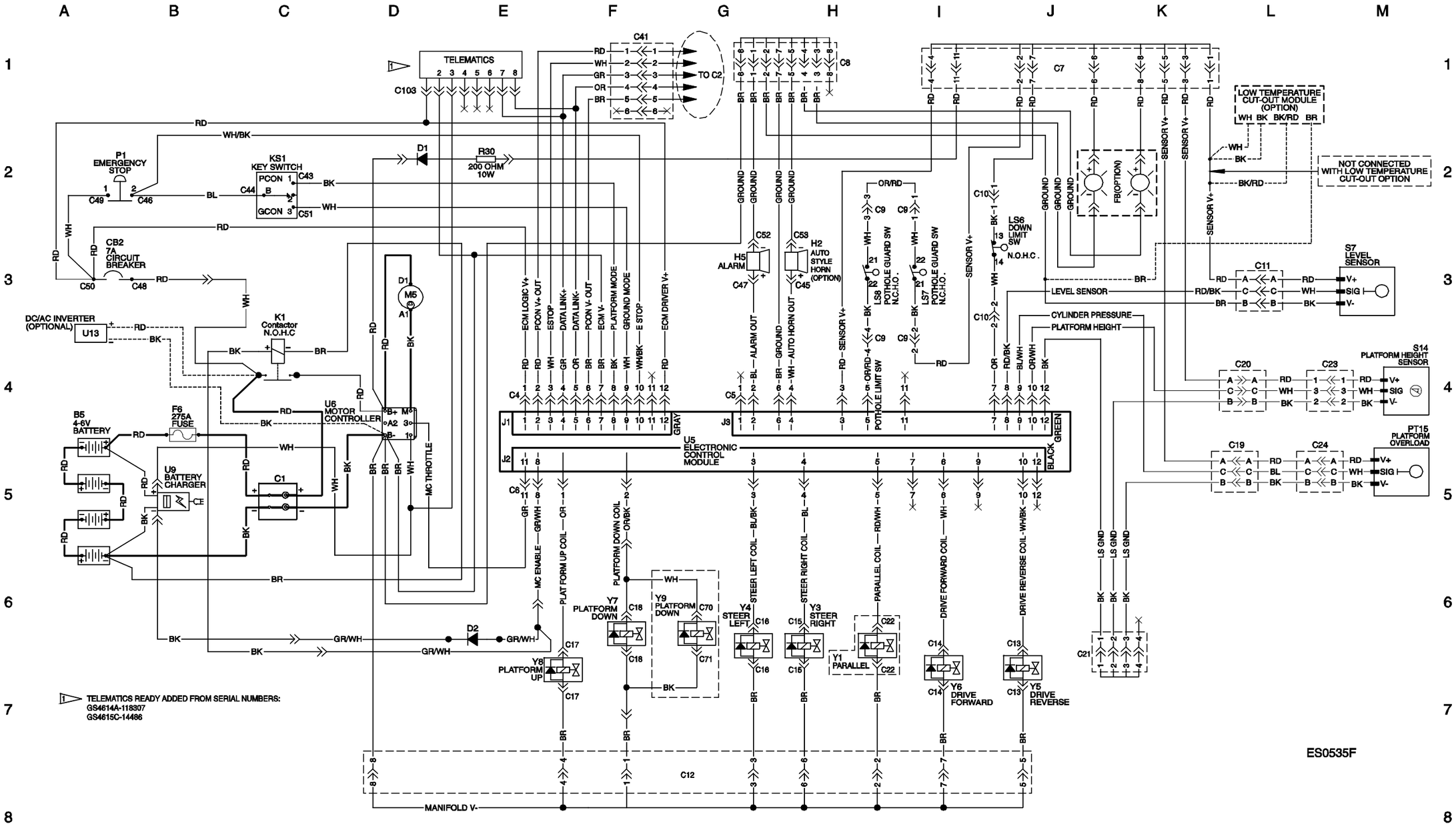
電気回路図、GS-3246、AS/CE

（シリアル番号 GS4612A-110000 ～ GS4614A-135366、GS4612C-10000 ～ GS4615C-14503、GS4614D-101 ～ GS4615D-1303 の機種）



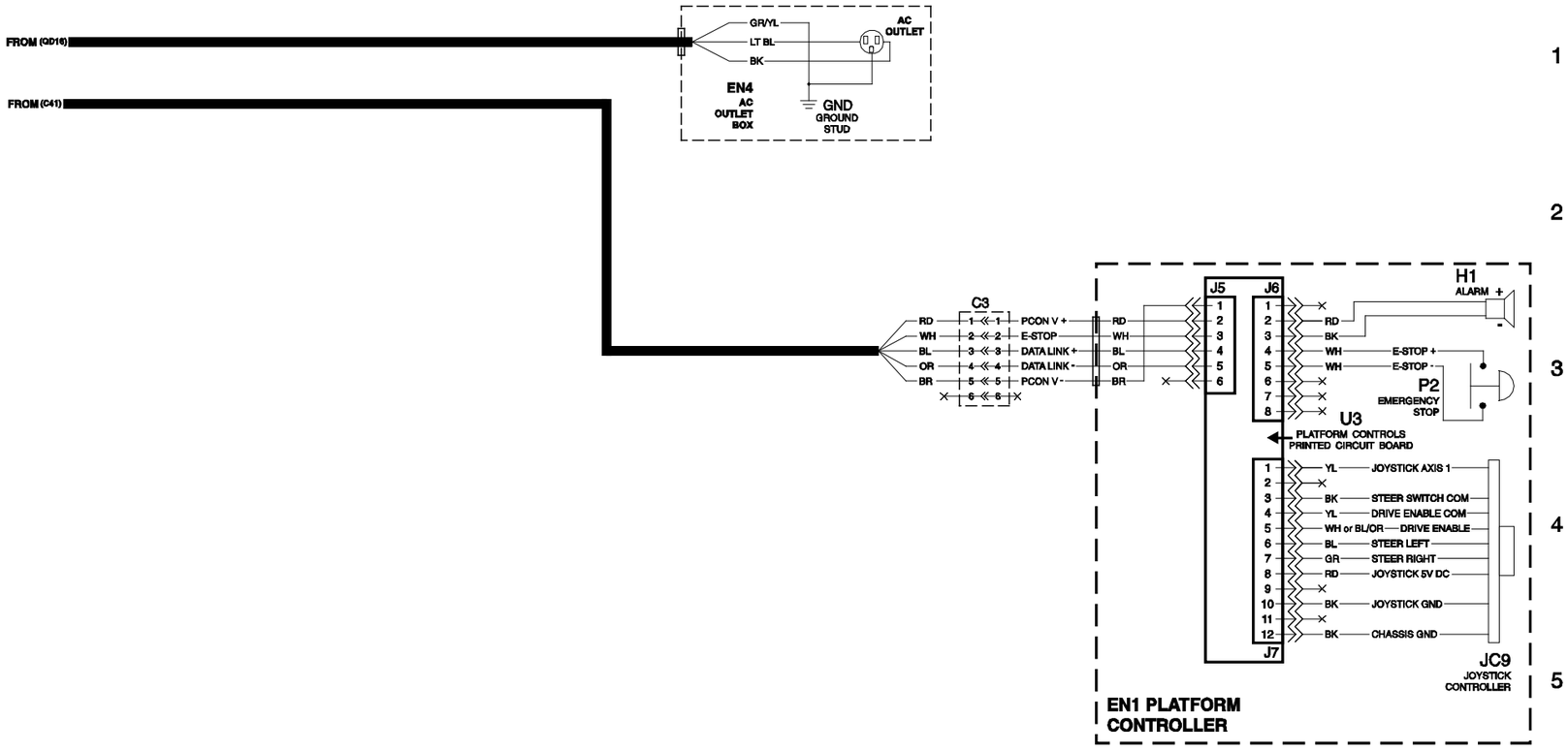
電気回路図、GS-3246、AS/CE

（シリアル番号 GS4612A-110000 ～ GS4614A-135366、
GS4612C-10000 ～ GS4615C-14503、GS4614D-101 ～ GS4615D-1303 の機種）



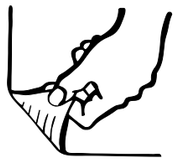
電気回路図、GS-3246、AS/CE

（シリアル番号 GS4621A-110000 ～ GS4614A-135366、GS4612C-10000 ～ GS4615C-14503、GS4614D-101 ～ GS4615D-1303 の機種）



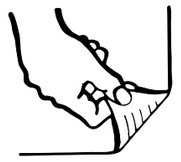
電気回路図、GS-3246、AS/CE

**（シリアル番号 GS4612A-110000 ～ GS4614A-135366、
GS4612C-10000 ～ GS4615C-14503、GS4614D-101 ～ GS4615D-1303 の機種）**



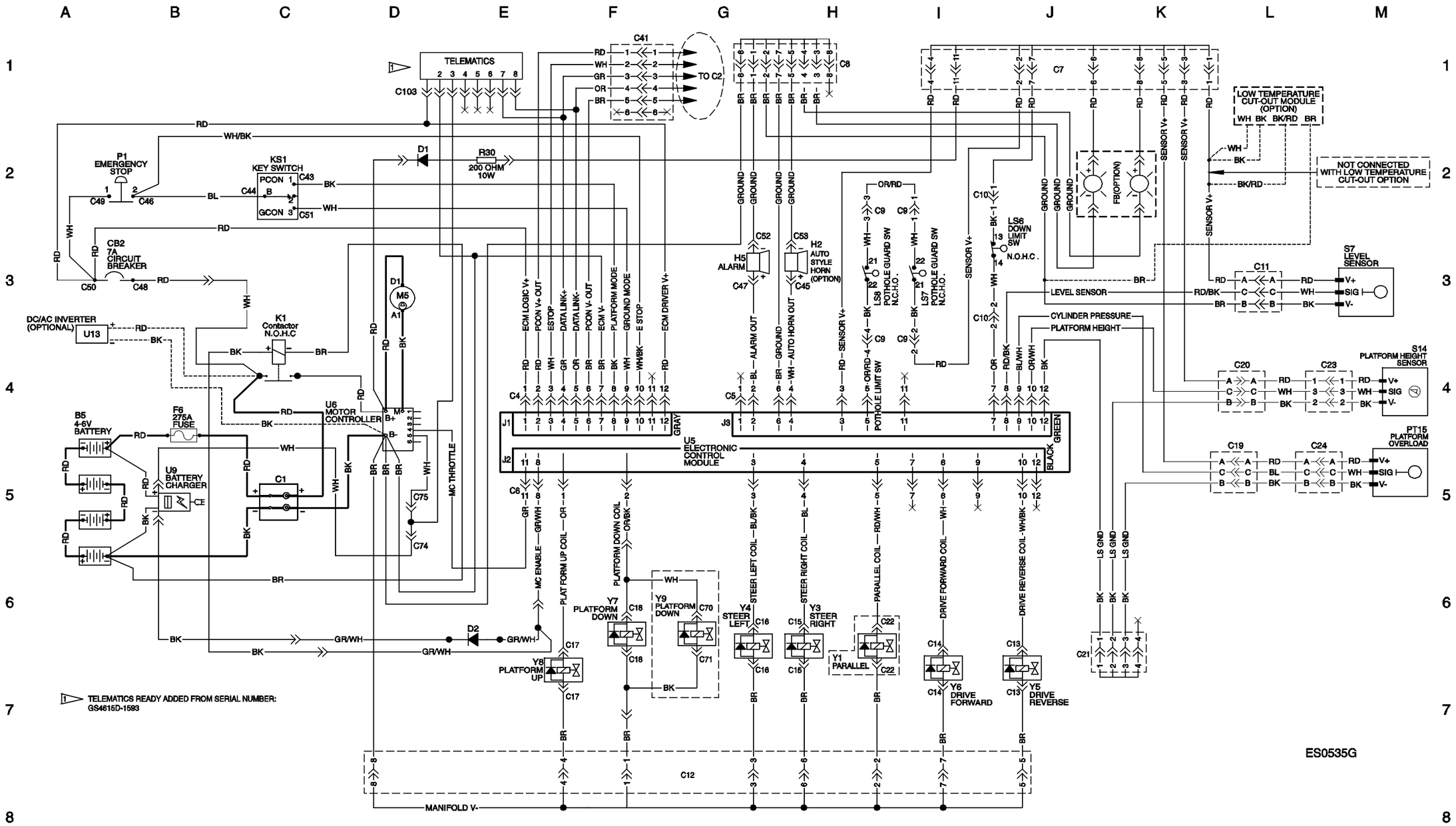
電気回路図、GS-3246、AS/CE

（シリアル番号 GS4614A-135367 ～ GS4615A-137959、GS4615C-14504 から、GS4615D-1304 ～ GS4616D-4432 の機種）



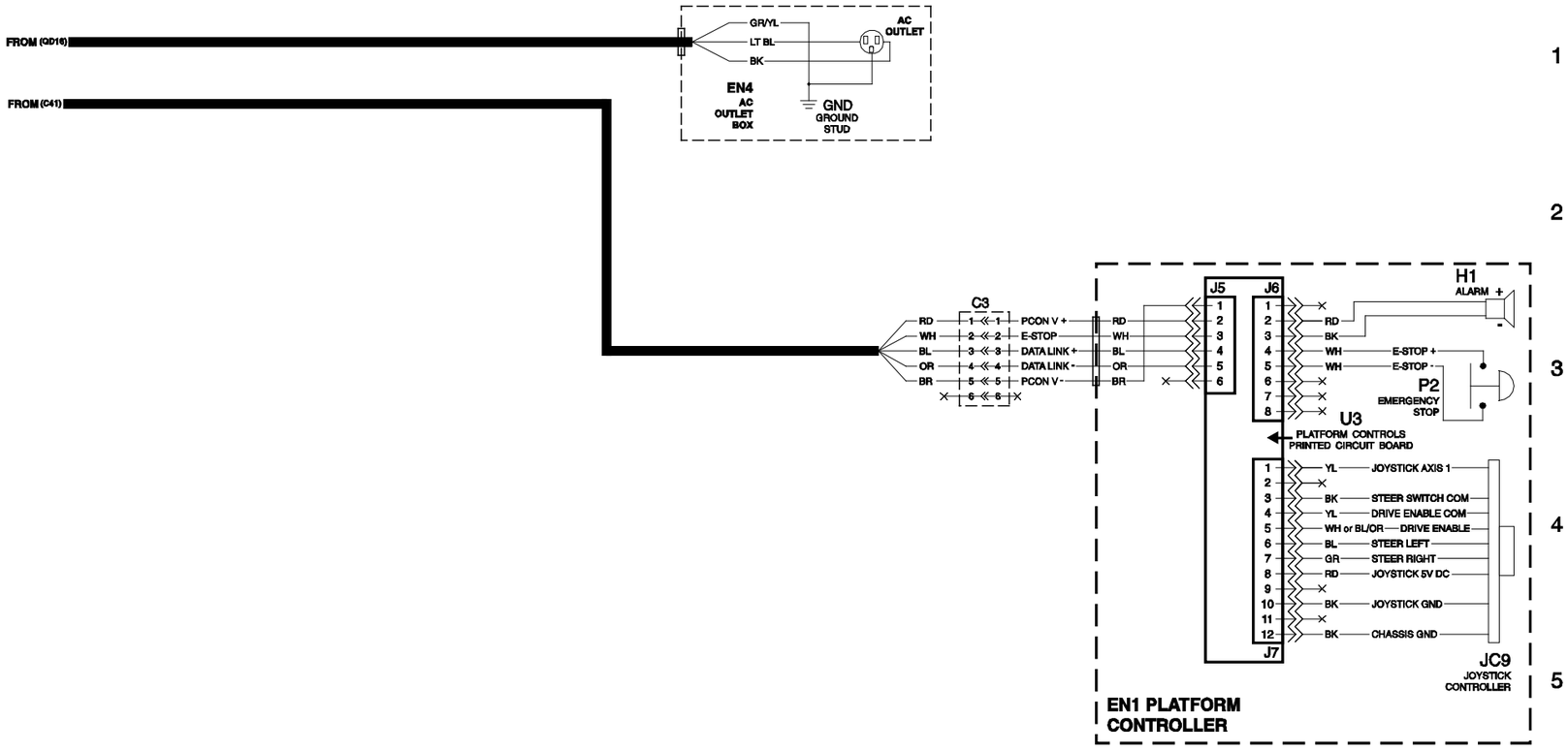
電気回路図、GS-3246、AS/CE

（シリアル番号 GS4614A-135367 ～ GS4615A-137959、
GS4615C-14504 から、GS4615D-1304 ～ GS4616D-4432 の機種）



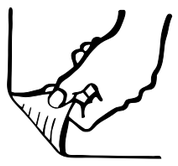
電気回路図、GS-3246、AS/CE

（シリアル番号 GS4614A-135367 ～ GS4615A-137959、GS4615C-14504 から、GS4615D-1304 ～ GS4616D-4432 の機種）



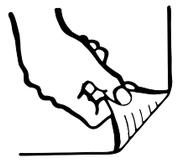
電気回路図、GS-3246、AS/CE

**（シリアル番号 GS4614A-135368 ～ GS4615A-137959、
GS4615C-14504 から、GS4615D-1304 ～ GS4616D-4432 の機種）**



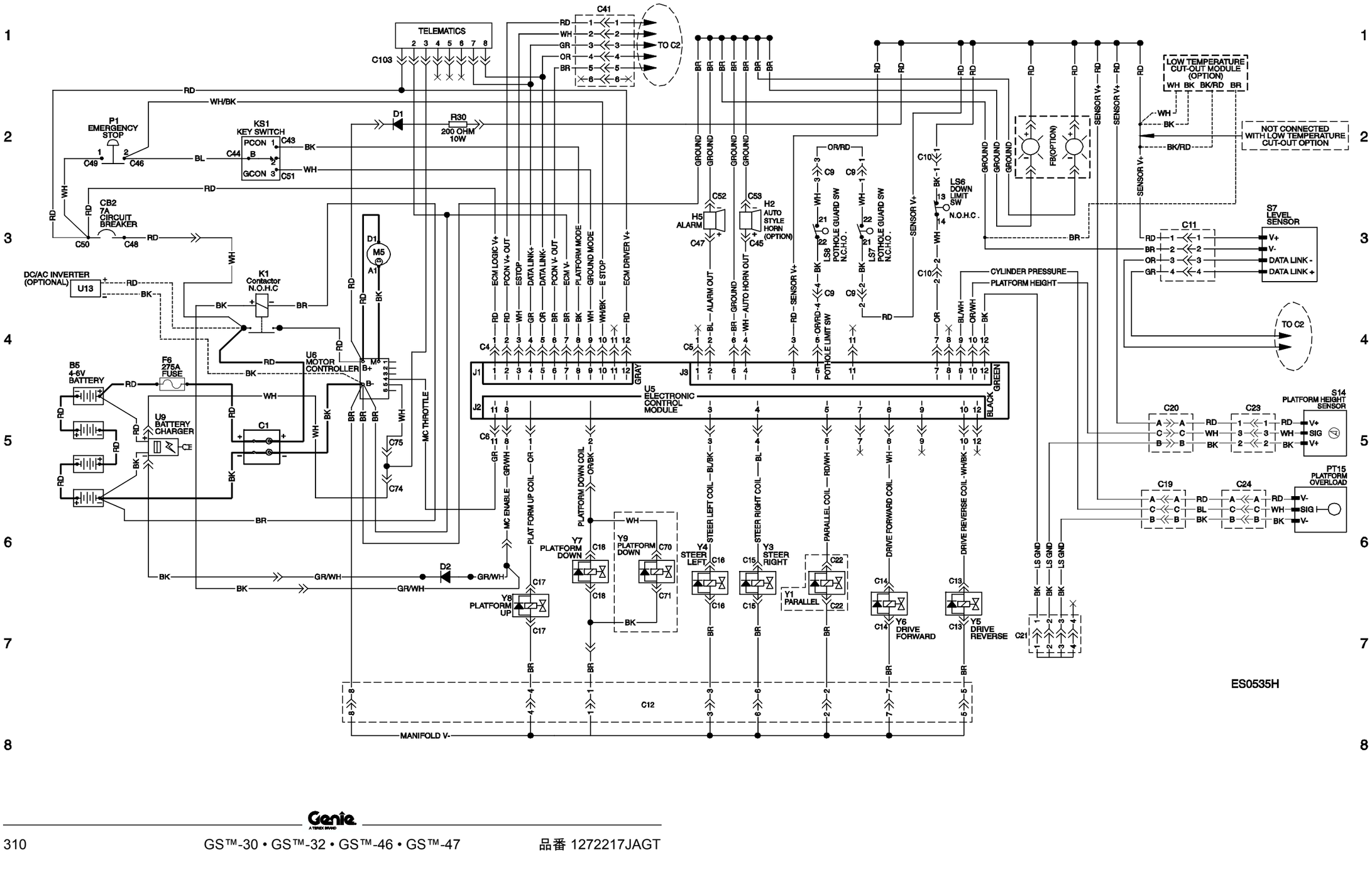
電気回路図、GS-3246、AS/CE

（シリアル番号 GS4615A-137960 から、GS4616P-138362 ～ GS4616P-139710 の機種）



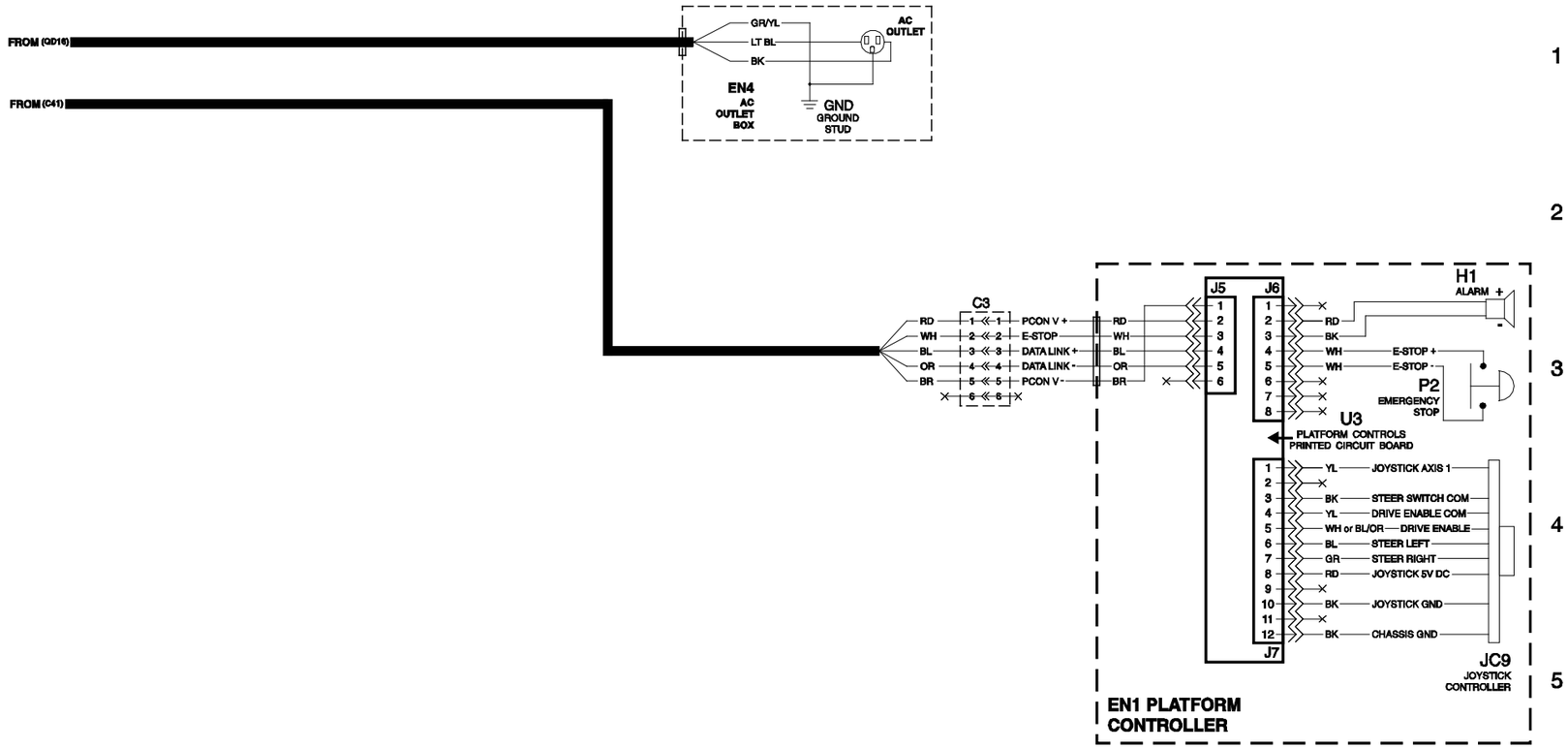
電気回路図、GS-3246、AS/CE

（シリアル番号 GS4615A-137960、GS4616P-138362 ～ GS4616P-139710 の機種）



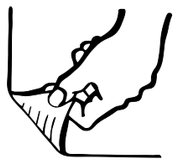
電気回路図、GS-3246、AS/CE

（シリアル番号 GS4615A-137960、GS4616P-138362 ～ GS4616P-139710 の機種）



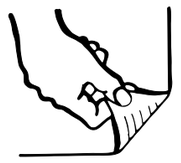
電気回路図、GS-3246、AS/CE

（シリアル番号 GS4615A-137960、GS4616P-138362 ～ GS4616P-139710 の機種）



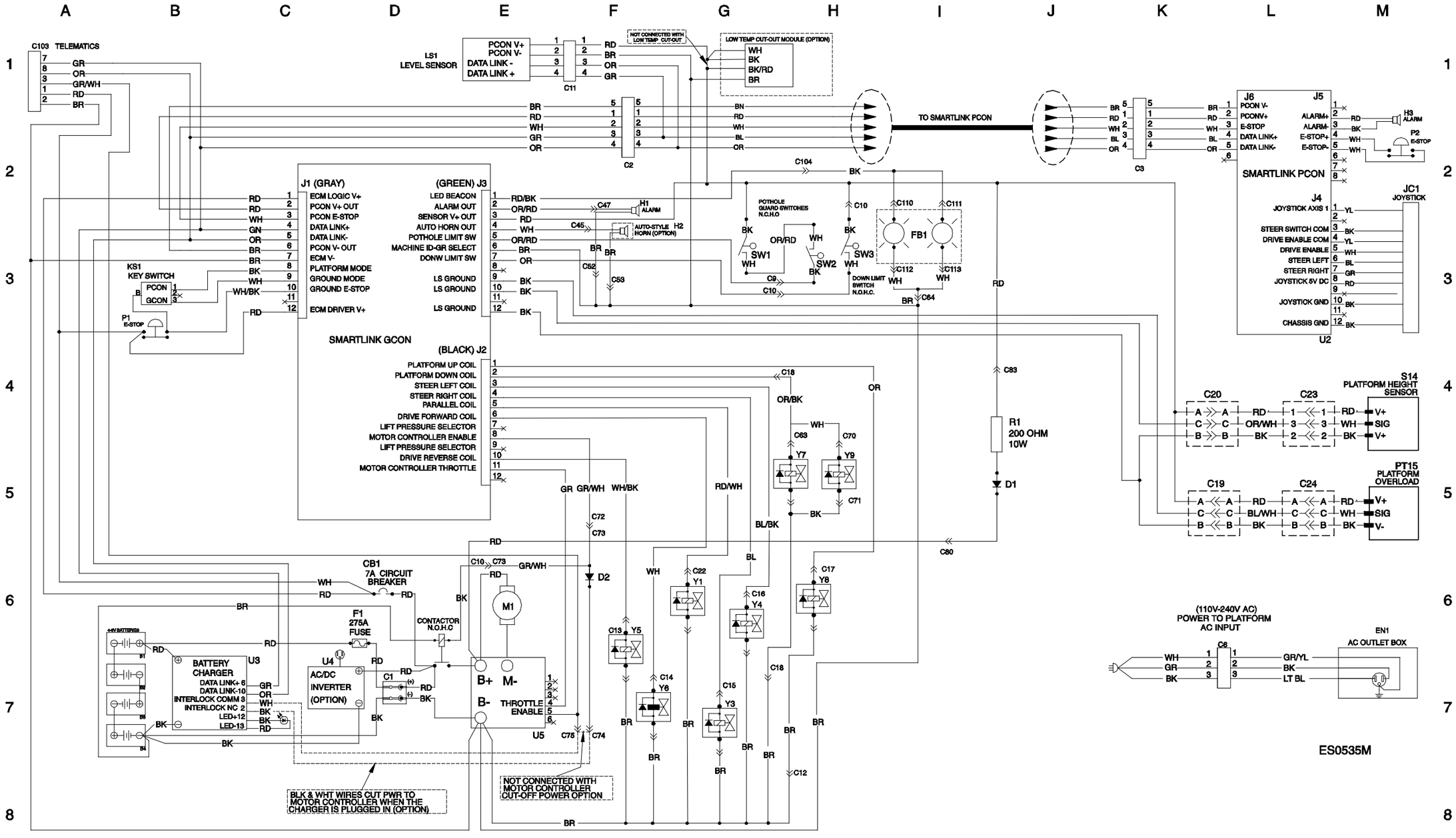
電気回路図、GS-3246、AS/CE

（シリアル番号 GS4616D-4433、GS4616P-139711 の機種）



電気回路図、GS-3246、AS/CE

（シリアル番号 GS4616D-4433 から、GS4616P-139711 からの機種）

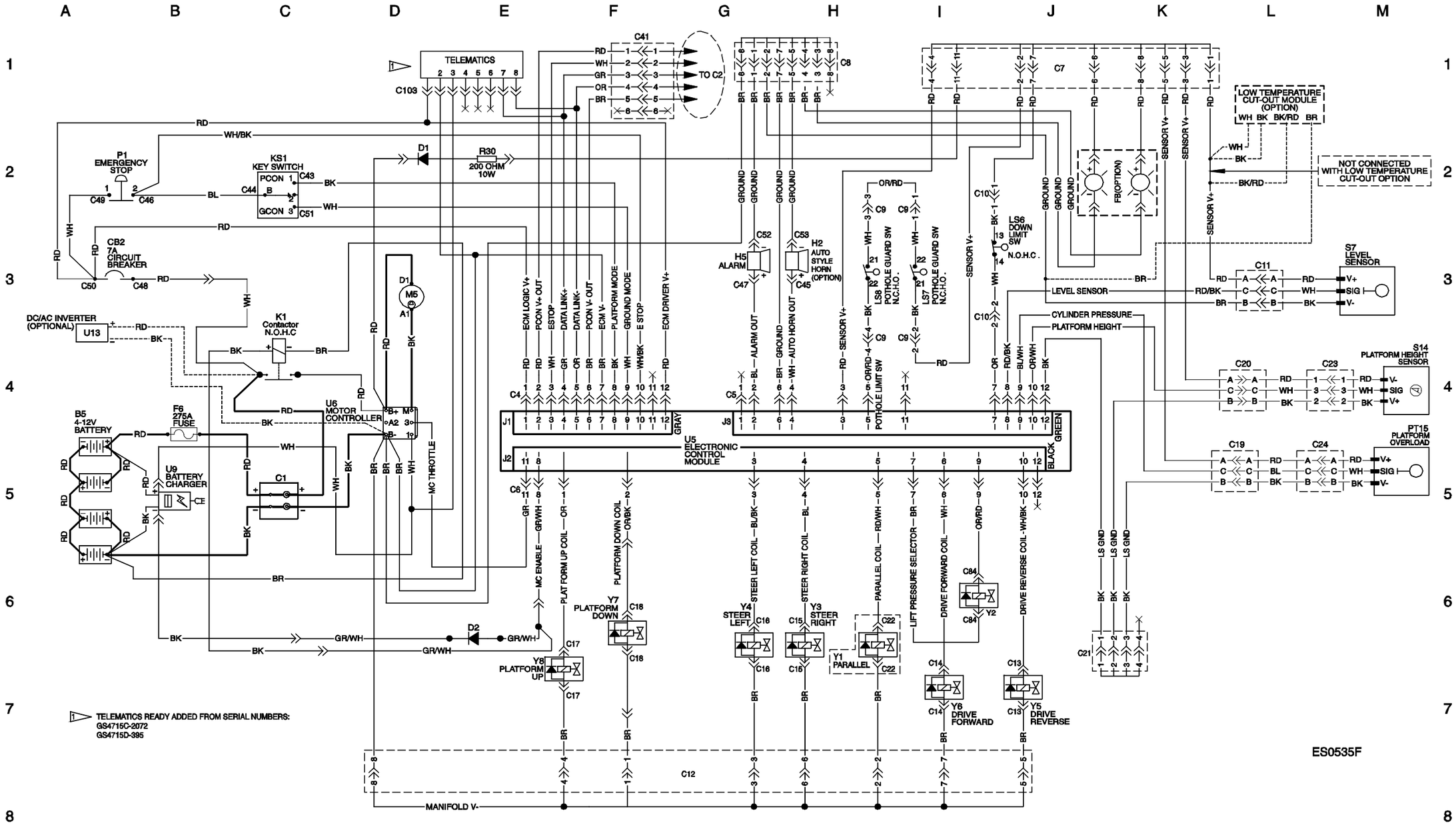


電気回路図、GS-4047、AS/CE

（シリアル番号 GS4712C-101 ～ GS4715C-2130、GS4714D-101 ～ GS4715D-749 の機種）

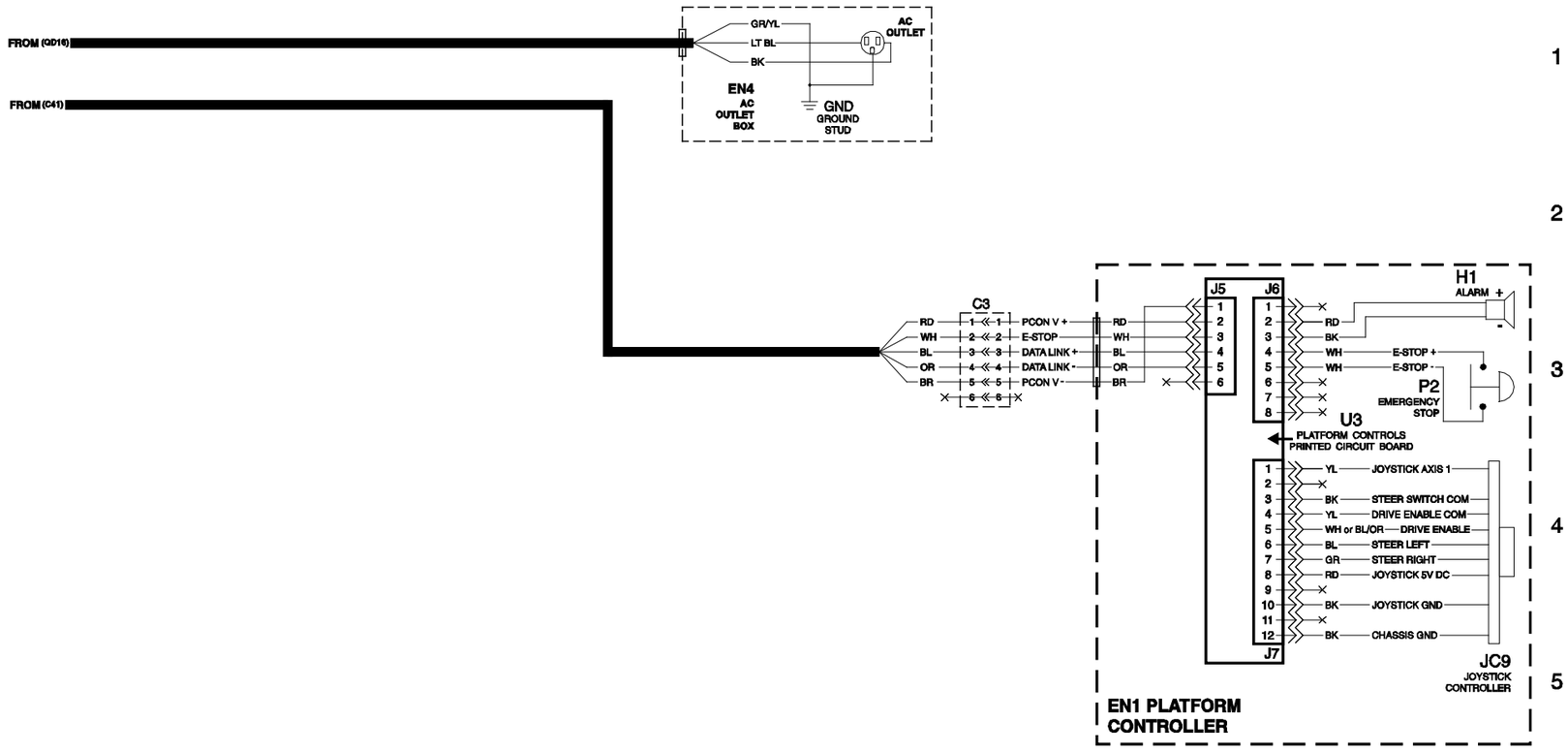
電気回路図、GS-4047、AS/CE

（シリアル番号 GS4712C-101 ～ GS4715C-2130、GS4714D-101 ～ GS4715D-749 の機種）



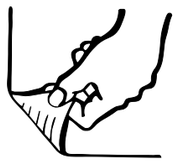
電気回路図、GS-4047、AS/CE

（シリアル番号 GS4712C-101 ～ GS4715C-2130、GS4714D-101 ～ GS4715D-749 の機種）



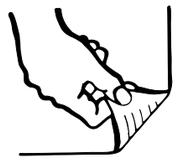
電気回路図、GS-4047、AS/CE

**（シリアル番号 GS4712C-101 ～ GS4715C-2130、
GS4714D-101 ～ GS4715D-749 の機種）**



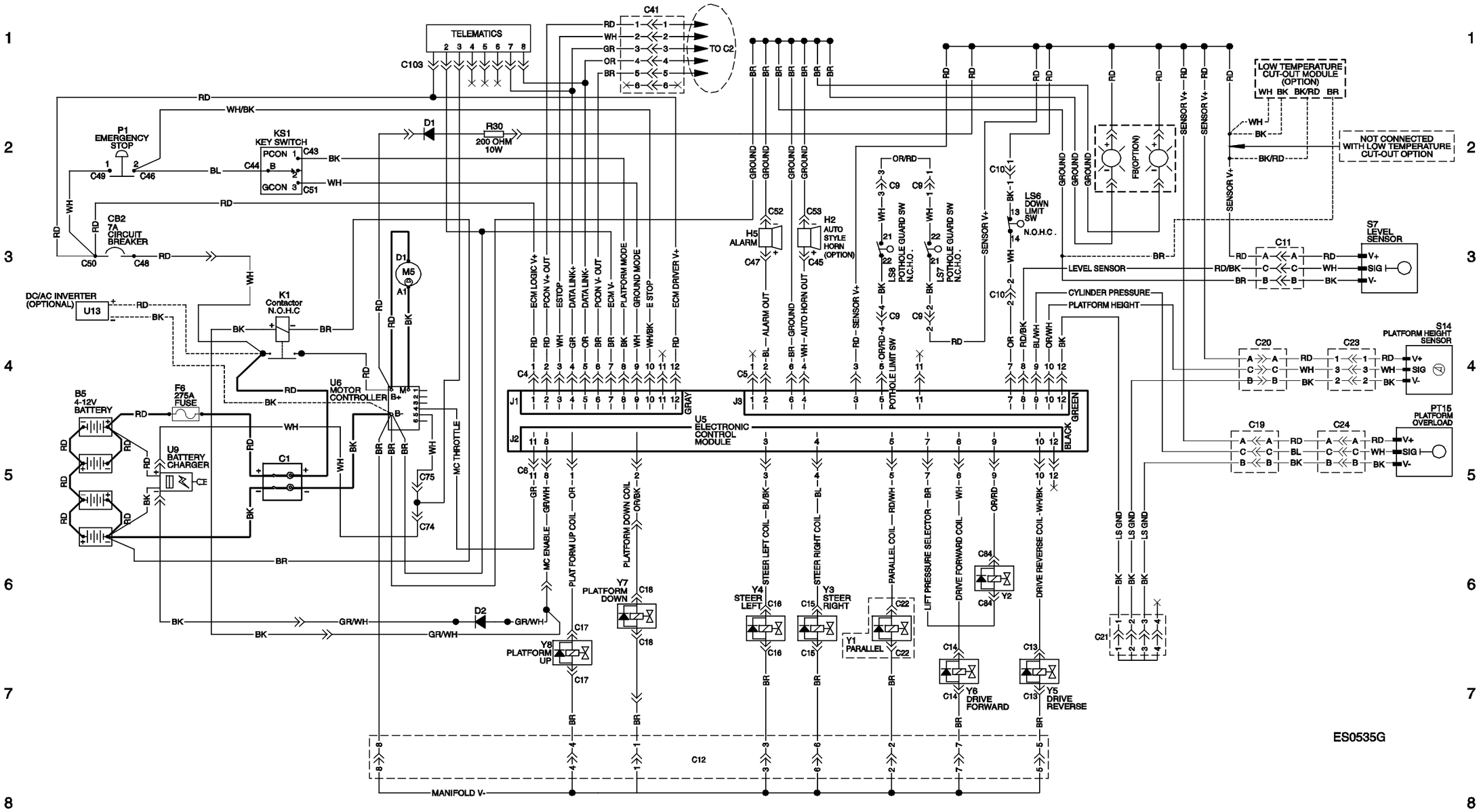
電気回路図、GS-4047、AS/CE

（シリアル番号 GS4715C-2131、GS4715D-750 ～ GS4716D-3101 の機種）



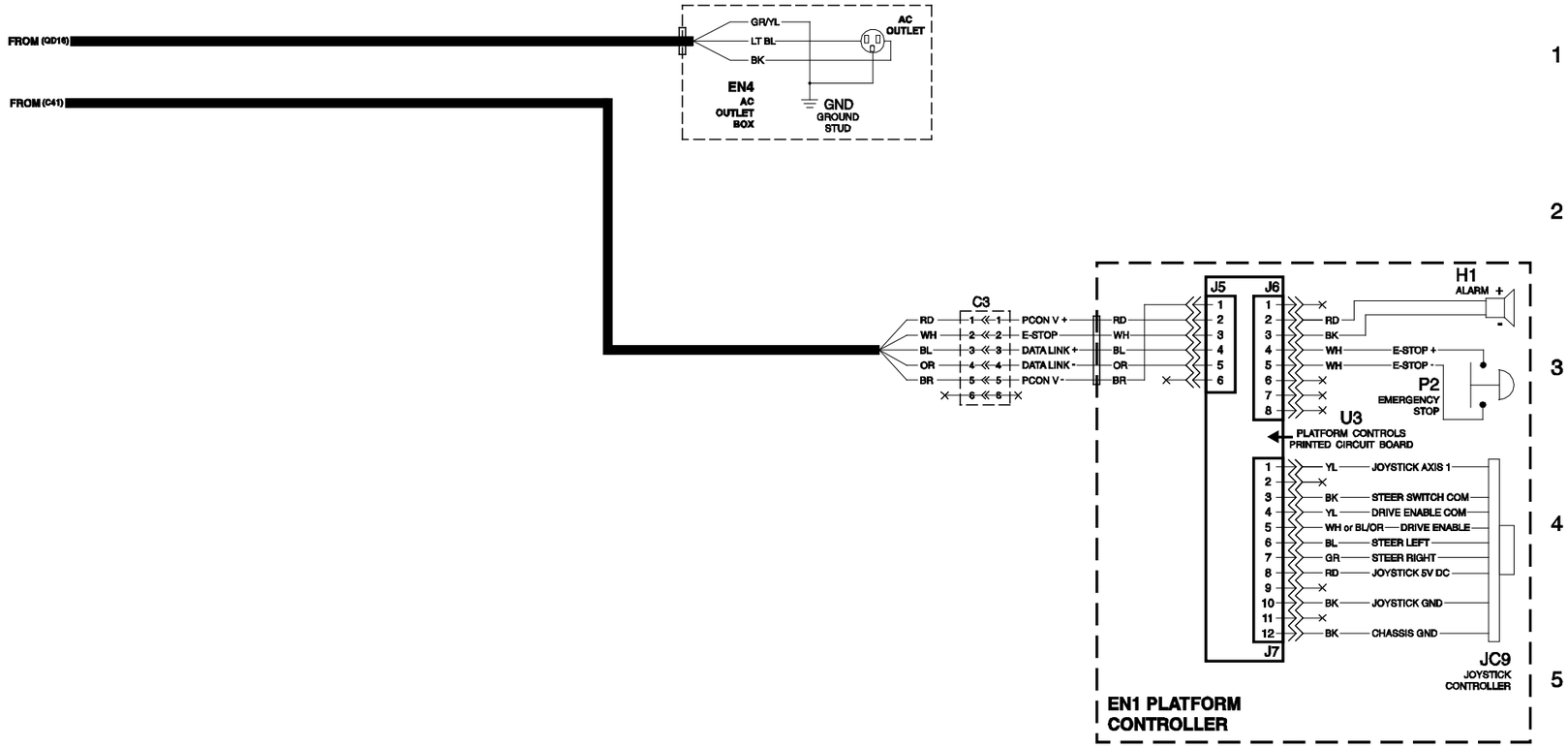
電気回路図、GS-4047、AS/CE

（シリアル番号 GS4715C-2131、GS4715D-750 ～ GS4716D-3101 の機種）



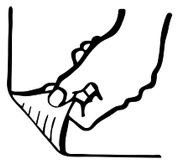
電気回路図、GS-4047、AS/CE

（シリアル番号 GS4715C-2131、GS4715D-750 ～ GS4716D-3101 の機種）



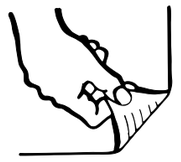
電気回路図、GS-4047、AS/CE

（シリアル番号 GS4715C-2131、GS4715D-750 ～ GS4716D-3101 の機種）



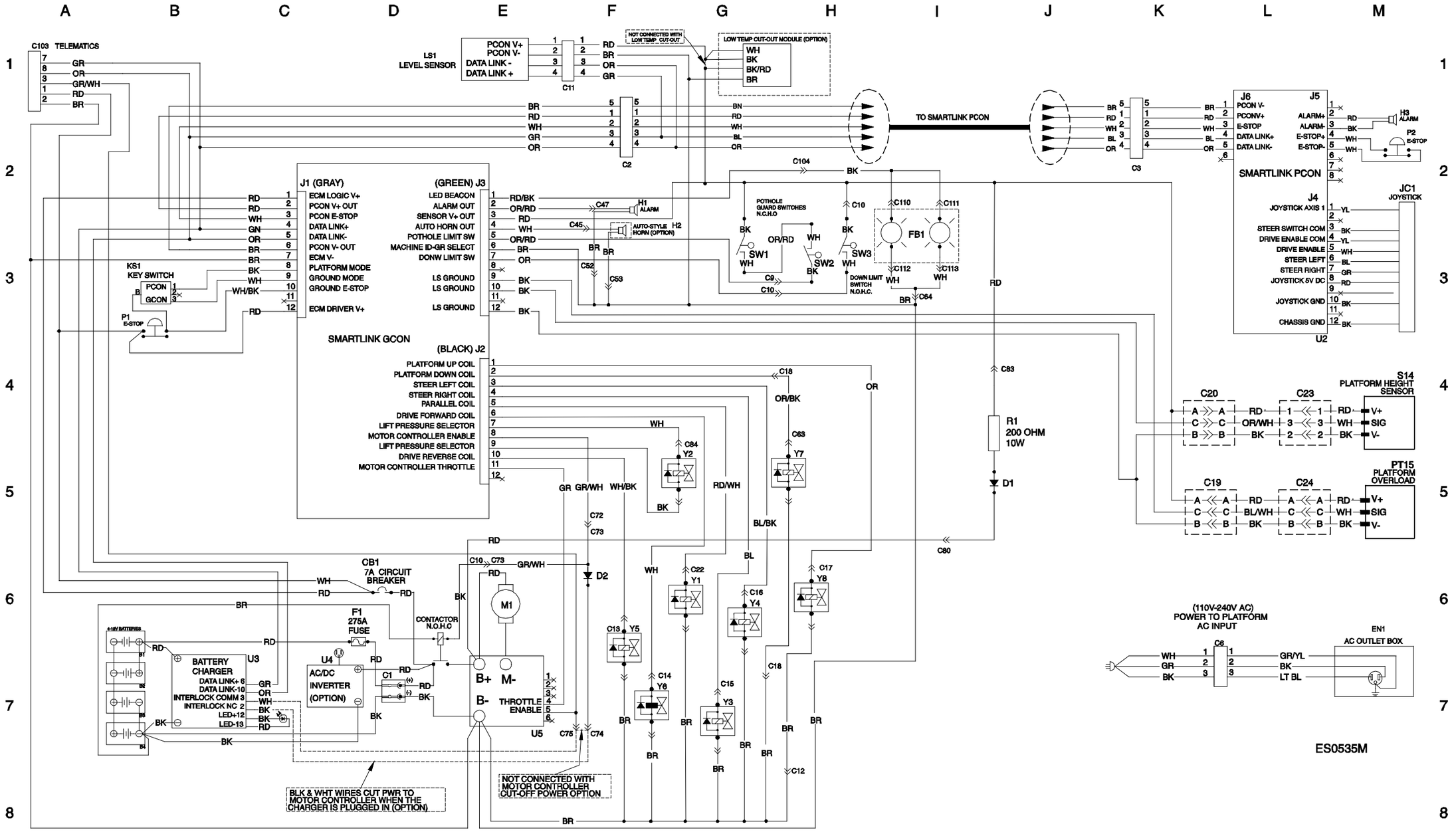
電気回路図、GS-4047、AS/CE

（シリアル番号 GS4716D-3102 からの機種）

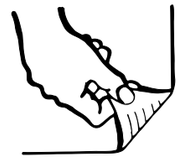


電気回路図、GS-4047、AS/CE

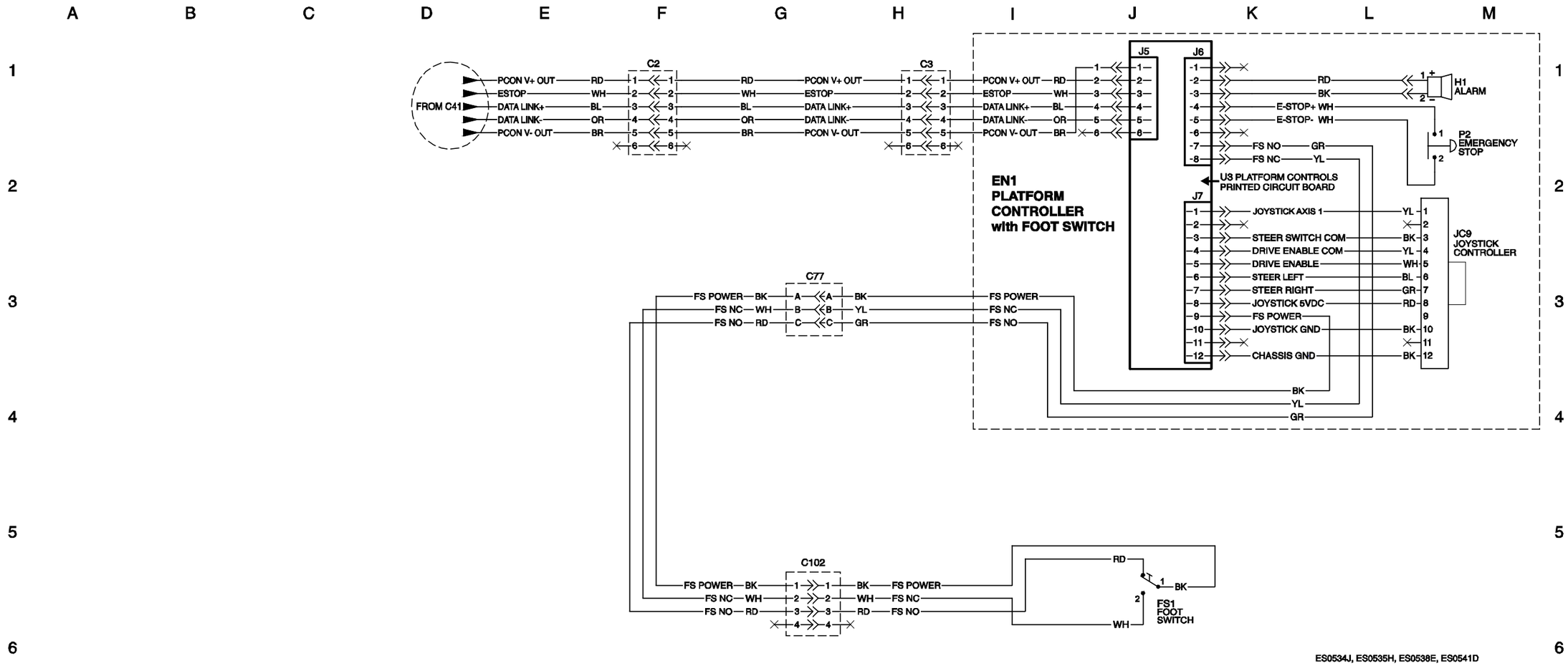
（シリアル番号 GS4716D-3102 からの機種）



電気回路図 – ペダルスイッチ（オプション）すべてのモデル



電気回路図 – ペダルスイッチ(オプション)すべてのモデル



ES0534J, ES0535H, ES0538E, ES0541D

代理店:

www.genielift.com